## IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー



# コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド

バージョン 1.2.0

## IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー



# コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド

バージョン 1.2.0

#### お願い -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、403ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

http://www.ibm.com/jp/manuals/ の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典: SC26-7544-02

IBM TotalStorage

SAN Volume Controller

Command-Line Interface User's Guide

Version 1.2.0

発 行: 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当: ナショナル・ランゲージ・サポート

#### 第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体<sup>™</sup>W3、平成明朝体<sup>™</sup>W9、平成角ゴシック体<sup>™</sup>W3、平成角ゴシック体<sup>™</sup>W5、および平成角ゴシック体<sup>™</sup>W7を使用しています。この(書体\*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体"W3、平成明朝体"W9、平成角ゴシック体"W3、 平成角ゴシック体"W5、平成角ゴシック体"W7

- © Copyright International Business Machines Corporation 2003, 2004. All rights reserved.
- © Copyright IBM Japan 2004

# 目次

第 5 章 バックアップおよび復元のコマン
F
backup
clear
help
restore
1031010
第 6 章 クラスター診断および保守援助機
能コマンド
addnode
applysoftware
cherrstate
clearerrlog
dumperrlog
finderr
rmnode
setevent
setlocale
writesernum
Witeserham
第 7 章 ホスト・コマンド73
addhostport
chhost
mkhost
rmhost
rmhostport
第8章 仮想ディスク・コマンド 83
chvdisk
expandvdisksize
mkvdisk
mkvdiskhostmap 95
rmvdisk
rmvdiskhostmap
shrinkvdisksize
笠 5 辛 笠田牡呑 デ・フ 5 - ビループ
第 9 章 管理対象ディスク・グループ・
コマンド
addmdisk
chmdiskgrp
mkmdiskgrp
rmmdisk
rmmdiskgrp
<b>第 40 辛 等理計象ディフク・コフンド 449</b>
第 10 章 管理対象ディスク・コマンド 113
chmdisk
includemdisk
setquorum
笠 11 音 FlochCony コマンド 110
第 11 章 FlashCopy コマンド 119

chfcconsistgrp	lserrlogbyiogrp
chfcmap	lserrlogbymdisk
mkfcconsistgrp	lserrlogbymdiskgroup
mkfcmap	lserrlogbynode
prestartfcconsistgrp	lserrlogbyrcconsistgrp
prestartfcmap	lserrlogbyrcrelationship
rmfcconsistgrp	lserrlogbyvdisk
rmfcmap	lserrlogdumps
startfcconsistgrp	lsfcconsistgrp
startfcmap	lsfcmap
stopfcconsistgrp	lsfcmapcandidate
stopfcmap	lsfcmapprogress
stoptemap	lsfeaturedumps
第 12 章 リモート・コピー・コマンド 141	lsfreeextents
chpartnership	lshbaportcandidate
chrcconsistgrp	lshost
chrcrelationship	lshostvdiskmap
mkpartnership	lsiogrp
mkrcconsistgrp	lsiogrpcandidate
mkrcrelationship	lsiostatsdumps
rmpartnership	lsiotracedumps
rmrcconsistgrp	Islicense
rmrcrelationship	lsmdisk
startrcconsistgrp	lsmdiskcandidate
startrcrelationship	lsmdiskextent
stoprcconsistgrp	lsmdiskgrp
stoprcrelationship	lsmdiskmember
switchrcconsistgrp	lsmigrate
switchrcrelationship	lsnode
•	Isnodecandidate
第 13 章 マイグレーション・コマンド 171	lsnodevpd
migrateexts	lsrcconsistgrp
migratevdisk	Isrcrelationship
ingrace value	Isrcrelationshipcandidate
第 14 章 トレース・コマンド177	lsrcrelationshipprogress
setdisktrace	lssoftwaredumps
settrace	lssshkeys
	lstimezones
starttrace	
stoptrace	lsvdisk
第 15 章 -filtervalue 引き数の属性 185	lsvdiskextent
新 IJ 早 -IIIter value 引 C	lsvdiskhostmap
第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの	lsvdiskmember
	lsvdiskprogress
概要 191	showtimezone
佐 49 辛 は 400 400 400	笠 10 音 エラー・ログ・コフンド 045
第 17 章 情報コマンド 193	第 18 章 エラー・ログ・コマンド 315
caterrlog	finderr
caterrlogbyseqnum	dumperrlog
ls2145dumps	clearerrlog
lscluster	cherrstate
lsclustercandidate	setevent
lsconfigdumps	<b>你 40 キョ・イ・コウー・1</b>
lscontroller	第 19 章 フィーチャー設定コマンド 323
lserrlogbyfcconsistgrp	chlicense
lserrlogbyfcmap	dumpinternallog
lserrlogbyhost	
- ·	

第 20 章 セキュア・シェル (SSH) 鍵コ	lsnodes
マンド	lsnodevpd
addsshkey	lssoftwaredumps
rmallsshkeys	第 <b>23</b> 章 コントローラー・コマンド <b>355</b> chcontroller
第 <b>21</b> 章 保守モード・コマンド <b>333</b> applysoftware	第 24 章 CLI メッセージ 359
cleardumps	第 25 章 強調
exit	付録. アクセシビリティー 401
第 <b>22</b> 章 保守モード情報コマンド <b>341</b> ls2145dumps	特記事項
lsclustervpd	商標
lsconfigdumps	用語集
lserrlogdumps	7/3442/2
lsfeaturedumps	索引 411
lsiostatsdumps	
lsiotracedumps	

### 本書について

本書は、IBM® TotalStorage® SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) について説明します。

### 本書の対象読者

本書は、システム管理者もしくはそれ以外の SAN ボリューム・コントローラーを インストールして使用するユーザーを対象としています。

### 関連資料

このセクションでは、以下の資料を一覧表にして、それらの内容を説明しています。

- IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーを構成している資料
- SAN ボリューム・コントローラーに関連するその他の IBM 資料

#### SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリー:

表1には、SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリーを構成する資料をリストして説明します。特に断りのない限り、これらの資料は SAN ボリューム・コントローラーに同梱されているコンパクト・ディスク (CD) 上に Adobe PDF 形式で用意されています。この CD の追加コピーをお求めの場合、オーダー番号は SK2T-8811 です。これらの資料は、下記の Web サイトから PDF ファイルとして使用することもできます。

http://www.ibm.com/storage/support/2145/

表 1. SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリーの資料

表題	説明	資料番号
IBM TotalStorage SAN ボリュ ーム・コントローラー: CIM エージェント開発者のリファ レンス	この資料は、Common Information Model (CIM) 環 境におけるオブジェクトとク ラスを説明しています。	SC26-7590
IBM TotalStorage SAN ボリュ ーム・コントローラー: コマ ンド行インターフェース・ユ ーザーズ・ガイド	この資料では、SAN ボリュ ーム・コントローラーのコマ ンド行インターフェース (CLI) から使用できるコマン ドについて解説します。	SD88-6303
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: 構成ガイド	この資料では、SAN ボリュ ーム・コントローラーを構成 するためのガイドラインが記 載されています。	SD88-6302

表 1. SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリーの資料 (続き)

表題	説明	資料番号
IBM TotalStorage SAN Volume Controller: Host Attachment Guide	この資料には、ホスト・シス テムへの SAN ボリューム・ コントローラーの接続につい て、ガイドラインが記載され ています。	SC26-7575
IBM TotalStorage SAN ボリュ ーム・コントローラー: イン ストール・ガイド	この資料には、SAN ボリュ ーム・コントローラーをイン ストールするためのサービス 技術員向けの指示が記載され ています。	SD88-6300
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: 計画 ガイド	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーの概要、およびオーダー可能なフィーチャーが記載されています。また、SAN ボリューム・コントローラーのインストールおよび構成に関する計画のガイドラインも示されています。	GA88-8768
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: サービス・ガイド	この資料には、SAN ボリュ ーム・コントローラーを保守 するためのサービス技術員向 けの指示が記載されていま す。	SD88-6301
IBM TotalStorage SAN Volume Controller: Translated Safety Notices	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーに関する危険と注意が記載してあります。これらは、英語および多数の言語で示されます。	SC26-7577

### その他の IBM 資料:

ix ページの表 2には、SAN ボリューム・コントローラーに関連する追加情報が記載 されたその他の IBM 資料のリストとその説明があります。

表 2. その他の IBM 資料

表題	説明	資料番号
IBM TotalStorage Enterprise	この資料には、IBM	SC88-9901
Storage Server, IBM	Subsystem Device Driver	
TotalStorage SAN ボリュー	Version 1.5 for TotalStorage	
ム・コントローラー、IBM	Products について解説し、こ	
TotalStorage SAN ボリュー	の製品を SAN ボリューム・	
ム・コントローラー for	コントローラーで使用する方	
Cisco MDS 9000、サブシステ	法が記載されています。この	
ム・デバイス・ドライバー	資料は、「IBM TotalStorage	
ユーザーズ・ガイド	サブシステム・デバイス・ド	
	ライバー ユーザーズ・ガイ	
	ド」という名称で呼びます。	

### 関連 Web サイト

表3 に記載の Web サイトには、SAN ボリューム・コントローラーに関する情報、および関連製品や関連テクノロジーに関する情報が記載されています。

表 3. Web サイト

情報のタイプ	Web サイト
SAN ボリューム・コントロー ラーのサポート	http://www.ibm.com/storage/support/2145/
IBM ストレージ製品のテクニ カル・サポート	http://www.ibm.com/storage/support/

### 強調

以下の書体で強調を表しています。

太文字のテキストは、メニュー項目およびコマンド名を表します。

イタリック体 イタリック体 は、ワードを強調する場合に使用されます。コマンド 構文で、デフォルトのディレクトリーやクラスター名など、実際の 値を指定する変数を表します。

**モノスペース** モノスペースのテキストは、ユーザーが入力するデータまたはコマンド、コマンド出力のサンプル、プログラム・コードまたはシステムからのメッセージの例、もしくは、コマンド・フラグ、パラメーター、引き数、および名前と値の対の名前を表します。

### 用語

コマンド行インターフェースの操作でもっとも頻繁に使用される省略語は、次のとおりです。

xページの表 4 に示してあるのは、コマンド行インターフェースの操作でもっとも 頻繁に使用される省略語です。

表 4. 省略形のオブジェクト・タイプ

名前	オブジェクト・タイプ
ホスト	host
仮想ディスク	vdisk
管理対象ディスク	mdisk
管理対象ディスク・グループ	mdiskgrp
I/O グループ	iogrp
ノード	node
クラスター	cluster
コントローラー	controller
FlashCopy マッピング	fcmap
FlashCopy 整合性グループ	fcconsistgpr
リモート・コピー関係	rcrelationship
リモート・コピー整合性グループ	rcconsistgrp
未サポート/未知のオブジェクト	unknown

### 構文図

構文図では、コマンドの要素を表す記号、およびこれらの要素を使用する場合の規 則を指定する記号が使用されます。

このトピックでは、コマンド行インターフェース (CLI) コマンドを表す構文図の読み方を説明します。説明の中で、CLI コマンド要素を表す記号が定義されています。

CLI コマンドは、「IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: コマンド 行インターフェース・ユーザーズ・ガイド」に記載されています。本書を使用して、コマンド構文図を見ることができます。

#### メインパス・ライン

左側から二重矢印 (>>) で始まり、右側の互いに向かい合った 2 つの矢印 (><) で終わります。構文図が 1 行で終わらない場合は、行の終わりに単一矢印 (>) が付き、次の行が単一矢印で開始します。構文図は左から右、上から下へ、メインパス・ラインを読んでください。

#### キーワード

► esscli —

コマンド、フラグ、パラメーター、または引き数の名前を表します。キーワードはイタリック体ではありません。キーワードは、構文図に示されているとおりに入力してください。

#### 必須キーワード

 そのコマンドで指定しなければならないパラメーターまたは引き数を示しています。必須キーワードは、メインパス・ライン上に示されます。相互に排他的な必須キーワードは、縦に並んで示されます。

#### オプション・キーワード



そのコマンドで指定するか、しないかをユーザーが選択できるパラメーターまたは引き数を示しています。オプション・キーワードは、メインパス・ラインの下に示されます。相互に排他的なオプション・キーワードは、縦に並んで示されます。

#### デフォルト値



メインパス・ラインの上に示されます。

#### 繰り返し指定できるキーワードまたは値



2 回以上指定できるパラメーターまたは引き数を表します。繰り返し指定可能なキーワードまたは値は、キーワードまたは値の上を右から左へ戻る矢印で示しています。

#### 変数

**▶**—AccessFile—

パラメーターまたは引き数に指定する必要のある値 (ファイル名、ユーザー名、パスワードなど) を表しています。変数はイタリック体です。

#### スペース分離文字

前後のキーワード、パラメーター、引き数、または変数を区切るために、メインパス・ラインにブランク・スペースを追加します。

#### 引用符区切り文字

複数の値が含まれるパラメーターまたは引き数の始まりと終わりを示します。特定のパラメーターまたは引き数の、1 つ以上の名前値の対を二重引用符で囲みます。パラメーター、または名前と値の対の値にブランクまたはスペースが含まれる場合は、値全体をI単一引用符で囲みます。

#### 等号演算子

▶▶─—"—ess—=—EssId— —profile—=—ProfileName—"————

名前と値の対の中で、名前とその値を区切ります。

#### フラグメント名:

-(-fragment details-)-

非常に長い構文図、複雑な構文図、もしくは繰り返しの多い構文図を分割します。フラグメント名はメインの構文図の中に示されます。実際のフラグメントは、メインの構文図の下に示されます。

### CLI の特殊文字

コマンド行インターフェース (CLI) のコマンド例では、以下の特殊文字が使用されています。

#### - (マイナス) 記号

フラグの前には - (マイナス) 記号が付きます。フラグはコマンドの動作を定義したり、コマンドの操作を変更します。コマンドを発行する際、複数のフラグにパラメーターを付けて使用できます。この - (マイナス) 記号は、オブジェクト名の先頭文字としては使用できません。

**| 縦バー** 縦バーは、1 つの値のみを選択できることを示しています。

たとえば、 $[a \mid b]$  は、a か b を指定する、もしくはどちらも指定しないことを選択できます。同様に、 $\{a \mid b\}$  は、a または b のどちらかを選択しなければならないことを意味します。

### SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用

このトピックでは、SAN ボリューム・コントローラー CLI でのワイルドカードの使用に関する情報を提供します。

SAN ボリューム・コントローラー CLI により、特定のパラメーターの引き数の中で、ワイルドカードとして「\*」が使用できるようになります。ワイルドカードを使用する際の予期しない結果を防止するには、考慮しておく必要のある行動上の問題がいくつかあります。これらの行動上の問題、およびそれらの問題を回避する方法は、以下のとおりです。

1. ノードにログオンされている間にコマンドを実行する。

特殊文字がエスケープされていない場合、シェルはそれらの特殊文字のすべてを解釈しようとします。ワイルドカードと一致するファイルが存在する場合、ワイルドカードはファイルのリストに展開されます。一致するファイルが存在しない場合、ワイルドカードはそのまま SAN ボリューム・コントローラーのコマンドにパスされます。

ワイルドカードが展開されないようにするには、以下のコマンドをいずれかのフォーマットで発行します。

単一引用符で

| |

svctask cleardumps -prefix '/dumps/\*.txt'

または円記号 (¥) を使用して

svctask cleardumps -prefix /dumps/\formats\*.txt

または二重引用符で指定し、

svctask cleardumps -prefix "/dumps/\*.txt"

とします。

2. SSH を介して (たとえば、ホストから) コマンドを実行する。

この方法は、やや複雑です。その理由は、コマンド行が SSH を介してクラスター上のシェルにパスされる前に、ホスト・シェルがコマンド行を処理するためです。これは、次のことを意味します。つまり、ホスト・シェルが保護引用符をすべて取り除くため、ワイルドカードの前後に余分の保護層が必要であり、ワイルドカードがホスト・シェルから見える場合、そのワイルドカードがクラスター・シェルではなくホスト・シェルで展開されることになります。

ワイルドカードが展開されないようにするには、以下のコマンドをいずれかのフォーマットで発行します。

二重引用符の内側に単一引用符で、

svctask cleardumps "'/dumps/\*.txt'"

または、単一引用符の内側に円記号 (¥) を使用して、

svctask cleardumps '/dumps/\frac{\pma}{\*.txt'}

または、単一引用符の内側に二重引用符で

svctask cleardumps '"/dumps/\*.txt"'

と指定します。

### データ・タイプおよび値の範囲

異なったデータ・タイプと値範囲について説明します。

以下で、各データ・タイプおよび値範囲について定義します。

注: 新規オブジェクトを作成する際に名前を指定しないと、クラスターはデフォルト名を割り当てます。この名前は、オブジェクト・タイプから接頭部が、オブジェクト ID から接尾部が生成されます。たとえば、新規仮想ディスク (VDisk)を、ID 5 で作成する場合、このオブジェクトのデフォルト名は vdisk5 となります。システムがこれらの名前を割り当てるので、ユーザーがオブジェクトを作成して、そのオブジェクトを vdiskx (x は整数)と呼ぶことはできません。これは、クラスターがデフォルトとしてこれらの名前

(例: object\_type\_prefix integer) を予約しているためです。

#### filename\_arg

これはファイル名です (完全修飾名を使用することもできます)。最大長は231 文字です。有効な文字は、次のとおりです。

- a  $\sim$  z
- A ∼ Z
- 0 ~ 9

フィールドでは、「.」を 2 つ続けたり、「.」で開始したり、「.」で終了 することはできません。

#### directory\_or\_file\_filter

ディレクトリー、および/または、そのディレクトリー内のファイル名フィ ルターを指定します。有効なディレクトリー値は、次のとおりです。

- /dumps
- · /dumps/configs
- · /dumps/elogs
- /dumps/feature
- · /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- /dumps/software

ファイル名フィルターには、有効なファイル名であればどれでも指定できま す。この場合、ワイルドカード(\*)の有無は問いません。ファイル名フィル ターを、上記のいずれかのディレクトリーの最後に付加することができま す。最大長は231文字です。有効な文字は、次のとおりです。

- /

- a  $\sim$  z
- A ∼ Z
- 0 ~ 9

フィールドでは、「.」を 2 つ続けたり、「.」で開始したり、「.」で終了 することはできません。

#### filename\_prefix

ファイルを命名するときに使用する接頭部です。最大長は231文字です。 有効な文字は、次のとおりです。

- a  $\sim$  z
- A ∼ Z
- 0 ~ 9

I

#### name\_arg

名前は、作成または変更機能で指定または変更できます。ビュー・コマンド を使用すると、オブジェクトの名前と ID の両方が表示されます。

 $A \sim Z$ 、 $a \sim z$ 、 $0 \sim 9$ 、- および \_ から構成される、1  $\sim 15$  文字のス トリングを指定できます。

name\_arg の先頭文字は数字にすることはできません。CLI は、「-」を次の パラメーターと解釈するので、オブジェクト名の先頭文字にはこの文字は使 用できません。

オブジェクトに対して名前を作成する場合、この名前はオブジェクト・タイ プに続けて整数のみを使用することはできません。ただし、リモート・コピ ー関係の名前は例外で、2 つのクラスターにとって固有の名前であれば、ど んな名前でもかまいません。この命名規則は、システムがデフォルト名を生 成するときに使用します。次の予約語のいずれかと、それに続けて整数を使 用することはできません。

- cluster
- controller
- fccstgrp
- fcmap
- host
- · io\_grp
- · mdisk
- mdiskgrp
- node
- rccstgrp
- rcmap

クラスターの作成時にクラスター名が設定されますが、これが唯一の名前で あり、後で変更することはできません。

#### password

これは、ユーザーが定義したパスワードです。パスワードは、以下の要件を 満たす必要があります。

- a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9 を任意の順序で使用できる
- - (ダッシュ) は先頭文字以外で使用できる
- \_ (アンダースコアー) を使用できる
- 最大 15 文字を含むことができる

#### serial number

この番号形式は、IBM 製品のシリアル番号に使用されている IBM 規格の C-S 1-1121-018 1999-06 に準拠しています。シリアル番号は 7 桁です。最 初の2 桁は製造地域、残りの5 桁は製品を示します。この規格は、5 桁の フィールドに番号の代わりに文字を入力することでシリアル番号を拡張でき ます。

#### ip address arg

小数点付き 10 進クワッド表記 (標準規則) で表します。

1 

1 Ι

#### dns\_name

クラスターが含まれるサブネットの、小数点付きドメイン・ネーム。例: ibm.com

#### hostname

クラスターに割り当てられたホスト名。これはクラスター名とは異なります。ホスト名はいつでも変更できます。

たとえば、クラスターへのアクセスに使用する hostname と the dns\_name の組み合わせは、次のように指定します。

https://hostname.ibm.com/

#### capacity\_value

1 MB の倍数で値を指定します。有効な値の範囲は、16 MB  $\sim$  2 PetaBytes (PB) です。

注: 容量は、MB、KB、GB、または PB で指定できます。MB を使用すると、数値はもっとも近い 16 MB に切り上げられます。

#### delay\_arg

1 ~ 65535 の範囲の未割り当ての整数 (バッテリー・テストの時間 (分))。

#### node id

ノード ID は、ノードの初期化時に割り当てられる固有の ID なので、他の ID とは異なります。ノード ID は、64 ビットの16 進数で表します。例:

#### 1A2B30C67AFFE47B

ノード ID は、他の ID と同様にユーザー・コマンドでは変更できません。

#### xxx id

すべてのオブジェクトは、オブジェクトの作成時にシステムによって割り当てられる固有の整数 ID によって参照されます。すべての ID は、内部では32 ビットの整数で表現されます。ノード ID は例外です。

オブジェクトのさまざまなタイプの識別には、以下の範囲の ID が使用されます。

- node\_id:  $1 \sim 32$
- mdisk\_grp\_id:  $0 \sim 127$
- io\_grp\_id: 0 ~ 3 (「注」を参照)
- mdisk\_id:  $0 \sim 4095$
- vdisk\_id: 0  $\sim$  8191
- host\_id:  $0 \sim 127$
- flash\_const\_grp\_id:  $0 \sim 255$
- remote\_const\_grp\_id:  $0 \sim 255$
- fcmap\_id:  $0 \sim 4095$
- rcrel\_id:  $0 \sim 8191$
- controller\_id: 0-63

**注:** io\_group 4 は存在しますが、ある特定のエラー・リカバリー手順でのみ使用されます。

これらの ID は、ノード ID と同様にユーザー・コマンドでは変更できません。

注: ID は実行時にシステムによって割り当てられますが、その後、たとえば構成回復時に、そのまま同じ ID が維持されるとは限りません。したがって、オブジェクトに関する作業をするときは、ID より優先してオブジェクト名を使用してください。

#### xxx list

コロンで区切られて列挙された、タイプ xxx の値。

#### wwpn\_arg

Fibre Channel World Wide Port Name (WWPN)。これは、64 ビットの 16 進数で表されます。例:

#### 1A2B30C67AFFE47B

この数は、 $0 \sim 9$ 、 $a \sim f$ 、および  $A \sim F$  の文字で構成しなくてはなりません。コマンド・ストリングに WWPN 0 を入力すると、コマンドは失敗します。

#### panel\_name

クラスター内のノードのフロント・パネルの APA ディスプレイの下に貼ってある印刷されたラベルの数字に対応する、最大 6 文字のストリング。

#### sequence\_number

10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。

#### scsi\_num\_arg

10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。

#### percentage\_arg

10 進数 0 ~ 100 で表記された、8 ビットの符号なし整数。

#### extent\_arg

10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。

#### num extents arg

10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。

#### threads arg

10 進数で表記された、8 ビットの符号なし整数。有効値は、1、2、3、または 4 です。

#### velocity\_arg

ファブリックの速度 (ギガビット/秒)。有効値は、1 または 2 です。

#### timezone\_arg

svcinfo Istimezones コマンドの出力で詳述されている ID。

#### timeout\_arg

コマンドのタイムアウト期間。0~600(秒)の整数です。

#### stats\_time\_arg

統計が収集される頻度。5~300(秒)の範囲の、5の増分です。

#### directory\_arg

ディレクトリー、および/または、そのディレクトリー内のファイル名フィルターを指定します。有効なディレクトリー値は次のとおりです。

- /dumps
- · /dumps/configs
- /dumps/elogs
- · /dumps/feature
- · /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- · /dumps/software

ファイル名フィルターには、有効なファイル名であればどれでも指定できます。この場合、ワイルドカード (\*) の有無は問いません。

ファイル名フィルターを、上記のいずれかのディレクトリーの最後に付加することができます。

#### locale\_arg

クラスターのロケール設定。有効値は、0~9です。

- 0 米国英語 (デフォルト)
- 1 中国語 (簡体字)
- 2 中国語 (繁体字)
- 3 日本語
- 4 韓国語
- 5 フランス語
- 6 ドイツ語
- 7 イタリア語
- 8 スペイン語
- ・ 9 ポルトガル語 (ブラジル)

#### key\_arg

ユーザーが定義できる、SSH 鍵の ID。最大 30 文字のストリングで指定します。

#### user\_arg

ユーザーを、admin または service のいずれかに指定します。

#### copy\_rate

0~100の数値。

#### 関連トピック:

• xii ページの『SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用』

### CLI パラメーター

このトピックでは、CLI パラメーターについて説明します。

パラメーターは、次の場合を除いて、任意の順序で入力できます。

- 1. コマンド名の後に続く最初の引き数は、実行されるべきアクションでなくてはなりません。
- 2. 特定のオブジェクトに対してアクションを実行する場合、オブジェクト ID またはオブジェクト名は、行の最後の引き数として指定する必要があります。

### CLI フラグ

CLI フラグの発行に関するトピックです。

以下のフラグは、すべての CLI コマンドで共通のものです。

#### -? または -h

ヘルプ・テキストを出力します。たとえば、svcinfo Iscluster -h を発行すると、svcinfo Iscluster コマンドで指定できるアクションのリストが表示されます。

#### -nomsg

これを使用すると、このフラグにより、successfully created の出力が表示されません。たとえば、以下のコマンドを実行した場合、

svctask mkmdiskgrp -ext 16

次のように表示されます。

MDisk Group, id [6], successfully created

次のように -nomsg パラメーターを追加して、コマンドを実行します。

svctask mkmdiskgrp -ext 16 -nomsg

次のように表示されます。

6

このパラメーターはどのコマンドにも使用できますが、効果があるのは、 successfully created という出力が行われるコマンドだけです。他のコマ ンドでは、このパラメーターは無視されます。

### 第 1 章 SSH クライアント・システムの準備の概要

ここでは、ユーザーがホストからクラスターに対して CLI コマンドを発行できるように、SSH クライアント・システムを準備する方法について説明します。

#### Windows オペレーティング・システム:

マスター・コンソールは、PuTTY セキュア・シェル (SSH) クライアント・ソフトウェアがインストールされた Windows 2000 システムです。 SAN ボリューム・コントローラー・コンソール CD-ROM の SSHClient¥PuTTY ディレクトリーにあるPuTTY インストール・プログラム putty-0.53b-installer.exe を使用して、別のWindows ホストにPuTTY SSH クライアント・ソフトウェアをインストールできます。もしくは、次の Web サイトからも PuTTY をダウンロードできます。

http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/

次の Web サイトに、Windows 用の SSH クライアント代替があります。

http://www.openssh.com/windows.html

Cygwin ソフトウェアには、OpenSSH クライアントをインストールするオプション が含まれています。次の Web サイトから cygwin をダウンロードできます。

http://www.cygwin.com/

#### AIX オペレーティング・システム:

 $AIX^{®}$  5L Power 5.1 および 5.2 の場合は、ボーナスパックから OpenSSH を入手できます。また、前提条件である OpenSSL は、Power System 向け Linux アプリケーション用の AIX ツールボックスから入手できます。 AIX 4.3.3 の場合、Linux アプリケーション用の AIX ツールボックスからソフトウェアを入手できます。

また、次の Web サイトの IBM Developer Works から AIX インストール・イメージを入手できます。

http://oss.software.ibm.com/developerworks/projects/openssh

#### Linux オペレーティング・システム:

OpenSSH はデフォルトでほとんどの Linux 配布版にインストールされます。ご使用のシステムに OpenSSH がインストールされていない場合は、インストール・メディアを確認するか、次の Web サイトにアクセスしてください。

http://www.openssh.org/portable.html

OpenSSH は、上記のオペレーティング・システム以外にも、さまざまなオペレーティング・システムで稼動させることができます。詳しくは、次の Web サイトをご覧ください。

http://www.openssh.org/portable.html

### コマンド行インターフェース (CLI) コマンド発行のために SSH クライア ント・システムを準備する

ここでは、CLI コマンドを発行できるように SSH クライアント・システムを準備 する方法を段階的に説明します。

ホストからクラスターに対して CLI コマンドを発行するためには、ホストがクラス ター上の セキュア・シェル (SSH) サーバーに受け入れられ、接続が許可されるよ うに、ホスト上の SSH クライアントを準備する必要があります。

異なるタイプの SSH クライアントを必要とするホストを使用する場合 (たとえば、 OpenSSH など)は、そのソフトウェアに関する指示に従ってください。

#### ステップ:

ホストから CLI コマンドを発行するには、以下のステップを実行してください。

マスター・コンソールと Windows ホストを使用する場合:

- 1. PuTTY 鍵生成装置を使用して、SSH 鍵ペアを生成します。
- 2. SSH クライアントの公開鍵を、(SAN ボリューム・コントローラー・コンソール を位置指定しているブラウザーを使用して)クラスターに保管します。
- 3. PuTTY セッションを、コマンド行インターフェース用に構成します。

その他のタイプのホストを使用する場合:

- 1. SSH 鍵ペアを生成するには、その SSH クライアントに関する特定の指示に従っ てください。
- 2. SSH クライアントの公開鍵を、(SAN ボリューム・コントローラー・コンソール を位置指定しているブラウザー、もしくはすでに作成したホストからコマンド行 インターフェースを利用して)クラスターに保管します。
- 3. SAN ボリューム・コントローラー・クラスターへの SSH 接続を確立するに は、その SSH クライアントに関する指示に従ってください。

#### 関連トピック:

- 3ページの『第2章 セキュア・シェル (SSH)』
- 1ページの『コマンド行インターフェース用に PuTTY セッションを構成する』
- 9ページの『マスター・コンソール以外のホストに対する SSH 鍵の追加』

### 第 2 章 セキュア・シェル (SSH)

このトピックでは、セキュア・シェル (SSH) の概要およびリモート SSH クライアントを実行中のホスト・システムからの使用法について説明します。

#### 概要:

セキュア・シェル (SSH) は、クライアント/サーバー・ネットワークのアプリケーションです。 SAN ボリューム・コントローラー・クラスターは、この関係の中で SSH サーバーとして機能します。SSH クライアントは、リモート・マシンに接続するための機密保護機能のある環境を提供します。SSH クライアントは、認証に公開 鍵と秘密鍵の原理を利用します。

SSH 鍵は SSH ソフトウェアによって生成されます。この鍵には、クラスターによってアップロードされ保守される公開鍵と、SSH クライアントを実行中のホストに対して秘密が保持される秘密鍵があります。これらの鍵は、特定のユーザーに、クラスターの管理機能およびサービス機能へのアクセスを許可します。それぞれの鍵は、ユーザー定義の ID ストリングと関連付けられており、このストリングには最大 40 文字までを使用できます。クラスターには最大 100 個の鍵を保管できます。新規の ID と鍵を追加したり、不要な ID と鍵を削除したりすることもできます。

セキュア・シェル (SSH) は、ご使用のホスト・システムと次のいずれかの間の通信 手段です。

- SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI)
- SAN ボリューム・コントローラー・コンソールがインストールされているシステム

#### SSH ログインの認証:

AIX ホストを使用している場合、SSH ログインは、AIX で使用可能な OpenSSH クライアントでサポートされる RSA ベース認証を使用して、クラスター上で認証 されます。この方式は、RSA として一般に知られている方式を使用する、公開鍵暗号方式を基にしたものです。

注: 非 AIX ホスト・システムの認証処理も同様です。

この方式によって (他のホスト・タイプ上の類似の OpenSSH システムの場合のように)、暗号化および復号化は別個の鍵を使用して行われます。これは、暗号鍵から復号鍵を得ることはできないことを意味します。

秘密鍵を物理的に所有すると、クラスターにアクセスできるようになります。そのため、秘密鍵は AIX ホスト上の .ssh ディレクトリーなどの保護された場所に、アクセス許可制限付きで保持しておく必要があります。

SSH クライアント (A) が SSH サーバー (B) への接続を試みる際、接続の認証に 鍵ペアが必要です。鍵は、公開鍵と秘密鍵という 2 つの部分で構成されます。 SSH クライアントの公開鍵は、SSH セッションの外部の手段を使用して SSH サーバー (B) に書き込まれます。SSH クライアント (A) が接続しようとする際に、

Т

Ι

| |

3

SSH クライアント (A) 上の秘密鍵は、SSH サーバー (B) 上に存在する公開鍵の部 分を利用して認証を行うことができます。

#### コマンド行インターフェース (CLI) の実行:

コマンド行インターフェース (CLI) または SAN ボリューム・コントローラー・コ ンソール・システムを使用するためには、そのシステムに SSH クライアントをイ ンストールして、以下の作業を実行する必要があります。

- クライアント・システムで SSH 鍵ペアを生成します。
- この鍵ペアから秘密鍵をクライアント・システム上に保管します。
- クライアント用の SSH 公開鍵を SAN ボリューム・コントローラー・クラスタ 一上に保管します。

マスター・コンソールには、PuTTY という SSH クライアント・ソフトウェアがプ リインストールされています。このソフトウェアは、SAN ボリューム・コントロー ラー・コマンド行インターフェース (CLI) を起動しようとマスター・コンソールに ログインしたユーザーに、セキュア・シェル (SSH) クライアント機能を提供しま す。

マスター・コンソール以外のシステムから SAN ボリューム・コントローラー・コ マンド行インターフェース (CLI) を実行したい場合は、SSH クライアントをインス トールする必要があります。便宜のために、PuTTY ソフトウェアを Windows にイ ンストールするためのインストール・プログラムは、SAN ボリューム・コントロー ラー・コンソール CD-ROM の SSH クライアント・ディレクトリーに入っていま す。 PuTTY ソフトウェアを使用して、SSH 公開鍵と秘密鍵を生成できます。SSH クライアントの公開鍵は、すべての SAN ボリューム・コントローラー・クラスタ ーに保管する必要があります。

#### SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの追加クラスターへの接続:

マスター・コンソールには、SAN ボリューム・コントローラー・コンソール Web サーバーおよび Common Information Model (CIM) オブジェクト・マネージャー・ ソフトウェアもプリインストールされています。このソフトウェアの、SAN ボリュ ーム・コントローラー・クラスターへのプログラマチックにアクセスするのは、 SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの PuTTY セキュア・シェル (SSH) クラスター機能に依存します。マスター・コンソールには、(出荷時には) PuTTY SSH 鍵がプリインストールされています。マスター・コンソール固有の新規 PuTTY SSH 鍵を生成して、秘密 SSH 鍵を SAN ボリューム・コントローラー・コ ンソール・ディレクトリーにコピーし、SAN ボリューム・コントローラー・コンソ ールが接続するすべてのクラスターに公開 SSH 鍵を保管することができます。

お客様の Windows 2000 サーバー・システムにも SAN ボリューム・コントローラ ー・コンソールをインストールできます。お客様のホストに SAN ボリューム・コ ントローラー・コンソールをインストールする予定の場合は、まず最初に SAN ボ リューム・コントローラー・コンソールの前提条件である PuTTY をインストール する必要があります。

### セキュア・シェル (SSH) クライアント・システムの構成

ここでは、SSH クライアント・システムの構成について概要を説明します。関連ト ピックでは、PuTTY セキュア・シェル・クライアント・システム構成のそれぞれの ステップについて詳しく説明します。 PuTTY セキュア・シェル・クライアント・ ソフトウェアは、マスター・コンソールにプリインストールされています。コマン ド行インターフェース (CLI) を実行する、または SAN ボリューム・コントローラ ー・コンソールをインストールする、任意の Windows 2000 サーバーにも Putty を インストールできます。別のホストで他のセキュア・シェル・クライアント・ソフ トウェアを実行する場合は、そのソフトウェアの資料に従って、以下のステップに 相当する作業を実行してください。

- 1. SSH クライアント・ソフトウェアをインストールします (PuTTY がプリインス トールされているマスター・コンソールには不要です)。
- 2. SSH クライアント・システムで SSH 鍵を生成します。
- 3. 必要であれば、SSH クライアント・システムでセッションを構成します。
- 4. クライアント・システムがマスター・コンソールの場合は、秘密鍵を SAN ボリ ューム・コントローラー・コンソールのインストール・ディレクトリーにコピー します。クライアント・システムが マスター・コンソールでない場合は、秘密 鍵を SSH クライアント・システムに保管します。
- 5. SSH 公開鍵をマスター・コンソールにコピーします。
- 6. SSH クライアントの公開鍵を SAN ボリューム・コントローラー・クラスター に保管します。

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターを作成を完了したら、ステップ 6 を実行して、SSH クライアント公開鍵を SAN ボリューム・コントローラーに保管 します。クラスターを SAN ボリューム・コントローラー・コンソールに対して定 義して、クラスターへの SSH 通信が使用可能になったら、追加の SSH クライアン ト公開鍵をクラスターに保管できます。SAN ボリューム・コントローラー・コンソ ール、またはコマンド行インターフェースから追加の鍵を保管できます。

#### 関連トピック:

- 7ページの『コマンド行インターフェース用に PuTTY セッションを構成する』
- 7ページの『SAN ボリューム・コントローラーに後続の SSH 公開鍵を追加す る』

### PuTTY という SSH クライアントを使用して SSH 鍵ペアを生成する

PuTTY SSH クライアント・システムでの SSH 鍵の生成方法を順を追って説明しま す。

#### ステップ:

以下の手順で、SSH クライアント・システムで SSH 鍵を生成します。

1. SAN ボリューム・コントローラー・クラスター上の SSH サーバーに SSH クラ イアント接続に対する公開鍵と秘密鍵を生成するために、PuTTY キー生成装置 を始動させます。「スタート」->「プログラム」->「PuTTY」->「PuTTYgen」 を選択して、「PuTTY キー生成装置グラフィカル・ユーザー・インターフェー ス (PuTTY Key Generator Graphical User Interface)」 ウィンドウを開きます。

- 2. 次の順序で「PuTTY キー生成装置 GUI (PuTTY Key Generator GUI)」ウィンド ウを利用して、鍵を生成します。
  - a. 「SSH2 RSA」ラジオ・ボタンを選択します。
  - b. 生成される鍵の値のビット数は、1024 のままにしておきます。
  - c. 「生成 (Generate)」をクリックします。

以下のようなメッセージが表示されます。

Please generate some randomness by moving the mouse over the blank area.

メッセージの中の blank area とは、「鍵 (Key)」のラベルが付いている GUI の セクション内の大きいブランクの長方形部分です。進行状況表示バーが最右端に 達するまで、ブランク領域内でカーソルの移動を続けます。これにより、固有の 鍵を作成するためのランダム文字が生成されます。

「鍵パスフレーズ (Key Passphrase)」または「パスフレーズの確認 (Confirm passphrase)」フィールドには、何も入力しないでください。

- 3. 後で使用できるように、生成された SSH 鍵をシステム・ディスクに保管しま す。 2 つのファイルが生成されます。
  - a. 「公開鍵の保管 (Save public key)」をクリックします。鍵の名前と場所を 入力するようにプロンプトが出されます。保管した SSH 公開鍵の名前と場所 を覚えておいてください。

- 1) AIX の場合は、鍵を \$HOME/.ssh ディレクトリーに保管します。
- 2) 公開鍵の命名では、SSH 公開鍵と SSH 秘密鍵を容易に区別できるよう に、pub という用語を使用することをお勧めします (例: pubkey)。後のス テップで、SAN ボリューム・コントローラー・クラスターへの SSH 公 開鍵の名前と場所を示します。
- b. 「秘密鍵の保管 (Save Private key)」をクリックします。次のようなメッセ ージでプロンプトが出されます。

Are you sure you want to save this key without a passphrase to protect it? Yes/No

「はい (Yes)」をクリックします。鍵の名前と場所を入力するようにプロン プトが出されます。保管した SSH 秘密鍵の名前と場所を覚えておいてくだ さい。PuTTY セッションを構成する際に、SSH 秘密鍵の名前と場所を示す 必要があります。マスター・コンソール以外のシステムで SAN ボリュー ム・コントローラー・コンソールのインストール・プログラムを実行する場 合は、SSH 秘密鍵の名前と場所も覚えておく必要があります。 PuTTY キー 生成装置は、拡張子 .ppk を付けて秘密鍵を保存します。

注: AIX の場合は、鍵を \$HOME.ssh/identity ファイルの \$HOME/.ssh ディレ クトリーに保管します。最も単純な場合は、ID ファイルの内容を鍵ファ イルの内容で置き換えます。ただし、複数の鍵を使用する際は、これら の鍵がすべて ID ファイルになければなりません。

4. PuTTY キー生成装置を閉じます。

#### 関連トピック:

• 『コマンド行インターフェース用に PuTTY セッションを構成する』

### コマンド行インターフェース用に PuTTY セッションを構成する

SSH クライアント・システムで、コマンド行インターフェース (CLI) 用に PuTTY セッションを構成する方法を段階的に説明します。このステップは、マスター・コ ンソール CLI を実行できるように準備している場合にのみ必要です。

#### ステップ:

以下の手順で、SSH クライアント・システムで PuTTY セッションを構成します。

- 1. 「スタート」->「プログラム」->「PuTTY」->「PuTTY」を選択して、「PuTTY の構成」ウィンドウを開きます。画面左側の「カテゴリー」ペインで項目を選択 すると、画面右側の内容が変わります。
- 2. 「カテゴリー (Category)」ペインで、「セッション (Session)」をクリックしま す。
- 3. 「**SSH**」をクリックします。
- 4. 「接続 (Connection)」ツリーで、「接続 (Connection)」 -> 「SSH」をクリッ クします。この操作により、右側のペインに新しいビューが表示されます。
- 5. 「2」と表記されたボタンが選択されていることを確認します。
- 6. 「SSH」ツリーで、「Auth」をクリックします。右側のペインに新しいビューが 表示されます。
- 7. 「認証パラメーター (Authentication Parameters)」セクションの「**認証用の秘密鍵** ファイル (Private key file for authentication)」フィールドに、PuTTY キー生 成装置を使用した時に指定した SSH クライアント秘密鍵ファイルの名前を入力 します。このフィールドは、右側ペインの 2 番目のセクションです。「ブラウ ズ (Browse)」をクリックして、システム・ディレクトリーからファイル名を選 択するか、もしくは (代替方法として) 完全修飾ファイル名 (例: C:\text{YSupport Utils}\text{PuTTY}\text{priv.ppk}) を入力できます。
- 8. 「カテゴリー (Category)」ペインで、「セッション (Session)」をクリックしま
- 9. 右側ペインの「保管セッションのロード、保管、または削除 (Load, save or delete a stored session)」セクションにある「保管セッションの保管または削除 (save or delete a stored session)」フィールドで、「デフォルト設定 (Default Settings)」->「保管 (Save)」をクリックします。

### SAN ボリューム・コントローラーに後続の SSH 公開鍵を追加する

SSH 公開鍵を SAN ボリューム・コントローラーに追加する方法を段階的に説明し ます。

#### ステップ:

Ι

クラスター作成ウィザードの実行時に、(SAN ボリューム・コントローラー・コン ソールが実行されている)マスター・コンソールのクラスターへのアクセスを許可 する SSH 鍵をクラスターに追加します。さらに SSH 鍵を追加する場合、他のサー バーへの SSH アクセスを認可したい場合は、次の手順に従ってください。

- 1. 「ポートフォリオ (Portfolio)」内の「クラスター (Clusters)」をクリックしま す。
- 2. 保守したい SSH 鍵のクラスターをクリックします。
- 3. ドロップダウン・リストの「SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)」を選択し、 「進む」をクリックします。「SSH 鍵の保守 (SSH Key Maintenance)」パネルが 表示されます。

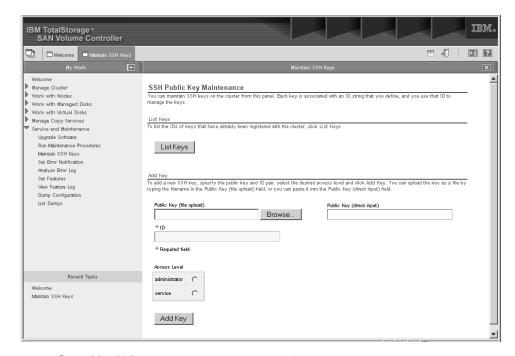


図1. 「SSH 鍵の保守 (SSH Key Maintenance)」パネル

- 4. 「SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)」オプションをクリックします。ウィン ドウが表示され、そこから、クラスターに保管されるクライアント SSH 公開鍵 情報を入力できます。 SSH 鍵の保守 (SSH Key Maintenance) ウィンドウで、次 のステップを実行してください。
  - a. マスター・コンソール用に SSH クライアント鍵を追加する場合は、「ブラウ ズ (Browse)」をクリックして、先に生成した公開鍵を位置指定します。別の システム用に SSH クライアント鍵を追加する場合は、「ブラウズ (Browse) 」をクリックして、公開鍵を位置指定するか、もしくは公開鍵を切り取って 直接入力フィールドに貼り付けます。
  - b. 「**管理者 (Administrator)**」をクリックします。
  - c. 「**ID**」フィールドで、クラスターへの鍵を一意的に示す任意の名前を入力し ます。
  - d. 「鍵の追加 (Add Key)」をクリックします。
  - 「SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)」をクリックします。

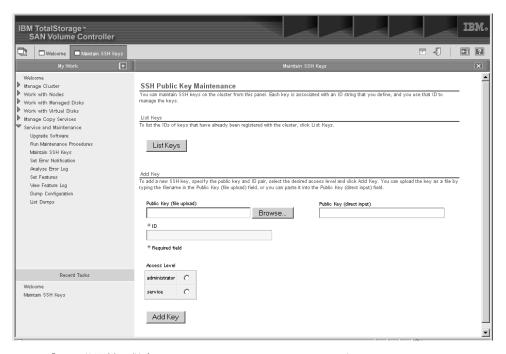


図 2. 「SSH 公開鍵の保守 (SSH Public Key Maintenance)」パネル

f. 「ID の表示 (Show ID)」ボタンをクリックして、SAN ボリューム・コント ローラーにロードされているすべての鍵 ID を表示させます。

SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを利用してクラスターの初期構 成を行い、少なくとも 1 つの SSH クライアント鍵を追加した後、構成の残り の作業は、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールまたはコマンド行イ ンターフェース (CLI) を使用して行っても構いません。

#### 関連トピック:

• 3ページの『第2章 セキュア・シェル (SSH)』

### マスター・コンソール以外のホストに対する SSH 鍵の追加

マスター・コンソール以外のホストに SSH 鍵を追加する方法をステップバイステ ップで説明します。

#### ステップ:

マスター・コンソール以外のホストに SSH 鍵を追加する場合は、次の手順で行い ます。

- 1. SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェースにアクセスで きるようにしたい各ホストで、公開鍵と秘密鍵のペアを生成します。 SSH クラ イアントに付属してきた鍵生成プログラムの詳しい使用法については、SSH ク ライアントとともに添付の資料を参照してください。
- 2. それぞれのホストからマスター・コンソールへ、公開鍵をコピーします。
- 3. それらの公開鍵を、マスター・コンソールからクラスターへセキュア・コピーし ます。

ステップ 2(9ページ) のマスター・コンソールへの公開鍵のコピー作業を、それ ぞれのホストごとに繰り返します。

# 第 3 章 セキュア・コピー (SCP)

セキュア・コピー (scp) の利用法について説明します。

#### 概要:

セキュア・コピー (scp) は、SAN ボリューム・コントローラー構成ノード上の 2 つのディレクトリー間、もしくは構成ノードと別のホストの間でファイルをコピーする、セキュア・シェル (SSH) のためのファイル転送メカニズムを提供します。 scp を使用できるようにするには、それぞれのホスト上のソース・ディレクトリーと宛先ディレクトリー上に適切な許可を得ていなくてはなりません。 SSH クライアントをホスト・システムにインストールする時、セキュア・コピーは使用可能です。

scp インターフェースは、SAN ボリューム・コントローラー内のファイル・システムに対する許可を慎重に制限します。ユーザーが admin にログオンすると、書き込み可能ファイル・システムは次のものになります。

#### /tmp

/home/admin/upgrade

/dumps およびそのサブディレクトリー

クラスターが作動不能な場合、構成インターフェースは利用できません。

#### 例:

/dumps ディレクトリーから svcinfo.trc というファイルをコピーすると前提します。 このファイルを teststand というマシンから、ローカル・ディレクトリーの test.txt というファイルにコピーする場合、次のように入力します。

scp admin@teststand:/dumps/svcinfo.trc test.txt

以下のような出力が表示されます。

svcinfo.trc 100% | \*\*\*\*\*\*\* | 12909 00:00

#### 例:

software\_upgrade.pkg というファイルを、ローカル・ディレクトリーから、teststand というマシン上の upgrade ディレクトリーにコピーすると前提します。次のコマン ドを入力します。

scp software upgrade.pkg admin@teststand:/home/admin/upgrade

以下のような出力が表示されます。

### 第 4 章 クラスター・コマンド

ここでは、クラスター・コマンドをリストして説明します。

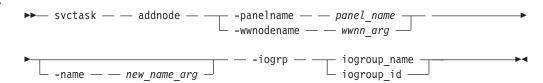
コマンドが正常に完了すると、通常は、テキスト出力が表示されます。しかし、中には出力を戻さないコマンドもあります。「No feedback」フレーズは、そのコマンドには出力が無いことを示しています。コマンドが正常に完了しないと、エラーが戻されます。たとえば、クラスターの不安定な状態が原因でコマンドが失敗した場合は、次のエラー・メッセージが表示されます。

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- 14ページの『addnode』
- 17ページの『chcluster』
- ・ 20ページの『chiogrp』
- 21ページの『chnode』
- 22ページの『cleardumps』
- 24ページの『cpdumps』
- 26ページの『detectmdisk』
- 28ページの『dumpconfig』
- 29ページの『rmnode』
- 35ページの『setclustertime』
- ・ 39 ページの 『startstats』
- 41ページの『stopcluster』
- 45ページの『stopstats』

### addnode

addnode コマンドを使用して、新規 (候補) ノードを既存のクラスターに追加でき ます。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

### 構文



### パラメーター

#### -panelname panel name

表示パネルに表示される名前で、追加するノードを示します。 のノードです。 この引き数は、-wwnodename と相互に排他的です。ノードを一意的に識別する には、1 つのみを指定してください。

#### -wwnodename wwnn\_arg

クラスターに追加するノードを、ノードの worldwide node name (WWNN) で指 定します。この引き数は、-panelname と相互に排他的です。ノードを一意的に 識別するには、1 つのみを指定してください。

#### -name new\_name\_arg

このノードの名前を指定します (オプション)。

-iogrp iogroup\_name | iogroup\_id このノードを追加する I/O グループを指定します。

### 記述

このコマンドは、新規ノードをクラスターに追加します。 svcinfo 1snodecandidate を入力すると、候補ノード (まだクラスターに割り当てられてい ないノード)のリストが表示されます。

ノードの追加は、非同期的に完了します。これは、ノードが追加中の状態である場 合、その WWPN は既知ではなく、ゼロと表示されることを意味します。

互換性チェックがエラーになると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC6201E The node could not be added, because incompatible software: status code [%1].

前提条件:クラスターにノードを追加する前に、次のことを確認してください。

- クラスターに複数の I/O グループがある。
- クラスターに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これ までクラスター内のノードとして使用されていた。
- クラスターに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これ まで他のクラスター内のノードとして使用されており、両方のクラスターとも同 じホストを認識できる。

**重要:** 上記の条件があてはまる場合で、ここに記載の手順がエラーとなる場合 は、クラスターが管理するデータのすべてが破壊されている可能性があります。

**ノードの追加:** クラスターにはじめてノードを追加する場合は、ノードのシリアル 番号WWNN、すべての WWPN、および追加先の I/O グループを記録する必要があ ります。この操作により、クラスターからノードを削除したり、再び追加したとき に、データが破壊されるのを防止できます。

syctask addnode コマンドまたは SAN ボリューム・コントローラー・コンソー ルを使用してクラスターにノードを追加する場合に、そのノードがこれまでクラス ターのメンバーだった場合は、次のいずれかを実行してください。

- これまでと同じ I/O グループにノードを戻してください。クラスター内のノード の WWNN は、svcinfo Isnode コマンドで判別できます。または
- この情報がない場合、データを破壊せずにノードをクラスターに追加するには、 IBM の保守担当者に依頼してください。

オプションで、新規ノードに名前を割り当てることができます。以降で使用するノ ードのコマンドで、ノード ID の代わりにこの名前を使用することができます。ラ ベルを割り当てると、以降、このラベルがノード名として表示されます。ラベルを 割り当てない場合のデフォルトのラベルは nodeX です (X はノード ID)。

ホスト・システム上のアプリケーションは、オペレーティング・システムが vpath にマップしたファイル・システムまたは論理ボリュームに入出力操作を指示しま す。これは、SDD ドライバーがサポートする疑似ディスク・オブジェクトです。詳 しくは、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガ イド」を参照してください。

SDD ドライバーは、vpath とSAN ボリューム・コントローラー VDisk の関連付け を維持します。この関連付けには、VDisk に固有の ID (UID) が使用され、これは 再使用はされません。これにより、SDD ドライバーは、vpath と VDisk を明確に 関連付けることができます。

SDD デバイス・ドライバーは、プロトコル・スタック内部で作動します。ここには ディスクとファイバー・チャネルのデバイス・ドライバーもあり、ANSI FCS 規格 の定義に従って、ファイバー・チャネル上の SCSI プロトコルを使用して SAN ボ リューム・コントローラーと通信できるようにします。SCSI とファイバー・チャネ ルのアドレッシング・スキームは、ファイバー・チャネルのノードとポートについ て、SCSI 論理装置番号 (LUN) と World Wide Name を組み合わせて使用します。

エラーが発生した場合は、プロトコル・スタック内のさまざまな層で、エラー・リ カバリー手順 (ERP) が実行されます。このような ERP の中には、過去に使用した WWNN および LUN 番号を使用して、I/O を再度実行するものがあります。

SDD デバイス・ドライバーは、実行するすべての入出力操作について、VDisk と vpath の関連付けをチェックするわけではありません。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5790E ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できま せんでした。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは 失敗しました。
- CMMVC5793E I/O グループにはすでに一対のノードが含まれているため、ノー ドをクラスターに追加できませんでした。
- CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グ ループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。
- CMMVC6201E The node could not be added, because incompatible software: status code [%1].

## 例

### 呼び出し例

svctask addnode -wwnodename 210000e08b053564 -iogrp io\_grp0

### 結果出力

Node, id [6], successfully added

### chcluster

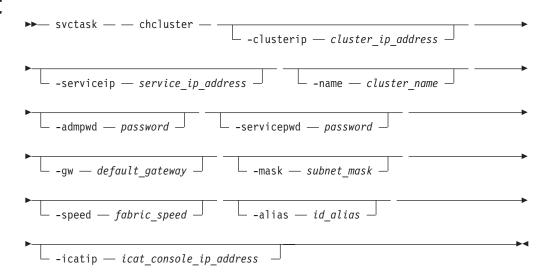
Ι

I

ı

chcluster コマンドを使用して、既存のクラスターの属性を変更できます。このコ マンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

## 構文



## パラメーター

-clusterip cluster ip address

クラスター IP アドレスを変更します。クラスター IP アドレスを変更すると、 クラスターへのオープン・シェル接続を失います。新しく指定した IP アドレス に再接続する必要があります。

-serviceip service ip address

サービス IP アドレスを変更します。このアドレスは、ノードがクラスターから 除去された後、ノードを開始する必要がある場合に使用するアドレス。

-name cluster\_name

クラスターの名前を変更します。

-admpwd password

管理者パスワードを変更します。この引き数と共にパスワードを指定することも できます (パスワードを指定しなくても構いません)。この引き数の後にパスワ ードを指定しないと、パスワードに対するプロンプトが出されます。プロンプト に対してパスワードを入力しても、パスワードは表示されません。

-servicepwd password

サービス・ユーザー・パスワードを変更します。この引き数と共にパスワードを 指定することもできます (パスワードを指定しなくても構いません)。この引き 数の後にパスワードを指定しないと、パスワードに対するプロンプトが出されま す。プロンプトに対してパスワードを入力しても、パスワードは表示されませ h.

**-gw** *default\_gateway* 

クラスターのデフォルト・ゲートウェイ IP アドレスを変更します。

**-speed** fabric speed

このクラスターが接続するファブリックの速度を指定します。有効値は、1 また は 2 (GB) です。

-alias id alias

この別名は、クラスターの基本 ID を変更しませんが、既存および新規のそれ ぞれの vdiskhostmap の VDisk UID に影響します。このオブジェクトは、別 名に一致する ID のクラスターに対して作成されたように表示されます。

-icatip icat\_console\_ip\_address

このクラスターによって使用される SAN ボリューム・コントローラー・コンソ ールの IP アドレスを変更します。この IP アドレスは、ポート付きドット 10 進表記 (たとえば 255.255.255.255:8080) のフォーマットでなければなりませ h.

## 記述

このコマンドは、クラスターに割り当てられた IP アドレスもしくは 2 つのユーザ 一名に割り当てられたパスワードのいずれか、あるいはその両方を変更します。い ずれの引き数も単独で、もしくは他の引き数と組み合わせて使用できます。

クラスター IP アドレスを変更すると、コマンドの処理中、オープン・コマンド行 シェルは閉じています。新規の IP アドレスに再接続する必要があります。

ノードがクラスターから除去されるまで、サービス IP アドレスは使用されませ ん。このノードをクラスターに再結合できない場合は、ノードを保守モードで起動 できます。このモードでは、ノードには、サービス IP アドレスを使用してスタン ドアロン・ノードとしてアクセスできます。

リリース 1.2.0 以降では、クラスター名もこのコマンドを使用して変更できます。

どのオプションも指定しなかった場合は、コマンドは作動しません。このオプショ ンは相互に排他的ではありません。

このコマンドを使用して、サブネット・マスク、デフォルト・ゲートウェイ、ファ ブリックの速度、または id alias を変更することもできます。

パスワードの変更:管理者ユーザー・パスワードを変更するには、svtask chcluster -admpwd <password> コマンドを発行します。サービス・ユーザー・ パスワードを変更するには、svtask chcluster -servicepwd <password> コマン ドを発行します。

注: コマンド行に入力するときにパスワードを表示したくない場合は、新しいパス ワードを省略します。この場合、コマンド行ツールがパスワードを入力して確 認するように求めますが、パスワードは表示されません。

IP アドレスの変更: svcinfo Iscluster コマンドを実行して、クラスターの IP アド レスをリストします。svctask chcluster コマンドを実行して、IP アドレスを変更 します。

ı

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5789E IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスターを変更でき ませんでした。

## 例

### 呼び出し例

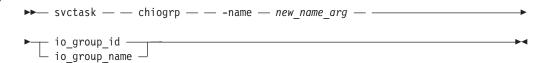
svctask chcluster -clusterip 217.12.3.11

### 結果出力

## chiogrp

chiogrp コマンドを使用して、I/O グループに割り当てられた名前を変更できま す。

## 構文



## パラメーター

-name new\_name\_arg

I/O グループに割り当てる名前を指定します。

### -io\_group\_id | io\_group\_name

変更する I/O グループを、I/O グループにすでに割り当てられている I/O グル ープの ID または名前によって指定します。

## 記述

このコマンドは、指定された I/O グループの名前を、新たに指定された名前に設定 します。

クラスターが作成された時点で、I/O グループはデフォルトですでに存在します が、ノードは含まれていません。クラスターの最初のノードは、常に I/O グループ をゼロに割り当てられます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5800E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは 失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

svctask chiogrp -name testiogrpone io grp0

#### 結果出力

### chnode

chnode コマンドを使用して、ノードに割り当てられた名前を変更できます。

## 構文

► svctask — — chnode — — -name — new\_node\_name — -└ node id -

## パラメーター

-name new\_node\_name

ノードに割り当てる名前を指定します。

### node\_name | node\_id

変更するノードを指定します。フラグの後に指定する引き数は、次のいずれかで

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

## 記述

このコマンドは、指定されたノードに割り当てられた名前またはラベルを変更しま す。変更後すぐに、コマンド行ツールで新しい名前を使用できます。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svctask chnode -name testnodeone nodeone

### 結果出力

## cleardumps

cleardumps コマンドを使用して、指定したノードのさまざまなダンプ・ディレク トリーの内容をすべて消去することができます。

## 構文



### パラメーター

### -prefix directory or file filter

内容をすべて消去するディレクトリーまたはファイル、あるいはその両方を指定 します。ファイル・フィルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレ クトリー内のすべての関連するダンプまたはログ・ファイルが消去されます。デ ィレクトリー引き数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリー内の全ファイルが消去されます)
- · /dumps/configs
- · /dumps/elogs
- · /dumps/feature
- · /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- · /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえ ば、/dumps/elogs/\*.txt と指定すると、/dumps/elogs ディレクトリー内 の、.txt で終わるすべてのファイルが消去されます。

#### node id I node name

消去を行うノードを指定します (オプション)。フラグの後に指定する引き数 は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

# 記述

このコマンドは、指定されたノード上の、directory/file filter 引き数に一致するすべ てのファイルを削除します。ノードを指定しないと、構成ノードで消去が行われま

ディレクトリー引き数として /dumps を指定することによって、すべてダンプ・デ ィレクトリーの内容を消去できます。

ディレクトリー引き数のいずれか 1 つを指定することで、単一ディレクトリー内の すべてのファイルを消去できます。

ディレクトリーとファイル名を指定することで、特定のディレクトリー内の特定の ファイルを消去できます。ワイルドカードとしてアスタリスク(\*)をファイル名の 一部として使用することもできます。

svcinfo lsxxxxdumps コマンドを使用して、特定のノード上のこれらのディレク トリーの内容をリストすることができます。

このコマンドを使用して、ディレクトリーまたはファイル名を指定することによっ て、特定のディレクトリー内の特定のファイルを消去できます。ファイル名の一部 として、ワイルドカード \* を使用できます。

## 起こりうる障害

• CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでな いため、アクションは失敗しました: /dumps/iostats、/dumps/iotrace、 /dumps/feature、/dumps/configs、 /dumps/elogs、または /home/admin/upgrade

## 例

Ι

I

### 呼び出し例

svctask cleardumps -prefix /dumps/configs

#### 結果出力

No feedback

## 関連トピック

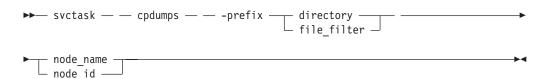
• xii ページの『SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用』

## cpdumps

cpdumps コマンドを使用して、ダンプ・ファイルを非構成ノードから構成ノード にコピーできます。

注: まれに、構成ノードの /dumps ディレクトリーが満杯になると、障害発生の標 識が表示されずにコピー・アクションは終了します。このため、希望のデータ を構成ノードからマイグレーションした後、/dumps ディレクトリーを消去して おくことをお勧めします。

## 構文



## パラメーター

**-prefix** directory | file filter

検索するディレクトリーまたはファイル、あるいはその両方を指定します。ファ イル・フィルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレクトリー内の すべての関連するダンプまたはログ・ファイルが検索されます。ディレクトリー 引き数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリー内の全ファイルが消去されます)
- · /dumps/configs
- · /dumps/elogs
- · /dumps/feature
- · /dumps/iostats
- · /dumps/iotrace
- · /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえ ば、/dumps/elogs/\*.txt と指定すると、/dumps/elogs ディレクトリー内 の、.txt で終わるすべてのファイルがコピーされます。

### node\_id | node\_name

ダンプを検索するノードを指定します。フラグの後に指定する引き数は、次のい ずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

指定されたノードが現行の構成ノードの場合、ファイルはコピーされません。

# 記述

このコマンドは、指定されたノードから現行の構成ノードに、ディレクトリーまた はファイルの基準に一致するダンプをすべてのコピーします。

前の構成ノードに保管されたダンプを検索できます。前の構成ノードが別のノード にフェイルオーバーした場合、前の構成ノードにあったダンプは自動的にコピーさ れません。 IBM CLI でアクセスできるのは構成ノードだけなので、クラスターか らファイルをコピーできるのは、構成ノードからだけです。このコマンドは、ファ イルを検索し構成ノード上に配置すると、それらのファイルをクラスターから外部 ヘコピーできます。

ディレクトリーの内容を表示するには、svcinfo lsxxxxdumps コマンドを使用しま

## 起こりうる障害

• CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでな いため、アクションは失敗しました: /dumps/iostats、/dumps/iotrace、 /dumps/feature、/dumps/configs、 /dumps/elogs、または /home/admin/upgrade

## 例

### 呼び出し例

svctask cpdumps -prefix /dumps/configs nodeone

### 結果出力

### detectmdisk

detectmdisk コマンドを使用して手動でファイバー・チャネル・ネットワークを再 スキャンし、追加された新規管理対象ディスクがないか探すことができます。

## 構文

▶ svctask — — detectmdisk —

## 記述

このコマンドは、クラスターはファイバー・チャネル・ネットワークを再スキャン して、新たに追加された管理対象ディスクを探します。また、このコマンドによ り、コントローラーが機能停止していないかどうかも検出します。

通常、クラスターは、ディスクがネットワーク上に出現すると自動的にそれらを検 出します。ただし、ファイバー・チャネル・コントローラーによっては、新規ディ スクを自動的に発見するのに必要な SCSI プリミティブを送信しないものもありま す。

新規ストレージを接続していて、クラスターがそれを検出しない場合は、クラスタ ーがその新規ディスクを検出する前に、このコマンドを実行する必要がある場合が あります。

パラメーターは不要です。

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャネル SAN に追加して、SAN ボ リューム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そ のクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコント ローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ボリューム・コントローラーに提 示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了して からバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ボリューム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、 このタスクを使用すると、ファイバー・チャネル SAN を再度スキャンして、非管 理 MDisk のリストを更新するように、SAN ボリューム・コントローラーに要求で きます。

注: SAN ボリューム・コントローラーで自動ディスカバリーを実行しても、非管理 MDisk にはなにも書き込まれません。ユーザーが SAN ボリューム・コントロ ーラーに指示を出して、管理対象ディスク・グループに MDisk を追加したり、 MDisk を使用してイメージ・モードの仮想ディスクを作成した場合に限り、ス トレージが実際に使用されます。

MDisk を発見する: svctask detectmdisk コマンドを実行し、ファイバー・チャネ ル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるか どうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、svcinfo

Ismdiskcandidate コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk グループに割り当てられていません。代わりに、svcinfo Ismdisk コマンドを使用 すると、すべての MDisk を表示できます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

## 呼び出し例

svctask detectmdisk

### 結果出力

## dumpconfig

dumpconfig コマンドを使用して、クラスターの構成全体をテキスト・ファイルに ダンプすることができます。

## 構文

▶►— svctask — — dumpconfig — -└ -prefix — filename prefix →

## パラメーター

### -prefix filename\_prefix

ダンプ・データの送信先ファイル名を指定します (オプション)。 -prefix を指定 しないと、ダンプは、システム定義の「config」という接頭部が付いたファイル に送られます。システム定義のファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作 成されます。ファイル名のフォーマットは、次のとおりです。

prefix>\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS

NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名です。

### 記述

ダンプは、ノードの /dumps/configs ディレクトリーに書き込まれます。-prefix パラ メーターを使用しないと、ファイル名の前に接頭部の config が付きます。

-prefix パラメーターを入力すると、ファイルを命名するときに、ユーザーが入力し た接頭部が使用されます。

最大で 10 個の構成ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。 11 番目のダ ンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされます。

/dumps/configs ディレクトリーの内容をリストするには、svcinfo Isconfigdumps コマンドを使用してください。

# 起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・ システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそら くファイル・システムが満杯です。

## 例

### 呼び出し例

svctask dumpconfig -prefix mydumpfile

### 結果出力

The configuration data has been written to /dumps/configs/mydumpfile lynn02 030601 054911

### rmnode

rmnode コマンドを使用して、ノードをクラスターから削除できます。このコマン ドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

## 構文

## パラメーター

#### node name I node id

削除するノードを指定します。引き数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

## 記述

このコマンドは、ノードをクラスターから除去します。これにより、ノードは、こ のクラスターに追加する、もしくは別のクラスターに追加する際の候補になりま す。ノードを削除すると、I/O グループ内の他のノードはそのキャッシュの内容を デステージし、別のノードが I/O グループに追加されるまでライトスルー・モード になります。

#### 前提条件:

rmnode コマンドを実行する前に、次のタスクを実行し、データへのアクセスを失 わないように、下記の「重要」注意事項をお読みください。

1. 次のコマンドを実行して、この I/O グループにどの仮想ディスク (VDisk) がま だ割り当てられているかを確認します。このコマンドは、フィルタリングされた VDisk を表示します。フィルター属性は I/O グループです。

svcinfo lsvdisk -filtervalue IO\_group\_name=<name>

ここで、<name> は、当該 I/O グループの名前です。

#### 注:

- a. これが I/O グループ内で最後のノードであり、I/O グループにまだ割り当て られている仮想ディスクが存在する場合、クラスターからのノードを削除す ることはできません。
- b. このノードが属する I/O グループに割り当てられた VDisk は、I/O グループ 内の他のノードに割り当てられます。つまり、優先ノードが変更されます。 この設定は、元に戻せません。
- 2. svcinfo lsvdiskhostmap コマンドを実行して、VDisk がマップされているホス トを確認します。
- 3. この I/O グループに割り当てられている VDisk に、アクセスしたいデータが含 まれているかどうかを確認します。

- これらの VDisk へのアクセスを維持したくない 場合は、ステップ 5 に進み ます。
- これらの VDisk の一部またはすべてに対して、アクセスを維持する 場合は、 データをバックアップするか、またはデータをほかの (オンライン) I/O グル ープにマイグレーションします。
- 4. ノードの電源を切るべきかどうかを確認します。
  - このノードがクラスター内の最後のノードの場合は、ノードの電源を切る必要 はありません。ステップ 5 に進みます。
  - このノードがクラスター内の最後のノードではない 場合は、削除するノード の電源を切ります。 このステップは、ノード削除要求を実行する前に手動で 取り外したパスをサブシステム・デバイス・ドライバー (SDD) が再発見しな いようにします。

クラスターにノードを再び追加する計画がある場合は、31 を参照してくださ

- 5. 削除対象の VDisk が提示する仮想パスのそれぞれについて、SDD 構成を更新し ます。SDD 構成を更新すると、VDisk から vpath が削除されます。構成を更新 しないと、データが破壊されることがあります。ホストのオペレーティング・シ ステムに関連して、SDD を動的に構成する方法については、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド」を参照してくださ 170
- 6. 削除対象のノードに向けられているすべての入出力操作を静止します。この操作 を静止しないと、失敗した入出力操作がホストのオペレーティング・システムに 報告されます。

**重要:** クラスター内の最後のノードを削除すると、クラスターは破壊されます。 クラスターの最後のノードを削除する前に、クラスターを破壊してよいことを確認 してください。

**重要:** 単一のノードを削除するときに、I/O グループ内の他のノードがオンライン になっていると、パートナー・ノード上のキャッシュがライトスルー・モードにな るので、パートナー・ノードが障害を起こした場合には、データが Single Point of Failure を受ける可能性があります。

### 注:

- 1. 削除するノードが構成ノードの場合は、ノード削除要求の実行に 1 分以上の時 間がかかることがあります。構成ノードのフェイルオーバーが実行されるまで待 ってください。
- 2. 削除するノードがクラスター内の最後のノードの場合は、クラスターへの最後の アクセス・ポイントを削除することになるので、SAN ボリューム・コントロー ラー・コンソールが最大で 3 分に渡りハングしたように見えることがありま す。

#### クラスターからノードを削除する:

#### 注:

1. このノードが I/O グループ内の最後のノードの場合、またはクラスター内の最 後のノードの場合は、削除を強制するように指示されます。

Ι

2. このノードがクラスター内の最後のノードの場合、または構成ノードとして割り 当てられている場合は、このクラスターへのすべての接続が失われます。ユーザ ー・インターフェースおよびオープンしているすべての CLI セッションが停止 します。ノードが削除される前に完了しないコマンドがあると、タイムアウトに なります。

svctask rmnode コマンドを実行して、クラスターからノードを削除します。この コマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

### クラスターにノードを再び追加する:

削除したノードが今までと同じファブリックやゾーンに接続された状態で、このノ ードの電源を再び入れると、次のようになります。

- 1. ノードは、クラスターに再び結合しようとする。
- 2. ノードを削除するように、クラスターからノードに信号が渡される。
- 3. ノードは、同じクラスターまたは他のクラスターに追加するための候補となる。 このノードを同じクラスターに戻す場合は、ノードを削除した元の I/O グループに 戻してください。このようにしないと、データが破壊される場合があります。

クラスターにノードを戻す前に、次のデータを確認してください。このデータは、 クラスターにノードを最初に追加したときに記録したデータです。

- ノードのシリアル番号
- WWNN
- すべての WWPN
- ノードの I/O グループ

この情報にアクセスできない場合、データを破壊せずにノードをクラスターに追加 するには、IBM の保守担当者に依頼してください。

### 障害のあるノードの交換:

障害のあるノードは、「スペア」または交換ノードと交換することができます。 SAN ボリューム・コントローラーに障害が発生した場合は、交換する必要がありま す。 SAN ボリューム・コントローラーは、障害のあるノードが修復されるまで、 パフォーマンスが低下したままの状態で動作します。可用性を向上させるには、障 害のあるノードを「スペア」と交換してから、そのノードをオフラインで修理して ください。ただし、障害を起こしたノードを交換する際は、I/O の中断を起こさ ず、修復されたノードが SAN ファブリックに再接続されたときのデータの保全性 に対するリスクを発生させないように、さまざまな手順が実行され、予防措置が取 られなければなりません。その手順には、SAN ボリューム・コントローラーの World Wide Node Name (WWNN) の変更が含まれます。この手順は、データ破壊の 原因となる無効な WWNN の重複を避けるために、注意深く実行する必要がありま す。

### 前提条件:

障害を起こしたノードを交換する前に、次のことを確認しておく必要があります。

• SAN ボリューム・コントローラーのクラスターおよびスペア・ノードにインスト ールされている SVC ソフトウェアのバージョンが 1.1.1 またはそれ以降。

- 障害のあるノードを含むクラスター名。
- 障害を起こしたノードを含む SAN ボリューム・コントローラー・クラスターと 同じラックに、スペア・ノードがあることを確認する。
- 元の WWNN の最後の 5 文字を記録する。この ID は、任意のクラスターに割 り当てられる標準ノードとしてスペア・ノードを指定することを将来決める場合 に必要です。 WWNN を参照するには、svcinfo Isnode コマンドを使用してくだ さい。

#### 追加情報

ノードを交換する際は、次の手順を使用してください。

- ノードのフロント・パネル ID が変わります。これはノードの正面に印刷されて いる番号で、クラスターに追加されるノードを選択するために使用されます。
- ノード名は変わることがあります。クラスターにノードを追加する際に、SAN ボ リューム・コントローラー・アプリケーションがデフォルト名を割り当てること を許可している場合は、ノードが追加されるたびにアプリケーションが新しい名 前を作成します。ユーザー自身の名前を割り当てことを選択した場合は、使用し たいノード名を入力する必要があります。クラスター上で管理タスクを実行する ためにスクリプトを使用していて、それらのスクリプトがノード名を使用する場 合は、元の名前を交換ノードに割り当てることによって、クラスター上のサービ ス・アクティビティーの後に続くスクリプトを変更する必要がなくなります。
- ノード ID が変わります。ノードがクラスターに追加されるたびに、新規のノー ド ID が割り当てられます。クラスター上で管理タスクを実行しているときにノ ード ID またはノード名を使用できますが、スクリプトを使用してそれらのタス クを実行している場合は、ノード ID よりもノード名を優先して使用することを お勧めします。その理由は、後に続くクラスター上のサービス・アクティビティ ーでノード名が変更されないままであるためです。
- World Wide Node Name (WWNN) は変わりません。 WWNN は、ノードとファ イバー・チャネル・ポートを一意的に識別するために使用されます。ノード交換 手順では、スペア・ノードの WWNN が障害を起こしたノードのものと一致する ように変更します。 WWNN の重複を避けるために、ノード交換手順が正確に行 われる必要があります。
- 各ファイバー・チャネル・ポートの World Wide Port Name (WWPN) は変わりま せん。 WWPN は、この手順の一部として交換ノードに書き込まれた WWNN か ら得られます。

ノードを交換するには、以下のステップを実行してください。

- 1. svcinfo Isnode コマンドを使用して、ノード名を表示します。このコマンドが 実行されると、クラスター上のすべてのノードについての情報を含む詳細なリス ト・レポートが印刷されます。障害を起こしたノードは、オフラインになりま す。ノード名をメモしておいてください。
- 2. 再度 svcinfo Isnode を使用して、I/O グループ名を表示します。グループの名 前をメモしておいてください。
- 3. svcinfo Isnodevpd コマンドを使用して、フロント・パネル ID を表示しま す。 ID 番号をメモしておいてください。
- 4. 再度 svcinfo Isnodevpd コマンドを使用して、UPS シリアル番号を記録しま す。この番号をメモしておいてください。

6. 電源/シグナル・ケーブルを、スペア・ノードから (ステップ 1 でシリアル番号 を確認した) UPS に接続します。シグナル・ケーブルは、UPS 上のシリアル・ コネクターの最上行で開いている位置に接続できます。 UPS 上に予備の使用可 能なシリアル・コネクターがない場合は、障害を起こした SAN ボリューム・コ ントローラーからケーブルを切断してください。スペア・ノードの電源をオンに します。保守パネル上にノード状況が表示されます。(「SAN ボリューム・コ ントローラー・サービス・ガイド」の 『SAN ボリューム・コントローラー・メ ニュー・オプション』を参照してください。)

ノードの WWNN を変更して、交換ノードを追加するには、次のステップを実行し てください。

- 1. フロント・パネル上にノード状況を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押した ままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放し てください。テキスト『WWNN』がディスプレイの 1 行目に表示されます。デ ィスプレイの 2 行目には、WWNN の最後の 5 文字が含まれます。
- 2. 保守パネル上に WWNN を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままに し、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してくだ さい。ディスプレイが編集モードに切り替えられます。
- 3. 表示された番号を (ステップ 1 で記録された) WWNN と一致するように変更し てください。表示された番号を編集するには、「上へ (Up)」および「下へ (Down)」ボタンを使用して、表示された番号を増減します。フィールド間を移動 するには、左ボタンおよび右ボタンを使用します。 5 文字がステップ 1 で記録 された番号と一致する場合は、選択ボタンを 2 回押して、その番号を受け入れ ます。
- 4. 障害を起こしたノードから切断された 4 本のファイバー・チャネル・ケーブル を、スペア・ノードに接続します。
- 5. オフラインのノードを削除します。『ノードのクラスターからの削除』を参照し てください。
- 6. スペア・ノードをクラスターに追加します。『ノードのクラスターへの追加』を 参照してください。
- 7. サブシステム・デバイス・ドライブ (SSD) 管理ツールをホスト・システム上で 使用して、すべてのパスが現在オンラインかどうかを検査します。

障害を起こしたノードが修復されたときに、ファイバー・チャネル・ケーブルを接 続しないでください。ケーブルを接続すると、データ破壊を引き起こすことがあり ます。障害を起こしたノードが修復された後で、次のステップを実行してくださ

- 1. 保守パネル上にノード状況が表示されます。
- 2. フロント・パネル上に SVC 状況を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押した ままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放し てください。テキスト『WWNN』がディスプレイの 1 行目に表示され、ディス プレイの 2 行目には、WWNN の最後の 5 文字が含まれます。

Ι

Ι ı 

- 3. 保守パネル上に WWNN を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままに し、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してくだ さい。ディスプレイが編集モードに切り替えられます。
- 4. 表示された番号を「00000」に変更します。表示された番号を編集するには、 「上へ (Up)」および「下へ (Down)」ボタンを使用して、表示された番号を増減 します。フィールド間を移動するには、左ボタンおよび右ボタンを使用します。 番号が「00000」に設定されたら、選択ボタンを 2 回押して、その番号を受け入 れます。 WWNN が「00000」の SVC は、決してクラスターに接続しないでく ださい。

このエラーは、障害を起こしたノードが修復されてお客様に戻されるまで、エラ ー・ログ内で「修正済み」とマークされるべきではありません。このことが実行さ れないと、障害を起こしたノードのフロント・パネル ID をサービス技術者が容易 に見つけることができなくなります。

この SVC がこれからスペア・ノードとして使用されます。この SVC がもはやス ペアとして必要なくなり、クラスターへの通常の接続に使用される場合、WWNN をスペアが作成されたときに保管された番号に変更するには、前述の手順をまず使 用する必要があります。上記の『前提条件』を参照してください。他のいずれの番 号を使用しても、データ破壊を引き起こすことがあります。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗し ました。
- CMMVC5795E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除で きませんでした。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクショ ンは失敗しました。
- CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グル ープと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できません でした。

## 例

### 呼び出し例

svctask rmnode 1

#### 結果出力

No feedback

#### 関連トピック:

- 307ページの『Isvdiskhostmap』
- 277 ページの『Isnode』

## setclustertime

setclustertime コマンドを使用して、クラスターに時刻を設定できます。

## 構文

ightharpoonup svctask — setclustertime — --time —  $time\_value$  — —

## パラメーター

-time time\_value

クラスターを設定する時刻を指定します。次のフォーマットで指定してくださ

MMDDHHmmYYYY

## 記述

このコマンドは、クラスターに時刻を設定します。

## 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svctask setclustertime -time 040509142003

### 結果出力

## setpwdreset

setpwdreset コマンドを使用して、表示パネルのパスワードのリセット機能の状況 を確認したり、変更することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -disable

フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワードのリセット機 能を使用不可にします。

#### -enable

フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワードのリセット機 能を使用可能にします。

#### -show

パスワードのリセット機能の状況 (enabled または disabled) を表示します。

## 記述

フロント・パネル・メニュー・システムは、管理者パスワードをリセットするオプ ションを提供します。このオプションは、パスワードを、フロント・パネルに表示 されるランダム・ストリングにリセットします。この後、このパスワードを使用し てシステムにアクセスできます。次回のログインの時は、パスワードを変更する必 要があります。

svctask setpwdreset コマンドを使用して、表示パネルのパスワードのリセット機 能の状況を確認したり、変更することができます。パスワードには、A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9、および下線を使用できます。管理者パスワードがなくなると、クラスタ ーにアクセスできなくなるので、管理パスワードは注意して記録してください。

管理者パスワードを忘れたときに、このコマンドを利用してアクセスすることがで きます。この機能を使用可能のままにしておく場合、クラスター・ハードウェアの 適切な物理的セキュリティーを確保する必要があります。

この機能の状況を確認または変更できます。

# 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

# 例

#### 呼び出し例

svctask setpwdreset -show

### 結果出力

### Password status: [1]

この出力は、フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワード、 またはリセット機能が使用可能状態であることを意味します。パスワード状況が [0] と表示された場合、この機能は使用不可です。

### settimezone

settimezone コマンドを使用して、クラスターの時間帯を設定できます。

## 構文

▶ svctask — — settimezone — — -timezone — *timezone arg* —

## パラメーター

-timezone timezone\_arg

クラスターのために設定する時間帯を指定します。

## 記述

このコマンドは、クラスターの時間帯を設定します。 -timezone パラメーターを使 用して、設定したい時間帯の数値 ID を指定します。 svcinfo Istimezones コマン ドを使用して、クラスターで使用可能な時間帯をリストすることができます。有効 な時間帯の設定値リストが表示されます。リストには、特定のクラスター ID と割 り当てられた時間帯が表示されます。

このコマンドが設定する時間帯は、生成されたエラー・ログを次のコマンドでフォ ーマットする際に使用されます。

svctask dumperrlog

注: 時間帯を変更した場合は、Web アプリケーションを通じてエラー・ログが表示 する前に、エラー・ログ・ダンプ・ディレクトリーの内容を消去する必要があ ります。

svcinfo showtimezone コマンドを使用して、クラスターの現行の時間帯設定を表 示することができます。クラスター ID と割り当てられた時間帯が表示されます。 svctask setclustertime コマンドを使用して、クラスターに時刻を設定できます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

svctask settimezone -timezone 5

#### 結果出力

No feedback

# 関連トピック

299 ページの『Istimezones』

### startstats

startstats コマンドを使用して、VDisk および MDisk 両方の統計収集を開始する ことができます。

## 構文

▶ svctask — startstats — — -interval — time in minutes -

## パラメーター

-interval time in minutes

時間を分で指定します。これは、統計を収集する時間間隔です。15 ~ 60 分の 間で増分 1 単位で指定します。

## 記述

統計は、サンプル抽出期間の最後に収集されます (-interval パラメーターで指定)。 統計はファイルに書き込まれます。各サンプル抽出期間の最後に新しいファイルが 作成されます。管理対象ディスクと仮想ディスクの統計について、それぞれの個別 のファイルが作成されます。

生成されたファイルは、/dumps/iostats ディレクトリーに書き込まれます。

それぞれのディスク・タイプ (たとえば、Nm stats <nodeid> <date> <time>、 m stats <nodeid> <date> <time> および v stats <nodeid> <date> <time> ファイル) ごとに、最大で 12 ファイルが同時にディレクトリーに保管されます。 (それぞれ のタイプごとに) 13 番目のファイルが作成される前に、もっとも古いファイルが削 除されます。

これらのファイルは、svcinfo Isiostatsdumps コマンドを使用して、リストする ことができます。

ファイルの命名規則は、<disk type> stats <frontpanelid> <date> <time> です。ここ で、<disk type> は、管理対象ディスクの場合は m または Nm、仮想ディスクの場 合は v です。 <frontpanelid> は現行の構成ノード ID、 <date> は yymmdd 形式、 <time> は hhmmss 形式です。

管理対象ディスクのファイル名の例は、m stats lynn02 031123 07246 および Nm\_stats\_lynn02\_031123\_07246 です。

仮想ディスクのファイル名の例は、v\_stats\_lynn02\_031123\_072426 または です。

各管理対象ディスクおよび各仮想ディスクについて収集された統計は、ファイル名 がそれぞれ m stats <nodeid> <date> <time> および v stats <nodeid> <date> の形式 で、以下の統計情報を含みます。

- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号読み取りコマンドの数。
- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号書き込みコマンドの数。
- サンプル抽出期間に読み取られたデータ・ブロックの数。
- サンプル抽出期間に書き込まれたデータ・ブロックの数。

Ī ı

ı

ı

ı 1

Ī

注: これらの統計情報は、ノードごとにクラスター内で適切な時点に収集されま す。 各管理対象ディスクについて収集された統計は、ファイル名が Nm\_stats\_<nodeid>\_<date>\_<time> の形式で、以下の統計情報を含みます。 • サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号読み取りコマンドの数。 • サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号書き込みコマンドの数。 • サンプル抽出期間に読み取られたデータ・ブロックの数。 • サンプル抽出期間に書き込まれたデータ・ブロックの数。

- MDisk 別外部読み取り累積応答時間 (ミリ秒)。
- MDisk 別外部書き込み累積応答時間 (ミリ秒)。
- MDisk 別キュー読み取り累積応答時間。
- MDisk 別キュー書き込み累積応答時間。

注: これらの統計情報は、構成ノードのみについて適切な時点に収集されます。

## 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

## 例

### 呼び出し例

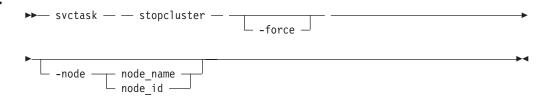
svctask startstats -interval 25

#### 結果出力

## stopcluster

stopcluster コマンドを使用して、制御された方法で単一ノードまたはクラスター 全体をシャットダウンできます。 このコマンドが発行されると、コマンドを実行す る意図を確認するプロンプトが出されます。

## 構文



## パラメーター

-node node\_name | node\_id

シャットダウンするノードを指定します (オプション)。削除するノードを指定 します。フラグの後に指定する引き数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

ノードの ID または名前を指定すると、そのノードのみがシャットダウンされ ます。指定しないと、クラスター全体がシャットダウンされます。

### -force

これが、特定の I/O グループの最後のオンライン・ノードの場合は、強制フラ グが必要です。

## 記述

引き数を 1 つも指定しないで、このコマンドを発行すると、クラスター全体がシャ ットダウンされます。電源が除去される前に、すべてのデータはディスクにフラッ シュされます。

重要: ノードやクラスターをシャットダウンする前に、FlashCopy、リモート・コピ ー、およびデータ・マイグレーションなどのすべての操作を停止したことを確認し ます。シャットダウンをする前には、非同期削除操作もすべて完了していることを 確認してください。

このコマンドを発行するときにノード ID もしくはノード名のいずれかの引き数を 指定すると、そのノードがシャットダウンされます。コマンドが完了すると、I/O グループ内の他方のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、シャットダウ ンされたノードに電源が入り、そのノードがクラスターに再結合するまでライトス ルー・モードになります。

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターの入力電源を数分以上に渡り遮断す る場合は (たとえば、機械室の電源を保守のために遮断するなど)、電源を遮断する 前に必ずクラスターをシャットダウンしてください。その理由は、クラスターと無

停電電源装置をシャットダウンせずに無停電電源装置の入力電源を遮断すると、無 停電電源装置が作動状態のままになり、無停電電源装置の電力がなくなってしまう からです。

無停電電源装置の電源を復元すると、無停電電源装置の充電が再び始まりますが、 予期せぬ停電が発生した場合に、SAN ボリューム・コントローラー・ノード上のす べてのデータを保管するのに十分な電力が無停電電源装置に充電されるまで、SAN ボリューム・コントローラーは、仮想ディスクへの入出力活動を受け付けません。 これには 3 ~ 4 時間を要します。無停電電源装置の入力電源を遮断する前にクラ スターをシャットダウンすると、バッテリー電力の低下を防止し、入力電源を復元 したときに入出力活動をすぐに再開できます。

**重要:** ノードやクラスターをシャットダウンする前に、そのノードやクラスターに 向けられている入出力操作をすべて静止してください。この操作を実行しないと、 失敗した入出力操作がホストのオペレーティング・システムに報告されます。

クラスターへのすべての入出力操作を静止するには、クラスター提供の VDisk が使 用されているホスト上で実行中のアプリケーションを停止します。

- 1. クラスター提供の VDisk をどのホストが使用しているのかがわからない場合 は、「VDisk マップ先ホストの確認」手順に従ってください。
- 2. すべての VDisk について、この手順を実行します。

**重要:** クラスター全体をシャットダウンすると、そのクラスターが提供するすべて の VDisk へのアクセスを失います。

すべての I/O を停止してから、svctask stopcluster コマンドを実行して、制御さ れた方法で単一ノードまたはクラスター全体をシャットダウンします。ノード ID またはノード名を指定する場合は、単一ノードをシャットダウンできます。このコ マンドを発行するときにノード ID もしくはノード名のいずれかの引き数を指定す ると、そのノードがシャットダウンされます。コマンドが完了すると、I/O グルー プ内の他方のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、シャットダウンされ たノードに電源が入り、そのノードがクラスターに再結合するまでライトスルー・ モードになります。対話モードで ssh を使用する場合は、SSH セッションを必ず閉 じてください。

重要: これが I/O グループ内で最後のノードの場合、その I/O グループの仮想デ ィスクへのすべてのアクセスを失います。このコマンドを発行する前に、本当にこ のような状況になってもよいかを確認してください。強制フラグを指定してくださ

クラスターと無停電電源装置の両方の電源が切られているときに、クラスターにシ ャットダウン・コマンドを送ると、入力電源を復元して無停電電源装置を再始動す るときに、無停電電源装置のフロント・パネルにある電源ボタンを押す必要があり ます。

単一ノードのシャットダウン:

**重要:** 単一のノードをシャットダウンするときに、I/O グループ内の他のノードが オンラインになっている場合は、パートナー・ノード上のキャッシュがライトスル ー・モードになり、このノードをシャットダウン中にパートナー・ノードが障害を 起こすと、Single Point of Failure になる可能性があることに注意してください。2 に進みます。

**重要:** 単一ノードをシャットダウンするときに、そのノードが I/O グループ内の最 後のノードの場合は、その I/O グループが提供するすべての VDisk へのアクセス を失います。

### ステップ:

単一ノードをシャットダウンするには、以下のステップを実行します。

- 1. このノードの I/O グループが提供する VDisk について、入出力操作を静止する 処理を開始します。
  - a. フィルタリングされた VDisk 表示を要求して VDisk を確認します。ここで フィルター属性は、当該 I/O グループです。この操作には、次のコマンドを 使用します。

svcinfo lsvdisk -filtervalue IO group name=<name>

ここで、<name> は、当該 I/O グループの名前です。

- b. VDisk のリストを得た後は、これらの VDisk がマップされているホストを確 認します。これには、「VDisk マップ先ホストの確認」手順を実行します。
- 2. すべての入出力操作が停止したら、次のコマンドを実行してノードをシャットダ ウンします。

svctask stopcluster <nodename/ID>

ここで、<nodename/ID> はシャットダウンするノードの名前または ID です。

注: このノードが I/O グループ内の最後のノードの場合は、-force パラメーター を指定する必要があります。たとえば、nodel のシャットダウンを強制する には、次のようにします。

svctask stopcluster -force node1

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクショ ンは失敗しました。
- CMMVC5799E I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャッ トダウンは失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svctask stopcluster

結果出力:次の警告が表示されます。

Are you sure that you want to continue with the shut down?

先に進む前に、FlashCopy マッピング、リモート・コピー関係、およびデータ・マ イグレーションなどのすべての操作を停止し、強制削除を完了します。y を入力す ると、コマンドが実行されます。次に、No feedback と表示されます。y または Y 以外の入力をすると、コマンドは実行されません。No feedback と表示されます。

# stopstats

stopstats コマンドを使用して、VDisk および MDisk 両方の統計収集を停止する ことができます。

## 構文

►►— svctask — — stopstats —

## 記述

このコマンドは、svctask startstats コマンドで開始するまで、統計の生成をオフ にします。

# 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

# 例

### 呼び出し例

 $svctask\ stopstats$ 

### 結果出力

# 第 5 章 バックアップおよび復元のコマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで構成情報のバックアップと復元ができます。

- 48ページの『backup』
- 50ページの『clear』
- 51ページの『help』
- 53 ページの『restore』

## backup

backup コマンドを使用すると、構成内容をバックアップできます。このコマンド は、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

## 構文



## パラメーター

#### -quiet

コンソールの標準出力 (STDOUT) メッセージを抑止します。

**-∨** on | off

On にすると詳細メッセージが表示されます。Off にすると、通常のメッセージ (デフォルト) が表示されます。

### 記述

backup コマンドを実行すると、クラスターから構成データを抽出して、/tmp 内の svc.config.backup.xml に保管します。svc.config.backup.sh というファイルが作成され ます。このファイルを調べると、情報抽出のために、ほかにどのようなコマンドが 使用されたかがわかります。svc.config.backup.log というログも作成されます。この ログを調べると、いつ、なにが操作されたかといった詳細がわかります。このログ には、そのほかに実行されたコマンドについても情報が記載されています。

事前に存在した svc.config.backup.xml ファイルは、svc.config.backup.bak となってア ーカイブされます。(アーカイブは 1 つだけ保持されます。)

.xml ファイルと .key の関連ファイル (下記の制限を参照) は、クラスターから即座 に移動してアーカイブを行い、/tmp のファイルは、clear コマンドで消去すること を推奨します。デフォルト名のオブジェクトは確実に復元できないことがあるの で、デフォルト名のオブジェクトは、すべてデフォルト以外の名前に変更するよう に強く推奨します。

接頭部の (下線) は、バックアップと復元のコマンドに使用するためのものなの で、オブジェクト名には使用しないでください。

backup コマンドには、次の制限があります。

• .kev の SSH 公開鍵値ファイルは、/tmp 内の .xml に従って作成されることはあ りません。ただし、ユーザーが提供すべきファイルが欠落していると、警告が出 ます。これは、テンプレートの svc.config.identifier.user.key に準拠します。ここ で、identifier と user は、addsshkey コマンドで指定したとおりです。 addsshkey コマンドでこれらを使用した場合は、そのファイルを支給するように 要求されます。これらがない場合は、将来にクラスターを修復する必要があるこ とを前提とすると、クラスターを修復するときに、新しい鍵のセットをインスト ールする必要があります。

# 起こりうる障害

- CMMVC6112W object-type object-name has a default name
- CMMVC6136W No SSH key file file-name
- CMMVC6147E object-type object-name has a name beginning with prefix

# 例

### 呼び出し例

svcconfig backup

### 結果出力

### clear

**clear** コマンドを使用すると、/tmp ディレクトリーの中に他の svcconfig コマンド がこれまでに作成したファイルを消去できます。このコマンドは、クラスター作成 後であればいつでも使用できます。

## 構文

## パラメーター

-all

消去するファイルに、.key、.bak、および .xml のファイルを含めます。指定し ないと、.log と .sh のファイルだけが対象となります。.key、.bak、および .xml の各ファイルには、構成情報が含まれていますが、他のファイルには構成情報は 含まれていません。

## 記述

このコマンドを使用すると、/tmp ディレクトリー内に svcconfig で作成されたファ イルの一部またはすべてを消去します。ファイルは、svc.config.\* テンプレートに準 拠します。

# 起こりうる障害

• CMMVC6103E Problem file file-name: details

# 例

### 呼び出し例

svcconfig clear -all

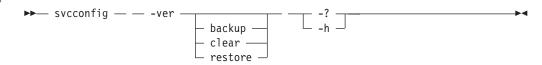
#### 結果出力

### help

I

help コマンドを使用すると、svcconfig の構文について要約情報を入手できます。 このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

### 構文



### パラメーター

#### -h | -?

一般的なヘルプを提供します。

#### (action) -h | -?

コマンドに関するヘルプを提供します: (action) に有効な値には、 backup、clear、および restore があります。

#### -ver

SVCCONFIG コマンドについて、バージョン番号を戻します。

### 記述

このコマンドは、svcconfig の構文に関するヘルプを提供します。

### 起こりうる障害

- CMMVC6100E -option not consistent with action
- CMMVC6101E -option not consistent with -option
- CMMVC6102E -option and -option are alternatives
- CMMVC6114E No help for action action
- CMMVC6134E No argument for -option
- CMMVC6135E Argument value for -option is not valid
- CMMVC6138E -option is required
- CMMVC6141E -option does not contain any argument
- CMMVC6149E An action is required
- CMMVC6150E The action action is not valid
- CMMVC6151E The option -option is not valid
- CMMVC6153E object not consistent with action

#### 例

#### 呼び出し例

svcconfig -ver svcconfig -? svcconfig backup -h

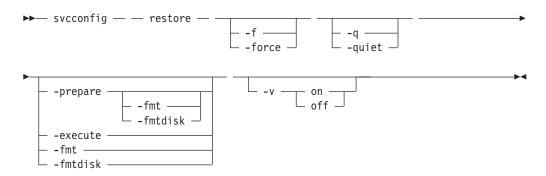
### 結果出力

Help text.

#### restore

restore コマンドを使用すると、/tmp ディレクトリー内の構成ファイルから情報を 取り出し、クラスターをその構成に復元できます。このコマンドを使用できるの は、クラスターを作成した直後に限られます。

### 構文



### パラメーター

#### -prepare

構成を復元するときに、svc.config.backup.xml 内の構成情報と現行構成を比較検 査します。svc.config.restore.sh で実行するコマンドを準備し、 svc.config.restore.prepare.log にイベント・ログを作成します。

#### -fmt | fmtdisk

実行するすべての mkvdisk コマンドに、-fmtdisk オプションを組み込みます。

#### -execute

コマンド・スクリプトの svc.config.restore.sh を実行します。 svc.config.restore.execute.log に、ログ・イベントを作成します。

#### -f | force

実行継続を強制できるところで強制します。

#### -q | quiet

コンソール出力 (STDOUT) を抑制します。

#### **-v** on | off

詳細出力を作成します (on)。デフォルトは通常出力です (off)。

#### 記述

このコマンドを使用すると、svc.config.backup.xml ファイルを使用して、ターゲット のクラスター構成を復元し、構成ファイル・ディレクトリー内の .key ファイル (存 在する場合) を関連付けます。prepare と -execute のオプションをどちらも指定しな いと、単一イベント・ログの svc.config.restore.log のみが作成されます。

処理中にノードが追加されると、コマンドにより 5 分間の一時停止がとられます。 この場合、実行時にそのことが表示されます。

修復が終了すると、VDisk には、特定の MDisk リストができます。該当の MDisk グループが大きなリストになると、その時点またはその後、復元した VDisk は、現 在そのリストにない MDisks を利用することができなくなります。

構成ファイルのディレクトリーは /tmp です。

### 起こりうる障害

- CMMVC6105E Different names for source name and target name clusters
- CMMVC6106E Target cluster has non-default id\_alias value
- CMMVC6107E x io\_grp objects in target cluster; y are required
- CMMVC6109E Disk controller system with WWNN of value not available
- CMMVC6120E Target is not the configuration node
- CMMVC6139E Incorrect XML tag nesting in file-name
- CMMVC6142E Existing object-type object-name has a non-default name
- CMMVC6143E Required configuration file file-name does not exist
- CMMVC6146E Problem parsing object-type data: line
- CMMVC6147E object-type object-name has a name beginning with prefix
- CMMVC6148E Target cluster has actual object(s) of type object-type instead of required
- CMMVC6152E vdisk name instance number value is not valid
- CMMVC6155I SVCCONFIG processing completed successfuly
- CMMVC6156W SVCCONFIG processing completed with errors
- CMMVC6165E Target is not the original configuration node with WWNN of value

注: メッセージ 6155 と 6156 は、「-v on」でのみ表示されます。

### 例

#### 呼び出し例

svcconfig restore -prepare svcconfig restore -execute

#### 結果出力

## 第 6 章 クラスター診断および保守援助機能コマンド

ここでは、クラスター診断および保守援助機能コマンドについて説明します。

コマンドが正常に完了すると、通常は、テキスト出力が表示されます。しかし、中には出力を戻さないコマンドもあります。「No feedback」フレーズは、そのコマンドには出力が無いことを示しています。

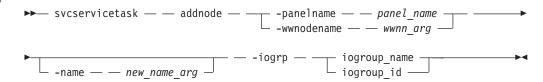
SAN ボリューム・コントローラーは、制限されたコマンド行ツール・セットによる保守アクティビティーの実行を可能にします。管理者役割でログインした場合、すべてのコマンド行アクティビティーの実行が許可されます。保守役割でログインした場合は、保守に必要なコマンドのみを実行できます。保守役割では、以下のすべてのコマンドを利用できます。保守コマンドを使用して、問題判別を行い、修復アクティビティーを実行することができます。

- 56ページの『addnode』
- 59ページの『applysoftware』
- 61 ページの『cherrstate』
- 62 ページの『clearerrlog』
- 63 ページの 『dumperrlog』
- 65ページの『finderr』
- 66ページの『rmnode』
- 68ページの『setevent』
- 70ページの『setlocale』
- 72ページの『writesernum』

#### addnode

addnode コマンドを使用して、新規 (候補) ノードを既存のクラスターに追加でき ます。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

### 構文



#### パラメーター

#### -panelname panel name

表示パネルに表示される名前で、追加するノードを示します。この引き数 は、-wwnodename と相互に排他的です。ノードを一意的に識別するには、1 つ のみを指定してください。

#### -wwnodename wwnn arg

クラスターに追加するノードを、ノードの worldwide node name (WWNN) で指 定します。この引き数は、-panelname と相互に排他的です。ノードを一意的に 識別するには、1 つのみを指定してください。

#### -name new\_name\_arg

このノードの名前を指定します (オプション)。

-iogrp iogroup\_name | iogroup\_id このノードを追加する I/O グループを指定します。

## 記述

このコマンドは、新規ノードをクラスターに追加します。 sycinfo 1snodecandidate を入力すると、候補ノード (まだクラスターに割り当てられてい ないノード)のリストが表示されます。

互換性チェックがエラーになると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC6201E The node could not be added, because incompatible software: status code [%1].

前提条件:クラスターにノードを追加する前に、次のことを確認してください。

- クラスターに複数の I/O グループがある。
- クラスターに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これ までクラスター内のノードとして使用されていた。
- クラスターに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これ まで他のクラスター内のノードとして使用されており、両方のクラスターとも同 じホストを認識できる。

重要: 上記の条件があてはまる場合で、ここに記載の手順がエラーとなる場合 は、クラスターが管理するデータのすべてが破壊されている可能性があります。

**ノードの追加:** クラスターにはじめてノードを追加する場合は、ノードのシリアル 番号WWNN、すべての WWPN、および追加先の I/O グループを記録する必要があ ります。この操作により、クラスターからノードを削除したり、再び追加したとき に、データが破壊されるのを防止できます。

syctask addnode コマンドまたは SAN ボリューム・コントローラー・コンソー ルを使用してクラスターにノードを追加する場合に、そのノードがこれまでクラス ターのメンバーだった場合は、次のいずれかを実行してください。

- これまでと同じ I/O グループにノードを戻してください。クラスター内のノード の WWNN は、svcinfo Isnode コマンドで判別できます。または
- この情報がない場合、データを破壊せずにノードをクラスターに追加するには、 IBM の保守担当者に依頼してください。

クラスターにノードを追加する場合、このノードを入れる I/O グループも指定する 必要があります。 I/O グループは、ノード対 ID です。ノード対は、予備のキャッ シュ・データを保持しておくために、特定の仮想ディスク・セットのキャッシュ・ データを内部で複写します。仮想ディスクが作成されると、それも I/O グループに 割り当てられます。その後、この仮想ディスクに送られるすべてのデータは、I/O グループ内の 2 つのノードでキャッシュに入れられます。

ノードを追加する際、I/O グループ内のノードが異なる無停電電源装置に接続され ていることを確認してください。 svcinfo Isnodecandidate (uninterruptible power supply\_unique\_ID) の出力から、ノードが接続されている無停電電源装置を判断でき ます。svcinfo Isnodes コマンドは、クラスター内のすべてのノード (uninterruptible power supply unique ID) が接続されている無停電電源装置を表示し ます。

クラスターにノードを追加しようとすると、同じ無停電電源装置に接続されている 2 つのノードが同じ I/O グループに入れられることになり、svcservicetask addnode コマンドは次のエラーを出して失敗します。

CMMVC5777E The node could not be added to the I/O group, because the other node in the I/O group is in the same power domain.

オプションで、新規ノードに名前を割り当てることができます。以降に使用するコ マンドで、WWNN (ノード ID) の代わりにこの名前を使用してノードを指定できま す。ラベルを割り当てると、以降、このラベルがノード名として表示されます。ラ ベルを割り当てない場合のデフォルトのラベルは nodeX です (X はノード ID)。

例: 無停電電源装置が全面的に障害を起こし、4 つのノードのクラスターの 2 つの ノードを失った場合は、svcservicetask addnode コマンドか SAN ボリューム・ コントローラー・コンソールを使用して、失われた 2 つのノードをクラスターに再 び追加する必要があります。

ホスト・システム上のアプリケーションは、オペレーティング・システムが vpath にマップしたファイル・システムまたは論理ボリュームに入出力操作を指示しま す。これは、SDD ドライバーがサポートする疑似ディスク・オブジェクトです。詳 しくは、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガ イド」を参照してください。

SDD ドライバーは、vpath とSAN ボリューム・コントローラー VDisk の関連付け を維持します。この関連付けには、VDisk に固有の ID (UID) が使用され、これは 再使用はされません。これにより、SDD ドライバーは、vpath と VDisk を明確に 関連付けることができます。

SDD デバイス・ドライバーは、プロトコル・スタック内部で作動します。ここには ディスクとファイバー・チャネルのデバイス・ドライバーもあり、ANSI FCS 規格 の定義に従って、ファイバー・チャネル上の SCSI プロトコルを使用して SAN ボ リューム・コントローラーと通信できるようにします。SCSI とファイバー・チャネ ルのアドレッシング・スキームは、ファイバー・チャネルのノードとポートについ て、SCSI 論理装置番号 (LUN) と World Wide Name を組み合わせて使用します。

エラーが発生した場合は、プロトコル・スタック内のさまざまな層で、エラー・リ カバリー手順 (ERP) が実行されます。このような ERP の中には、過去に使用した WWNN および LUN 番号を使用して、I/O を再度実行するものがあります。

SDD デバイス・ドライバーは、実行するすべての入出力操作について、VDisk と vpath の関連付けをチェックするわけではありません。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5790E ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できま せんでした。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは 失敗しました。
- CMMVC5793E I/O グループにはすでに一対のノードが含まれているため、ノー ドをクラスターに追加できませんでした。
- CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グ ループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。
- CMMVC6201E The node could not be added, because incompatible software: status code [%1].

### 例

#### 呼び出し例

svcservicetask addnode -wwnodename 210000e08b053564 -iogrp io grp0

#### 結果出力

Node, id [6], successfully added

### applysoftware

applysoftware コマンドを使用して、クラスターを新しいレベルのソフトウェアに アップグレードできます。

### 構文



### パラメーター

#### -force

強制フラグを指定します (オプション)。I/O グループ内のいずれのノードも対で ない場合、-force フラグが必要です。アップグレード・プロセスは、各 I/O グ ループ内の最初のノードを強制的にシャットダウンしてアップグレードします。 そのノードが対でない場合、そのクラスターは劣化し、データは失われます。

#### -file filename\_arg

新規ソフトウェア・パッケージのファイル名を指定します。このコマンドを入力 する前に、このファイルを構成ノードにコピーしておく必要があります。

### 記述

Ι

1

このコマンドは、クラスターの新規ソフトウェア・レベルへのアップグレード処理 を開始します。上記の svcservicetask および svcservicemodetask の説明に注 意してください。 applysoftware コマンドは、保守モードと非保守モードの両方で ソフトウェアのレベルをノードに適用するために使用できます。このトピックで は、非保守モードでのソフトウェアのノードへの適用について説明します。

ファイル名で指定したソフトウェア・パッケージは、最初に /home/admin/upgrade デ ィレクトリー内の現行(保守モードの)ノードにコピーする必要があります。ファイ ルをコピーするには、secure shell (SSH) クライアントで secure copy (scp) を使用 します。

実際のアップグレードは、非同期的に完了します。

/home/admin/upgrade の内容は、svcinfo Issoftwaredumps コマンドの使用で表示 できます。

内部的には、新規パッケージは /home/admin/upgrade ディレクトリーから移されてチ エックサムを受けます。パッケージがチェックサムで不合格となると、そのパッケ ージは削除され、アップグレードは失敗します。パッケージがチェックサムで合格 すると、そのパッケージがディレクトリーから取り出されて、ソフトウェアのアッ プグレードが開始されます。

新規ソフトウェア・パッケージが始動する前に、各ノードが順に再始動します。

### 起こりうる障害

- CMMVC5801E クラスター内のすべてのノードがオンライン状態でなければなら ないため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでし た。オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンド を再実行依頼してください。
- CMMVC5802E クラスター内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるた め、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。ソフ トウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンし て、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソ フトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスターをアップグレードするには、force オプションが必要です。
- CMMVC6206E ソフトウェア・アップグレードは、指定された MCP バージョン のソフトウェアを含むファイルが見つからなかったため、失敗しました。ソフト ウェア・アップグレードを正常に完了するには、2 つのファイルが必要です。 1 つは基本オペレーティング・システムを構成するファイルを含むファイルで、も う 1 つは SVC ソフトウェアを含むファイルです。このメッセージは、OS のバ ージョンが SVC ソフトウェアと互換性がない場合に表示されます。このファイ ルをアップグレードするには、2 つの互換ファイルをアップロードして、コマン ドを再発行してください。

### 例

#### 呼び出し例

svcservicetask applysoftware -file sanvolumecontroller update

#### 結果出力

#### cherrstate

cherrstate コマンドを使用して、未修正エラーに修正済みのマークを付けることが できます。また、修正済みエラーに未修正のマークを付けることもできます。

### 構文



### パラメーター

-sequencenumber sequence\_number

修正する、エラー・ログのシーケンス番号 (複数も可)を指定します。

#### -unfix

指定したシーケンス番号 (複数も可) に未修正のマークを付けるように指定しま す (オプション)。 -unfix 引き数を使用すると、シーケンス番号には未修正のマ ークが付きます。これは、間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けて しまった場合にのみ使用することを意図しています。

### 記述

入力したシーケンス番号 (複数も可) のエラー・ログ項目に、修正済みのマークを付 けます。クラスター、ファブリック、またはサブシステムに対して行った保守の手 動確認として、このコマンドを使用してください。

このステップは、指示保守手順 (DMP) の一環として実行してください。

間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けた場合、オプションで -unfix フ ラグを指定して、項目に未修正のマークを付け直すことができます。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目が マークされませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

svcservicetask cherrstate -sequencenumber 2019

#### 結果出力

### clearerrlog

clearerrlog コマンドを使用して、状況イベントおよび未修正エラーを含む、エラ ー・ログのすべての項目を消去できます。

### 構文

▶— svcservicetask — — clearerrlog — —

## パラメーター

#### -force

このフラグは、あらゆる確認要求を停止させます。 -force フラグを指定しない と、ログを消去したいかを確認するプロンプトが出されます。

## 記述

このコマンドは、エラー・ログのすべての項目を消去します。ログに未修正エラー があっても、すべての項目が消去されます。また、このコマンドは、ログに記録さ れているあらゆる状況イベントも消去します。

重要: このコマンドは破壊性があるので、このコマンドは、クラスターを再構築し たときか、もしくはエラー・ログ内に手作業では修正したくない多数の項目が存在 し、それらの原因である主要な問題を修正したときにのみ使用してください。

## 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

svcservicetask clearerrlog -force

#### 結果出力

### dumperrlog

dumperrlog コマンドを使用して、エラー・ログの内容をテキスト・ファイルにダ ンプすることができます。また、このコマンドで、クラスターから不要なエラー・ ログ・ダンプを削除することもできます。

### 構文

►►— svcservicetask — — dumperrlog — -└ -prefix — filename prefix ┘

### パラメーター

#### -prefix filename\_prefix

ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成されます。フォーマットは次 のとおりです。

<prefix> NNNNNN YYMMDD HHMMSS

NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名です。

注:-prefix パラメーターを指定しないと、ダンプは、システム定義により 「errlog」の接頭部が付いたファイルに送られます。

### 記述

1 I 引き数を指定しないで実行すると、このコマンドは、クラスターのエラー・ログ を、システムから与えられた「errlog」の接頭部が付いた名前 (ノード ID とタイ ム・スタンプが含まれる)のファイルにダンプします。ファイル名の接頭部を指定 した場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディレクトリー内の、 指定された接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。 11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされ ます。

エラー・ログ・ダンプ・ファイルは、/dumps/elogs に書き込まれます。このディレ クトリーの内容を確認するには、svcinfo Iserrlogdumps コマンドを使用してくだ さい。

ファイルは、cleardumps コマンドを発行するまで、他のノードから削除されるこ とはありません。

## 起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・ システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそら くファイル・システムが満杯です。

# 例

#### 呼び出し例

svcservicetask dumperrlog -prefix testerrorlog

### 結果出力

### finderr

finderr コマンドを使用してエラー・ログを分析し、重大度がもっとも高い未修正工 ラーが無いか調べることができます。

### 構文

► svcservicetask — — finderr —

## 記述

このコマンドはエラー・ログを走査して、未修正エラーが無いか調べます。コード で優先順位が定義されていると、もっとも優先順位の高い未修正エラーが STDOUT に戻されます。

ログに記録されたエラーの修正順序を判断するのに、このコマンドを利用できま す。

Web ベースの 指示保守手順 (DMP) でも、このコマンドを使用します。

### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

### 例

#### 呼び出し例

svcservicetask finderr

#### 結果出力

Highest priority unfixed error code is [1010]

#### rmnode

rmnode コマンドを使用して、ノードをクラスターから削除できます。このコマン ドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

### 構文

▶ svcservicetask — — rmnode — — node name  $^{f L}$  node id -

### パラメーター

#### node name I node id

削除するノードを指定します。フラグの後に指定する引き数は、次のいずれかで

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラ ベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

### 記述

このコマンドは、ノードをクラスターから除去します。これにより、ノードは、こ のクラスターに追加する、もしくは別のクラスターに追加する際の候補になりま す。ノードを削除すると、I/O グループ内の他のノードはそのキャッシュの内容を デステージし、別のノードが I/O グループに追加されるまでライトスルー・モード になります。

クラスターにノードを再び戻す場合は、ノードのシリアル番号、 WWNN、すべて の WWPN、および現在属している I/O グループを記録する必要があります。この 操作により、クラスターからノードを削除したり、再び追加したときに、データが 破壊されるのを防止できます。詳しくは、「IBM TotalStorage SAN ボリューム・コ ントローラー: 構成ガイド」を参照してください。

これが I/O グループ内で最後のノードであり、I/O グループにまだ割り当てられて いる仮想ディスクが存在する場合、クラスターからのノードを削除することは でき ません。

これがクラスター内で最後のノードであり、I/O グループに仮想ディスクが残って いない場合、クラスターは削除され、すべてのバーチャライゼーション情報は失わ れます。クラスターを破棄する前に、以後も必要になるデータがバックアップ済 み、もしくはマイグレーション済みであることを確認してください。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗し ました。

- CMMVC5795E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除で きませんでした。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクショ ンは失敗しました。
- CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グル ープと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できません でした。

### 例

呼び出し例 たとえば、次のコマンドを実行すると、

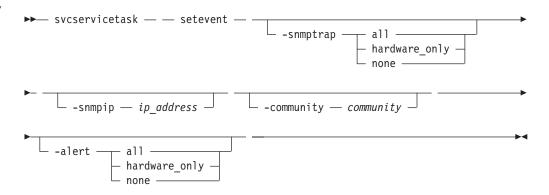
svcservicetask rmnode 1

結果出力 次のような出力が表示されます。

#### setevent

setevent コマンドを使用して、エラーまたはイベントがエラー・ログに記録される 際の処理を指定できます。

### 構文



### パラメーター

**-snmptrap** *all* | *hardware\_only* | *none* 

SNMP トラップ設定、つまり、いつトラップを発信するかを指定します (オプ ション)。

-snmpip ip\_address

SNMP マネージャー・ソフトウェアが実行されているホスト・システムの IP アドレスを指定します (オプション)。

-community community

SNMP コミュニティー・ストリングを指定します (オプション)。

**-alert** all | hardware only | none

アラート設定を指定します (オプション)。この設定では、どのような場合にア ラート通知を発信するかを指定します。

### 記述

このコマンドは、エラー・ログに適用するさまざまな設定を変更します。これらの 設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行う かを定義します。 svctask setevent コマンドを使用して、エラーまたはイベント がエラー・ログに記録される際の処理を指定できます。クラスター・エラー・ログ またはイベント・ログ (あるいはその両方) に追加された項目について、クラスター が SNMP トラップを発信するかどうかを選択できます。通知には 3 つのレベルが あります。

- None: エラーや状況の変更内容は送信されません。
- Hardware only: エラーの通知がありますが、状況変更の通知はありません。
- All: エラーおよび状況変更がすべて通知されます。

SNMP マネージャーがインストールされている場合、またはエラーおよびイベント について E メールによる通知を希望する場合は、エラー通知を使用可能にしてくだ さい。SNMP アラートの通知レベルは、個別に設定できます。

このコマンドで、SNMP トラップをセットアップできます。SNMP 用に、以下の情 報を入力する必要があります。

- どのような場合にトラップを発信するか。
- SNMP マネージャーの IP アドレス
- SNMP コミュニティー

## 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

svcservicetask setevent -snmptrap all

#### 結果出力

#### setlocale

setlocale コマンドを使用して、クラスターのロケール設定を変更できます。このコ マンドは、すべてのインターフェース出力を、選択した言語に変更します。

### 構文

▶ svcservicetask — setlocale — -locale — locale id —

## パラメーター

-locale locale id ロケール ID を指定します。

#### 記述

このコマンドは、コマンド行インターフェースの出力として表示されるエラー・メ ッセージの言語を変更します。コマンドを実行すると、コマンド行ツールから出力 されるすべてのエラー・メッセージは、選択された言語で生成されます。このコマ ンドは、言語 (ロケール) を変更する必要がある場合に、通常は Web ページで実行 します。クラスターのロケール設定を変更するには、svcservicetask setlocale コ マンドを使用します。このコマンドは、すべてのインターフェース出力を、選択し た言語に変更します。たとえば、デフォルト言語を英語から日本語に変更するに は、次のように入力します。

sycservicetask setlocale -locale 3

ここで、3は、日本語を示す引き数です。次のような引き数があります。

- 0 米国英語 (デフォルト)
- 1 中国語 (簡体字)
- 2 中国語 (繁体字)
- 3 日本語
- 4 韓国語
- 5 フランス語
- 6 ドイツ語
- 7 イタリア語
- 8 スペイン語
- 9 ポルトガル語 (ブラジル)

注: このコマンドにより、フロント・パネルのパネル表示設定は変更されません。

## 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

## 例

#### 呼び出し例

svcservicetask setlocale -locale 3

### 結果出力

### writesernum

writesernum コマンドを使用して、ノードのシリアル番号をプレーナー NVRAM に書き込むことができます。

### 構文



### パラメーター

-sernum serial\_number

システム・プレーナーの不揮発性メモリーに書き込むシリアル番号を指定しま す。

#### node id | node\_name

システム・プレーナーが置かれているノードを指定します。シリアル番号は、こ のシステム・プレーナーに書き込まれます。この名前は WWNN ではありませ h.

#### 記述

このコマンドは、ノードのシリアル番号をプレーナー NVRAM に書き込みます。シ リアル番号は、ラックから除去しない状態の SAN ボリューム・コントローラーの 前面で確認できます。 SAN ボリューム・コントローラーをラックに留めている右 側のつまみねじの左にあります。このシリアル番号は、通常は7桁です。

注: いったん書き込んだシリアル番号は、svcinfo Isnodevpd コマンドで確認でき ます。シリアル番号は、「system serial number」フィールドに含まれていま

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗し ました。

## 例

#### 呼び出し例

svcservicetask writesernum -sernum 1300027 node1

#### 結果出力

# 第 7 章 ホスト・コマンド

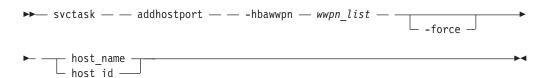
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでホスト・オプションを操作できます。

- 74ページの『addhostport』
- 76ページの『chhost』
- 77ページの『mkhost』
- 79 ページの『rmhost』
- 80ページの『rmhostport』

### addhostport

addhostport コマンドを使用して、WWPN を既存のホスト・オブジェクトに追加 できます。

### 構文



#### パラメーター

#### -hbawwpn wwpn list

ホストに追加するポートのリストを指定します。

#### -force

強制的に追加を行います (オプション)。これを指定すると、すべての WWPN の妥当性検査が行われなくなります。

#### host id | host name

ポートを追加するホスト・オブジェクトを ID または名前で指定します。

### 記述

このコマンドは、指定されたホスト・オブジェクトに HBA WWPN のリストを追加 します。ログイン済みで未構成の WWPN のみを追加できます。候補 WWPN につ いては、リストが 『svcinfo Ishbaportcandidate』コマンドの項にありますので参 照してください。

HBA デバイス・ドライバーの中には、ターゲット LUN が判明するまでファブリッ クにログインしないものもあります。ログインしないと、それらのデバイス・ドラ イバーの WWPN は候補ポートとして認識されないからです。このコマンドで強制 フラグを指定すれば、WWPN リストの妥当性検査を停止することができます。

このホスト・オブジェクトにマップされたすべての仮想ディスクは、新規ポートに 自動的にマップされます。

ホストの HBA を置換する: svcinfo Ishbaportcandidate コマンドを実行して、 HBA ポートの候補をリストします。ホスト・オブジェクトに追加可能な HBA ポー トのリストが表示されます。これらの 1 つ以上が新規 HBA に属する 1 つ以上の WWPN に対応します。HBA を置換したホストに対応するホスト・オブジェクトを 見付けてください。次のコマンドは、定義済みのすべてのホスト・オブジェクトを リストします。

#### svcinfo lshost

現在ホストに割り当てられている WWPN をリストするには、次のコマンドを実行 します。

svcinfo lshost <hostobjectname>

ここで、<hostobjectname> は、ホスト・オブジェクトの名前です。

次のコマンドを実行して、既存のホスト・オブジェクトに新規ポートを追加しま す。

svctask addhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs separated by :> <hostobjectname/ID>

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> と <hostobjectname/id> は、この前のステップにリストされたものに対応します。

次のコマンドを実行して、ホスト・オブジェクトから古いポートを削除します。

svctask rmhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs separated by :> <hostobjectname/ID>

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> は、この前のステップにリ ストされ、置換された古い HBA に属する WWPN に対応します。ホスト・オブジ エクトと VDisk の間にマッピングがある場合は、新しい WWPN に自動的に適用さ れます。このため、ホストは、VDisk を前と同じ SCSI LUN として認識します。動 的再構成について詳しくは、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライ バー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E この worldwide port name はすでに割り当て済みであるか、また は無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。

## 例

#### 呼び出し例

svctask addhostport -hbawwpn 210100E08B251DD4 host one

#### 結果出力

#### chhost

chhost コマンドを使用して、ホスト・オブジェクトに割り当てられた名前を変更で きます。

### 構文

▶ svctask — — chhost — — -name — new name arg — — └ host id —

### パラメーター

-name new\_name\_arg

ホスト・オブジェクトに割り当てる新しい名前を指定します。

#### host name I host id

変更するホスト・オブジェクトを ID または現行名で指定します。

### 記述

指定したホスト・オブジェクトの名前が新しい名前に変更されます。このコマンド は、現行の仮想ディスクからホストへのマッピングのいずれにも影響しません。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5869E ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・オブジェクトは名 前変更されませんでした。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

svctask chhost -name host one hostone

#### 結果出力

#### mkhost

mkhost コマンドを使用して、論理ホスト・オブジェクトを作成できます。

### 構文



### パラメーター

-name new\_name\_arg

新規オブジェクトの名前またはラベルを指定します (オプション)。

-hbawwpn wwpn\_list

このホスト・オブジェクトに追加するためにホスト・バス・アダプター (HBA) の worldwide port name (WWPN) を指定します。

#### -force

強制的に作成を行います (オプション)。この引き数を指定すると、すべての WWPN の妥当性検査を行いません。

#### 記述

このコマンドは、1 つ以上の HBA WWPN を論理ホスト・オブジェクトに関連付け ます。後で仮想ディスクをホストにマッピングするときに、このオブジェクトを使 用できます。このコマンドは新規のホストを作成します。コマンドが完了すると、 ID が戻されます。

このコマンドは 1 度のみ発行する必要があります。クラスターはホスト・ゾーン内 の WWPN のファブリックをスキャンします。どの WWPN がどのホストに存在す るかを判別するのに、クラスター自体をフィルターに掛けてホストにマッピングす ることはできないので、 svctask mkhost コマンドを使用して、ホストを特定する 必要があります。

ホストを特定した後、ホストと仮想ディスクの間でマッピングが作成されます。こ れらのマッピングは、仮想ディスクを、それらがマップされるホストに効果的に提 示します。ホスト・オブジェクト内のすべての WWPN は、仮想ディスクにマップ されます。

HBA デバイス・ドライバーの中には、ターゲット論理装置番号 (LUN) が判明する までファブリックにログインしないものもあります。ログインしないと、それらの デバイス・ドライバーの WWPN は候補ポートとして認識されないからです。この コマンドで強制フラグを指定すれば、WWPN リストの妥当性検査を停止することが できます。

svctask mkvdiskhostmap コマンドおよびsvcinfo Ishbaportcandidate コマンド の説明も参照してください。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E この worldwide port name はすでに割り当て済みであるか、また は無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5729E リストにある 1 つ以上のコンポーネントが無効です。

## 例

#### 呼び出し例

svctask mkhost -name hostone -hbawwpn 210100E08B251DD4 -force

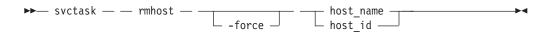
#### 結果出力

Host id [1] successfully created.

#### rmhost

rmhost コマンドを使用して、ホスト・オブジェクトを削除できます。

### 構文



### パラメーター

#### -force

強制的に削除を行います (オプション)。この引き数は、ホスト・オブジェクト を削除します。まだアクティブな WWPN は、他のホストに追加できます。こ れで、アクティブな WWPN が未構成 WWPN としてリストされます。

#### host name I host id

削除するホスト・オブジェクトを ID または名前で指定します。

### 記述

Ī

ı

このコマンド実行すると、論理ホスト・オブジェクトを削除します。このホスト・ オブジェクトに含まれていた WWPN は、(まだ接続しており、ファブリックにログ インしている場合) 未構成の状態に戻ります。 svcinfo Ishbaportcandidate コマ ンドを実行すると、ホスト・オブジェクトがポートの候補としてリストされます。

このホストと仮想ディスク間にマッピングがまだ存在する場合、強制フラグを指定 しない限り、このコマンドは失敗します。強制フラグを指定すると、このコマンド は、ホスト・オブジェクトを削除する前にマッピングを削除します。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5870E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ホス ト・オブジェクトは削除されませんでした。
- CMMVC5871E 1 つ以上の構成済み worldwide port name がマッピングにあるた め、アクションは失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

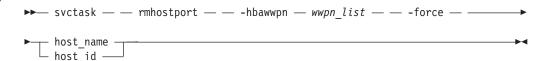
svctask rmhost host one

#### 結果出力

### rmhostport

rmhostport コマンドを使用して、WWPN を既存のホスト・オブジェクトから削除 できます。

### 構文



### パラメーター

#### -hbawwpn wwpn\_list

ホストから削除するポートのリストを指定します。

#### -force

入力したポートを強制的に削除します。この引き数は、指定したホスト上のリス トで WWPN を削除します。そのポートは、未構成の WWPN になります。

#### host name I host id

ホスト名またはホスト ID を指定します。

### 記述

このコマンドは、指定されたホスト・オブジェクトから HBA WWPN のリストを削 除します。これらのポートがまだファブリックにログインしている場合、これらの ポートは構成解除状態となり、候補 WWPN としてリストされます。svcinfo Ishbaportcandidate コマンドの説明も参照してください。

このホスト・オブジェクトにマップされたすべての仮想ディスクが、ポートから自 動的にマップ解除されます。

ホストの HBA を置換する: svcinfo Ishbaportcandidate コマンドを実行して、 HBA ポートの候補をリストします。ホスト・オブジェクトに追加可能な HBA ポー トのリストが表示されます。これらの 1 つ以上が新規 HBA に属する 1 つ以上の WWPN に対応します。HBA を置換したホストに対応するホスト・オブジェクトを 見付けてください。次のコマンドは、定義済みのすべてのホスト・オブジェクトを リストします。

#### svcinfo lshost

現在ホストに割り当てられている WWPN をリストするには、次のコマンドを実行 します。

svcinfo lshost <hostobjectname>

ここで、<hostobjectname> は、ホスト・オブジェクトの名前です。

次のコマンドを実行して、既存のホスト・オブジェクトに新規ポートを追加しま す。

svctask addhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs separated by :> <hostobjectname/ID>

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> と <hostobjectname/id> は、この前のステップにリストされたものに対応します。

次のコマンドを実行して、ホスト・オブジェクトから古いポートを削除します。

svctask rmhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs separated by :> <hostobjectname/ID>

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> は、この前のステップにリ ストされ、置換された古い HBA に属する WWPN に対応します。ホスト・オブジ ェクトと VDisk の間にマッピングがある場合は、新しい WWPN に自動的に適用さ れます。このため、ホストは、VDisk を前と同じ SCSI LUN として認識します。動 的再構成について詳しくは、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライ バーユーザーズ・ガイド」を参照してください。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E この worldwide port name はすでに割り当て済みであるか、また は無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5871E 1 つ以上の構成済み worldwide port name がマッピングにあるた め、アクションは失敗しました。
- CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。
- CMMVC5873E 一致する worldwide port name がないため、アクションは失敗し ました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

### 例

Ī

#### 呼び出し例

svctask rmhostport -hbawwpn 210100E08B251DD4 host one

#### 結果出力

# 第 8 章 仮想ディスク・コマンド

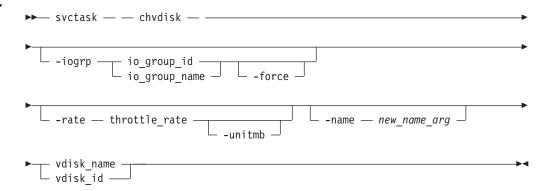
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで仮想ディスク・オプションを操作できます。

- 84 ページの『chvdisk』
- ・ 87 ページの 『expandvdisksize』
- 89ページの『mkvdisk』
- 95 ページの『mkvdiskhostmap』
- ・ 98 ページの『rmvdisk』
- 100ページの『rmvdiskhostmap』
- 101ページの『shrinkvdisksize』

#### chvdisk

chvdisk コマンドを使用して、仮想ディスクのいくつかのプロパティー (名前、I/O グループ、I/O 制御率など)を変更できます。

### 構文



### パラメーター

-iogrp io\_group\_id | io\_group\_name

仮想ディスクの移動先の新規 I/O グループを、ID または名前で指定します (オ プション)。 -force フラグは、I/O グループに対して VDisk を強制的に除去さ せるために、このパラメーターと共に使用することができます。

**-rate** *throttle rate* [-unitmb]

仮想ディスクの I/O 制御率を設定します (オプション)。デフォルトの単位は I/O ですが、-unitmb 引き数と併用して MBps で指定することができます。

-name new\_name\_arg

仮想ディスクに割り当てる新しい名前を指定します (オプション)。

-force

I/O グループから強制的に VDisk を除去することを指定します。 このパラメー ターは、-iogrp と一緒にしか使用できません。

#### vdisk name | vdisk id

変更する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

注: -iogrp、-rate、および -name パラメーターは、相互に排他的です。このパラメー ターは、1 つのコマンド行につき 1 つだけ指定できます。

### 記述

このコマンドは、仮想ディスクの単一プロパティーを変更します。一度に 1 つのプ ロパティーを変更できます。よって、名前と I/O グループを変更したい場合は、コ マンドを 2 回発行する必要があります。

新規の名前またはラベルを指定できます。変更後すぐに、その新しい名前を使用し て仮想ディスクを参照できます。

この仮想ディスクを関連付ける I/O グループを変更できます。ただし、I/O グルー プを変更する場合は、最初に現行の I/O グループ内のノードのキャッシュをフラッ シュして、すべてのデータをディスクに書き込む必要があります。この操作を行う 前に、ホスト・レベルでの I/O 操作は中断してください。

重要: オフラインの I/O グループには VDisk を移動しないでください。データを 失わないようにするため、VDisk を移動する前に、I/O グループがオンラインにな っていることを確認してください。

この仮想ディスクに関して受け入れる I/O トランザクションの量に限度を設定する ことができます。この速度は、1 秒当たりの I/O 数、または MBps で設定できま す。デフォルトでは、仮想ディスクの作成時に I/O 制御率は設定されません。

最初の作成時、仮想ディスクにスロットルは適用されません。 -rate パラメーター を使用すれば、これは変更できます。仮想ディスクを非スロットル状態に戻すに は、-rate パラメーターで値 0 (ゼロ) を指定します。

VDisk を新しい I/O グループにマイグレーションすると、クラスター内のノード間 で、ワークロードのバランスを手動で取ることができます。1 対のノードのワーク ロードが過剰になり、他の対が過小になっていることがあります。この手順を実行 して、1 つの VDisk を新規 I/O グループにマイグレーションしてください。必要 に応じて、他の VDisk についてもこの操作を繰り返します。

#### 重要:

この手順には中断を伴います。手順を実行中に VDisk へのアクセスが失われます。

どのような場合でも、オフラインの I/O グループには VDisk を移動しないでくだ さい。データを失わないようにするため、VDisk を移動する前に、I/O グループが オンラインになっていることを確認してください。

VDisk をマイグレーションする前に、移動対象の VDisk が提示するそれぞれの vpath について、SDD 構成を更新して当該 vpath を移動する必要があります。この 操作を行わないと、データが破壊されることがあります。ホストのオペレーティン グ・システムに関連して、SDD を動的に構成する方法については、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド」を参照し てください。

VDisk を新規 I/O グループにマイグレーションする場合は、その VDisk の入出力 操作をすべて静止してください。どのホストがこの VDisk を使用しているのかを確 認する必要があるかもしれません。FlashCopy マッピングやリモート・コピーなど の関係がこの VDisk を使用している場合は、それを停止または削除してください。 VDisk が関係やマッピングの一部となっているかどうかを確認するには、svcinfo Isvdisk <vdiskname/id> コマンドを実行します。ここで、<vdiskname/id> は、 VDisk の名前または ID です。

「FC id」フィールドおよび「RC id」フィールドを見付けてください。これらのフ ィールドがブランクでなければ、VDisk はマッピングか関係の一部です。このマッ ピングまたは関係を削除、停止する方法についての詳細は、「IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイ ド」を参照してください。次のコマンドを実行して、VDisk をマイグレーションし ます。

svctask chvdisk -iogrp <newiogrpname/id> <vdiskname/id>

手順に従って、新しい vpath を発見し、各 vpath が正しい番号とパスを提示してい ることを確認します。ホストのオペレーティング・システムに関連して、SDD を動 的に構成する方法については、「IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドラ イバーユーザーズ・ガイド」を参照してください。

### 起こりうる障害

- CMMVC5756E オブジェクトはすでにマップされているため、要求を実行できま せん。
- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5832E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想デ ィスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5833E I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5834E このグループはリカバリー I/O グループのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。I/O グループを変更するに は、force オプションを使用してください。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アク ションは失敗しました。
- CMMVC5853E グループに問題があったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グ ループに属していないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディス ク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、ア クションは失敗しました。
- CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがない ため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、 アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失 敗しました。
- CMMVC6032E 入力したパラメーターのうち 1 つ以上がこの操作には無効なの で、操作は実行されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

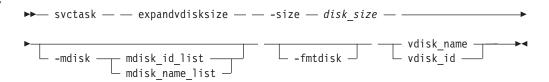
svctask chvdisk -rate 2040 -unit mb 6

#### 結果出力

### expandvdisksize

expandvdisksize コマンドを使用して、VDisk のサイズを、指定した容量だけ拡張 することができます。

### 構文



#### パラメーター

#### -size disk size

拡張する仮想ディスクの容量を指定します。これは、単位値と共に使用します。 バイトの最小の細分度は 512 です。すべての容量は、この値に切り上げられま す。ただし、一部のみが使用されている場合でもエクステント全体が予約されま す。デフォルトの容量は、MB で表されます。

#### -mdisk mdisk id list | mdisk name list

ストライプ・セットとして使用する 1 つ以上の MDisk のリストを指定します (オプション)。 VDisk の拡張に使用するエクステントは、指定された MDisk (複数も可) のリストから確保します。リストのすべての MDisk は、同じ MDisk グループに属していなくてはなりません。

#### -fmtdisk

VDisk は、使用する前にフォーマットしなくてはならないことを指定します (オ プション)。このパラメーターを使用すると、拡張により VDisk に追加された新 規エクステントがフォーマット (すべてゼロに) されます。

#### vdisk name I vdisk id

変更する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

### 記述

このコマンドは、特定の仮想ディスクに割り当てられた容量を、指定された量だけ 拡張します。デフォルトの容量は、MB で表されます。

VDisk が拡張されると、ポリシーが変わる場合があります。その VDisk のモード が、以前は順次またはイメージであっても、ストライプに変わります。バーチャラ イゼーション・ポリシーの詳細については、svctask mkvdisk コマンドの説明を参 照してください。このコマンドは、fmtdisk 引き数が選択されていると非同期終了し ます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。
- CMMVC5835E コマンドに指定されたオブジェクトが存在しないため、仮想ディ スク (VDisk) は展開されませんでした。

- CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるた め、アクションは失敗しました。
- CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) は リモート・コピー・マッピングの一部 であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アク ションは失敗しました。
- CMMVC5853E グループに問題があったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グ ループに属していないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディス ク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、ア クションは失敗しました。
- CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがない ため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、 アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失 敗しました。
- CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えて います。

### 例

#### 呼び出し例

svctask expandvdisksize -size 2048 -unit b -mdisk mdisk0:mdisk1 -fmtdisk vdisk1

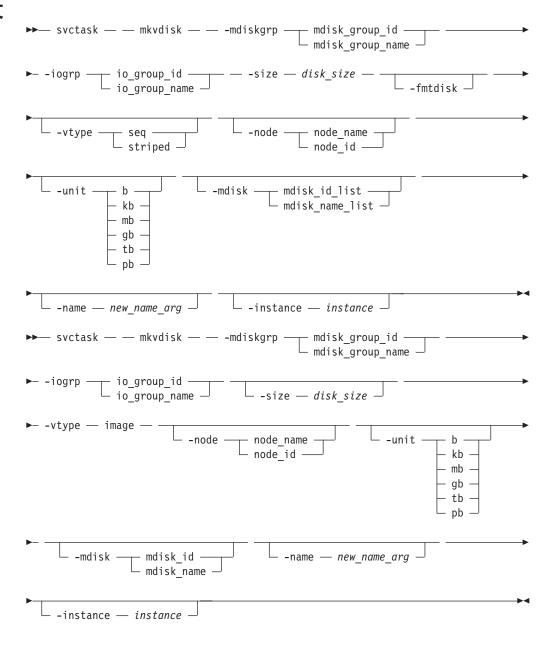
#### 結果出力

### mkvdisk

mkvdisk コマンドを使用して、順次、ストライプ、またはイメージ・モードの仮想 ディスク・オブジェクトを作成できます。これらのオブジェクトは、いったんホス ト・オブジェクトにマップすると、ホストが I/O 操作を行えるディスク・ドライブ として見なされます。

注: 最初の構文図は、順次またはストライプ・モードの仮想ディスクの作成を表現 します。 2 番目の構文図は、イメージ・モードの仮想ディスクの作成を表現し ます。

### 構文



### パラメーター

-mdiskgrp mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name

この仮想ディスクを作成する際に使用する管理対象ディスク・グループを指定し ます。

**-iogrp** io group id | io group name

この仮想ディスクを関連付ける I/O グループ (ノード・ペア) を指定します。

#### -size disk size

単位値と共に使用する、仮想ディスクの容量を指定します。バイトの最小の細分 度は 512 です。すべての容量は、この値に切り上げられます。ただし、一部の みが使用されている場合でもエクステント全体が予約されます。容量として 0 を指定できます。バイトで示すサイズは、論理ブロック・アドレス (LBA) の倍 数でなくてはなりません。 イメージ・モード・ディスクの作成時に、このパラ メーターが指定されていない場合は、管理対象ディスクの容量全体が使用されま す。

#### -fmtdisk

仮想ディスクは、使用する前にフォーマットしなくてはならないことを指定しま す (オプション)。 -fmtdisk 引き数は、この VDiskの作成後に、VDisk を構成し ているエクステントをフォーマットします (オール・ゼロに設定します)。 この パラメーターが使用されている場合、コマンドは非同期的に完了し、svcinfo コ マンドで状況を照会できます。このフラグは、イメージ・モード VDisk の作成 時には使用できません。

#### **-vtype** seq | striped | image

バーチャライゼーション・ポリシーを指定します (オプション)。デフォルトの バーチャライゼーション・タイプは、striped (ストライプ) です。詳しくは、下 の注を参照してください。

#### **-node** *node\_id* ∣ *node\_name*

この仮想ディスクに対する I/O 操作用に優先ノード ID またはノード名を指定 します (オプション)。 -node 引き数を使用して、優先アクセス・ノードを指定 できます。サブシステム・デバイス・ドライバー (SDD) には、この引き数は必 須です。この引き数を指定しないと、SAN ボリューム・コントローラーはデフ ォルトを選択します。

#### **-unit** *b* | *kb* | *mb* | *gb* | *tb* | *pb*

容量 (-size) と共に使用するデータ単位を指定します (オプション)。

#### -mdisk mdisk id list | mdisk name list

1 つ以上の管理対象ディスクを指定します (オプション)。この引き数は、-vtype と共に使用し、選択したポリシーによって、さまざまな異なる使用法がありま す。詳しくは、下の注を参照してください。

#### -name new name arg

新規仮想ディスクに割り当てる名前を指定します (オプション)。

VDisk インスタンス番号。この値は、自動的に割り当てられる値をオーバーラ イドし、vdiskhostmap の VDisk UID など、後にアルゴリズムにより割り当 てられるその他の数値に影響します。

#### 記述

このコマンドは、新規の仮想ディスク・オブジェクトを作成します。このコマンド を使用して、さまざまなタイプの仮想ディスク・オブジェクトを作成できます。そ のため、もっとも複雑なコマンドの 1 つです。

どの管理対象ディスク・グループが VDisk のストレージを提供するかを決定する必 要があります。使用可能な管理対象ディスク・グループおよび各グループのフリ ー・ストレージ量をリストするには、svcinfo Ismdiskgrp コマンドを使用しま す。

VDisk をどの I/O グループに割り当てるかを決定します。この決定により、クラス ター内のどの SAN ボリューム・コントローラー・ノードがホスト・システムから の入出力要求を処理するかが決まります。I/O グループが複数ある場合は、すべて の SAN ボリューム・コントローラー・ノードにとって入出力ワークロードが均等 になるように VDisk を I/O グループに分散します。I/O グループの表示、および各 I/O グループに割り当てられている仮想ディスクの数量を表示するには、svcinfo Isiogrp コマンドを使用します。

注:複数の I/O グループがあるクラスターでは、MDisk グループの VDisk が複数 の I/O グループに分かれていることはふつうです。FlashCopy を使用すると、 ソースと宛先の VDisk が同一の I/O グループに属しているかどうかは無関係 に VDisk のコピーを作成できます。しかし、クラスター内リモート・コピーを 使用する場合は、マスターおよび補助 VDisk の両方が同じ I/O グループにあ ることを確認してください。

バーチャライゼーション・ポリシーは、作成する仮想ディスクのタイプを制御しま す。これらのポリシーには、striped (ストライプ) と seq (順次) と image (イメー ジ) があります。

#### Striped

これはデフォルトのポリシーです。-vtvpe を指定しないと、このポリシーが デフォルト形式で使用されます。つまり、管理対象ディスク・グループ内の すべての管理対象ディスクが、仮想ディスクの作成に使用されます。ストラ イピングは、エクステント・レベルで循環式に行われ、グループ内の各管理 対象ディスクの 1 エクステントが使用されます。たとえば、10 管理対象デ ィスクが存在する管理対象ディスク・グループは、それぞれの管理対象ディ スクの 1 つのエクステントを使用し、次に最初の管理対象の 11 番目のエ クステントを使用し ... と続きます。

-mdisk 引き数も指定すると、ストライプ・セットとして使用する管理対象 ディスクのリストを指定できます。指定できるのは、同じ管理対象ディス ク・グループに属する 2 つ以上の管理対象ディスクです。ストライプ・セ ットで、同じ循環アルゴリズムが使用されます。ただし、リストで、単一の 管理対象ディスクを複数回指定できます。たとえば、エクステントから -m 0:1:2:1 と入力した場合、それは次の保守ディスクからとなります: 0、1、2、1、0、1、2、... -mdisk 引き数で指定されたすべての MDisk は、 管理対象モードでなければなりません。

容量が 0 でもかまいません。

#### Seq (Sequential)

このポリシーは、-mdisk フラグと、その引き数として単一管理対象ディス クを必要とします。 MDisk は、管理対象モードでなければなりません。

このポリシーは、特定の管理対象ディスクのエクステントのみを使用して仮 想ディスクを作成します (管理対象ディスクに十分なフリー・エクステント があることが前提です)。

Image イメージ・モードの仮想ディスクは、特殊なケースです。この仮想ディスク は、管理対象ディスクにすでにデータが存在している場合に、事前に仮想化 されたサブシステムから使用できます。イメージ・モード仮想ディスクを作 成すると、それは作成元の管理対象ディスクに直接対応するので、仮想ディ スク論理ブロック・アドレス (LBA) x は、管理対象ディスク LBA x に等 しくなります。このコマンドを使用して、仮想化しないディスクをクラスタ 一の制御下に置いて使用することができます。その後、データを単一管理対 象ディスクからマイグレーションできます。この時点で、仮想ディスクはイ メージ・モードの仮想ディスクではなくなります。

イメージ・モードの VDisk を、ストライプまたは順次 VDisk などの他の タイプの VDisk がすでにある mdiskgrp に追加してかまいません。

注: イメージ・モードの VDisk は、少なくとも 1 エクステントなければな らず、容量が 0 ではいけません。これがイメージ・モードの VDisk に 対して指定可能な最小サイズです。このサイズは追加される MDisk グ ループ・エクステント・サイズと同じでなければならず、デフォルトで は 16 MB です。

非管理のモードを持つ MDisk を指定するには、-mdisk フラグを使用す る必要があります。 -fmtdisk フラグは、イメージ・モード VDisk の作 成時には使用できません。

このコマンドは、新規に作成された VDisk の ID を戻します。

重要: オフラインの I/O グループに VDisk を作成しないでください。データを失 わないようにするため、VDisk を作成する前に、I/O グループがオンラインになっ ていることを確認してください。このことは、特に VDisk を再作成して、同一のオ ブジェクト ID に割り当てる場合に注意してください。

## 起こりうる障害

- 注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラ ーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコ ードが戻されます。
- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかっ たため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。
- CMMVC5826E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想デ ィスク (VDisk) は作成されませんでした。

- CMMVC5827E 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失 敗しました。
- CMMVC5828E I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5829E 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イ メージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5830E コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、 イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5831E 入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、 仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディス ク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、ア クションは失敗しました。
- CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがない ため、アクションは失敗しました。
  - 注: このエラーは、MDisk のストライプ・セットが指定され、その MDisk の 1 つ以上で VDisk を作成するのに十分なフリー・エクステントがない場合にも 戻されます。この場合、VDisk を作成するのためのフリー・スペースが十分 あることを MDisk グループが報告します。svcinfo Isfreeextents <mdiskname/ID> コマンドを使用すると、それぞれの MDisk 上のフリー・ スペースを確認できます。ほかの方法として、ストライプ・セットを指定せ ず、システムにフリー・エクステントを自動的に選択させることもできま
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、 アクションは失敗しました。

#### 例

#### 呼び出し例

svctask mkvdisk -mdiskgrp Group0 -size 0 -iogrp 0 -vtype striped -mdisk mdisk1 -node 1

#### 結果出力

Virtual Disk, id [1], successfully created

### 例

Ī

#### イメージ・モード VDisk 作成の呼び出し例

svctask mkvdisk -mdiskgrp Group0 -iogrp 0 -vtype image -mdisk mdisk2 -node 1

#### 結果出力

Virtual Disk, id [2], successfully created

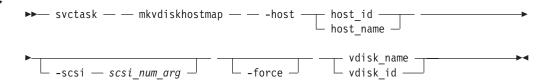
## 関連トピック

・ 84 ページの『chvdisk』

### mkvdiskhostmap

mkvdiskhostmap コマンドを使用して、仮想ディスクとホスト間の新規マッピング を作成します。つまり、仮想ディスクを、指定したホストから入出力操作のために アクセスできるようにします。

### 構文



### パラメーター

#### -host host id | host name

仮想ディスクをマップするホストを、ID または名前で指定します。

#### -scsi scsi\_num\_arg

指定したホスト上のこの仮想ディスクに割り当てる SCSI LUN ID を指定しま す (オプション)。 scsi num 引き数には、指定したホスト上の VDisk に割り当 てる SCSI LUN ID を指定します。特定の HBA 上の次に使用可能な SCSI LUN ID を割り当てるために、ホスト・システムをチェックする必要がありま す。これはオプション・フラグであり、これを指定しないと次の使用可能な SCSI LUN ID がホストに与えられます。

#### -force

強制的に作成を行う強制フラグを指定します (オプション)。

#### vdisk name | vdisk id

マップする仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

### 記述

このコマンドは、仮想ディスクと指定のホスト間の新規のマッピングを作成しま す。ホストには、仮想ディスクは、直接ホストに接続しているように見えます。ホ ストが仮想ディスクに対して I/O トランザクションを実行できるのは、このコマン ドが実行された後のみです。

オプションで、SCSI LUN ID をマッピングに割り当てることができます。ホストの HBA が、ホストに接続された装置をスキャンする際、HBA はホストのファイバ ー・チャネル・ポートにマップされたすべての仮想ディスクを発見します。装置が 見つかると、それぞれの装置に ID (SCSI LUN ID) が割り振られます。たとえば、 最初に検出されたディスクには SCSI LUN 1、などが割り振られます。必要に応じ て SCSI LUN ID を割り当てることで、HBA が仮想ディスクを発見する順序を制 御できます。 SCSI LUN ID を指定しなくても、そのホストにすでに存在するマッ ピングを指定すれば、クラスターは自動的に次の有効な SCSI LUN ID を割り当て ます。

HBA デバイス・ドライバーの中には、SCSI LUN ID 内にギャップを検出すると停 止するものもあります。次に例を示します。

• 仮想ディスク 1 が、SCSI LUN ID 1 をもつホスト 1 にマップされている。

- 仮想ディスク 2 が、SCSI LUN ID 2 をもつホスト 1 にマップされている。
- 仮想ディスク 3 が、SCSI LUN ID 4 をもつホスト 1 にマップされている。

デバイス・ドライバーが HBA をスキャンする際、仮想ディスク 1 と 2 を発見す ると停止しなくてはなりません。これは、ID 3 でマップされた SCSI LUN が存在 しないからです。よって、必ず SCSI LUN ID が連続しているようにしてくださ 11

複数の VDisk の割り当てを作成することができます。通常は、複数のホストがディ スクにアクセスできる場合は破損が起こりやすいため、複数 VDisk のホストへの割 り当ては使用すべきではありません。ただし、IBM SAN File System (SFS) などの 特定の マルチパス環境では、VDisk を複数のホストにマップしなければなりませ ん。このためには、コマンド行インターフェースを使用して、-force フラグを使用 する必要があります。次に例を示します。

svctask mkvdiskhostmap -host -host1 force 4 または

svctask mkvdiskhostmap -host host2 -force 4

上記の例では、ホストの VDisk へのマッピングを VDisk 4 について 2 つ作成 (host1 および host2 にマップ) します。 -force フラグを省略すると、すでに VDisk がホストにマップされている場合は、マッピングが失敗することに注意してくださ 170

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5843E VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持っていないため、仮想デ ィスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5844E SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失 敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しま した。
- CMMVC5876E マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホ ストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5877E SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5878E この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想デ ィスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5879E この VDisk はすでにこの SCSI LUN を使用してこのホストにマ ップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成さ れませんでした。

- CMMVC5880E VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) から ホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC6071E このアクションの結果、複数マッピングが作成されます。これを 確実に行いたい場合は、-force フラグを使用してください。

### 例

#### 呼び出し例

svctask mkvdiskhostmap -host host1 -scsi 1 5

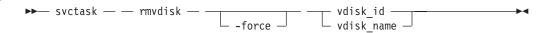
#### 結果出力

Virtual Disk to Host map, id [1], successfully created

#### rmvdisk

rmvdisk コマンドを使用して、仮想ディスク・グループを削除できます。仮想ディ スクとホストの間にマッピングが存在していて、強制フラグを指定しない場合、コ マンドは失敗する可能性があります。

### 構文



#### パラメーター

#### -force

強制的に削除を行います (オプション)。この引き数は、ホストと VDisk 間のす べてのマッピングと、この VDisk 用に存在するすべての FlashCopy マッピング を削除します。

#### vdisk id I vdisk name

削除する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

#### 記述

このコマンドは、既存の仮想ディスクを削除します。この仮想ディスクを構成する エクステントは、管理対象ディスク・グループの使用可能なフリー・エクステント のプールに戻されます。

**重要:** 仮想ディスク上のすべてのデータは失われます。仮想ディスク (および仮想 ディスク上のすべてのデータ)が不要になり、このコマンドを実行する場合は、注 意が必要です。

この仮想ディスクとホスト間にマッピングがまだ存在する場合、強制フラグを指定 しない限り、削除は失敗します。強制フラグを指定すると、残っているすべてのマ ッピングは削除され、その後仮想ディスクが削除されます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかっ たため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5840E 仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされているか、または FlashCopy か リモート・コピー・マッピングの一部であるため、削除されません でした。
- CMMVC5841E 仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除されませんでし
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アク ションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディス ク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、ア クションは失敗しました。

• CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失 敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

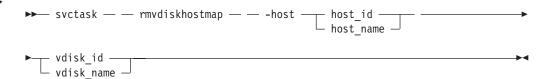
svctask rmvdisk -force vdisk5

#### 結果出力

### rmvdiskhostmap

rmvdiskhostmap コマンドを使用して、仮想ディスクとホスト間の既存のマッピン グを削除できます。この場合、指定したホストでの I/O トランザクションで、仮想 ディスクがアクセス不能になります。

### 構文



#### パラメーター

-host host id | host name

仮想ディスクとのマップから除去するホストを、ID または名前で指定します。

#### vdisk id I vdisk name

マップから除去する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

### 記述

このコマンドは、指定された仮想ディスクとホスト間の既存のマッピングを削除し ます。このコマンドにより、仮想ディスクを、特定のホストでの I/O トランザクシ ョンでアクセスできないようにすることができます。

このコマンドを実行すると、ホストは、仮想ディスクが削除されたか、もしくはオ フラインであると認識するので、このコマンドを実行する場合は注意が必要です。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しま した。

### 例

#### 呼び出し例

svctask rmvdiskhostmap -host host1 vdisk8

#### 結果出力

#### shrinkvdisksize

shrinkvdisksize コマンドを使用して、VDisk を、指定した容量だけ縮小すること ができます。

#### 構文



### パラメーター

-size disk size

このコマンド行は、サイズを、指定された容量分だけ削減します。

#### vdisk name | vdisk id

変更する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

#### 記述

このコマンドは、特定の仮想ディスクに割り当てられた容量を、指定された量だけ 削減します。デフォルトの容量は、MB で表されます。

VDisk は、必要に応じてサイズを縮小できます。ただし、VDisk のデータを使用中 の場合は、どのような場合でもあっても、データをバックアップせずに VDisk を縮 小することはやめてください。SAN ボリューム・コントローラーは、VDisk に割り 振られている 1 つ以上のエクステントを一部削除して、随意に VDisk の容量を縮 小します。どのエクステントを削除するかを制御できないので、削除される場所が 未使用のスペースであるとは保証できません。

重要: この機能を使用するのは、FlashCopy マッピングまたはリモート・コピーの 関係を作成するときに、ソースまたはマスターの VDisk と同じサイズのターゲット または補助の VDisk を作成するときだけ にしてください。さらに、この操作を実 行する前にターゲット VDisk がいずれかのホストにマップされることがないように してください。

**重要:** その仮想ディスクにデータが含まれる場合、そのディスクは縮小できませ h.

注: オペレーティング・システムまたはファイル・システムの中には、パフォーマ ンス上の理由から、それらのシステムがディスクの端と見なす部分を使用する ものもあります。このコマンドは、FlashCopy ターゲット仮想ディスクを、ソー スと同じ容量にまで縮小することを目的としています。

VDisk がいずれのホスト・オブジェクトにもマップされていないことを確認しま す。VDisk がマップされていると、データが表示されます。svcinfo Isvdisk -bytes <vdiskname> コマンドを使用すると、ソースまたはマスターの VDisk の 容量を正確に確認できます。svctask shrinkvdisksize -size <capacitytoshrinkby> -unit <unitsforreduction> <vdiskname/ID> コマンドを実 行して、必要な量だけ VDisk を縮小してください。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5836E 仮想ディスク (VDisk) はロックされているため、縮小されません でした。
- CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるた め、アクションは失敗しました。
- CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) は リモート・コピー・マッピングの一部 であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5839E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想デ ィスク (VDisk) は縮小されませんでした。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アク ションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失 敗しました。
- CMMVC6010E フリー・エクステントが不十分なため、コマンドを完了できませ んでした。

### 例

#### 呼び出し例

svctask shrinkvdisksize -size 2048 -unit b vdisk1

#### 結果出力

## 第 9 章 管理対象ディスク・グループ・コマンド

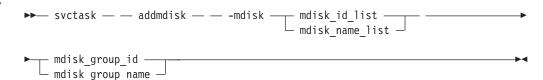
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラー管理対象ディスク・グループ・オプションを操作できます。

- 104ページの『addmdisk』
- 106ページの『chmdiskgrp』
- ・ 107 ページの 『mkmdiskgrp』
- 109ページの『rmmdisk』
- 111ページの『rmmdiskgrp』

#### addmdisk

addmdisk コマンドを使用して、1 つ以上の管理対象ディスクを既存の管理対象デ ィスク・グループに追加できます。

### 構文



#### パラメーター

-mdisk mdisk id list | mdisk name list

グループに追加する 1 つ以上の管理対象ディスクの ID または名前を指定しま す。

#### mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name

ディスクの追加先である管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定 します。

### 記述

このコマンドは、ユーザーがグループに指定した管理対象ディスクを追加します。 ディスクは、管理対象ディスク ID または管理対象ディスク名で指定できます。

管理対象ディスクは、非管理モードでなくてはなりません。すでにグループに所属 するディスクは、現行のグループから削除されるまでは、別のグループに追加する ことはできません。管理対象ディスクをグループから削除できるのは、次の場合で

- 管理対象ディスクに、仮想ディスクが使用するエクステントが含まれていない場 合
- 最初に、使用中のエクステントを、グループ内の他のフリーなエクステントにマ イグレーションできる場合

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5819E この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部で あるため、この MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5820E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対 象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5821E リストに十分な MDisks が含まれていないため、管理対象ディス ク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5822E リストに含まれている MDisks の数が多過ぎるため、管理対象デ ィスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかっ たため、アクションが失敗しました。

• CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。

例

#### 呼び出し例

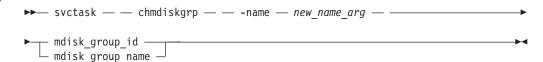
 ${\tt svctask} \ {\tt addmdisk} \ {\tt -mdisk} \ {\tt mdisk13:mdisk14} \ {\tt Group0}$ 

#### 結果出力

### chmdiskgrp

chmdiskgrp コマンドを使用して、管理対象ディスク・グループに割り当てられた 名前またはラベルを変更できます。

### 構文



### パラメーター

-name new\_name\_arg

管理対象ディスク・グループの新しい名前を指定します。

#### mdisk group id | mdisk group name

変更する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

#### 記述

このコマンドは、特定の管理対象ディスク・グループに割り当てられた名前または ラベルを変更します。変更後すぐに、その新しい名前を使用して管理対象ディス ク・グループを参照できます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5817E 名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名 前変更されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

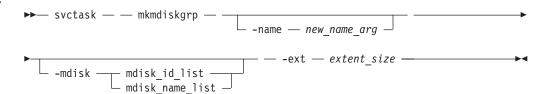
 $svctask\ chmdiskgrp\ -name\ testmdiskgrp\ Group0$ 

#### 結果出力

### mkmdiskgrp

mkmdiskgrp コマンドを使用して、新規の管理対象ディスク・グループを作成でき ます。管理対象ディスク・グループは、管理対象ディスクの集合です。それぞれの グループは、エクステントと呼ばれるチャンクに分割されます。これらのエクステ ントは、仮想ディスクの作成に使用されます。

### 構文



### パラメーター

-name new\_name\_arg

新規グループに割り当てる名前を指定します (オプション)。

-mdisk mdisk id list | mdisk name list

グループに追加する管理対象ディスクの ID または名前を指定します (オプショ ン)。 -mdisk フラグを指定しなければ、空の MDisk グループを作成することが できます。

**-ext** extent size

このグループのエクステントのサイズを MB で指定します。 -ext 引き数に は、次のいずれかの値を指定できます: 16、32、64、128、256、または 512  $(MB)_{\circ}$ 

### 記述

このコマンドは、新規グループを作成し、(指定された場合は)名前を割り当てま す。コマンドが正常に実行されると、新規グループの ID が戻されます。

オプションで、このグループに追加する管理対象ディスクのリストを指定すること ができます。これらの管理対象ディスクは、別のグループに属することはできず、 非管理対象モードでなくてはなりません。適切な候補のリストを入手するには、 svcinfo lsmdiskcandidate コマンドを使用します。

このグループのメンバーであるそれぞれの管理対象ディスクは、エクステントに分 割されます。これらのディスクで使用可能なストレージは、このグループの有効な エクステントのプールに加えられます。このグループから仮想ディスクを作成する 場合は、仮想ディスクの作成時に選択されたポリシーに従って、プール内のフリ ー・エクステントが使用されます。

後でこのグループに追加されるすべての管理対象ディスクは、グループに割り当て られたサイズと同じサイズのエクステントに分割されます。

エクステント・サイズを選択するとき、このグループ内の仮想化するストレージの 量も考慮してください。システムは、仮想ディスクと管理対象ディスクの間のエク ステントのマッピングを維持します。 SAN ボリューム・コントローラーは、有限 数のエクステント (4 194 304) のみを管理できます。1 つのクラスターが仮想化で きるエクステント数は、次のとおりです。

- 64 TB すべての管理対象ディスク・グループのエクステント・サイズが 16 MB の場合。
- 2 PB すべての管理対象ディスク・グループのエクステント・サイズが 512 MB の場合。

注: イメージ・モードの VDisk を作成する場合、イメージ・モードの VDisk が MDisk 自体より小さい可能性があるので、MDisk グループは、(MDisk の容量 ではなく) イメージ・モード の VDisk のサイズ分だけ容量が増加します。エ クステントがイメージ・モードの VDisk もしくは MDisk からグループ内の別 の場所にマイグレーションされる場合、VDisk はストライプされた VDisk にな り (たとえば、もうイメージ・モードではない)、MDisk 上の余分の容量 (たと えば、イメージ・モード VDisk の一部ではなかった容量など) が使用可能にな るので、この時点で使用可能な容量が増加する可能性があります。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5815E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対 象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでした。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかっ たため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディス ク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、ア クションは失敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

svctask mkmdiskgrp -mdisk mdisk13 -ext 512

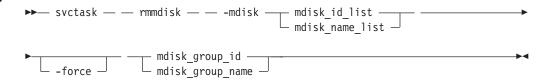
#### 結果出力

MDisk Group, id [1], successfully created

#### rmmdisk

rmmdisk コマンドを使用して、管理対象ディスク・グループから管理対象ディスク を削除できます。このコマンドには幾つかの制約があります。

#### 構文



#### パラメーター

-mdisk mdisk id list | mdisk name list

グループから削除する 1 つ以上の管理対象ディスクの ID または名前を指定し ます。

#### -force

強制フラグを指定します (オプション)。-force フラグを指定せず、指定された 1 つ以上の管理対象ディスクのエクステントから作成された仮想ディスクが存在 する場合、コマンドは失敗します。 -force フラグを指定し、指定された 1 つ以 上の管理対象ディスクのエクステントから作成された仮想ディスクが存在する場 合、グループ内に十分なフリー・エクステントがあれば、ディスク上のデータは グループ内の他のディスクにマイグレーションされます。この作業は、長い時間 がかかる場合があります。

#### mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name

ディスクを削除する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定しま す。

#### 記述

このコマンド、グループからの管理対象ディスク (複数も可)の除去を試みます。

グループから管理対象ディスクを削除できるのは、管理対象ディスクに仮想ディス クが使用しているエクステントが含まれていない場合のみです。使用中のエクステ ントがあり、強制フラグを指定しないと、コマンドは失敗します。

**重要:** 削除するディスクの電源がすでにオフになっている場合、すでに削除されて いる場合、または電源異常の問題がある場合は、マイグレーションは、保留状態と なり、MDisk がオンラインに戻るまでは完了しません。この場合、グループに含ま れている MDisk リストから MDisk が削除されないことも意味します。

ディスクを意図的に削除した場合は、グループ全体を削除することが MDisk を削除 する唯一の方法です。

ディスクが属する MDisk グループから削除するまでは、いずれのコントローラー LUN も破棄しないでください。

rmmdisk コマンドは、このコマンドの期間に、 Mdisk グループ内の他のディスク に十分なフリー・エクステントがないと失敗します。この問題を回避するには、 rmmdisk が完了するまではエクステントを使用する新規のコマンドを発行しないで ください。

強制フラグを指定すると、使用中のエクステントをグループ内の他のフリー・エク ステントにマイグレーションする試みが行われます。グループ内に十分なフリー・ エクステントがない場合、強制フラグを指定した場合でもコマンドは失敗します。

それでもなお、グループからディスクを削除したい場合は、次のオプションがあり ます。

- 1. 管理対象ディスク上の指定されたエクステントを使用している仮想ディスクを削 除する。
- 2. グループに管理対象ディスクを追加し、-force フラグを指定してコマンドを再実 行する。

データを管理対象ディスクからマイグレーションする場合、コマンドが完了するま でかなりの時間がかかる場合があります。コマンド事態が成功コードと共に戻り、 マイグレーションが進行中であることを通知します。マイグレーションが完了する とイベントがログに記録され、この時点でディスクはグループから削除されます。 また、svcinfo Ismigrate コマンドを使用して、アクティブなマイグレーションの 進行状況を確認することもできます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5823E この MDisk は別の MDisk グループの一部であるため、管理対象 ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。
- CMMVC5824E この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していな いため、その MDisk グループから削除されませんでした。
- CMMVC5825E 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り 振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除され ませんでした。強制削除が必要です。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかっ たため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。
- CMMVC6006E リソースが使用中だったため、管理対象ディスク (MDisk) は削除 されませんでした。
- CMMVC6015E 削除要求はすでに進行中です。

### 例

#### 呼び出し例

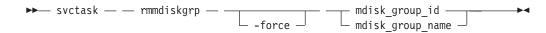
svctask rmmdisk -mdisk mdisk12 -force Group3

#### 結果出力

### rmmdiskgrp

rmmdiskgrp コマンドを使用して、管理対象ディスク・グループを削除できます。 このコマンドを使用する際は、注意が必要です。

### 構文



### パラメーター

#### -force

強制的に削除を行う強制フラグを指定します (オプション)。-force フラグが指 定されると、すべての仮想ディスクと仮想ディスクからホストへのマッピングが 削除されます。グループ内のすべての管理対象ディスクが除去され、そのグルー プ自体も削除されます。

#### mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name

削除する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

#### 記述

このコマンドは、指定された管理対象ディスク・グループを破棄します。このグル ープから作成された仮想ディスクがある場合、もしくはグループ内に管理対象ディ スクがある場合は、強制フラグが必要です。このような場合に強制フラグを指定し ないと、コマンドは失敗します。

管理対象ディスク・グループの削除は、本質的にはクラスターまたはクラスターの 一部を破棄することと同じです。管理対象ディスク・グループは、バーチャライゼ ーションを制御する上での中心点です。仮想ディスクは、グループ内の使用可能な エクステントを利用して作成されます。仮想ディスク・エクステントと管理対象デ ィスク・エクステント間のマッピングは、グループ単位で制御されます。よって、 グループを削除すると、このマッピングも削除されます。このマッピングは後で復 元することはできません。

**重要:** このコマンドは、一部が非同期的に完了します。コマンドが戻る前に、すべ ての仮想ディスク、ホスト・マッピング、およびコピー・サービスが削除されま す。その後、管理対象ディスク・グループの削除は非同期的に完了します。

重要: コマンドを発行する前に、本当にすべてのマッピング情報を破棄したいかを 確認してください。管理対象ディスク・グループを破棄した後に、仮想ディスクに 保管されているデータをリカバリーすることはできません。

強制フラグを指定すると、具体的には次のようなアクションが生じます。

- 1. このグループ内にまだエクステントを使用している仮想ディスクがある場合、そ のディスクとあらゆるホスト・オブジェクト間のすべてのマッピングは削除され ます。
- 2. グループ内に管理対象ディスクがある場合、すべてのディスクはグループから削 除されます。これらのディスクは、非管理対象状態に戻ります。
- 3. グループが削除されます。

重要: 強制フラグを使用して、クラスター内のすべての管理対象ディスク・グルー プを削除すると、ノードをクラスターに追加した直後の状態に戻ります。仮想ディ スク上で保持されたすべてのデータは失われ、リカバリー不能となります。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5818E グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディ スク (MDisk) グループは削除されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

 ${\tt svctask} \ {\tt rmmdiskgrp} \ {\tt -force} \ {\tt Group3}$ 

#### 結果出力

## 第 10 章 管理対象ディスク・コマンド

クラスターが MDisks を検出すると、自動的にその MDisk を既知の MDisk のクラスター・リストに追加します。その後で、この MDisk に対応する RAID を削除すると、オブジェクトが次のような場合、クラスターはこの MDisk のみをリストから削除します。

- MDisk が非管理対象モードであり、MDisk グループに属しておらず、
- なおかつ MDisk がオフラインの場合。

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで管理対象ディスク・オプションを操作できます。

- 114 ページの『chmdisk』
- 115ページの『includemdisk』
- 116ページの『setquorum』

### chmdisk

chmdisk コマンドを使用して、管理対象ディスクの名前を変更できます。

### 構文

► svctask — — chmdisk — — -name — new\_name\_arg — -└ mdisk name ┘

### パラメーター

-name new\_name\_arg

管理対象ディスクに適用する新しい名前を指定します。

#### mdisk\_id\_list | mdisk\_name\_list

変更する管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、特定の管理対象ディスクに割り当てられた名前またはラベルを変 更します。変更後すぐに、その新しい名前を使用して管理対象ディスクを参照でき ます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。

### 例

#### 呼び出し例

svctask chmdisk -name testmdisk mdisk0

#### 結果出力

#### includemdisk

includemdisk コマンドを使用して、クラスターによって除外されていたディスク を組み込むことができます。

### 構文

▶ svctask — — includemdisk — — mdisk id -└ mdisk name ┘

### パラメーター

#### mdisk id | mdisk name

クラスターに追加する管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

### 記述

指定された管理対象ディスクが、クラスターに組み込まれます。

複数の I/O 障害が発生したために、ディスクがクラスターから除外されている場合 があります。これらの障害は、ノイズを多発するリンクが原因である可能性があり ます。ファブリック関連の問題が修正されたら、除外されたディスクをクラスター に再度追加することができます。

除外されていたディスクに対してこのコマンドを発行しても、目に見えて分かる効 果はありません。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗 しました。

### 例

#### 呼び出し例

svctask includemdisk mdisk5

#### 結果出力

### setquorum

setquorum コマンドを使用して、クォーラム・ディスクとして割り当てられる管理 対象ディスクを変更できます。

### 構文



### パラメーター

**-quorum** 0 | 1 | 2

クォーラム索引を指定します。

#### mdisk id | mdisk name

クォーラム・ディスクとして割り当てる管理対象ディスクの ID または名前を 指定します。

### 記述

このコマンドは、指定された管理対象ディスクを、指定されたクォーラム索引に設 定します。

クラスターが、クラスターを形成するノードの半分を失った場合に、クォーラム・ ディスクが使用されます。クォーラム・ディスクの大多数を含むクラスターの半分 が I/O トランザクションの処理を継続します。もう半分は、I/O トランザクション の処理を停止します。クォーラム・ディスクを設定することで、クラスターの両半 分が作動し続けないようにすることができます。

現在クォーラム索引番号が割り当てられている管理対象ディスクは、非クォーラ ム・ディスクに設定されます。

クラスターは自動的にクォーラム索引を割り当てます。クラスターが分割される場 合に特定の管理対象ディスクのセットを引き続きアクセス可能にしたい場合は、こ のコマンドを使用します。

**重要:** 単一障害が発生したときに、すべてのクォーラム・ディスクを失うのを避け るため、クォーラム・ディスクは複数のコントローラーに設定することを推奨しま す。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5810E MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォー ラム索引番号は設定されませんでした。
- CMMVC5811E クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

- CMMVC5812E MDisk が誤ったモードであるため、管理対象ディスク (MDisk) の クォーラム索引番号が設定されませんでした。
- CMMVC5814E 固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

svctask setquorum -quorum 2 mdisk7

#### 結果出力

# 第 11 章 FlashCopy コマンド

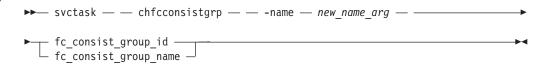
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで FlashCopy の方法と機能を操作できます。

- 120ページの『chfcconsistgrp』
- 121ページの『chfcmap』
- 123 ページの『mkfcconsistgrp』
- 124 ページの『mkfcmap』
- 127 ページの『prestartfcconsistgrp』
- 129ページの『prestartfcmap』
- 131 ページの 『rmfcconsistgrp』
- 132 ページの『rmfcmap』
- 134 ページの『startfcconsistgrp』
- 136ページの『startfcmap』
- 138 ページの『stopfcconsistgrp』
- 139 ページの『stopfcmap』

### chfcconsistgrp

**chfcconsistgrp** コマンドを使用して、既存の整合性グループの名前を変更できま す。

### 構文



### パラメーター

-name new\_name\_arg

整合性グループに割り当てる新規の名前を指定します。

fc\_consist\_group\_id | fc\_consist\_group\_name

変更する整合性グループの ID または既存の名前を指定します。

#### 記述

このコマンドは、指定された整合性グループの名前を変更します。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5891E The name of the FlashCopy consistency group was not modified because the name is not valid.
- CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

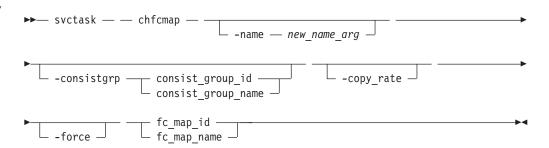
svctask chfcconsistgrp -name testgrp1 fcconsistgrp1

#### 結果出力

### chfcmap

chfcmap コマンドを使用して、既存マッピングの特定の属性を変更できます。

### 構文



#### パラメーター

#### -name new name arg

マッピングに割り当てる新規の名前を指定します (オプション)。-name 引き数 は、他のフラグと相互に排他的です。

#### -consistgrp consist\_group\_id | consist\_group\_name

マッピングを変更したい整合性グループを指定します (オプション)。

-consistgrp および -copyrate 引き数は相互に排他的ではありません。 1 つのコ マンド行呼び出しで、両方の引き数を指定することができます。コピーがアクテ ィブな間もしくはターゲット整合性グループがアクティブな間は、整合性グルー プを変更することはできません。このパラメーターは、-name と -force のパラ メーターに対して相互に排他的です。

#### -copy\_rate

バックグラウンド・コピー率の優先度を指定します (オプション)。 -consistgrp および -copyrate 引き数は相互に排他的ではありません。 1 つのコマンド行呼 び出しで、両方の引き数を指定することができます。このパラメーター は、-name と -force のパラメーターに対して相互に排他的です。

#### -force

整合性グループ ID を指定せずに、オプションの強制フラグを使用すると、マ ッピングは、独立型マッピングに変更されます (整合性グループ ID なしでマッ ピングを作成するのと同等)。このパラメーターは、他のすべてのパラメーター に対して相互に排他的です。

#### fc\_map\_id | fc\_map\_name

変更するマッピングの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、既存マッピングの指定された属性を変更します。マッピング名を 変更する場合、同時に他のいずれの属性も変更することはできません。マッピング が非アクティブな場合、そのマッピングが属する整合性グループのみを変更できま す。マッピングは、起動されていなくても起動されていても非アクティブ状態です が、コピーは完了するために実行されます。

同じアプリケーションのデータ・エレメントが含まれている 1 つの VDiskグループ について複数の FlashCopy マッピングを作成した場合は、そのマッピングを 1 つ の FlashCopy 整合性グループに割り当てたほうが便利なことがあります。このよう にすると、グループ全体に対して 1 つの準備コマンドや起動コマンドを実行するだ けで、たとえば、ある特定のデータベースのすべてのファイルを同時にコピーする ことができます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。
- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5913E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5914E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、 FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5915E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5916E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されませんでした。
- CMMVC5921E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングの プロパティーは変更されませんでした。

## 例

#### 呼び出し例

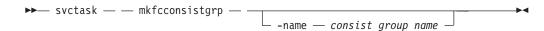
svctask chfcmap -name testmap 1

#### 結果出力

## mkfcconsistgrp

mkfcconsistgrp コマンドを使用して、新規の FlashCopy 整合性グループを作成で きます。

### 構文



### パラメーター

### -name consist\_group\_name

整合性グループの名前を指定します。整合性グループ名を指定しないと、その整 合性グループには自動的に名前が割り当てられます。たとえば、次に有効な整合 性グループ ID が id=2 の場合、整合性グループ名は fccstgrp2 です。

### 記述

このコマンドは新規の整合性グループを作成します。新規グループの ID が戻され ます。

同じアプリケーションのデータ・エレメントが含まれている 1 つの VDiskグループ について複数の FlashCopy マッピングを作成した場合は、そのマッピングを 1 つ の FlashCopy 整合性グループに割り当てたほうが便利なことがあります。このよう にすると、グループ全体に対して 1 つの準備コマンドや起動コマンドを実行するだ けで、たとえば、ある特定のデータベースのすべてのファイルを同時にコピーする ことができます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されません でした。
- CMMVC5892E FlashCopy 整合性グループはすでに存在するため、作成されませ んでした。

# 例

### 呼び出し例

svctask mkfcconsistgrp

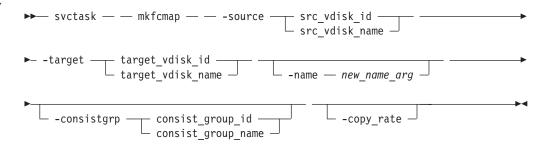
### 結果出力

Flash Copy Consistency Group, id [1], successfully created

### mkfcmap

mkfcmap コマンドを使用して、ソース仮想ディスクを、その後のコピー準備がで きているターゲット仮想ディスクにマップする、新規 FlashCopy マッピングを作成 できます。

### 構文



## パラメーター

- **-source**  $src\_vdisk\_id \mid src\_vdisk\_name$ ソース仮想ディスクの ID または名前を指定します。
- **-target** *target\_vdisk\_id* | *target\_vdisk\_name* 宛先仮想ディスクの ID または名前を指定します。
- -name new\_name\_arg 新規マッピングに割り当てる名前を指定します (オプション)。
- -consistgrp consist\_group\_id | consist\_group\_name 新規マッピングを追加する整合性グループを指定します (オプション)。整合性 グループを指定しないと、マッピングはデフォルトの Consistency Group 0 に割 り当てられます。

### -copy\_rate

バックグラウンド・コピー率の優先度を指定します (オプション)。 -copy rate フラグは、バックグラウンド・コピー率を指定します。 0 が表示される場合 は、アイドル状態であることを意味します。

# 記述

このコマンドは、新規の FlashCopy マッピング論理オブジェクトを作成します。こ のマッピングは、削除されるまで持続します。マッピングは、ソース仮想ディスク と宛先仮想ディスクを指定します。宛先はソースとサイズが同じでなくてはなりま せん。そうでないと、マッピングは失敗します。同じサイズのターゲット・ディス クを作成するのに必要なソース Vdisk の正確なサイズを確認するには、svcinfo Isvdisk -bytes コマンドを発行します。ソースと宛先は、既存のマッピングに存在 してはなりません。つまり、仮想ディスクは、ただ 1 つのマッピング内のソース・ ディスクまたは宛先ディスクのいずれであっても構いません。マッピングは、コピ ーが要求された時点でトリガーされます。

マッピングに名前を付けて (オプション)、整合性グループに割り当てることができ ます。整合性グループは、同時にトリガーできるマッピング・グループです。これ により、複数の仮想ディスクを同時にコピーすることができます。複数の仮想ディ

スクを同時にコピーすると、複数のディスクの整合したコピーが作成されます。デ ータベースとログ・ファイルは異なるディスクに配置されているデータベース製品 の場合は、この機能が必要です。

整合性グループが定義されていないと、マッピングはデフォルトのグループ 0 に割 り当てられます。これは、全体を一度に起動できない特殊なグループです。このグ ループのマッピングは、個別にのみ起動できます。

バックグラウンド・コピー率は、コピーの完了に付けられる優先度を指定します。 0 が指定されている場合、コピーはバックグラウンドで行われません。デフォルト は 50 です。

## 起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラ ーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコ ードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5881E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、 FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5882E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在す るため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5883E リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディス ク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されません でした。
- CMMVC5884E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は リモート・ コピー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成 されませんでした。
- CMMVC5885E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成 されませんでした。
- CMMVC5886E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリ ー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されま せんでした。
- CMMVC5887E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルータ ー・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されません でした。
- CMMVC5922E 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さ過ぎるため、FlashCopy マッピ ングは作成されませんでした。
- CMMVC5923E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは作成さ れませんでした。
- CMMVC5924E ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるた め、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5917E ビットマップを作成するメモリーがないため、FlashCopy マッピ ングは作成されませんでした。

• CMMVC5920E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングは 作成されませんでした。

# 例

### 呼び出し例

svctask mkfcmap -source 0 -target 2 -name mapone  $\,$ 

### 結果出力

FlashCopy mapping, id [1], successfully created

### prestartfcconsistgrp

prestartfcconsistgrp コマンドを使用して、FlashCopy 整合性グループの開始を準 備できます。このコマンドは、ソース仮想ディスク用のすべてのデータのキャッシ ュをフラッシュし、マッピングの開始までキャッシュを強制的にライトスルー・モ ードにします。

# 構文

 $\hspace{-1.5cm} \blacktriangleright \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{svctask} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{prestartfcconsistgrp} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{fc\_consist\_group\_id} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{fc\_consist\_group\_name} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.$ 

### パラメーター

### fc consist group id | fc consist group name

準備する整合性グループの名前または ID を指定します。整合性グループ 0 の 準備は無効です。マッピングが整合性グループ O に属している場合は、map id I name 引き数を指定する必要があります。

### 記述

このコマンドは、(整合性グループの)マッピングのグループを、その後のトリガー に向けて準備します。準備ステップでは、ソース仮想ディスク用のキャッシュにあ るすべてのデータが最初にディスクにフラッシュされるようにします。このステッ プにより、作成されたコピーは、オペレーティング・システムがディスク上に存在 すると認識しているものと整合します。

svctask prestartfcconsistgrp コマンドを実行して、コピー処理が開始 (起動) す る前に、FlashCopy 整合性グループを準備します。1 つの FlashCopy 整合性グルー プに複数のマッピングを割り当てた場合は、グループ全体に対して 1 つの準備コマ ンドを実行するだけで、すべてのマッピングを準備できます。

グループは準備状態を実行します。準備が完了すると、グループは準備済み状態に 変わります。この時点で、グループはトリガー可能状態になります。

準備と、その後のトリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整 合性グループ 0 に属しているマッピングのみを単独で準備することができます。 FlashCopy をトリガー可能にするには、事前に準備する必要があります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の準備は有効な操作ではないため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

- CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備さ れませんでした。
- CMMVC6031E FlashCopy 整合性グループが空なので、操作は実行されませんで した。

## 例

### 呼び出し例

svctask prestartfcconsistgrp 1

### 結果出力

### prestartfcmap

prestartfcmap コマンドを使用して、FlashCopy マッピングの開始を準備できま す。このコマンドは、ソース仮想ディスク用のすべてのデータのキャッシュをフラ ッシュし、マッピングの開始までキャッシュを強制的にライトスルー・モードにし ます。

# 構文

fc\_map\_id fc\_map\_name ▶►— svctask — — prestartfcmap — —

### パラメーター

### fc\_map\_id | fc\_map\_name

準備するマッピングの名前または ID を指定します。

### 記述

このコマンドは、後続のトリガー用に単一マッピングを準備します。準備ステップ では、ソース仮想ディスク用のキャッシュにあるすべてのデータが最初にディスク にフラッシュされるようにします。このステップにより、作成されたコピーは、オ ペレーティング・システムがディスク上に存在すると認識しているものと整合しま す。

マッピングは準備状態に入ります。準備が完了すると、マッピングは準備済み状態 に変わります。この時点で、マッピングはトリガー状態になります。

準備と、その後のトリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整 合性グループ 0 に属しているマッピングのみを単独で準備することができます。 FlashCopy をトリガー可能にするには、事前に準備する必要があります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の準備は有効な操作ではないため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、 FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備さ れませんでした。

# 例

### 呼び出し例

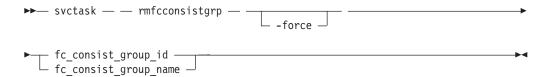
svctask prestartfcmap 1

## 結果出力

## rmfcconsistgrp

rmfcconsistgrp コマンドを使用して、FlashCopy 整合性グループを削除できます。

### 構文



### パラメーター

#### -force

強制フラグを指定します (オプション)。グループにまだマッピングが含まれて いる場合は、すべてのマッピングを整合性グループ 0 に移動させる強制フラグ を指定する必要があります。

### fc\_consist\_group\_id | fc\_consist\_group\_name

削除する整合性グループの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、指定された整合性グループを削除します。整合性グループのメン バーであるマッピングがある場合、強制フラグを指定しない限り、コマンドは失敗 します。強制フラグを指定すると、すべてのマッピングは最初にデフォルトの整合 性グループ 0 に割り当てられます。

整合性グループ内のすべてのマッピングも同様に削除したい場合、svctask rmfcmap コマンドを使用して、マッピングを最初に削除する必要があります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5894E 整合性グループ 0 または無効な整合性グループの名前を削除しよ うとしているため、FlashCopy 整合性グループは削除されませんでした。
- CMMVC5895E FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含まれているため、 削除されませんでした。この整合性グループを削除するには、強制削除が必要で す。

# 例

### 呼び出し例

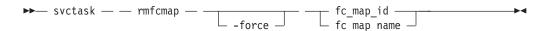
svctask rmfcconsistgrp fcconsistgrp1

#### 結果出力

## rmfcmap

rmfcmap コマンドを使用して、既存のマッピングを削除できます。

### 構文



## パラメーター

#### -force

強制フラグを指定します (オプション)。

### fc\_map\_id | fc\_map\_name

削除するマッピングの ID または名前を指定します。強制フラグを指定しない 限り、マッピングをトリガーする前もしくはマッピングが完了した後にのみ、マ ッピングを削除できます。

### 記述

このコマンドは、指定されたマッピングの削除を試みます。マッピングがアクティ ブの場合、強制フラグを指定しない限りコマンドは失敗します。

FlashCopy 状況が Stopped (停止) の場合、-force フラグを使用する必要がありま す。

マッピングを削除すると、2 つの仮想ディスク間の論理 関係 のみが削除され、仮 想ディスク自体に影響はありません。ただし、削除を強制すると、宛先仮想ディス クのデータは不整合となります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5889E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、 FlashCopy マッピングは削除されませんでした。
- CMMVC5896E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを 停止する必要があります。
- CMMVC5897E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、 FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性 グループを停止する必要があります。
- CMMVC5898E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性 グループを停止する必要があります。
- CMMVC5899E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。マッピングを削除するには、強制削除が必 要です。

• CMMVC5900E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを 停止する必要があります。

# 例

### 呼び出し例

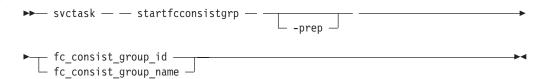
svctask rmfcmap testmap

### 結果出力

### startfcconsistgrp

startfcconsistgrp コマンドを使用して、マッピングの FlashCopy グループを始動 (トリガー) することができます。このコマンドは、コマンドが実行される瞬間に、 ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを作成します。

### 構文



## パラメーター

#### -prep

マッピングをトリガーする前に、そのマッピングまたはグループを準備すること を指定します (オプション)。

#### fc\_consist\_group\_id | fc\_consist\_group\_name

トリガーする整合性グループの ID または名前を指定します。整合性グループ 0 のトリガーは無効です。

### 記述

このコマンドは、マッピングのグループを (整合性グループ・ベースで) トリガーし ます。トリガーするということは、ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを取るこ とを意味します。

グループは、最初にトリガーに向けて準備する必要があります。トリガーに向けて の準備については、svctask prestartfcconsistgrp コマンドの説明を参照してくだ さい。ただし、グループを準備して、準備が完了次第コピーをトリガーするオプシ ョンの -prep 引き数を使用して、このコマンドを実行することができます。これ は、トリガーが行われるときに、このコマンドがシステム制御下にあるということ です。つまり、準備ステップが完了し、コピーが作成されるまで、かなり時間がか かります。トリガーを制御したい場合は最初に、svctask prestartfcconsistgrp コ マンドを使用してください。

整合性グループは、コピー状態に入ります。コピーの実行方法は、マッピングのバ ックグラウンド・コピー率属性によります。マッピングが 0 に設定されていると、 その後にソースで更新されるデータのみが宛先にコピーされます。この操作は、マ ッピングがコピー状態である間、宛先はバックアップ・コピーとしてのみ使用でき ることを意味します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。宛先のソ ースの重複コピーを作成したい場合、0 より大きいバックグラウンド・コピー率を 設定する必要があります。これは、システムがすべてのデータ (未変更データも含 む)を宛先にコピーし、最終的にはアイドル状態またはコピー済み状態に達すると いうことです。このデータがコピーされた後、宛先でマッピングを削除して、使用 可能なソースの時刻指定コピーを使用することができます。

トリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に 属するマッピングのみを単独でトリガーすることができます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マ ッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マ ッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングま たは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整 合性グループは開始されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

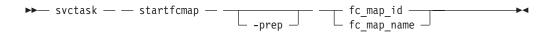
svctask startfcconsistgrp -prep 2

#### 結果出力

### startfcmap

startfcmap コマンドを使用して、FlashCopy マッピングを始動 (トリガー) するこ とができます。このコマンドは、コマンドが実行される瞬間に、ソース仮想ディス クの時刻指定コピーを作成します。

### 構文



### パラメーター

#### -prep

マッピングをトリガーする前に、そのマッピングまたはグループを準備すること を指定します (オプション)。

### fc map id | fc map name

トリガーするマッピングの ID または名前を指定します。マッピングのトリガ ーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。マッピングが準備されて いないと、トリガーの前に準備を行う-prep が指定されていない限り、このコ マンドは失敗します。マッピングが整合性グループ 0 に属している場合は、 map\_id | name を指定する必要があります。

### 記述

このコマンドは、単一マッピングをトリガーします。トリガーするということは、 ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを取ることを意味します。

最初に、マッピングをトリガーに向けて準備する必要があります。トリガーに向け ての準備については、 svctask prestartfcmap コマンドの説明を参照してくださ い。ただし、マッピングを準備して、準備が完了次第コピーをトリガーするオプシ ョンの-prep 引き数を使用して、このコマンドを実行することができます。これ は、トリガーが行われるときに、このコマンドがシステム制御下にあるということ です。つまり、準備ステップが完了し、コピーが作成されるまで、かなり時間がか かります。トリガーを制御したい場合は、最初に svctask prestartfcmap コマン ドを使用してください。

マッピングはコピー状態に入ります。コピーの実行方法は、マッピングのバックグ ラウンド・コピー率属性によります。マッピングが 0 に設定されていると、その後 にソースで更新されるデータのみが宛先にコピーされます。この操作は、マッピン グがコピー状態である間、宛先はバックアップ・コピーとしてのみ使用できること を意味します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。宛先のソースの 重複コピーを作成したい場合、0 より大きいバックグラウンド・コピー率を設定す る必要があります。これは、システムがすべてのデータ (未変更データも含む) を宛 先にコピーし、最終的にはアイドル状態またはコピー済み状態に達するということ です。このデータがコピーされた後、宛先でマッピングを削除して、使用可能なソ ースの時刻指定コピーを使用することができます。

トリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に 属するマッピングのみを単独でトリガーすることができます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マ ッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マ ッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングま たは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整 合性グループは開始されませんでした。

### 例

#### 呼び出し例

svctask startfcmap -prep 2

#### 結果出力

## stopfcconsistgrp

stopfcconsistgrp コマンドを使用して、アクティブな FlashCopy 整合性グループ を停止することができます。

### 構文

 $\hspace{-1.5cm} \blacktriangleright \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{svctask} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{stopfcconsistgrp} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} \text{fc\_consist\_group\_id} \hspace{-1.5cm} - \hspace{-1.5cm} -$ 

## パラメーター

### fc\_consist\_group\_id | fc\_consist\_group\_name

停止する整合性グループの名前または ID を指定します。

### 記述

このコマンドは、(整合性グループ内の)マッピングのグループを停止します。コピ 一が停止すると、宛先は使用不可となります。宛先を使用可能にするには、グルー プを再度準備してトリガーする必要があります。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マ ッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

# 例

### 呼び出し例

svctask stopfcconsistgrp testmapone

### 結果出力

## stopfcmap

stopfcmap コマンドを使用して、アクティブなコピー・プロセスまたは、中断して いるマッピングを停止することができます。

### 構文

## パラメーター

### fc\_map\_id | fc\_map\_name

停止するマッピングの名前または ID を指定します。

# 記述

このコマンドは、単一マッピングを停止します。コピーが停止すると、宛先は使用 不可となります。マッピングまたはグループは、再度準備してトリガーする必要が あります。

停止は、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属す るマッピングのみを単独で停止することができます。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マ ッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC6030E FlashCopy マッピングが整合性グループのパーツであるために、 操作は実行されませんでした。 整合性グループ・レベルでアクションを実行して ください。

# 例

### 呼び出し例

svctask stopfcmap testmapone

### 結果出力

# 第 12 章 リモート・コピー・コマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーのリモート・コピー・サービスを操作できます。

- 142 ページの『chpartnership』
- 143 ページの『chrcconsistgrp』
- 144 ページの 『chrcrelationship』
- 146ページの『mkpartnership』
- 148 ページの『mkrcconsistgrp』
- 149 ページの『mkrcrelationship』
- 152 ページの『rmpartnership』
- ・ 153 ページの 『rmrcconsistgrp』
- 155 ページの『rmrcrelationship』
- 156ページの『startrcconsistgrp』
- 159 ページの『startrcrelationship』
- 162 ページの『stoprcconsistgrp』
- 164ページの『stoprcrelationship』
- 166 ページの『switchrcconsistgrp』
- 168 ページの『switchrcrelationship』

## chpartnership

chpartnership コマンドを使用して、リモート・コピーのために作成されたクラス ター協力関係におけるバックグラウンド・コピーに、利用できる帯域幅を指定でき ます。

### 構文

- $\blacktriangleright \blacktriangleright$  svctask — chpartnership — -bandwidth bandwidth in mbs —
- remote cluster id dash remote\_cluster\_name dash

## パラメーター

-bandwidth bandwidth\_in\_mbs

新規の帯域幅 (MBps) を指定します。この引き数は、クラスター内リンクが維 持できる帯域幅より大きい値に設定される可能性があります。その場合、実際の コピー速度は、デフォルトでリンク上で有効な速度になります。

#### remote\_cluster\_id | remote\_cluster\_name

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。クラスター 内帯域幅は変更できないので、ローカル・クラスターの名前または ID を入力 すると、エラーが起こります。

# 記述

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間の 協力関係の帯域幅を変更します。これは、リモート・コピー関係において、ローカ ルからリモート・クラスター方向のバックグラウンド・コピーに使用可能な帯域幅 に影響します。反対方向(リモート・クラスターからローカル・クラスター)のバッ クグラウンド・コピー帯域幅を変更するには、リモート・クラスターに対して該当 の chpartnership コマンドを実行する必要があります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

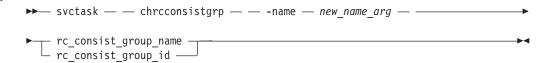
svctask chpartnership -bandwidth 20 cluster1

#### 結果出力

# chrcconsistgrp

chrcconsistgrp コマンドを使用して、既存のリモート・コピー整合性グループの名 前を変更できます。

### 構文



# パラメーター

-name new\_name\_arg

整合性グループに割り当てる新規の名前を指定します。

rc\_consist\_group\_name | rc\_consist\_group\_id

変更する整合性グループの ID または既存の名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、指定された整合性グループの名前を変更します。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

rc testgrp というリモート・コピー整合性グループの名前を rctestone に変更しま

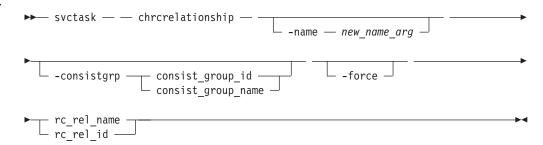
svctask chrcconsistgrp -name rctestone rc\_testgrp

### 結果出力

## chrcrelationship

コマンドを使用して、既存の関係の特定の属性を変更できます。このコマンドで、 関係の名前を変更する他に、関係を整合性グループに追加したり、整合性グループ から関係を除去することもできます。

### 構文



### パラメーター

-name new\_name\_arg

関係に割り当てる新規ラベルを指定します (オプション)。

-consistgrp consist\_group\_id | consist\_group\_name 関係を割り当てる新規の整合性グループを指定します (オプション)。

#### -force

整合性グループから関係を除去し、その関係を独立型の関係にする、強制フラグ を指定します (オプション)。

#### rc rel name I rc rel id

関係の ID または名前を指定します。

注: -name、-consistgrp、および -force は、相互に排他的なパラメーターです。つま り、このパラメーターは、1 つのコマンド行につき 1 つだけ指定できます。

# 記述

このコマンドは、指定された関係の特定の属性を変更できます。 1 度に変更できる のは、1 属性だけです。つまり、4 つのすべてのオプション・フラグは、相互に排 他的です。整合性グループの名前を変更するほか、このコマンドを次の目的に利用 できます。

- 関係をグループに追加する: -consistgrp パラメーターと、整合性グループの名前 または ID を指定することで、独立型の関係を整合性グループに追加できます。 このコマンドを発行する場合、関係と整合性グループの両方が接続しており、両 方が同じ以下のものをもっている必要があります。
  - マスター・クラスター
  - 補助クラスター
  - 状態 (グループが空でない場合)
  - 1 次 VDisk (グループが空でない場合)

空のグループに最初の関係を追加するとき、グループは関係と同じ状態になり、1 次 VDisk (コピー方向) も同じになります。後続の関係をそのグループに追加す

る場合、それらの関係は、そのグループと同じ状態およびコピー方向をもつ必要 があります。 1 つの関係は、1 つの整合性グループにのみ属することができま す。

• **関係をグループから除去する:** -force フラグと、関係の名前または ID を指定す れば、関係を整合性グループから除去できます。整合性グループの名前を指定し たり確認する必要はないので、このコマンドを発行する前に、その関係がどのグ ループに属するのかを確認しておくことをお勧めします。

この形式の関係変更コマンドは、接続または切断状態で成功します。コマンド発 行時にクラスターが切断されている場合、関係は、ローカル・クラスター上の整 合性グループからのみ除去されます。クラスターが再接続されると、関係は、も う一方のクラスターの整合性グループから自動的に除去されます。別の方法とし て、明示的変更 (chrcrelationship) コマンドを使用して、まだ切断されていると きに他方のクラスター上の整合性グループから関係を除去することも可能です。

• **関係を、1 つのグループから別のグループに移動させる** 2 つの整合性グループ間 で関係を移動させるには、関係変更コマンドを 2 回呼び出す必要があります。 1 回目に -force フラグを使用して現行グループから関係を除去し、それから -consistgrp パラメーターと、その関係を追加する新規の整合性グループ名を使用 します。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

関係 rccopy1 の名前を testrel に変更します。 svctask chrcrelationship -name testrel rccopy1

関係 rccopy2 を、グループ newgroup に追加します。 svctask chrcrelationship -consistgrp newgroup rccopy2

rccopy3 の関係がメンバーとなっている整合性グループから関係からこの関係を削 除します。

svctask chrcrelationship -force rccopy3

### 結果出力

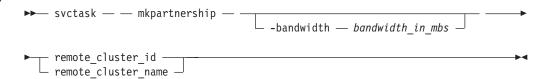
No feedback

上記のいずれの場合も、フィードバックはありません。

## mkpartnership

mkpartnership コマンドを使用して、ローカル・クラスターとリモート・クラスタ 一間で片方向のリモート・コピー協力関係を確立することができます。完全に機能 するリモート・コピー協力関係を設定するには、このコマンドを両方のクラスター に発行する必要があります。このステップは、クラスター上の VDisk 間で リモー ト・コピー関係を作成する場合の前提条件です。

### 構文



### パラメーター

#### -bandwidth bandwidth in mbs

クラスター間のバックグラウンド・コピー・プロセスが使用する帯域幅を指定し ます (オプション)。このパラメーターで、リモート・コピーが初期のバックグ ラウンド・コピー・プロセスに使用する帯域幅を縮小することができます。指定 しないと、帯域幅はデフォルトで 50 MBps (メガバイト/秒) に設定されます。 帯域幅は、クラスター間リンクで維持できる帯域幅以下の値に設定する必要があ ります。パラメーターを、リンクで維持できる帯域幅より高い値に設定しても、 バックグラウンド・コピー・プロセスは実際に利用可能な帯域幅を使用します。

#### remote cluster id | remote cluster name

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。 svcinfo Isclustercandidate コマンドによって、使用可能なリモート・クラスターのリ ストを表示できます。複数のリモート・クラスターが同じ名前をもち、その名前 がこのコマンドに含まれていると、コマンドは失敗して、名前の代わりにクラス ター ID を入力するように要求されます。

### 記述

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間の 片方向協力関係を作成します。同等の svctask mkpartnership コマンドも、完全 な構成の両方向協力関係を作成するには他のクラスターから発行する必要がありま す。

クラスター間 リモート・コピー関係を、ローカル・クラスターの 1 次 VDisk とリ モート・クラスターの補助 VDisk 間で作成できます。また、両方の VDisk がロー カル・クラスターにある場合でもクラスター内関係を作成できます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5925E リモート・クラスター協力関係はすでに存在するため、作成され ませんでした。

- CMMVC5926E リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数が多過ぎるた め、作成されませんでした。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5928E 指定されたクラスター名は別のクラスターと重複しているため、 アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

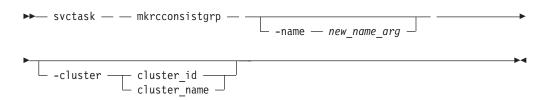
svctask mkpartnership -bandwidth 20 cluster1

### 結果出力

## mkrcconsistgrp

mkrcconsistgrp コマンドを使用して、新規の空の リモート・コピー整合性グルー プを作成できます。

### 構文



### パラメーター

-name new name arg

新規の整合性グループの名前を指定します (オプション)。

-cluster cluster id | cluster name

リモート・クラスターの ID または名前を指定します (オプション)。この場 合、クラスター間整合性グループが作成されます。 -cluster を指定しないと、ロ ーカル・クラスター上のみにクラスター内整合性グループが作成されます。

### 記述

このコマンドは新規の整合性グループを作成します。新規グループの ID が戻され ます。名前は、この整合性グループが属するクラスターで認識されているすべての 整合性グループ間で固有なものでなくてはなりません。整合性グループが 2 つのク ラスターに関係する場合、それらのクラスターは、作成処理中、通信可能状態でな くてはなりません。

新規の整合性グループには関係が含まれておらず、空の状態です。 svctask chrelationship コマンドを使用して、リモート・コピー関係をグループに追加でき ます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svctask mkrcconsistgrp -name rc testgrp

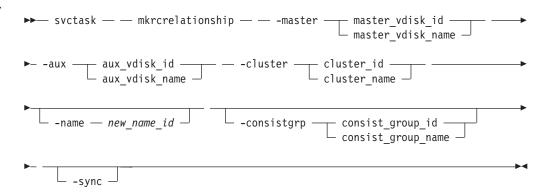
#### 結果出力

RC Consistency Group, id [255], successfully created

## mkrcrelationship

mkrcrelationship コマンドを使用して、同じクラスター内 (クラスター内関係) も しくは 2 つの異なるクラスター内 (クラスター間関係) の仮想ディスク間における 新しい リモート・コピー関係を作成することができます。

### 構文



### パラメーター

- -master master\_vdisk\_id | master\_vdisk\_name マスター仮想ディスクの ID または名前を指定します。
- -aux aux\_vdisk\_id | aux\_vdisk\_name 補助仮想ディスクの ID または名前を指定します。
- -cluster cluster id | cluster name

リモート・クラスターの ID または名前を指定します。クラスター内の関係を 作成する場合は、ローカル・クラスターの ID を入力する必要があります。ク ラスター間の関係を作成する場合は、リモート・クラスターの ID を入力する 必要があります。 2 つの異なるクラスター間の関係を作成するには、svctask mkrcrelationship コマンドを受信する際に、それらのクラスターが接続されて いなくてはなりません。

-name new name id

関係に割り当てるラベルを指定します (オプション)。

- -consistgrp consist\_group\_id | consist\_group\_name
  - この関係が結合することになる整合性グループを指定します (オプション)。 -consistgrp 引き数を指定しないと、その関係は単独で始動、停止、および切り替 えができる独立型の関係になります。
- -sync

オプションで、同期化していることを指定します。指定しないと、整合性フラグ が作成されます。 2 次 (補助) 仮想ディスクが 1 次 (マスター) 仮想ディスク とすでに同期化されていることを示すには、この引き数を使用します。初期バッ クグラウンド同期はスキップされます。

# 記述

このコマンドは、新規の リモート・コピー関係を作成します。この関係は、削除さ れるまで継続します。補助仮想ディスクは、マスター仮想ディスクとサイズが同じ

でなくてはなりません。そうでないとコマンドは失敗します。両方の VDisk が同じ クラスターにある場合、それらは両方とも同じ I/O グループに属している必要があ ります。マスター仮想ディスクと補助仮想ディスクが、既存の関係をもつことはで きません。いずれのディスクも、FlashCopy マッピングのターゲットであることが 可能です。このコマンドは、成功すると新規の関係 (relationship\_id) を戻します。

オプションで関係に名前を付けることができます。名前は、両方のクラスターで固 有の関係名でなくてはなりません。

オプションで、関係を リモート・コピー整合性グループに割り当てることができま す。整合性グループは、多数の関係が管理され、関係が切断された際に、グループ 内のすべての関係のデータを整合した状態にするために使用されます。データ・フ ァイルとログ・ファイルが別の VDisk に保管され、そのため別々の関係によって管 理されるデータベース・アプリケーションでは、これは重要です。災害時には、1 次サイトと 2 次サイトが切断された状態になる可能性があります。 VDisk に関連 付けられた関係が整合性グループに属していないと、切断が起こり、リモート・コ ピー関係が、1 次サイトから 2 次サイトへのデータのコピーを停止した場合、この 2 つの分離した 2 次 VDisk への更新が整合した方法で停止する保証はありませ  $h_{\circ}$ 

しかし、正常なデータベース運用にとって、ログ・ファイルの更新とデータベー ス・データの更新が整合性をもち秩序立った方式で行われることが重要です。よっ て、この場合、2 次サイトのログ・ファイル VDisk とデータ VDisk が整合した状 態であることが非常に重要です。これは、これらの VDisk に関連付けられた関係を 整合性グループに入れることで実現します。整合性グループに入れると、リモー ト・コピーにより、2 次サイトの両方の VDisk が、1 次サイトで行われた更新と整 合性を保つことができます。

整合性グループを指定する場合、グループと関係の両方が同じマスター・クラスタ ーと同じ補助クラスターを使用して作成されていなくてはなりません。関係は、別 の整合性グループの一部であってはなりません。

整合性グループが 空でない 場合、整合性グループと関係は同じ状態です。整合性 グループが 空 の場合、整合性グループは、追加された最初関係の状態と同じ状態 になります。状態にコピー方向が割り当てられている場合、整合性グループと関係 の方向は、その方向に一致する必要があります。

整合性グループを指定しないと、独立型関係が作成されます。

-sync 引き数を指定すると、関係が作成された時点でマスター仮想ディスクと補助仮 想ディスクに同一のデータが含まれていることが保証されます。 svctask mkrcrelationship コマンドを発行する前に、マスター仮想ディスクに一致する補助 仮想ディスクが作成されていること、およびどちらの仮想ディスクへも書き込み操 作が行われていないことを必ず確認してください。

# 起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラ ーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコ ードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5930E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、リモー ト・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5931E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているた め、リモート・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5932E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピン グのメンバーであるため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5933E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グル ープに入っているため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。

# 例

|

### 呼び出し例

svctask mkrcrelationship -master vdisk1 -aux vdisk2 -name rccopy1 -cluster 0000020063432AFD

#### 結果出力

RC Relationship, id [28], successfully created

# rmpartnership

rmpartnership コマンドを使用して、リモート・コピー協力関係を除去することが できます。協力関係は両方のクラスターに存在するので、このコマンドを両方のク ラスターで実行して、協力関係の両サイドを除去する必要があります。コマンドを 一方のクラスターでのみ実行すると、リモート・コピー協力関係は部分的に構成さ れた状態になり、協力関係が切断されると リモート・コピー・アクティビティーは 終了します。

# 構文

► svctask — rmpartnership — remote\_cluster\_id remote\_cluster\_name

# パラメーター

### remote\_cluster\_id | remote\_cluster\_name

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間の 協力関係を削除します。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5928E クラスター名は別のクラスターと重複しているため、アクション は失敗しました。
- CMMVC5929E リモート・コピー協力関係はすでに削除されているため、削除さ れませんでした。

# 例

#### 呼び出し例

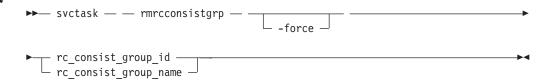
svctask rmpartnership cluster1

#### 結果出力

## rmrcconsistgrp

rmrcconsistgrp コマンドを使用して、既存のリモート・コピー整合性グループを 削除できます。

### 構文



### パラメーター

#### -force

グループに関係が含まれている場合に、強制フラグを指定しないと、コマンドは 失敗します。 1 つ以上の関係がグループに属している場合に強制フラグを指定 しないと、削除は失敗します。強制フラグを指定すると、グループに属している すべての関係は、削除される前にグループから除去されます。関係自体は削除さ れません。それらは、独立型の関係になります。

#### rc consist group id | rc consist group name

削除する整合性グループの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、指定された整合性グループを削除します。既存の整合性グループ のいずれについても、このコマンドを発行できます。コマンド発行時に整合性グル ープが切断されていると、コマンドが実行されるクラスター上でのみ整合性グルー プは削除されます。クラスターが再接続されると、もう一方のクラスター上で整合 性グループが自動的に削除されます。別の手段として、クラスターが切断されてお り、それでもなお両方のクラスターの整合性グループを除去する場合、両方のクラ スターで独立して svctask rmrcconsistgrp コマンドを発行することができます。

整合性グループが空でない場合は、グループを削除するのに -force パラメーターが 必要になります。これで、グループが削除される前に、整合性グループから関係が 削除されます。この後、除去された関係は独立型の関係となります。これらの関係 の状態は、整合性グループからの除去というアクションによって変更されません。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5938E 整合性グループに関係が含まれているため、リモート・コピー整 合性グループは削除されませんでした。整合性グループを削除するには、force オ プションが必要です。

# 例

### 呼び出し例

 ${\tt svctask} \ {\tt rmrcconsistgrp} \ {\tt rctestone}$ 

## 結果出力

### rmrcrelationship

rmrcrelationship コマンドを使用して、既存のリモート・コピー関係を削除できま す。

### 構文

## パラメーター

### rc rel id | rc rel name

関係の ID または名前を指定します。関係が整合性グループの一部である場合 は、その関係を削除できません。

### 記述

このコマンドは、指定された関係を削除します。

関係を削除すると、2 つの仮想ディスク間の論理関係のみが削除され、仮想ディス ク自体に影響はありません。

コマンド発行時に関係が切断されていると、コマンドが実行されるクラスターでの み関係は削除されます。クラスターが再接続されると、もう一方のクラスターで関 係が自動的に削除されます。別の手段として、クラスターが切断されており、それ でもなお両方のクラスター上の関係を除去する場合、それぞれのクラスターで rmrcrelationship コマンドを発行することができます。

関係が整合性グループの一部である場合は、その関係を削除できません。 svctask chrcrelationship -force コマンドを使用して、整合性グループから最初に関係を除 去する必要があります。

不整合な関係を削除すると、まだ不整合であっても 2 次仮想ディスクがアクセス可 能になります。リモート・コピーが不整合データへのアクセスを妨げないケース は、この 1 つだけです。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

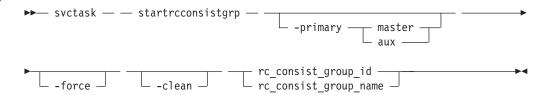
svctask rmrcrelationship rccopy1

#### 結果出力

### startrcconsistgrp

startrcconsistgrp コマンドを使用して、リモート・コピー整合性グループのコピ ー・プロセスを始動したり、コピー方向を設定 (未定義の場合) することができま す。また、オプションで整合性グループの 2 次 VDisk にクリーンのマークを付け ることもできます。

### 構文



### パラメーター

#### **-primary** *master* ∣ *aux*

このパラメーターは、マスターまたは補助のどちらが 1次 (ソース) になるか を定義することでコピー方向を指定します。 1 次が未定義の場合 (たとえば、 整合性グループがアイドリング状態など)、このパラメーターが必要です。 1 次 (方向) 引き数は、どちらのディスクが 1次、つまりソース・ディスクかを指定 します。

#### -force

強制パラメーターを指定します (オプション)。この引き数は、同期化が行われ ている間、一時的に整合性が失われることになっても、コピー操作の再開を許可 します。

#### -clean

クリーン・パラメーターを指定します (オプション)。このフラグは、グループ に属する関係ごとに 2 次 VDisk にクリーンのマークを付けます。

### rc\_consist\_group\_id | rc\_consist\_group\_name

開始する整合性グループの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドは、リモート・コピー整合性グループを開始します。

このコマンドは、接続されている整合性グループに対してのみ発行できます。アイ ドリング状態の整合性グループの場合、このコマンドはコピー方向 (1 次および 2 次の役割)を割り当てて、コピー指示を割り当てます。それ以外の整合性グループ の場合、このコマンドは、停止コマンドもしくは何らかの入出力エラーによって停 止した前のコピー・プロセスを再開します。

コピー・プロセスの再開により、関係が整合しない期間が生じるようであれば、関 係の再開時に強制フラグを指定する必要があります。関係が停止していて、関係の 元の 1 次ディスクにさらに書き込みが行われた場合に、このような状態が生じま す。このコマンドでの強制フラグの使用は、2次ディスクのデータが不整合な状態 である間は、そのデータは災害時回復の目的に有効ではないことについて注意を促 すものです。

アイドリング状態の場合、1 次引き数を指定する必要があります。その他の接続状 態の場合、1 次引き数を指定できますが、既存の設定に一致しなくてはなりませ h.

コピー操作の開始により整合性が失われる場合、-force フラグを要求されます。 ConsistentStopped もしくは アイドリング状態に入った後に 1 次もしくは 2 次 VDisk への書き込み操作が発生した場合、この整合性の喪失が起こります。このよ うな状況で、-force フラグを指定せずにコマンドを発行すると、コマンドは失敗し ます。一般的に、グループが次のいずれかの状態の場合は、-force フラグが必要で す。

- Consistent\_Stopped 状態、ただし、同期化されていない (sync=out\_of\_sync)。
- アイドリング状態、ただし同期化されていない。

グループが次のいずれかの状態の場合、-force フラグは不要です。

- Inconsistent Stopped
- Inconsistent Copying
- · Consistent\_Synchronized

しかし、-force フラグを指定する場合、コマンドは失敗しません。

リモート・コピー・グループが開始され、このグループの2次 VDisk がクリーン であることが前提の場合、クリーン・フラグを使用します。このセンスのクリーン とは、1 次ディスクと 2 次ディスクが同期化される際に、2 次ディスクで加えられ た変更はすべて無視され、 1 次ディスクで加えられた変更のみが考慮されるという ことです。このフラグは、次のシナリオで使用できます。

- 1. 整合性グループを、同期化フラグを使用して作成します。 (たとえ同期化フラグ の使用が、1次と2次に同じデータが含まれていることを示唆しても、この時 点では、このことは問題ではありません。)
- 2. stoprcconsistgrp コマンドを、-allow アクセス・フラグで発行します。これによ り、2 次ディスクへのアクセスが許可されます。変更の記録が、1 次ディスクで 開始されます。
- 3. 1 次ディスクのイメージが取り込まれ、2 次ディスクにロードされます。イメー ジ・コピー中に、1 次ディスクを更新できるようにすることは許可されていま す。これは、このイメージは、単に 1 次ディスクのファジー・イメージである ことのみを必要とします。
- 4. primary = master、強制フラグ、およびクリーン・フラグを指定した startrcconsistgrp コマンドを発行します。これにより、補助ディスクにはクリーン のマークが付き、整合性グループが停止したために発生したマスター・ディスク 上の変更が補助ディスクにコピーされます。
- 5. バックグラウンド・コピーが完了したら、グループ内の関係は整合し、同期化さ れた状態となります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

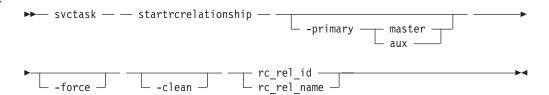
 ${\tt svctask} \ {\tt startrcconsistgrp} \ {\tt rccopy1}$ 

## 結果出力

## startrcrelationship

startrcrelationship コマンドを使用して、リモート・コピー関係のコピー・プロセ スを始動したり、コピー方向を設定 (未定義の場合) することができます。また、オ プションで関係の 2 次 VDisk にクリーンのマークを付けることもできます。

## 構文



## パラメーター

### -primary master | aux

マスターまたは補助のどちらが 1次 (ソース)になるかを定義することでコピ 一方向を指定します。 1 次が未定義の場合 (たとえば、関係がアイドリング状 態など)、このパラメーターが必要です。

### -force

強制パラメーターを指定します (オプション)。この引き数は、整合性が失われ ることになっても、コピー操作の再開を許可します。

### -clean

クリーン・パラメーターを指定します (オプション)。クリーン・フラグは、2 次仮想ディスクにクリーンのマークを付けます。

### rc\_rel\_id | rc\_rel\_name

独立型の関係としてのみ開始する関係の ID または名前を指定します。

## 記述

独立型関係を開始するには、このコマンドを使用します。このコマンドを使用して 整合性グループの一部である関係を開始しようとすると、コマンドは失敗します。

このコマンドは、接続されている関係に対してのみ発行できます。アイドリング状 熊の関係の場合、このコマンドはコピー方向 (1 次および 2 次の役割) を割り当て て、コピー・プロセスを開始します。それ以外の整合性グループの場合、このコマ ンドは、停止コマンドもしくは何らかの入出力エラーによって停止した前のコピ ー・プロセスを再開します。

コピー・プロセスの再開により、関係が整合しない期間が生じるようであれば、関 係の再開時に強制フラグを指定する必要があります。関係が停止していて、関係の 元の 1 次ディスクにさらに書き込みが行われた場合に、このような状態が生じま す。このコマンドでの強制フラグの使用は、2次ディスクのデータが不整合な状態 である間は、そのデータは災害時回復の目的に有効ではないことについて注意を促 すものです。

アイドリング状態の場合、1 次引き数を指定する必要があります。その他の接続状 態の場合、1 次引き数を指定できますが、既存の設定に一致しなくてはなりませ

コピー操作の開始により整合性が失われる場合、-force フラグを要求されます。 ConsistentStopped もしくはアイドリング状態に入った後に 1 次もしくは 2 次 VDisk への書き込み操作が発生した場合、この整合性の喪失が起こります。このよ うな状況で、-force フラグを指定せずにコマンドを発行すると、コマンドは失敗し ます。一般的に、関係が次のいずれかの状態の場合は、-force フラグが必要です。

- ConsistentStopped、ただし、同期化されていない。
- アイドリング状態、ただし同期化されていない。

関係が次のいずれかの状態の場合、-force フラグは不要です。

- InconsistentStopped
- · InconsistentCopying
- · ConsistentSynchronized

しかし、-force フラグを指定する場合、コマンドは失敗しません。

リモート・コピー関係が開始され、この関係の2次 VDisk がクリーンであること が前提の場合、クリーン・フラグを使用します。このセンスのクリーンとは、1次 ディスクと 2 次ディスクが同期化される際に、2 次ディスクで加えられた変更はす べて無視され、1次ディスクで加えられた変更のみが考慮されるということです。 このフラグは、次のシナリオで使用できます。

- 1. 関係を、同期化フラグを使用して作成します。 (たとえ同期化フラグの使用が、 1 次と 2 次に同じデータが含まれていることを示唆しても、この時点では、こ のことは問題ではありません。)
- 2. stoprcrelationshipコマンドを、-allow アクセス・フラグを指定して発行します。こ れにより、2次ディスクへのアクセスが許可されます。変更の記録が、1次ディ スクで開始されます。
- 3. 1 次ディスクのイメージが取り込まれ、2 次ディスクにロードされます。イメー ジ・コピー中に、1 次ディスクを更新できるようにすることは許可されていま す。これは、このイメージが、単に1次ディスクの「ファジーな」イメージで あればよいためです。
- 4. primary = master、強制フラグ、およびクリーン・フラグを指定した startrcrelationship コマンドを発行します。これにより、補助ディスクにはクリー ンのマークが付き、関係が停止した後にマスター・ディスクに加えられた変更が 補助ディスクにコピーされます。
- 5. バックグラウンド・コピーが完了したら、関係は整合した、同期化状態となりま

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

## 呼び出し例

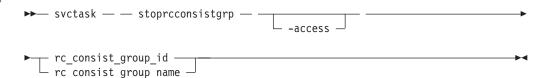
 ${\tt svctask} \ {\tt startrcrelationship} \ {\tt rccopy1}$ 

## 結果出力

## stoprcconsistgrp

stoprcconsistgrp コマンドを使用して、リモート・コピー整合性グループ内のコピ ー・プロセスを停止することができます。また、このコマンドで、グループが整合 状態にある場合、グループ内の 2 次 VDisk への書き込みアクセスを可能にするこ ともできます。

## 構文



## パラメーター

### -access

ユーザーに、整合した 2次 VDisk への書き込みアクセスを与えるアクセス・ フラグを指定します。このフラグにより、グループが整合状態にある場合、グル ープ内の2次 VDisk への書き込みアクセスを可能にすることができます。

### rc\_consist\_group\_id | rc\_consist\_group\_name

停止する整合性グループの ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、整合性グループに適用されます。このコマンドで、1次から2次 にコピーしている整合性グループを停止することができます。

整合性グループが不整合状態の場合、あらゆるコピー操作は停止し、ユーザーが svctask startrcconsistgrp コマンドを発行するまで再開しません。書き込みアク ティビティーは、グループ内の関係に属している 1 次仮想ディスクから 2 次仮想 ディスクへはもうコピーされません。 ConsistentSynchronized 状態の整合性グループ の場合、このコマンドにより、整合性の凍結が生じます。

整合性グループが整合した状態 (たとえば、ConsistentStopped、

ConsistentSynchronized、または ConsistentDisconnected 状態) の場合、-access 引き数 を指定した stoprcconsistgrp コマンドで、そのグループ内の 2 次仮想ディスクへの 書き込みアクセスを可能にすることができます。

初期状態	最終状態	注
InconsistentStopped	InconsistentStopped	
InconsistentCopying	InconsistentStopped	
ConsistentStopped	ConsistentStopped	-access が使用可能
ConsistentSynchronized	ConsistentStopped	-access が使用可能
Idling	ConsistentStopped	-access が使用可能
IdlingDisconnected	変更なし	再接続時に、関係が停止状態に移行する可能性がある。

InconsistentDisconnected	InconsistentStopped	svctask stoprcconsistgrp コマンドを発行するクラス ター上。
InconsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上。
ConsistentDisconnected	ConsistentStopped	svctask stoprcconsistgrp コマンドを発行するクラス ター上では、-access が使用 可能。
ConsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上で は、-access が使用可能。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

 ${\sf svctask}$   ${\sf stoprcconsistgrp}$   ${\sf rccopy1}$ 

### 結果出力

## stoprcrelationship

stoprcrelationship コマンドを使用して、リモート・コピー関係のコピー・プロセ スを停止することができます。また、このコマンドで、整合した 2 次 VDisk への 書き込みアクセスを可能にすることもできます。

## 構文



## パラメーター

### -access

ユーザーに、整合した 2 次 VDisk への書き込みアクセスを許可するアクセス 許可フラグを指定します。

### rc rel id I rc rel name

停止する関係の ID または名前を指定します。独立型関係の ID または名前の みを指定してください。

## 記述

このコマンドは、独立型関係に適用されます。整合性グループの一部である関連 に、このコマンドがアドレスされるとリジェクトされます。このコマンドで、1次 から2次にコピーしている関係を停止することができます。

関係が不整合状態の場合、あらゆるコピー操作は停止し、ユーザーが svctask startrcrelationship コマンドを発行するまで再開しません。書き込みアクティビテ ィーは、1次仮想ディスクから2次仮想ディスクへはもうコピーされません。 ConsistentSynchronized 状態での関係の場合、このコマンドにより、整合性の凍結が 生じます。

関係が整合した状態 (たとえば、ConsistentStopped、ConsistentSynchronized、または ConsistentDisconnected 状態) の場合、-access 引き数で stoprcrelationship コマンドを 発行して、2次仮想ディスクへの書き込みアクセスを可能にすることができます。

初期状態	最終状態	注
InconsistentStopped	InconsistentStopped	
InconsistentCopying	InconsistentStopped	
ConsistentStopped	ConsistentStopped	-access が使用可能
ConsistentSynchronized	ConsistentStopped	-access が使用可能
Idling	ConsistentStopped	-access が使用可能
IdlingDisconnected	変更なし	再接続時に、関係が停止状態に移行する可能性がある。
InconsistentDisconnected	InconsistentStopped	svctask stoprcrelationship コマン ドを発行するクラスター 上。

InconsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上。
ConsistentDisconnected	ConsistentStopped	svctask
		stoprcrelationship $\exists  \forall  \gamma$
		ドを発行するクラスター上
		では、-access が使用可能。
ConsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上で
		は、-access が使用可能。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

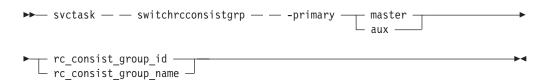
svctask stoprcrelationship rccopy1

### 結果出力

## switchrcconsistgrp

switchrcconsistgrp コマンドを使用して、リモート・コピー整合性グループが整合 した状態の場合に、その整合性グループ内の 1 次および 2 次仮想ディスクの役割 を逆にすることができます。この変更は、整合性グループ内のすべての関係に適用 されます。

## 構文



## パラメーター

**-primary** *master* ∣ *aux* 

グループ内の関係のマスター側または補助側のどちらが 1次 VDisk になるか を指定します。

rc consist group id | rc consist group name

切り替える整合性グループの ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、整合性グループに適用されます。このコマンドは、通常は、安全 なフェイルオーバーの一環として整合性グループ内の 1 次および 2 次仮想ディス クの役割を逆転するために発行されます。前の 1次 VDisk への書き込みアクセス は失われ、新しい 1次 VDisk ディスクへの書き込みアクセスが獲得されます。こ のコマンドが成功するのは、整合性グループが接続された整合状態であり、逆にす る際に関係の方向が整合性の喪失につながらない場合(すなわち、整合性グループ が整合した同期化状態の場合)のみです。よって、整合性グループが次のいずれか の状態の場合にのみ、このコマンドは成功します。

- · ConsistentSynchronized
- ConsistentStopped および Synchronized
- Idling および Synchronized

このコマンドが正常に終了すると、整合性グループは ConsistentSynchronized 状態に なります。 -primary 引き数に現行の 1 次仮想ディスクを指定すると、コマンドは 何の影響も及ぼしません。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

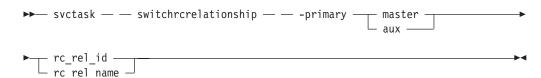
svctask switchrcconsistgrp -primary aux rccopy2

## 結果出力

## switchrcrelationship

switchrcrelationship コマンドを使用して、リモート・コピー関係が整合した状態 の場合に、その関係内の 1 次および 2 次仮想ディスクの役割を逆にすることがで

## 構文



## パラメーター

**-primary** *master* ∣ *aux* 

マスターもしくは補助のどちらを 1 次にするか指定します。

### rc\_rel\_id | rc\_rel\_name

切り替える関係の ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、独立型関係に適用されます。整合性グループに属する関係を切り 替えようとして、このコマンドを発行すると、リジェクトされます。このコマンド は、通常は、安全なフェイルオーバーの一環として関係または整合性グループ内の 1 次および 2 次仮想ディスクの役割を逆転することを目的としています。前の 1 次仮想ディスクへの書き込みアクセスは失われ、新しい 1 次仮想ディスクへの書き 込みアクセスが獲得されます。このコマンドが成功するのは、関係が接続された整 合状態であり、逆にする際に関係の方向が整合性の喪失につながらない場合 (すな わち、関係が整合した同期化状態の場合)のみです。よって、関係が次のいずれか の状態の場合にのみ、このコマンドは成功します。

- · ConsistentSynchronized
- ConsistentStopped および Synchronized
- Idling および Synchronized

このコマンドが正常に終了すると、関係は ConsistentSynchronized 状態になります。 -primary 引き数に現行の 1 次仮想ディスクを指定すると、コマンドは何の影響も及 ぼしません。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svctask switchrcrelationship -primary master rccopy2

# 結果出力

# 第 13 章 マイグレーション・コマンド

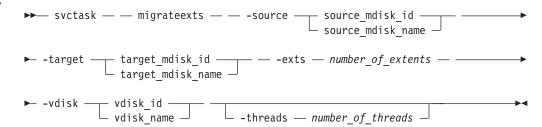
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでマイグレーション・オプションを操作できます。

- 172 ページの『migrateexts』
- 174ページの『migratevdisk』

## migrateexts

migrateexts コマンドを使用して、特定の管理対象ディスクから別の管理対象ディ スクに多数のエクステントをマイグレーションすることができます。

## 構文



## パラメーター

- -source source mdisk id | source mdisk name エクステントが現在配置されている MDisk を指定します。
- **-target** *target\_mdisk\_id* | *target\_mdisk\_name* エクステントのマイグレーション先の MDisk を指定します。
- **-exts** number of extents マイグレーションするエクステント数を指定します。
- -vdisk vdisk id | vdisk name エクステントが属する VDisk を指定します。

(オプション)。有効値は、 $1 \sim 4$ です。

**-threads** *number of threads* これらのエクステントのマイグレーション時に使用するスレッド数を指定します

# 記述

このコマンドは、仮想ディスクおよび仮想ディスクの作成に使用されているエクス テントを含む管理対象ディスクとして指定されたソースから、特定のエクステント の数をマイグレーションします。ターゲットは、(同じ管理対象グループ内の)管理 対象ディスクとして指定します。

多数のエクステントをマイグレーションする場合、始動するスレッド数を 1 ~ 4 の間で指定できます。これらのマイグレーションの進行は、svcinfo Ismigrate コ マンドで確認できます。

ターゲットの管理対象ディスクに十分なフリー・エクステントがない場合、 migrateext コマンドは失敗します。この問題を回避するには、migrateext が完了 するまではエクステントを使用する新規のコマンドを発行しないでください。

このコマンドは、svcinfo Isfreeextents コマンドと共に使用する必要があります。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786 クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5845 コマンドに指定されたオブジェクトが存在しないため、エクステン トはマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中の ため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5850E ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグ レーションされませんでした。
- CMMVC5851E ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマ イグレーションされませんでした。
- CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレー ションは失敗しました。
- CMMVC5859E イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステント をマイグレーション中にエラーが発生したため、マイグレーションは完了しませ んでした。
- CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステ ントがないため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5866E エクステントに内部データが含まれているため、エクステントは マイグレーションされませんでした。

## 例

### 呼び出し例

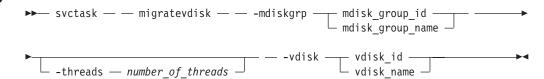
svctask migrateexts -vdisk vdisk4 -source mdisk4 -exts 64 -target mdisk6 -threads 4

### 結果出力

## migratevdisk

migratevdisk コマンドを使用して、1 つの管理対象ディスク・グループから別の管 理対象ディスク・グループに全体の仮想ディスクをマイグレーションすることがで

## 構文



## パラメーター

- -mdiskgrp mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name 新規の管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定できます。
- **-threads** *number\_of\_threads*

これらのエクステントのマイグレーション時に使用するスレッド数を指定します (オプション)。 1 ~ 4 スレッドを指定できます。デフォルトのスレッド数は 1 です。

-vdisk vdisk\_id | vdisk\_name

新規の管理対象ディスク・グループにマイグレーションする仮想ディスク の ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、指定された仮想ディスクを新規管理対象ディスク・グループにマ イグレーションします。仮想ディスクを作成するすべてのエクステントが、新規の 管理対象ディスク・グループのフリー・エクステントにマイグレーションされま す。

このコマンドにより、バックグラウンドで転送が完了する間に成功メッセージが戻 されます。 完了すると、in progress 戻りコードが戻されます。マイグレーションの 進行は、進行中のマイグレーションをリストする svcinfo Ismigrate コマンドを使 用して確認できます。

プロセスは、マイグレーション時に使用するスレッド数を指定することで優先順位 付けをすることができます。 1 スレッドのみの使用を指定した場合、システムへの バックグラウンド・ロードは最少です。

migratevdisk コマンドの実行中に、ターゲットの管理対象ディスクに十分なフリ ー・エクステントがない場合、このコマンドは失敗します。この問題を回避するに は、migratevdisk が完了するまではエクステントを使用する新規のコマンドを発行 しないでください。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5846E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想デ ィスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5847E この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされ ませんでした。
- CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中の ため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレー ションは失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、 アクションは失敗しました。
- CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステ ントがないため、マイグレーションは失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svctask migratevdisk -vdisk 4 -mdiskgrp Group $\theta$  -threads 2

### 結果出力

# 第 14 章 トレース・コマンド

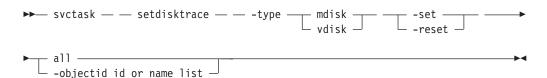
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでトレース・オプションを操作できます。

- 178 ページの『setdisktrace』
- 179ページの『settrace』
- 182 ページの『starttrace』
- 183 ページの『stoptrace』

### setdisktrace

setdisktrace コマンドを使用して、ディスク・トレースに含める特定タイプのディ スクのリストを設定することができます。

## 構文



## パラメーター

### -type mdisk | vdisk

ディスクのオブジェクト・タイプを指定します。

### -set

設定引き数を指定します。 -set および -reset 引き数は、相互に排他的です (同 時に使用できません)。

### -reset

リセット引き数を指定します。 -set および -reset 引き数は、相互に排他的です (同時に使用できません)。

### -all

特定タイプのすべてのディスクをトレースするよう指定します。 -objectid およ び -all 引き数は、相互に排他的です (同時に使用できません)。

### -objectid id\_or\_name\_list

1 つ以上の仮想ディスクの ID または名前のリストを指定します。 -objectid お よび -all 引き数は、相互に排他的です (同時に使用できません)。

## 記述

このコマンドは、指定タイプの 1 つ、複数、またはすべてのディスクのリストを設 定します。これにより、次回のトリガー・トレースに含められます。

このコマンドは、結果としてトレース・ファイルが生成されるオプションと、トレ ース・ファイルに含められるデータを設定する svctask settrace コマンドと共に 使用します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

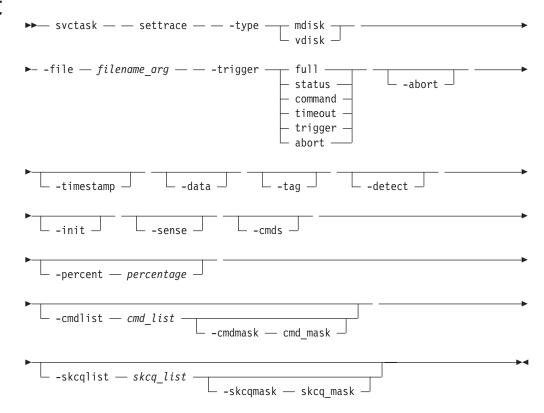
svctask setdisktrace -type mdisk -objectid mdisk1:mdisk3:mdisk11:mdisk10:mdisk9:mdisk5 -reset

### 結果出力

### settrace

settrace コマンドを使用して、システムを通して特定の入出力操作をトレースする 場合のオプションを設定できます。

## 構文



# パラメーター

- -type mdisk | vdisk
  - オプションが関係するオブジェクト・タイプを指定します。
- -file filename\_arg

トレース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。

**-trigger** full | status | command | timeout | trigger | abort

トリガー・オプション、つまりトレースが開始される (トリガーする) ときに行 うことを指定します。

full、status、および command オプションは、MDisk と VDisk の両方に有効で す。timeout および trigger オプションは、MDisk にのみ有効です。abort オプ ションは VDisk にのみ有効です。

- full = トレース・バッファーが満杯で停止したとき、つまり、折り返さない 場合。
- status = センス・データとして特定の SCSI 状況 (-skcqlist) が報告されたと
- command = 特定の SCSI コマンド (-cmdlist) が送られたとき。
- timeout = 974

- trigger = トリガー・イベント (つまり、折り返し) まで実行を続ける。
- abort = 打ち切りが起こったとき。

### -abort

トレースに打ち切りの詳細を加える、打ち切り引き数を指定します (オプショ ン)。この引き数は VDisk にのみ有効です。

### -timestamp

タイム・スタンプ・フラグを指定します (オプション)。トレース内の各項目に タイム・スタンプを付けます。ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作 成されます。ファイル名の形式は、<prefix> NN YYMMDD HHMMSS (NN (現 行の構成ノード ID) です。ファイルは、/dumps/iotrace ディレクトリーに作成さ れます。

### -data

I/O データをトレースに追加するデータ・フラグを指定します (オプション)。

### -tag

ccb tags フラグを指定します (オプション)。トレースに CCB タグを追加しま す。この引き数は MDisk に有効です。

### -detect

ディスカバリー・フラグを指定します (オプション)。MDisk のディスカバリー 詳細を MDisk のトレースに追加します。

### -init

MDisk 初期化の詳細を MDisk のトレースに追加する初期化フラグを指定しま す (オプション)。

### -sense

SCSI センス・データをトレースに追加するセンス・フラグを指定します (オプ ション)。このフラグは VDisk にのみ有効です。

### -cmds

コマンド・データをトレースに追加するコマンド・フラグを指定します (オプシ ョン)。このフラグは VDisk にのみ有効です。

### -percent

トレース・ファイル内のどこに、選択したトリガー・ポイントを置くかを指定し ます (オプション)。つまり、このフラグは、トリガー・ポイントの後にどのく らいのデータを集めるかを指定します。デフォルトは50%で、この場合、トリ ガー・ポイントはトレース・ファイルの中央に置かれます。

### -cmdlist cmd list

コマンド・リストを指定します (オプション)。指定されたコマンドのみがトレ ース・ファイルに追加されます。

### -cmdmask cmd mask

コマンド・マスクを指定します (オプション)。指定されたコマンドのみがトレ ース・ファイルに追加されます。この引き数を入力できるのは、-cmdlist 引き数 も入力した場合に限られます。

### -skcqlist skcq\_list

SKCQ リストを指定します (オプション)。リストされた SKCQ の詳細のみがト レース・ファイルに追加されます。

### -skcqmask skcq\_mask

SKCQ マスクを指定します (オプション)。指定された SKCQ の詳細のみがトレ ース・ファイルに追加されます。この引き数を入力できるのは、-skcqlist 引き数 も入力した場合に限られます。

## 記述

1

ı ı

このコマンドは、特定のディスク・タイプ (管理対象ディスクまたは仮想ディスク) についてのさまざまな I/O トレース・オプションを設定します。関連するディス ク・タイプのトレースがその後トリガーされると、オプションは、ユーザーがトレ ース・ファイルに含めるデータを指定します。

ファイル名は、トレース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。システム が、ノード・パネル名とタイム・スタンプをファイル名に付加します。ノード ID は、現行の構成ノードです。

最大で 10 個のトレース・ファイルがクラスターで保持されます。 11 番目のトレ ースが作成されると、もっとも古い既存のトレース・ファイルが上書きされます。

ディレクトリーが他のノードから検索されたファイルを保持することもあります。 これらのファイルは、カウントされません。 SVC は、ファイルの最大数を維持す るために、必要な場合は最も古いファイルを削除します。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。

## 例

### 呼び出し例

svctask settrace -type vdisk -file tracedump -trigger abort -percent 100 -abort -timestamp

### 結果出力

### starttrace

starttrace コマンドを使用して、特定のオブジェクト・タイプ用に現在設定されて いるオプションおよびトレース対象のディスクのリストに基づいて、入出力操作の トレースを開始することができます。

## 構文

▶ svctask — starttrace — -type - mdisk - vdisk -

## パラメーター

-type mdisk | vdisk トリガーするオブジェクト・タイプを指定します。

## 記述

このコマンドは、I/O トレース情報の収集を開始します。トレース・ファイルは、 svctask settrace コマンドで指定したオプションに従って生成されます。トレース されるディスクは、svctask setdisktrace コマンドで設定されたリストに示されて いるディスクです。

トレースは、/dumps/iotrace ディレクトリーに書き込まれます。このディレクトリー の内容を確認するには、svcinfo Isiotracedumps コマンドを使用してください。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5809E I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでし
- CMMVC5986E 仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を 戻さなかったため、入出力操作のトレースは開始されませんでした。

## 例

### 呼び出し例

svctask starttrace -type vdisk

### 結果出力

## stoptrace

stoptrace コマンドを使用して、特定のディスク・タイプのトレースを停止するこ とができます。

## 構文



## パラメーター

**-type** *mdisk* | *vdisk* 

トレースを停止するオブジェクト・タイプを指定します。

## 記述

このコマンドは、特定のオブジェクト・タイプの入出力操作のトレースを停止しま す。トリガー・オプションが適合していない場合、svctask stoptrace コマンドを 発行してもトレース・ファイルを得られない可能性があります。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svctask stoptrace -type mdisk

### 結果出力

# 第 15 章 -filtervalue 引き数の属性

-filtervalue 引き数を使用して、それぞれのオブジェクト・タイプに関連した特定の属性値に基づいてビューをフィルターに掛けることができます。複数のフィルターを結合して、特定のサーチを作成できます。例: -filtervalue name=fred:status=online ヘルプ (-filtervalue?) は、それぞれのオブジェクト・タイプごとに有効な属性を指定します。

-filtervalue 引き数を使用する場合、attrib=value を入力する必要があります。 -filtervalue? および -filtervalue 引き数は、相互に排他的です (同時に使用できません)。

注: < と > の修飾子は、引用符で囲みます。たとえば、次のとおりです。

-filtervalue vdisk count "<"4 or port count ">"1

引用符で全体を囲む表記方法も有効です。たとえば、次のとおりです。

-filtervalue "vdisk\_count<4"

属性に -unit 引き数を必要とする場合は、属性の後に指定します。たとえば、次のとおりです。

-filtervalue capacity=24 -unit mb

-unit パラメーターには、次の入力オプションを使用できます。

- b (バイト数)
- mb (メガバイト数)
- gb (ギガバイト数)
- tb (テラバイト数)
- pb (ペタバイト数)

ワイルドカードの「\*」文字は、テキスト・ストリングの先頭または末端に使用できますが、先頭と末端の両方には使用できません。

表 5. 有効なフィルター属性

オブ	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが	説明
ジェクト			有効か	
cluster	cluster_name または name	=	有効	クラスター名。
	cluster_unique _id または id	=, <, <=, >, >=	無効	クラスター ID。

1

Ī

表 5. 有効なフィルター属性 (続き)

オブ ジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが 有効か	説明
node	node_nameまた は name	=	有効	ノード名。
	id	=, <, <=, >, >=	無効	ノード ID。
	status	=	無効	ノードの状況。
				ノード状況に有効な入力オ プション:
				• adding
				deleting
				online
				offline
				pending
	IO_group_	=	有効	I/O グループ名。
	name			
	IO_group_id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループ ID。
io_grp	HWS_name また は name	=	有効	I/O グループ名。
	HWS_unique_ id または id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループ ID。
	node_count	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループのノード数。
コントローラー	controller_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	コントローラー ID。
mdisk	name	=	有効	MDisk の名前。
	id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk Ø ID。
	controller_ name	=	有効	MDisk が属しているコント ローラーの名前。
	status	=	無効	MDisk の状況。
	status	_	700 700 100 100 100 100 100 100 100 100	
				MDisk 状況に有効な入力オ プション:
				• online
				degraded
				excluded
				• offline
	モード	=	無効	MDisk のモード。
				MDisk モードに有効な入力 オプション:
				unmanaged
				managed
				• image
	mdisk_grp_ name	=	有効	MDisk グループ名。
	mdisk_grp_id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	capacity	=, <, <=, >, >=	無効	容量。-unit 引き数が必要です。

表 5. 有効なフィルター属性 (続き)

オブ ジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが 有効か	説明
				MDisk グループ名。
mdiskgrp	name	=	有効	
	storage_pool_ id または id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	mdisk_count	=, <, <=, >, >=	無効	グループ内の MDisk の 数。
	vdisk_count	=, <, <=, >, >=	無効	グループ内の VDisk の数。
	status	=	無効	MDisk グループの状況。有 効な入力オプション:
				• online
				• degraded
				• offline
	extent_size	=, <, <=, >, >=	無効	エクステント・サイズ (MB)。
vdisk	vdisk_name また は name	=	有効	VDisk の名前。
	vdisk_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	VDisk Ø ID。
	IO_group_ name	=	有効	I/O グループの名前。
	IO_group_id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループの ID。
	status	=	無効	VDisk の状況。
				VDisk 状況に有効な入力オ プション: • online • degraded • offline
	mdisk_grp_ name	=	有効	MDisk グループ名。
	mdisk_grp_id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	capacity	=, <, <=, >, >=	無効	容量。-unit 引き数が必要 です。
	type	=	無効	VDisk のタイプ。有効な値 オプション: • seq
				• striped
	EC mon-		右効	・ image
	FC_name FC_id	=, <, <=, >, >=	有効 無効	FlashCopy マッピング名。 FlashCopy マッピング ID。
	RC_name	=	有効	リモート・コピー関係の名前。
	RC_id	=, <, <=, >, >=	無効	リモート・コピー関係の ID。

表 5. 有効なフィルター属性 (続き)

オブ ジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが 有効か	説明
host	host_name また は name	=	有効	ホスト名。
	host_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	ホスト ID。
	port_count	=, <, <=, >, >=	無効	ポート数。
fcmap	FC_mapping_ name または name	=	有効	FlashCopy マッピング名。
	FC_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	FlashCopy マッピング ID。
	source_vdisk_ name	=	有効	ソース VDisk 名。
	source_vdisk_ id	=, <, <=, >, >=	無効	ソース VDisk ID。
	target_vdisk_ name	=	有効	ターゲット VDisk 名。
	target_vdisk_ id	=, <, <=, >, >=	無効	ターゲット VDisk ID。
	group_name	=	有効	整合性グループ名。
	group_id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ ID。
	status	=	無効	マッピング状況。 fcmap 状況に有効な入力オプション: idle_copied preparing copying stopped suspended
	copy_rate	=, <, <=, >, >=	無効	バックグラウンド・コピー 率。
fcconsist- grp	name FC_group_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ名。 整合性グループ ID。
	status	=	無効	整合性グループ状況。有効な値オプション: ・ idle_or_copied ・ preparing ・ prepared ・ copying ・ stopped ・ suspended

表 5. 有効なフィルター属性 (続き)

オブ ジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが 有効か	説明
rcrelation- ship	RC_rel_id また は id	=, <, <=, >, >=	無効	リモート・コピー関係の ID。
	RC_rel_name または name	=	有効	リモート・コピー関係の名前。
	master_cluster	=, <, <=, >, >=	無効	マスター・クラスター ID。
	master_cluster _name	=	有効	マスター・クラスター名。
	master_vdisk_ id	=, <, <=, >, >=	無効	マスター VDisk ID。
	master_vdisk_ name	=	有効	マスター VDisk 名。
	aux_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX クラスター ID。
	aux_cluster_ name	=	有効	AUX クラスター名。
	aux_vdisk_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX VDisk ID。
	aux_vdisk_ name	=	有効	AUX VDisk 名。
	primary	=	無効	関係における 1 次 VDisk。有効な入力値: • master
				• aux
	consistency_ group_id	=, <, <=, >, >=	無効	リモート・コピー整合性グ ループの ID。
	consistency_ group_name	=	有効	リモート・コピー整合性グ ループの名前。
	状態	=	有効	関係の状態。有効な入力値:
				<ul><li>inconsistent_stopped</li><li>inconsistent_copying</li></ul>
				<ul><li>consistent_stopped</li><li>consistent_</li></ul>
				synchronised
				idling     idsconnected
				• inconsistent_ disconnected
				consistent_     disconnected
	progress	=, <, <=, >, >=	無効	その関係に対するイニシャ ル・バックグラウンド・コ ピー (同期化) の進行状
				況。

表 5. 有効なフィルター属性 (続き)

オブ ジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが 有効か	説明
rcconsist- grp	group_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ ID。
	name	=	有効	整合性グループ名。
	master_cluster _id	=, <, <=, >, >=	無効	マスター・クラスター ID。
	master_cluster _name	=	有効	マスター・クラスター名。
	aux_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX クラスター ID。
	aux_cluster_ name	=	有効	AUX クラスター名。
	primary	=	無効	整合性グループ内の 1 次 VDisk。有効な入力値: ・ master ・ aux
	状態		無効	整合性グループの状態。有 効な入力値:  inconsistent_stopped  inconsistent_copying  consistent_stopped  consistent_stopped  consistent_synchronised  idling  idling_ disconnected  inconsistent_ disconnected  consistent_ disconnected  empty
	relationship_ count	=, <, <=, >, >=	無効	関係数。

## 関連トピック:

・ xii ページの『SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用』

# 第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要

ダンプ・リスト・コマンドを使用すると、該当のディレクトリーにダンプのリスト を戻すことができます。

SAN ボリューム・コントローラーのダンプは、次のディレクトリー構造に入っています。

- /dumps
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- · /dumps/feature
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace

ソフトウェア・アップグレード・パッケージは、/home/admin/upgrade ディレクトリーに含まれています。これらのディレクトリーは、クラスター内の各ノードに存在します。

構成ダンプ: /dumps/configs ディレクトリーに入っているのは、クラスター構成データのダンプです。構成ダンプは、svctask dumpconfig コマンドによって作成されます。このコマンドは、オブジェクトのすべての詳細情報を含むクラスターの構成を /dumps/configs ディレクトリーにダンプします。ファイル名の接頭部を指定しないと、デフォルトの config\_ が使用されます。デフォルトのフル・ファイル名は、config\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS (NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名)です。コマンドを -prefix オプションで使用する際に、 -prefix に入力した値は、config の代わりに使用されます。 /dumps/configs ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、svcinfo Isconfigdumps です。

**エラーまたはイベント・ログ:** /dumps/elogs ディレクトリーには、ダンプが行われた時のエラーおよびイベント・ログの内容のダンプが入っています。エラーまたはイベント・ログ・ダンプは、**svctask dumperrlog** コマンドによって作成されます。このコマンドは、エラーまたはイベント・ログの内容を /dumps/elogs ディレクトリーにダンプします。ファイル名の接頭部を指定しないと、デフォルトの errlog\_ が使用されます。デフォルトのフル・ファイル名は、

errlog\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS (*NNNNNN* は、ノードのフロント・パネル名) です。コマンドを -prefix オプションで使用する際に、 errlog ではなく、-prefix で入力した値が使用されます。 /dumps/elogs ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、 **svcinfo lserrlogdumps** です。

フィーチャー設定ログ・ダンプ: /dumps/feature ディレクトリーに入っているのは、フィーチャー設定ログのダンプです。フィーチャー設定ログ・ダンプは、svctask dumpinternallog コマンドによって作成されます。このコマンドは、フィーチャー設定ログの内容を、/dumps/feature ディレクトリー内の feature.txt ファイルにダンプします。このファイルは 1 つしかないので、svctask dumpinternallog コマンドを実行するたびに、このファイルが上書きされます。 /dumps/feature ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、 svcinfo Isfeaturedumps です。

I/O 統計ダンプ: /dumps/iostats ディレクトリーに入っているのは、クラスター上の ディスクの I/O 統計データのダンプです。 I/O 統計ダンプは、svctask startstats コマンドによって作成されます。このコマンドで、統計データをファイルに書き込 む時間間隔を指定できます (デフォルトは 15 分)。この時間間隔で、それまで収集 されていた I/O 統計が、/dumps/iostats ディレクトリー内のファイルに書き込まれま す。 I/O 統計情報ダンプが保管されるファイルの名前は、

m\_stats\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS、

Nm\_stats\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS、または

v stats NNNNNN YYMMDD HHMMSS (NNNNNN はノードのフロント・パネル名) です。どちらのファイルが使用されるかは、その統計情報が MDisk のものか、それ とも VDisk のものかによります。 /dumps/iostats ディレクトリー内のすべてのダン プをリストするコマンドは、 svcinfo Isiostatsdumps です。

I/O トレース・ダンプ: /dumps/iotrace ディレクトリーに入っているのは、I/O トレ ース・データのダンプです。トレースされるデータのタイプは、svctask settrace コマンドによって指定されたオプションによります。 I/O トレース・データの収集 は、svctask starttrace コマンドの使用によって開始されます。I/O トレース・デ ータ収集は、svctask stoptrace コマンドが使用されるときに停止します。データ がファイルに書き込まれるのは、トレースが停止したときです。データが書き込ま れるファイルの名前は、<prefix>\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS です (NNNNNN) はノードのフロント・パネル名で、<prefix> は、svctask settrace コマンドでユー ザーが -filename パラメーターに入力した値) です。 /dumps/iotrace ディレクトリー 内のすべてのダンプをリストするコマンドは、 svcinfo Isiotracedumps です。

アプリケーション異常終了ダンプ: /dumps ディレクトリーに入っているのは、アプ リケーションの異常終了の結果、生成されたダンプです。このようなダンプ は、/dumps ディレクトリーに書き込まれます。デフォルトのファイル名は、 dump.NNNNNN.YYMMDD.HHMMSS (NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名) です。ダンプ・ファイルに加えて、幾つかのトレース・ファイルがこのディレクト リーに書き込まれる場合があります。それらのトレース・ファイルには、 NNNNNN.trc という名前が付きます。

/dumps ディレクトリーにすべてのダンプをリストするコマンドは svcinfo Issvcdumps です。

ダンプ・リスト・コマンドの最後のオプションは、svcinfo Issoftwaredumps コマ ンドです。このコマンドは、/home/admin/upgrade ディレクトリーの内容をリストし ます。このディレクトリー内のすべてのファイルは、ソフトウェアをアップグレー ドするときに、このディレクトリーにコピーされたものです。

ダンプ・リスト・コマンドは、すべてノード ID を入力として受け付けます。この ID が指定されなかった場合、現行の構成ノード上のファイルのリストが表示されま す。ノード ID が指定された場合は、そのノード上のファイルのリストが表示され ます。

ファイルは (セキュア・コピーを利用して) 現行の構成ノードからのみコピーできる ので、svctask cpdumps コマンドを発行して、ファイルを非構成ノード・ファイ ルから現行の構成ノードにコピーできます。

# 第 17 章 情報コマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで特定タイプの情報を表示することができます。

注: ID は実行時にシステムによって割り当てられますが、その後、構成回復時に、そのまま同じ ID が維持されるとは限りません。したがって、オブジェクトに関する作業をするときは、ID より優先してオブジェクト名を使用してください。

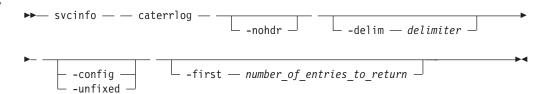
- 195ページの『caterrlog』
- 197ページの『caterrlogbyseqnum』
- 199 ページの『Is2145dumps』
- 201ページの『Iscluster』
- 205 ページの『Isclustercandidate』
- 207ページの『Isconfigdumps』
- 209 ページの『Iscontroller』
- 212 ページの『Iserrlogbyfcconsistgrp』
- 214 ページの『Iserrlogbyfcmap』
- 216ページの『Iserrlogbyhost』
- ・ 218ページの『Iserrlogbyiogrp』
- 220ページの『Iserrlogbymdisk』
- 222ページの『Iserrlogbymdiskgroup』
- 224 ページの『Iserrlogbynode』
- 226ページの『Iserrlogbyrcconsistgrp』
- 228 ページの『Iserrlogbyrcrelationship』
- 230ページの『Iserrlogbyvdisk』
- 232ページの『Iserrlogdumps』
- 234 ページの『Isfcconsistgrp』
- 236ページの『Isfcmap』
- 239 ページの『Isfcmapcandidate』
- 241ページの『Isfcmapprogress』
- 243 ページの『Isfeaturedumps』
- 245 ページの『Isfreeextents』
- 247 ページの『Ishbaportcandidate』
- 248 ページの『Ishost』
- 250ページの『Ishostvdiskmap』
- 252 ページの『Isiogrp』
- 254 ページの『Isiogrpcandidate』
- 256ページの『Isiostatsdumps』

- 258 ページの『Isiotracedumps』
- 260ページの『Islicense』
- 262 ページの『Ismdisk』
- 266 ページの『Ismdiskcandidate』
- 268 ページの『Ismdiskextent』
- 271ページの『Ismdiskgrp』
- 274 ページの『Ismdiskmember』
- 276ページの『Ismigrate』
- 277 ページの『Isnode』
- 280 ページの『Isnodecandidate』
- 281ページの『Isnodevpd』
- 285 ページの『Isrcconsistgrp』
- 288 ページの『Isrcrelationship』
- 291 ページの『Isrcrelationshipcandidate』
- 293 ページの『Isrcrelationshipprogress』
- 295 ページの『Issoftwaredumps』
- 297 ページの『Issshkeys』
- 299 ページの『Istimezones』
- 301 ページの『Isvdisk』
- 304 ページの『Isvdiskextent』
- 307ページの『Isvdiskhostmap』
- 309 ページの『Isvdiskmember』
- 312 ページの『Isvdiskprogress』
- 314 ページの『showtimezone』

### caterrlog

caterrlog コマンドを使用して、クラスター・エラーおよびイベントのログの内容を表示することができます。

# 構文



### パラメーター

### -nohdr

デフォルトでは、見出しの表示は、データの列ごとの場合 (簡略形式のビューで特定のタイプのオブジェクトについて概略情報を提供) とデータの項目ごとの場合があります (詳細形式のビューで特定のタイプのオブジェクトについて詳細情報を提供)。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### -config

構成イベントをリスト表示するように指定します (オプション)。

#### -unfixed

未修正エラーをリスト表示するように指定します (オプション)。

#### **-first** *number\_of\_entries\_to\_return*

ログ内に最初のn個の項目を表示するように指定します(オプション)。ここで、nは、ユーザーが-first フラグに入力する引き数の値です。

# 記述

このコマンドは、指定されたエラー・ログ項目のリストを戻します。フラグを 1 つも渡さないと、すべてのエラー・ログ項目がリストされます。

リストは、-config または -unfixed 引き数を指定することで、構成イベントのみ、もしくは未修正エラーのみを含めるようにフィルターに掛けることができます。

-first パラメーターを使用すると、最初のx個のレコードが表示されます (x は、-first パラメーターの引き数として入力した数)。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo caterrlog -delim:

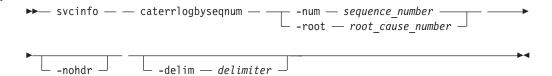
#### 結果出力

```
id:type:fixed:SNMP trap raised:error type:node name:sequence number:
root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code
0:cluster:no:no:6:node1:100:100:030407052547:030407052547:1:00981001
0:fc card:no:no:1:node1:101:101:030407052547:030407052547:1:00073001
1:node:no:no:1:node1:102:102:030407052547:030407052547:1:00074001
0:cluster:no:no:6:node1:103:100:030407052547:030407052547:1:00981001
1:fc card:no:no:1:node1:104:104:030407052632:030407052632:1:00073003
0:node:no:no:6:node1:105:105:030407082202:030407082717:2:00980500
2:remote:no:no:6:n/a:106:106:030407090117:030407090117:1:00985002
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407052546:030407052546:1:00990383
0:cluster:no:no:5:node1:0:0:030407080630:030407080630:1:00990117
0:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990148
128:mdisk grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990173
1:mdisk grp:no:no:5:node1:0:0:030407081619:030407081619:1:00990148
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081836:030407081836:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081843:030407081843:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081854:030407081854:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082015:030407082015:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082145:030407082145:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082148:030407082148:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082158:030407082158:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082213:030407082213:1:00990169
0:host:no:no:5:node1:0:0:030407082441:030407082441:1:00990106
1:host:no:no:5:node1:0:0:030407082457:030407082457:1:00990106
2:host:no:no:5:node1:0:0:030407082523:030407082523:1:00990106
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407082704:030407082704:1:00990184
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082716:030407082716:1:00990501
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082722:030407082722:1:00990501
1:fc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407083141:030407083141:1:00990204
2:fc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407083143:030407083143:1:00990204
3:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083145:030407083145:1:00990204
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083318:030407083318:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083355:030407083355:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407085753:030407085753:1:00990185
1:remote:no:no:5:node1:0:0:030407085932:030407085932:1:00990225
2:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407085959:030407085959:1:00990169
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090004:030407090004:1:00990169
4:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090013:030407090013:1:00990169
2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090106:030407090106:1:00990225
255:rc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407090323:030407090323:1:00990240
254:rc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407090327:030407090327:1:00990240
253:rc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407090333:030407090333:1:00990240
2:remote:no:5:node1:0:0:030407090442:030407090442:1:00990226
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090820:030407090820:1:00990182
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090825:030407090825:1:00990182
```

### caterrlogbyseqnum

caterrlogbyseqnum コマンドを使用すると、ユーザーの指定に従い、すべてのエラ ーをシーケンス番号、または根本原因番号と共に表示します。

# 構文



### パラメーター

#### **-num** sequence number

表示するシーケンス番号を指定します。

#### **-root** root cause number

根本原因番号を指定します。この根本原因のマークが付いたすべてのエラーが表 示されます。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、-num 引き数によって渡されたシーケンス番号で指定されたとお り、単一のエラー・ログ項目を戻します。

-root 引き数を使用すると、ログ内で、指定された根本原因番号が付いたすべての項 目が検索されます。そして、この根本原因のマークが付いたすべての項目のリスト が戻されます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo caterrlogbyseqnum -num 100 -delim :

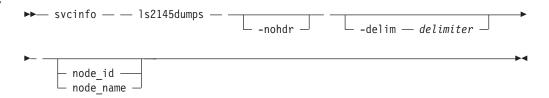
### 結果出力

 $\verb|id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:|\\$ root\_sequence\_number:first\_timestamp:last\_timestamp:number\_of\_errors:
error\_code 0:cluster:no:no:6:node1:100:100:030407052547:030407052547:1:00981001

# ls2145dumps

Is2145dumps コマンドを使用して、/dumps ディレクトリーからダンプのリストを 入手できます。

# 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### node id I node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

# 記述

このコマンドは、ノードの assert ダンプおよび関連する出力ファイルのリストを戻 します。これらのダンプは、ノードのアサーションの結果、作成されます。ノード を指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンド は、/dumps ディレクトリー内のファイルを表示します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo ls2145dumps -delim :

### 結果出力

id:filename 0:000108.trc.old 1:dump.000108.030328.144007 2.000108.trc

# 関連トピック

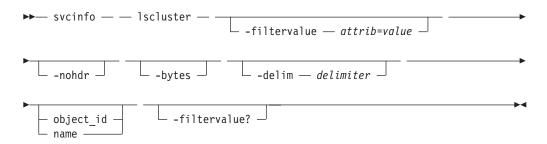
• 191 ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

### **Iscluster**

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. すべてのクラスターに関する簡略的な情報が含まれるリスト。 (リスト内のそれ ぞれの項目は、単一のクラスターに対応します。)
- 2. ユーザー指定の単一クラスターに関する詳細情報。

# 構文



# パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim:と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

### object\_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。

このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Iscluster コマンド用 の有効なフィルターは、次のとおりです。

- cluster\_name
- · cluster\_unique\_id
- id
- name

### 記述

このコマンドは、クラスターの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

location	local, remote
statistics status	on, off
SNMP setting	none, all, hardware_only

location、partnership、および bandwidth フィールドは、2 つのクラスターの SAN ファブリックがリンクされている リモート・コピー構成に関連します。協力関係を ローカル・クラスターから部分的にでも確立したなど、mkpartnership コマンドがロ ーカル・クラスターからリモート・クラスターに対して発行された場合、リモー ト・クラスターに関する情報は、Iscluster コマンドでレポートされます。

svcinfo Iscluster コマンドを実行すると、クラスターのビューを簡略的に表示でき ます。

svcinfo lscluster -delim: 10030a007e5

ここで、10030a007e5 は、クラスターの名前です。このコマンドの出力には、ファ ブリック上の各クラスターについて次の内容が含まれます。

- クラスター ID
- クラスター名
- クラスター IP アドレス
- クラスター保守モードの IP アドレス

リモート・クラスターの場合、これらのフィールドは、次のものを示します。

location: remote

partnership: partially\_configured (mkpartnership コマンドは、ローカル・クラスター からリモート・クラスターに対してのみ発行されました)

fully configured (mkpartnership コマンドは、双方向に発行されました) bandwidth: MB/sec (バックグラウンド・コピーのクラスター間リンクで 使用可能な帯域幅)

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

#### 簡略呼び出し例

svcinfo lscluster -delim:

### 簡略結果出力

id:name:location:partnership:bandwidth:cluster IP address: id:name:location:partnership:bandwidth:cluster\_IP\_address: cluster service ip address:id alias 0000020062813ABA:clusterA:local:::9.20.247.210:1.1.1.1:0000020062813ABA 0000020062006746:clusterB:remote:fully\_configured:50:9.20.247.211: 1.1.1:0000020062006746

# 例

#### 詳細な呼び出し例

svcinfo lscluster -delim: 10030a007e5

### 詳細な結果出力

id:1521071282978998 name:cluster1 location:local partnership: bandwidth: cluster\_IP\_address:9.20.165.16 cluster\_service\_IP\_address:9.20.165.17 total mdisk capacity:59.8GB space\_in\_mdisk\_grps:0 space\_allocated to vdisks:0
total\_free\_space:59.8GB statistics\_status:on statistics\_frequency:300 required memory:1280 subnet\_mask:255.255.255.0 default\_gateway:9.20.165.1 cluster\_locale:en\_US SNMP\_setting:snmp\_all SNMP\_community: SNMP\_server\_IP\_address:9.20.165.18 time\_zone:522\_UTC email setting:all email id:another@uk.ibm.com code Tevel:1.20abcG FC port speed:1Gb id alias:1521071282978998

# 例

clusterA が clusterB に対して mkpartnership を発行し、クラスター間帯域幅が 50 MB/s に設定された、リモート・コピー構成の簡略的呼び出し例

svcinfo lscluster -delim:

#### 簡略結果出力

id:name:location:partnership:bandwidth:
 cluster IP address:cluster service IP address 0000020062813ABA:clusterA:local:::9.20.247.210:1.1.1.1 0000020062006746:clusterB:remote: fully\_configured:50:9.20.247.211:1.1.1.1

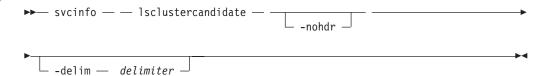
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

### **Isclustercandidate**

Isclustercandidate コマンドを使用して、2 つのクラスターの協力関係をセットアップするのに使用可能なクラスターをリストします。これは、リモート・コピー関係を作成するときの前提条件です。

# 構文



# パラメーター

### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、2 つのクラスター間でリモート・コピー協力関係を形成するために、パートナー・クラスターの候補として使用できるクラスターのリストを戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo lsclustercandidate

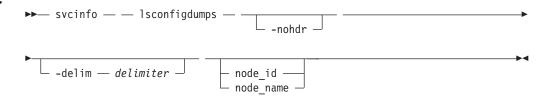
#### 結果出力

id configured cluster\_name 0000010034E0F430 no ldcluster26

# **Isconfigdumps**

Isconfigdumps コマンドを使用して、保守モードのノードにある構成ダンプのリス トを表示することができます。

# 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### node id I node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

# 記述

このコマンドは、構成ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、svctask dumpconfig コマンドを発行した結果、作成されたものです。構成ダンプには、ク ラスターの構成が記述されています。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効 なダンプが表示されます。このコマンドは、/dumps/configs ディレクトリー内のファ イルを表示します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsconfigdumps

### 結果出力

id

config\_filename
config\_lynn02\_030403\_101205

# 関連トピック

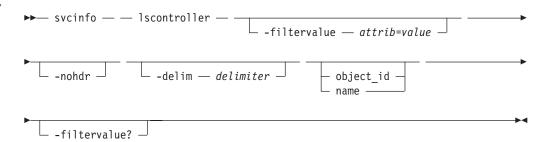
• 191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

### Iscontroller

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. コントローラーに関する簡略的な情報が含まれるリスト。 (リスト内のそれぞれ の項目は、1 つのコントローラーに対応します。)
- 2. ユーザー指定の単一コントローラーに関する詳細情報。

# 構文



# パラメーター

#### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### object id I name

コントローラーの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、 特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Iscontroller コマンド 用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- · controller id
- id

### 記述

このコマンドは、クラスターが認識できるコントローラーの簡略リストもしくは詳 細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

degraded no, yes

SAN ボリューム・コントローラー名からストレージ・コントローラー名を判別する : svcinfo Iscontroller コマンドを実行して、ストレージ・コントローラーをリスト します。判別したいコントローラーのコントローラー名または ID を確認します。 当該コントローラーについて、svcinfo Iscontroller <controllername/id> コマン ドを実行します。ここで、<controllername/id> は、コントローラーの名前または ID です。コントローラーの WWNN を確認します。これは書き留めておいてくださ い。WWNN は、実際のストレージ・コントローラーを確認するときに使用できま す。ネイティブのコントローラー・ユーザー・インターフェースを起動するか、ま たは提供されているコマンド行ツールを使用すると、この WWNN が使用されてい る実際のコントローラーを確認できます。

**MDisk** と **RAID** アレイまたは **LUN** の関係を判別する: 各 MDisk は、単一の RAID アレイ、または与えられた RAID アレイ上の単一の区画に対応します。各 RAID コントローラーは、このディスクの LUN 番号を定義します。MDisk と RAID アレイまたは区画とのあいだの関係を判別するのに、LUN 番号とコントロー ラー名または ID が必要になります。

svcinfo lsmdisk <mdiskname> コマンドを実行して、与えられた MDisk <mdiskname> の詳細表示を表示します。ここで、<mdiskname> は、MDisk の名前 です。

注: コントローラー名またはコントローラー ID、およびコントローラーの LUN 番 号を確認します。

svcinfo Iscontroller <controllername> コマンドを実行して、判別したコントロ ーラーの詳細表示を表示します。ここで、<controllername> は、コントローラーの 名前です。

注: ベンダー ID、製品 ID、および WWNN を確認します。これを使用して、 MDisk に提示される内容を確認します。

与えられたコントローラーのネイティブ・ユーザー・インターフェースを使用し て、提示対象の LUN をリストし、LUN 番号を確認します。この操作により、 MDisk に対応する RAID アレイまたは区画を正確に知ることができます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lscontroller -delim :

### 簡略結果出力

```
\label{lem:controller_name:ctrl_s/n:vendor_id:product_id_low:product_id_high $7$:controller7:3EK0J5Y8:SEAGATE :ST373405:FC
8:controller8:3EK0J6CR:SEAGATE :ST373405:FC
9:controller9:3EK0J4YN:SEAGATE :ST373405:FC
10:controller10:3EK0GKGH:SEAGATE :ST373405:FC
11:controller11:3EK0J85C:SEAGATE :ST373405:FC
12:controller12:3EK0JBR2:SEAGATE :ST373405:FC
13:controller13:3EKYNJF8:SEAGATE :ST373405:FC
14:controller14:3EK0HVTM:SEAGATE :ST373405:FC
```

# 例

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lscontroller -delim = 7

### 詳細な結果出力

controller name=controller7 WWNN=20000004CF2412AC mdisk\_link\_count=1 max\_mdisk\_link\_count=1 degraded=no vendor id=SEAGATE product id low=ST373405 product\_id\_high=FC product\_revision=0003 ctrl s/n=3EK0J5Y8 WWPN=22000004CF2412AC path count=1 max path count=1 WWPN=21000004CF2412AC path count=0 max\_path\_count=0

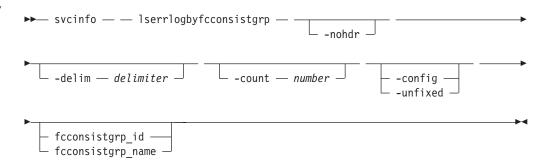
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

# Iserrlogbyfcconsistgrp

Iserrlogbyfcconsistgrp コマンドを使用して、FlashCopy 整合性グループごとのエ ラー・ログを表示することができます。

# 構文



# パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます(たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

#### -unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリ ストします。

### fcconsistgrp\_id | fcconsistgrp\_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

# 記述

このコマンドを実行すると、FlashCopy 整合性グループに関連したログ内のエラー とイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前 を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定 したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されま す。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントも しくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることも できます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する 最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyfcconsistgrp -delim :

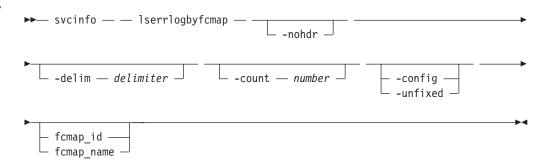
#### 結果出力

id:type:fixed:SNMP trap raised:error type:node name:sequence number: root\_sequence\_number:first\_timestamp:last\_timestamp:number\_of\_errors:error\_code 3:fc\_const\_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083145:030407083145:1:00990204 2:fc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407083143:030407083143:1:00990204 1:fc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407083141:030407083141:1:00990204

# Iserrlogbyfcmap

このコマンドは、FlashCopy マッピングごとのエラー・ログを表示します。

# 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプシ ョン)。 -count は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -confia

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 -config が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリス トします。

#### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリス トします。

#### fcmap id | fcmap name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

### 記述

このコマンドは、FlashCopy マッピングに関連したログ内のエラーとイベントのリ ストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定すること で、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェク トについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定 のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正工 ラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様 に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項 目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyfcmap -delim :

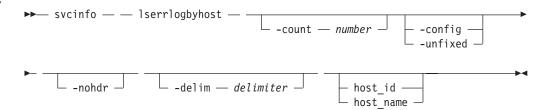
### 結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number of errors:error code
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407085753:030407085753:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083355:030407083355:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083318:030407083318:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407082704:030407082704:1:00990184
```

# Iserrlogbyhost

Iserrlogbyhost コマンドを使用して、ホストごとのエラー・ログを表示することが できます。

# 構文



# パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

#### -unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリ ストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### host id | host name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

# 記述

このコマンドは、ホストに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示しま す。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィ ルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログ に記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェク ト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表 示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオ ブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストす ることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyhost -delim :

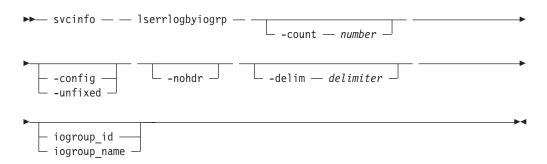
### 結果出力

id:type:fixed:SNMP\_trap\_raised:error\_type:node\_name:sequence\_number: root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 2:host:no:no:5:node1:0:0:030407082523:030407082523:1:00990106 1:host:no:no:5:node1:0:0:030407082457:030407082457:1:00990106 0:host:no:no:5:node1:0:0:030407082441:030407082441:1:00990106

# Iserrlogbyiogrp

lserrlogbyiogrp コマンドを使用して、I/O グループごとのエラー・ログを表示する ことができます。

# 構文



# パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -confia

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き 数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみ をリストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### iogroup\_id | iogroup\_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

# 記述

このコマンドは、I/O グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表 示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さら にフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについ てログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジ ェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみ が表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定 のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリス トすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyiogrp -delim :

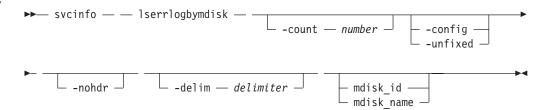
### 結果出力

id:type:fixed:SNMP trap raised:error type:node name:sequence number: root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 1:io\_grp:no:no:1:node1:109:109:030407094417:030407094417:1:000000001

# **Iserrlogbymdisk**

Iserrlogbymdisk コマンドを使用して、MDisk ごとのエラー・ログを表示すること ができます。

# 構文



### パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプシ ョン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -config

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き 数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみ をリストします。

#### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き 数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみ をリストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### mdisk id | mdisk name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します。

# 記述

このコマンドは、MDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示しま す。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィ ルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログ に記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェク ト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表 示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオ ブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストす ることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbymdisk -delim :

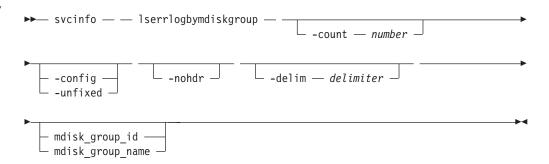
### 結果出力

id:type:fixed:SNMP\_trap\_raised:error\_type:node\_name: sequence number:root sequence number:first timestamp: last timestamp:number of errors:error code 11:mdisk:no:no:3:node1:108:108:030407092947:030407092947:1:000000016 11:mdisk:no:no:2:node1:107:107:030407092947:030407092947:1:000000016

# Iserrlogbymdiskgroup

**Iserrlogbymdiskgroup** コマンドを使用して、MDisk グループごとのエラー・ログ を表示することができます。

# 構文



### パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -confia

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

### -unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリ ストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### mdisk\_group\_id | mdisk\_group\_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

### 記述

このコマンドは、MDisk グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを 表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さ らにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトにつ いて口グに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブ ジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーの みが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特 定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリ ストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbymdiskgrp -delim :

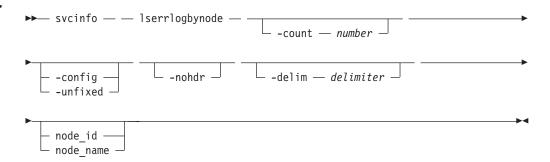
#### 結果出力

 $\verb|id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:|\\$ root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 1:mdisk grp:no:no:5:node1:0:0:030407081619:030407081619:1:00990148 128:mdisk grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990173 0:mdisk grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990148

# Iserrlogbynode

Iserrlogbynode コマンドを使用して、ノードごとのエラー・ログを表示することが できます。

# 構文



### パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -confia

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き 数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみ をリストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### node id I node name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

### 記述

このコマンドは、ノードに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示しま す。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィ ルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログ に記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェク ト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表 示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオ ブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストす ることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbynode -delim:

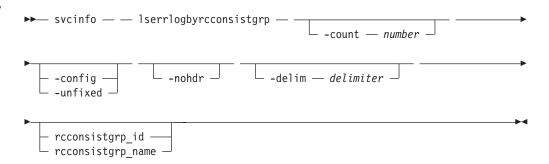
#### 結果出力

id:type:fixed:SNMP\_trap\_raised:error\_type:node\_name:sequence\_number: root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082722:030407082722:1:00990501 1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082716:030407082716:1:00990501 1:node:no:no:5:node1:0:0:030407052546:030407052546:1:00990383 0:node:no:0:node1:105:105:030407082202:030407082717:2:00980500 1:node:no:no:1:node1:102:102:030407052547:030407052547:1:00074001

# Iserrlogbyrcconsistgrp

Iserrlogbyrcconsistgrp コマンドを使用して、リモート・コピー整合性グループご とのエラー・ログを表示することができます。

# 構文



### パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプシ ョン)。 -count は、リストするエラーの最大数を指定します。

### -confia

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 -config が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリス トします。

### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリス トします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### rcconsistgrp\_id | rcconsistgrp\_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

### 記述

このコマンドは、リモート・コピー整合性グループに関連したログ内のエラーとイ ベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指 定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定した オブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。 また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしく は未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもでき ます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後 の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyrcconsistgrp -delim :

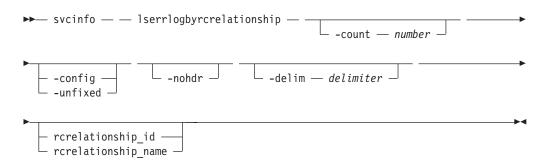
#### 結果出力

id:type:fixed:SNMP\_trap\_raised:error\_type:node\_name:sequence\_number: root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 253:rc\_const\_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090333:030407090333:1:00990240 254:rc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407090327:030407090327:1:00990240 255:rc const grp:no:no:5:node1:0:0:030407090323:030407090323:1:00990240

# Iserrlogbyrcrelationship

Iserrlogbyrcrelationship コマンドを使用して、リモート・コピー関係ごとのエラ ー・ログを表示することができます。

# 構文



# パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプシ ョン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -confia

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 -config が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリス トします。

### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed が指 定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリス トします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### rcrelationship id | rcrelationship name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

### 記述

このコマンドは、リモート・コピー関係に関連したログ内のエラーとイベントのリ ストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定すること で、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェク トについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定 のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正工 ラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様 に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項 目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyrcrelationship -delim :

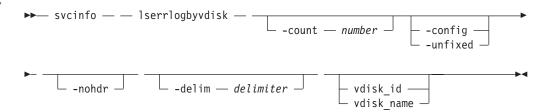
#### 結果出力

 $\verb|id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:|\\$ root sequence number:first timestamp:last timestamp:number of errors:error code 2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090442:030407090442:1:00990226 2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090106:030407090106:1:00990225 1:remote:no:no:5:node1:0:0:030407085932:030407085932:1:00990225 2:remote:no:no:6:n/a:106:106:030407090117:030407090117:1:00985002

# Iserrlogbyvdisk

Iserrlogbyvdisk コマンドを使用して、VDisk ごとのエラー・ログを表示すること ができます。

# 構文



### パラメーター

#### -count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプショ ン)。 -count 引き数は、リストするエラーの最大数を指定します。

#### -config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 -config 引き数が 指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリ ストします。

#### -unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 -unfixed 引き 数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみ をリストします。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### vdisk id | vdisk name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

## 記述

このコマンドは、VDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示しま す。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィ ルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログ に記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェク ト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表 示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオ ブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストす ることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されます が、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

## 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lserrlogbyvdisk -delim :

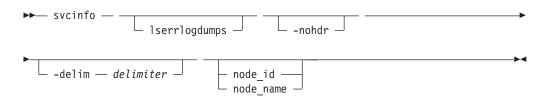
### 結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root sequence number: first timestamp: last timestamp: number of errors: error code
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090825:030407090825:1:00990182
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090820:030407090820:1:00990182
4:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090013:030407090013:1:00990169
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090004:030407090004:1:00990169
2:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407085959:030407085959:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082213:030407082213:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082158:030407082158:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082148:030407082148:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082145:030407082145:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082015:030407082015:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081854:030407081854:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081843:030407081843:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081836:030407081836:1:00990169
```

## Iserrlogdumps

Iserrlogdumps コマンドを使用して、/dumps/elogs ディレクトリーに保持されてい るダンプのリストを表示することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### node id I node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

## 記述

このコマンドは、エラー・ログ・ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、 svctask dumperrlog コマンドを発行した結果、作成されたものです。エラー・ロ グ・ダンプには、そのコマンドが実行された時点のエラー・ログの内容が示してあ ります。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。こ のコマンドは、/dumps/elogs ディレクトリー内のファイルを表示します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- svcservicemodeinfo Iserrlogdumps コマンドに関連したエラー・コードはあり ません。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo lserrlogdumps

## 結果出力

id filename errlog\_lynn02\_030327\_154511 aaa.txt\_lynn02\_030327\_154527 aaa.txt\_lynn02\_030327\_154559 errlog\_lynn02\_030403\_110628 0 1 2 3

# 関連トピック

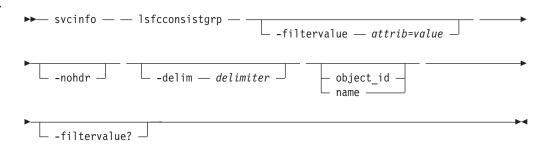
・ 191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

# **Isfcconsistgrp**

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスター上のすべての FlashCopy 整合性グループについて、簡略的な情報が 含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の FlashCopy 整合性 グループに対応します。)
- 2. 単一の FlashCopy 整合性グループに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

## -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isfcconsistgrp コマ ンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- name
- FC\_group\_id
- status
- id

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる FlashCopy 整合性グループの簡略リスト もしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

status idle\_or\_copied, preparing, prepared, copying, stopped, suspended

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lsfcconsistgrp -delim :

### 簡略結果出力

id:name:status 1:ffccg0:idle or copied 2:ffccg1:idle\_or\_copied 3:ffccg2:idle\_or\_copied

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsfcconsistgrp -delim : 1

### 詳細な結果出力

id:1 name:ffccg0 status:idle\_or\_copied

# 関連トピック

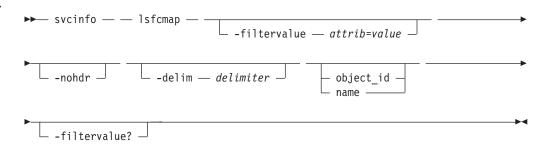
• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

# Isfcmap

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべての FlashCopy マッピングについて、簡略的な 情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の FlashCopy マッピングに対応します。)
- 2. 単一の FlashCopy マッピングに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

## -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isfcmap コマンド用 の有効なフィルターは、次のとおりです。

- FC\_mapping\_name
- FC\_id
- · source\_vdisk\_id
- source\_vdisk\_name
- · target\_vdisk\_id
- · target\_vdisk\_name
- · group\_name
- · group\_id
- status copy\_rate
- name
- id

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる FlashCopy マッピングの簡略リストまた は詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

status idle\_or\_copied, preparing, prepared, copying, stopped, suspended

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 簡略かつ詳細呼び出し例

svcinfo lsfcmap -delim :

## 簡略かつ詳細な結果出力

id:name:source vdisk id:source vdisk name:target vdisk id: target vdisk name:group id:group name:status:progress:copy rate 0:ffcmap1:0:vdisk0:1:vvdisktwo:::idle\_or\_copied::75

### 詳細かつ詳細呼び出し例

svcinfo lsfcmap -delim : 0

### 詳細かつ詳細な結果出力

id:0 name:ffcmap1 source\_vdisk\_id:0 source\_vdisk\_name:vdisk0 target vdisk id:1

target\_vdisk\_name:vvdisktwo
group\_id:
group\_name:
status:idle\_or\_copied progress: copy\_rate:75

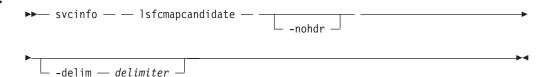
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

## **Isfcmapcandidate**

Isfcmapcandidate コマンドを使用して、FlashCopy のソースまたは宛先として指定 できるすべての VDisk (たとえば、まだマッピングに含まれていない VDisk など) をリストすることができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、FlashCopy マッピングにない VDisk のリストを戻します。戻され るのは、VDisk ID のみです。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

## 呼び出し例

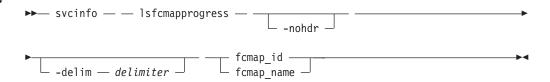
svcinfo lsfcmapcandidate

## 結果出力

## Isfcmapprogress

Isfcmapprogress コマンドを使用して、FlashCopy マッピングのバックグラウン ド・コピーの進行状況を戻すことができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### fcmap id | fcmap name

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

# 記述

このコマンドは、FlashCopy マッピングのバックグラウンド・コピーの進行状況を % (パーセンテージ) で戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻され ませんでした。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo lsfcmapprogress 0

## 結果出力

id progress 0

## **Isfeaturedumps**

**Isfeaturedumps** コマンドを使用して、/dumps/feature ディレクトリーに保持されて いるダンプのリストを表示することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、フィーチャー設定ダンプのリストを戻します。これらのダンプ は、svctask dumpinternallogs コマンドを発行した結果として作成されていま す。フィーチャー設定ダンプ・ファイルには、そのコマンドが実行された時点のフ ィーチャー設定ログの内容が記述されています。ノードを指定しないと、構成ノー ド上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、/dumps/feature ディレクトリ 一内のファイルを表示します。

svcinfo Isfeaturedumps コマンドを使用して、/dumps/feature 宛先ディレクトリー に保持されているダンプのリストを表示することができます。フィーチャー・ログ は、クラスターにより維持されています。フィーチャー・ログには、ライセンス・ パラメーターが入力されたとき、または現行のライセンス設定値が不履行になった ときに生成されるイベントが記録されています。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- svcservicemodeinfo Isfeaturedumps コマンドに関連したエラー・コードはあ りません。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo lsfeaturedumps

## 結果出力

feature\_filename
feature.txt id

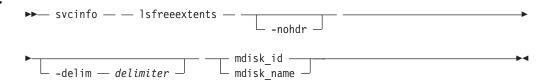
# 関連トピック

191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

## Isfreeextents

Isfreeextents コマンドを使用して、指定した MDisk 上の有効なフリー・エクステ ントの数をリストすることができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### mdisk id | mdisk name

フリー・エクステント数を知りたい MDisk の ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、指定された MDisk 上のフリー・エクステント数を戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

#### 呼び出し例

svcinfo lsfreeextents 2

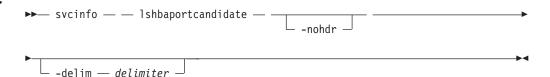
## 結果出力

id 2 number\_of\_extents 4372

## Ishbaportcandidate

**Ishbaportcandidate** コマンドを使用して、すべての未構成の、ログイン済みホスト・バス・アダプター (HBA) ポートをリストすることができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、未構成の、ログイン済みホスト・バス・アダプター (HBA) ポートのリストを戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lshbaportcandidate

### 結果出力

id

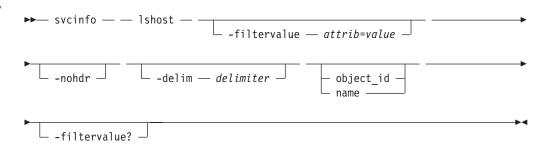
210100E08B2520D4

## Ishost

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべてのホストについて、簡略的な情報が含まれてい るリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のホストに対応します。)
- 2. 単一のホストに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

#### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

## **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### object id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Ishost コマンド用の 有効なフィルターは、次のとおりです。

- host\_name
- host\_id
- · port\_count
- name
- id

# 記述

このコマンドは、クラスターが認識できるホストの簡略リストもしくは詳細ビュー を戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

offline, online, degraded, degraded (offline) status

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lshost -delim :

## 簡略結果出力

id:name:port count 0:hhost1port:1 1:hhost3ports:3 2:hhost:1

## 詳細な呼び出し例

svcinfo lshost -delim : 1

### 詳細な結果出力

id:1 name:hhost3ports port count:3 WWPN:00000000000000AB port logged in count:0 WWPN:000000000000000AC port\_logged\_in\_count:0 WWPN:00000000000000000 port\_logged\_in\_count:0

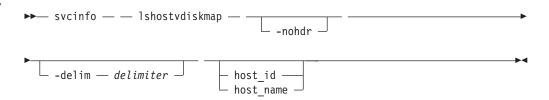
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

## Ishostvdiskmap

Ishostvdiskmap コマンドを使用して、指定したホストにマップする (指定したホ ストが認識できる) 仮想ディスクのリストを表示することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### host id | host name

ホストを ID または名前で指定します (オプション)。SAN ボリューム・コント ローラーは、指定されたホストにマップされたすべての仮想ディスクのリスト と、マップの際に使用された SCSI ID を戻します。このコマンドで、ホスト ID と 名前のどちらも入力しないと、表示可能な VDisk マッピングのすべての ホストのリストを表示します。

# 記述

このコマンドは、仮想ディスク ID と名前のリストを戻します。これらは、指定し たホストにマップされている仮想ディスクです。つまり、指定したホストが認識で きる仮想ディスクです。 SCSI LUN ID も表示されます。このSCSI LUN ID は、 ホストが仮想ディスクを識別する際に使用する ID です。

ホスト上の vpath 番号から VDisk 名を判別する: SAN ボリューム・コントローラ ーがエクスポートする VDisk には、それぞれ固有の vpath 番号が割り当てられま す。この番号は、固有の VDisk を識別するので、ホストが認識するボリュームにど

の VDisk が対応するのかを確認するときに利用できます。この手順を実行できるの は、コマンド行インターフェースだけです。

datapath query device コマンドを使用して、当該ボリュームの vpath シリアル番 号を見付けます。作業対象のホストに対応する SAN ボリューム・コントローラー に定義されているホスト・オブジェクトを見付けます。

- 1. WWPN は、HBA の 1 つの属性です。オペレーティング・システムに保管され ている装置の定義から見付けることができます。たとえば、AIX の場合は ODM、Windows では当該 HBA の「デバイス マネージャ」の詳細に表示されま す。
- 2. これらのポートが属する SAN ボリューム・コントローラーにどのホスト・オブ ジェクトが定義されているかを確認します。ポートは、詳細表示の一部として保 管されているので、次のコマンドを実行して、各ホストを 1 つずつリストする 必要があります。

svcinfo lshost <name/id>

ここで、<name/id> は、ホストの名前または ID です。一致する WWPN を確認 します。

注: ホストの名前をあわせる必要があります。たとえば、実際のホスト名が orange の場合、SAN ボリューム・コントローラーに定義されたホスト・オ ブジェクトの名前は orange のようにしてください。

<host name> を SAN ボリューム・コントローラーと <vpath serial number> に定義 したところで、次のコマンドを実行します。

svcinfo lshostvdiskmap <hostname>

ここで、<hostname> はホストの名前です。リストが表示されます。<vpath serial number> に一致する VDisk UID を見付け、VDisk の名前か ID を確認します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lshostvdiskmap -delim : 2

### 結果出力

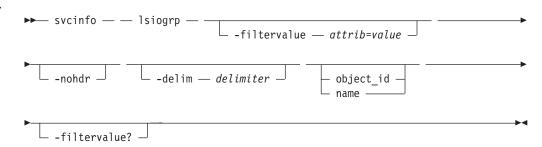
id:name:SCSI id:vdisk id:vdisk name:wwpn:vdisk UID 2:host2:0:10:vdisk10:0000000000000ACA:6005076801958001500000000000000A 2:host2:1:11:vdisk11:000000000000ACA:60050768019580015000000000000B 2:host2:2:12:vdisk12:000000000000ACA:600507680195800150000000000000C 2:host2:3:13:vdisk13:000000000000ACA:60050768019580015000000000000D 2:host2:4:14:vdisk14:0000000000000ACA:6005076801958001500000000000000E

## Isiogrp

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべての I/O グループについて、簡略的な情報が含 まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の I/O グループに対応 します。)
- 2. 単一の I/O グループに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

## -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isiogrp コマンド用の 有効なフィルターは、次のとおりです。

- HWS\_name
- HWS\_unique\_id
- node\_count
- name
- id

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる I/O グループの簡略リストもしくは詳細 ビューを戻します。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

## 簡略かつ詳細呼び出し例

svcinfo lsiogrp -delim :

## 簡略かつ詳細な結果出力

id:name:node count:vdisk count 0:io grp0:1:0 1:io\_grp1:0:0 2:io\_grp2:0:0 3:io grp3:0:0 4:recovery\_io\_grp:0:0

### 詳細かつ詳細呼び出し例

svcinfo lsiogrp -delim : 2

## 詳細かつ詳細な結果出力

id:2 name:io grp2 node count:0 vdisk\_count:0

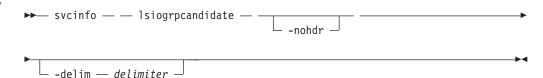
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

# Isiogrpcandidate

Isiogrpcandidate コマンドを使用して、ノードを追加できる I/O グループをリス トできます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、ノードを追加できる I/O グループのリストを戻します。戻される のは、I/O グループの ID のみです。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lsiogrpcandidate -delim :

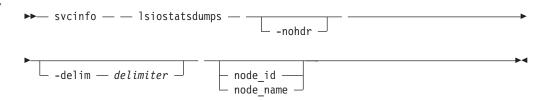
## 結果出力

- id:
- 0:
- 1:
- 2:
- 4:

## Isiostatsdumps

**Isiostatsdumps** コマンドを使用して、/dumps/iostats ディレクトリーに保持されて いるダンプのリストを表示することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### node id | node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

## 記述

このコマンドは、I/O 統計ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、svctask startstats コマンドを発行した結果、作成されたものです。ノードを指定しない と、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、/dumps/iostats ディレクトリー内のファイルを表示します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo lsiostatsdumps

## 結果出力

id iostat\_filename

v\_stats\_mala75\_031123\_072426 m\_stats\_mala75\_031123\_072425 1

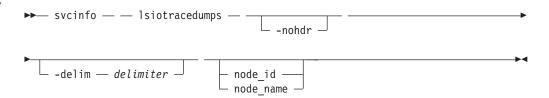
# 関連トピック

・ 191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

## Isiotracedumps

**Isiotracedumps** コマンドを使用して、/dumps/iotrace ディレクトリー内のファイル のリストを戻すことができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### node id | node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

# 記述

このコマンドは、I/O トレース・ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、 svctask settrace コマンドを発行した結果、作成されたものです。ノードを指定し ないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンド は、/dumps/iotrace ディレクトリー内のファイルを表示します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- svcservicemodeinfo Isiotracedumps コマンドに関連したエラー・コードはあ りません。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo lsiotracedumps

## 結果出力

iotrace\_filename c1\_mala75\_030405\_092155 c2\_mala75\_030405\_092156 c3\_mala75\_030405\_092158 id 0 1 2 c4\_mala75\_030405\_092159 c5\_mala75\_030405\_092201 3 4

# 関連トピック

・ 191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

## Islicense

Islicense コマンドを使用して、クラスターの現行のライセンス (フィーチャー設定) 設定値を確認することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、クラスターのライセンス・フィーチャーを戻します。コピー・サービス状況や、このクラスターによる使用がライセンス交付を受けている仮想記憶の容量が表示されます。

svcinfo Islicense コマンドを使用して、クラスターの現行のライセンス (フィーチャー設定) 設定を確認することができます。 svctask chlicense コマンドを使用すると、クラスターのライセンス設定値を変更できます。フィーチャーの設定値は、クラスターをはじめて作成したときに入力するので、設定値の更新が必要なのは、ライセンスを変更したときだけです。次の値を変更できます。

- FlashCopy: 使用可能または使用不可
- リモート・コピー: 使用可能または使用不可
- バーチャライゼーションの限度: ギガバイト値 (1073741824 バイト)

表示された出力には、フィーチャー機能がリストされ、それぞれの機能が使用可能 か使用不可かを表示します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

## 呼び出し例

svcinfo 1slicense

## 結果出力

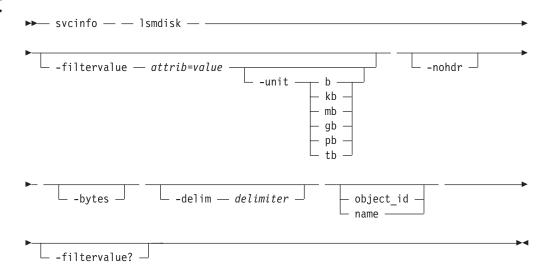
feature\_flash on feature\_remote on feature\_num\_gb 32

## **Ismdisk**

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべての管理対象ディスクについて、簡略的な情報が 含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の管理対象ディスク に対応します。)
- 2. 単一の管理対象ディスクに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### **-filtervalue** *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

## -bvtes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす

べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### object\_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) -filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Ismdisk コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- name
- id
- status
- mode
- · mdisk\_grp\_id
- · mdisk\_grp\_name
- capacity
- controller\_name

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる MDisk の簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status	offline, excluded, degraded, online
mode	unmanaged, managed, image
quorum index	0/1/2 valid Quorum index

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャネル SAN に追加して、SAN ボリューム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そのクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコントローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ボリューム・コントローラーに提示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了してからバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ボリューム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、このタスクを使用すると、ファイバー・チャネル SAN を再度スキャンして、非管理 MDisk のリストを更新するように、SAN ボリューム・コントローラーに要求できます。

注: SAN ボリューム・コントローラーで自動ディスカバリーを実行しても、非管理 MDisk にはなにも書き込まれません。ユーザーが SAN ボリューム・コントロ

ーラーに指示を出して、管理対象ディスク・グループに MDisk を追加したり、 MDisk を使用してイメージ・モードの仮想ディスクを作成した場合に限り、ス トレージが実際に使用されます。

MDisk を発見する: svctask detectmdisk コマンドを実行し、ファイバー・チャネ ル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるか どうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、svcinfo Ismdiskcandidate コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk グループに割り当てられていません。代わりに、svcinfo Ismdisk コマンドを使用 すると、すべての MDisk を表示できます。

各 MDisk は、単一の RAID アレイ、または与えられた RAID アレイ上の単一の区 画に対応します。各 RAID コントローラーは、このディスクの LUN 番号を定義し ます。MDisk と RAID アレイまたは区画とのあいだの関係を判別するのに、LUN 番号とコントローラー名または ID が必要になります。

MDisk と RAID アレイまたは LUN の関係を判別する:次のコマンドを実行して、 与えられた MDisk <mdiskname> の詳細表示を表示します。

svcinfo lsmdisk <mdiskname>

ここで、<mdiskname> は、MDisk の名前です。

注: コントローラー名またはコントローラー ID、およびコントローラーの LUN 番 号を確認します。

次のコマンドを実行して、判別したコントローラーの詳細表示を表示します。

svcinfo lscontroller <controllername>

ここで、<controllername> は、コントローラーの名前です。

注: ベンダー ID、製品 ID、および WWNN を確認します。これを使用して、 MDisk に提示される内容を確認します。

与えられたコントローラーのネイティブ・ユーザー・インターフェースを使用し て、提示対象の LUN をリストし、LUN 番号を確認します。この操作により、 MDisk に対応する RAID アレイまたは区画を正確に知ることができます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

#### 簡略呼び出し例

svcinfo lsmdisk -delim :

#### 簡略結果出力

id:name:status:mode:mdisk grp id:mdisk grp name:capacity: ctrl LUN #:controller name:UID 0:mdisk0:online:managed:0:mdiskgrp0:68.4GB:000000000000000:controller0: 

1:mdisk1:online:managed:0:mdiskgrp0:68.4GB:0000000000000000:controller1: 2:mdisk2:online:managed:0:mdiskgrp0:68.4GB:000000000000000:controller2: 3:mdisk3:online:managed:0:mdiskgrp0:68.4GB:0000000000000000:controller3: 4:mdisk4:online:unmanaged:::68.4GB:00000000000000:controller4: 5:mdisk5:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller5: 6:mdisk6:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller6: 7:mdisk7:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller7: 8:mdisk8:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller8: 9:mdisk9:online:unmanaged:::68.4GB:00000000000000:controller9: 10:mdisk10:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller10: 11:mdisk11:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller11: 12:mdisk12:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller12: 13:mdisk13:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller13: 14:mdisk14:online:unmanaged:::68.4GB:000000000000000:controller14: 

#### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsmdisk -delim: 2

### 詳細な結果出力

id:2 name:mdisk2 status:online mode:unmanaged mdisk grp id: mdisk grp name: capacity: 68.4GB quorum index: block size:512 controller name:controller2 ctrl type:4 ctrl WWNN:20000004CF242531 controller id:2 path count:1 max path count:1 ctrl LUN #:0 

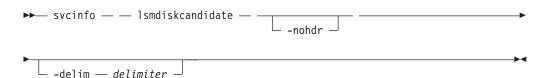
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

## Ismdiskcandidate

Ismdiskcandidate コマンドを使用して、すべての非管理対象 MDisk をリストする ことができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、管理対象ではない MDisk のリストを戻します。戻されるのは、 MDisk ID のみです。

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャネル SAN に追加して、SAN ボ リューム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そ のクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコント ローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ボリューム・コントローラーに提 示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了して からバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ボリューム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、 このタスクを使用すると、ファイバー・チャネル SAN を再度スキャンして、非管 理 MDisk のリストを更新するように、SAN ボリューム・コントローラーに要求で きます。

注: SAN ボリューム・コントローラーで自動ディスカバリーを実行しても、非管理 MDisk にはなにも書き込まれません。ユーザーが SAN ボリューム・コントロ ーラーに指示を出して、管理対象ディスク・グループに MDisk を追加したり、 MDisk を使用してイメージ・モードの仮想ディスクを作成した場合に限り、ス トレージが実際に使用されます。

MDisk を発見する: svctask detectmdisk コマンドを実行し、ファイバー・チャネ ル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるか どうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、svcinfo **Ismdiskcandidate** コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk グループに割り当てられていません。代わりに、svcinfo Ismdisk コマンドを使用 すると、すべての MDisk を表示できます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lsmdiskcandidate

### 結果出力

id

5

6

7

8

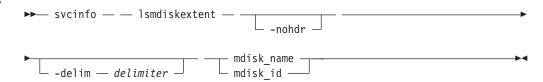
10 11

13 14

### **Ismdiskextent**

Ismdiskextent コマンドを使用して、管理対象ディスクと仮想ディスク間のエクス テント割り振りを戻すことができます。

## 構文



# パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### mdisk name I mdisk id

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドが戻すリストのそれぞれの項目には、VDisk ID とエクステント数が示 されています。これらの VDisk は、指定された MDisk 上のエクステントを使用し ています。それぞれの MDisk で使用されているエクステントの数も表示されます。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。 これら 2 つのオ ブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次 の手順を使用します。

**VDisk** と **MDisk** の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、 次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskmember <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成 する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または 各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行で きるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskextent <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表 が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステン トの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> につい て、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsmdiskmember <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステント の数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インター フェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを 実行します。

svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の 表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクス テント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用 されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情 報は戻されませんでした。
- CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または仮想 ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。
- CMMVC6005E 指定されたオブジェクトが該当するグループのメンバーでないた め、表示要求は失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsmdiskextent 2

### 結果出力

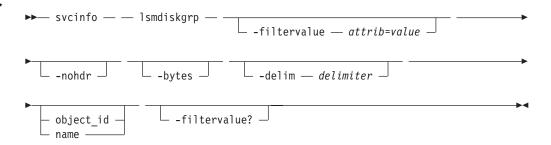
id	number of extents
1	1
2	1

# Ismdiskgrp

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスター内のすべての管理対象ディスク・グループについて、簡略的な情報が 含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の管理対象ディス ク・グループに対応します。)
- 2. 単一の管理対象ディスク・グループに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id I name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。

このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Ismdiskgrp コマンド 用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- name
- · storage\_pool\_id
- · mdisk\_count
- · vdisk\_count
- · extent\_size
- status
- id

# 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる MDisk グループの簡略リストもしくは詳 細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

online, degraded, offline status

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lsmdiskgrp -delim :

### 簡略結果出力

id:name:status:mdisk count:vdisk count:capacity:extent size:free capacity 0:mdiskgrp0:online:5:0:341.8GB:16:341.8GB 1:mdiskgrp1:online:0:0:0:16:0

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsmdiskgrp -delim : 0

### 詳細な結果出力

id:0 name:mdiskgrp0 status:online mdisk\_count:5 vdisk count:0 capacity:341.8GB extent size:16 free capacity:341.8GB

# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

### Ismdiskmember

Ismdiskmember コマンドを使用して、指定した MDisk 上のエクステントを使用 している VDisk のリストを戻すことができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### mdisk id | mdisk name

MDisk のエクステントを使用する VDisk のリストが必要な場合に、その MDisk の ID または名前を指定します。

# 記述

このコマンドを実行すると、指定した管理対象ディスク上にあるエクステントを使 用中の仮想ディスクのリストが戻されます。これらは、ID で指定した管理対象ディ スク上のエクステントを使用している仮想ディスクです。戻されるリストは、各オ ブジェクトのメンバーであり、個々のメンバーの状態は関係ありません。つまり、 メンバーがオフライン状態であっても戻されます。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。 これら 2 つのオ ブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次 の手順を使用します。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、 次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskmember <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成 する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別す **る:** さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または 各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行で きるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskextent <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表 が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステン トの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> につい て、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsmdiskmember <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステント の数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インター フェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを 実行します。

svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の 表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lsmdiskmember 1

### 結果出力

id

# **Ismigrate**

Ismigrate コマンドを使用して、現在進行中のすべてのマイグレーション操作の進 行状況を確認することができます。

## 構文



# パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンド、現在進行中のすべてのマイグレーションに関する情報を表示しま す。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsmigrate -delim:

### 結果出力

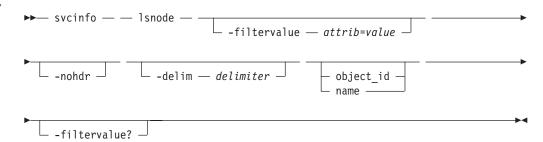
migrate type:progress:migrate source vdisk index: migrate target mdisk grp:max thread count  $3:53:0:\overline{1}:2$ 

### Isnode

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスター上のすべてのノードについて、簡略的な情報が含まれているリス ト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のノードに対応します。)
- 2. 単一のノードに関する詳細情報。

# 構文



## パラメーター

#### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### object id I name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isnode コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- node\_name
- id
- status
- IO\_group\_name
- IO\_group\_id
- name

# 記述

このコマンドは、クラスターが認識できるノードの簡略リストもしくは詳細ビュー を戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status	offline, pending, online, adding, deleting
config node	no, yes
port status	not present, online, offline

**ノードの WWPN を判別する:** 次のコマンドを実行して、クラスター内のノードをリストします。

svcinfo lsnode

**注:** 次のステップで必要になるので、ノードの名前または ID を確認します。 当該ノードについて、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsnode <nodename/id>

ここで、<nodename/id> は、ノードの名前または ID です。

注: 4 つのポートの ID (WWPN) を確認します。

**重要:** ノードが追加状態の場合は、WWPN は 0000000000000000 と表示されます。ノードが正常にクラスターのメンバーになると、状態がオンラインに変更になり、正しい WWPN が表示されます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

# 例

#### 簡略呼び出し例

svcinfo lsnode -delim :

### 簡略結果出力

```
id:name:UPS_serial_number:WWNN:
status:IO_group_id:IO_group_name:config_node:UPS_unique_id
1:node1:UPS_Fake_SN:50050768010007E5:online:0:
io_grp0:yes:10000000000007E5
```

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsnode -delim = 1

### 詳細な結果出力

id=1name=node1 UPS\_serial\_number=UPS\_Fake\_SN WWNN=50050768010007E5 status=online IO\_group\_id=0 IO\_group\_name=io\_grp0 partner\_node\_id= partner node name= config node=yes UPS\_unique\_id=10000000000007E5 port\_id=50050768011007E5 port\_status=active port\_id=50050768012007E5 port\_status=inactive port\_id=50050768013007E5 port\_status=not\_installed port\_id=50050768014007E5 port\_status=not\_installed

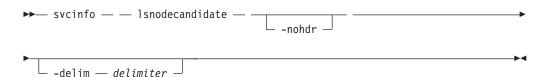
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

### Isnodecandidate

Isnodecandidate コマンドを使用して、クラスターに割り当てられていないすべて のノードをリストすることができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、クラスターに割り当てられていないノードのリストを戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsnodecandidate -delim:

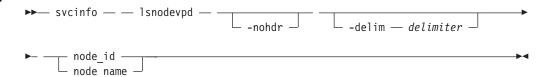
### 結果出力

id:panelname:UPS serial number:UPS unique id 500507680100D131:rich:UPS Fake SN:100000000000D131

# Isnodevpd

**Isnodevpd** コマンドを使用して、指定したノードの vital product data (VPD) を戻すことができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### node id I node name

表示するノードの ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、指定されたノードの VPD を戻します。新規の 1 行に 1 フィールドが表示されます。フィールドはすべてストリングです。 VPD は、幾つかのセクションに分かれています。セクションごとにセクションの見出しがあります。 見出しの後には、そのセクションのフィールド数が表示されます。各セクションは、空の行で区切られています。次に例を示します。

section name:3 fields

field1:value

field2:value

field3:value

new section:x fields

• • •

セクションによっては、そのタイプの複数オブジェクトに関する情報が含まれてい る場合もあります。セクション内の各オブジェクトは空の行で区切られています。 次に例を示します。

section name:4 fields object1 field1:value object1 field2:value object2 field1:value object2 field2:value new section: x fields

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

## 例

### 呼び出し例

svcinfo lsnodevpd 1

### 結果出力

id 1

part\_number Unknown system serial number 550117N number\_of\_processors 2 number\_of\_memory\_slots 4 number\_of\_fans 0 number\_of\_FC\_cards 1

system board: 17 fields

number of scsi/ide devices 2 BIOS manufacturer IBM BIOS\_version -[QAE115AUS-1.01]-BIOS\_release\_date 08/16/2001 system manufacturer IBM system product eserver xSeries 342 -[86691RX]planar manufacturer IBM power supply part number Unknown CMOS\_battery\_part\_number Unknown power cable assembly part number Unknown service processor firmware N/A

processor: 6 fields processor\_location Processor 1
number\_of\_caches 2

manufacturer GenuineIntel version Pentium III speed 1000 status Enabled processor cache: 4 fields

type of cache Internal L1 Cache size of cache (KB) 32 type\_of\_cache Internal L2 Cache size\_of\_cache (KB) 256 processor: 6 fields processor location Processor 2 number\_of\_caches 2 manufacturer GenuineIntel version Pentium III speed 1000 status Enabled processor cache: 4 fields type of cache Internal L1 Cache size\_of\_cache (KB) 32 type\_of\_cache Internal L2 Cache size\_of\_cache (KB) 256 memory module: 16 fields part number 33L5039 device location J1 bank location Slot1 in bank 1 size (MB) 1024 part\_number 33L5039 device\_location J4 bank\_location Slot2 in bank 1 size (MB) 1024 part number N/A device\_location J2 bank location Slot1 in bank 2 size (MB) 0 part\_number N/A device\_location J3 bank location Slot2 in bank 2 size (MB) 0 FC card: 5 fields part number 64P7783 port numbers 1 2 device serial number VSI 0000AD3F4 manufacturer Agilent device DX2 device: 15 fields part number Unknown bus ide0 device 0 model LG CD-ROM CRN-8245B revision 1.13 serial\_number approx\_capacity 0 part number Unknown bus scsi device 0  ${\tt device\_vendor\ IBM-ESXS}$ model ST318305LC revision 6C48 serial number 3JKQ93B903196C48 approx capacity 8 software: 5 fields code\_level 00000000 node name node1 ethernet status 1 WWNN 0x50050768010007e5

front panel assembly: 3 fields part\_number Unknown front\_panel\_id lynn02 front\_panel\_locale en\_US

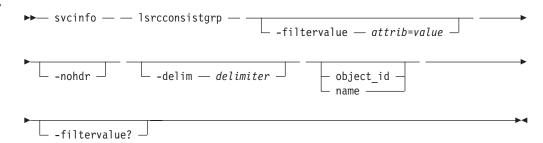
UPS: 10 fields electronics\_assembly\_part\_number FakElec battery\_part\_number FakBatt frame\_assembly\_part\_number FakFram input\_power\_cable\_part\_number FakCabl UPS\_serial\_number UPS\_Fake\_SN UPS\_type Fake UPS UPS\_internal\_part\_number UPS\_Fake\_PN UPS\_unique\_id 0x1000000000007e5 UPS\_main\_firmware 1.4 UPS\_comms\_firmware 0.0

## Isrcconsistgrp

ı リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. リモート・コピー整合性グループの属性、およびグループ内のあらゆる関係の ID と名前。
- 2. 単一のリモート・コピー整合性グループに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

#### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### object id I name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isrcconsistgrp コマ ンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- group\_id
- name
- · master\_cluster\_id
- master\_cluster\_name
- aux\_cluster\_id
- · aux\_cluster\_name
- primary
- state
- relationship\_count
- id

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる リモート・コピー整合性グループの簡略 リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

primary	n/a、master、aux
state	inconsistent_stopped、inconsistent_copying、consistent_stopped、consistent_synchronized、idling、idling_disconnected、inconsistent_disconnected consistent_disconnected、empty
freeze_time	YY/MM/DD/HH/MM フォーマットの時刻。
status	online, primary_offline, secondary_offline
sync	in_sync、out_of_sync

注: リモート・コピー関係と整合性グループの名前は、関係や整合性グループがク ラスター間のものであり、クラスター協力関係が切断されているとブランクに なっていることがあります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lsrcconsistgrp -delim :

### 簡略結果出力

id:name:master\_cluster\_id:master\_cluster\_name:aux\_cluster\_id:aux\_cluster\_name:pr imary:state:relationship count 248:jdemo BA cons1:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:co nsistent\_stopped:2 249:rccstgrp0:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA::empty:0 250:jdemo BA cons2:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:in consistent stopped:1 251:BA cons1:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:consiste nt stopped:4 252:AB cons2:0000020061413ABA:clusterA:0000020060406746:clusterB::empty:0 253:AB cons1:0000020061413ABA:clusterA:0000020060406746:clusterB:aux:consistent stopped:3 254:AA cons2:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA::empty:0 255:AA\_cons1:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA:master:consiste nt synchronised:2

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsrcconsistgrp -delim: 254

### 詳細な結果出力

id:254 name:rccstgrp0 master\_cluster\_id:0000010030A007E5 master\_cluster\_name:kkk aux\_cluster\_id:0000010030A007E5 aux cluster name:kkk primary:master state:inconsistent\_stopped relationship count:1 freeze time: status:online sync: RC rel id:2 RC\_rel\_name:aaa

# 関連トピック

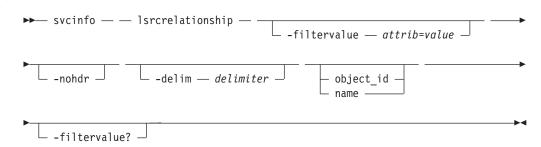
• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

## **Isrcrelationship**

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべてのリモート・コピー関係について、簡略的な情 報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のリモート・コ ピー関係に対応します。)
- 2. 単一のリモート・コピー関係に関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値 に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位 も入力する必要があります。

### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特 定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。 このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

#### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isrcrelationship コマ ンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- RC\_rel\_id
- RC\_rel\_name
- · master\_cluster\_id
- master\_cluster\_name
- · master\_vdisk\_id
- master\_vdisk\_name
- · aux\_cluster\_id
- aux\_cluster\_name
- aux\_vdisk\_id
- · aux\_vdisk\_name
- primary
- consistency\_group\_id
- consistency\_group\_name
- state
- · progress

## 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる リモート・コピー関係の簡略リストもし くは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

primary	n/a、master、aux
state	inconsistent_stopped、inconsistent_copying、consistent_stopped、consistent_synchronized、idling、idling_disconnected、inconsistent_disconnected、consistent_disconnected
progress	0 ~ 100、もしくは n/a
freeze time	YY/MM/DD/HH/MM フォーマットの時刻。
status	online, primary_offline, secondary_offline
sync	n/a, in_sync, out_of_sync

注: リモート・コピー関係と整合性グループの名前は、関係や整合性グループがク ラスター間のものであり、クラスター協力関係が切断されているとブランクに なっていることがあります。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

### 簡略かつ詳細呼び出し例

svcinfo lsrcrelationship -delim : -filtervalue name=j\*

### 簡略かつ詳細な結果出力

```
id:name:master_cluster_id:master_cluster_name:master_vdisk_id:master_vdisk_name:
 aux cluster id:aux cluster name:aux vdisk id:
aux vdisk name:primary:consistency group id:consistency group name:state:bg copy
 priority:progress
45:jrel AB1:0000020061413ABA:clusterA:45:jdisk B8:0000020060406746:clusterB:38:j
 disk B1:master:::consistent stopped:50:
46:jrel AB2:0000020061413ABA:clusterA:46:jdisk A2:0000020060406746:clusterB:39:j
 disk_B2:master:::consistent_stopped:50:
47:jrel_AB3:0000020061413ABA:clusterA:47:jdisk_A3:0000020060406746:clusterB:40:j
 disk B3:master:::consistent stopped:50:
 48:jrel AB4:0000020061413ABA:clusterA:48:jdisk A4:0000020060406746:clusterB:41:j
 disk_B4:master:::consistent_synchronised:50:
 49:jrel BA 1:0000020060406746:clusterB:42:jdisk B5:0000020061413ABA:clusterA:49:
 jdisk A5:master:248:jdemo_BA_cons1:consistent
 stopped:50:
 50:jrel BA 2:0000020060406746:clusterB:43:jdisk B6:0000020061413ABA:clusterA:50:
 jdisk A6:master:248:jdemo BA cons1:consistent
 51:jrel_BA_3:0000020060406746:clusterB:44:jdisk_B7:0000020061413ABA:clusterA:51:
 jdisk A7:master:250:jdemo BA cons2:inconsiste
 nt stopped:50:0
 52:jrel_BA_4:0000020060406746:clusterB:45:jdisk_B8:0000020061413ABA:clusterA:52:
jdisk A8:master:::inconsistent stopped:50:0
```

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsrcrelationship -delim : AB 2

### 詳細な結果出力

```
name:AB 2
master cluster id:0000020061413ABA
master_cluster_name:clusterA
master_vdisk_id:9
master_vdisk_name:stripe9
aux cluster id:0000020060406746
 aux_cluster_name:clusterB
aux vdisk id:9
aux vdisk name:stripe9 b
primary:master
consistency group id:
consistency_group_name:
state:consistent_stopped
bg_copy_priority:50
progress:
 freeze time:2003/07/05/08/26/46
status:secondary_offline
sync:in_sync
```

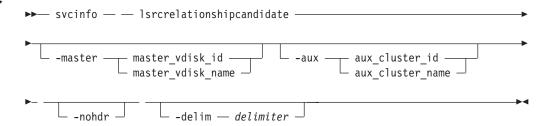
# 関連トピック

185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

## **Isrcrelationshipcandidate**

Isrcrelationshipcandidate コマンドを使用して、リモート・コピー関係の形成に適 格な VDisk をリストすることができます。ローカルまたはリモート・クラスターの 適切な VDisk をリストすることができます。

## 構文



## パラメーター

-master master\_vdisk\_id | master\_vdisk\_name

このパラメーターで、マスター VDisk として使用したい特定の VDisk を指定 できます。コマンドは、指定された VDisk のサイズに一致する候補を探しま す。ローカル・クラスター上の候補 VDisk を要求している場合、コマンドは io\_group の突き合わせも行います。

-aux aux\_cluster\_id | aux\_cluster\_name

クラスター間の関係のための VDisk 候補を探すリモート・クラスターを指定し ます。このパラメーターを指定しないと、ローカル・クラスター上の候補が戻さ れます。

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、リモート・コピー関係のマスター・ディスクもしくは補助ディス クになりえる VDisk のリストを戻します。戻されるのは、VDisk の ID と名前で

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsrcrelationshipcandidate -delim :

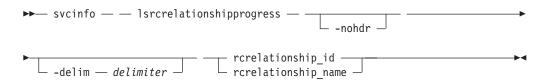
### 結果出力

id:vdisk name 0:vdisk0 4:vdisk4

# **Isrcrelationshipprogress**

Isrcrelationshipprogress コマンドを使用して、リモート・コピー関係のバックグ ラウンド・コピーの進行状況を確認することができます。関係の初期バックグラウ ンド・コピー・プロセスが完了すると、その関係の進行状況に対してヌルが表示さ れます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### rcrelationship id | rcrelationship name

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

## 記述

このコマンドは、リモート・コピー関係のバックグラウンド・コピーの進行状況を % (パーセンテージ) で戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsrcrelationshipprogress -delim :  $\theta$ 

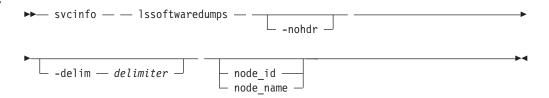
### 結果出力

id:progress 0:58

## **Issoftwaredumps**

**Issoftwaredumps** コマンドを使用して、/home/admin/upgrade ディレクトリー内の ソフトウェア・パッケージのリストを表示することができます。

## 構文



## パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### node id I node name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定しま す。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

# 記述

このコマンドは、ソフトウェア・アップグレード・パッケージのリストを戻しま す。これらのパッケージは、ソフトウェアをアップグレードした結果、コピーされ たものです。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なパッケージがリストさ れます。このコマンドは、/home/admin/upgrade ディレクトリー内のファイルを表示 します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lssoftwaredumps

### 結果出力

software\_filename s1\_mala75\_030405\_092143 s2\_mala75\_030405\_092145 s3\_mala75\_030405\_092146 id 0 1 2

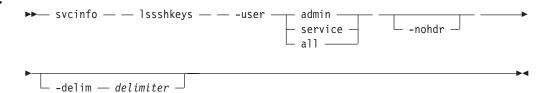
# 関連トピック

• 191ページの『第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要』

# Issshkeys

Issshkeys コマンドを使用して、クラスター上の有効な SSH 鍵のリストを表示す ることができます。

## 構文



## パラメーター

#### -user admin | service | all

サービス利用者のみが使用できる鍵、管理ユーザーのみが使用できる鍵、もしく はこれらの両方のユーザーが使用できる鍵のいずれのリストを表示したいかを指 定します。

### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、特定のユーザー ID が利用できる、クラスター上のすべての鍵の リストを戻します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo lssshkeys -user all -delim:

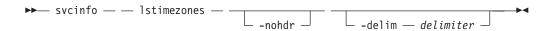
# 結果出力

id:userid\_key:identifier
1:admin:admin

### **Istimezones**

Istimezones コマンドを使用して、クラスターで使用可能な時間帯をリストするこ とができます。

## 構文



# パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

# 記述

このコマンドは、クラスター上の有効なすべての時間帯のリストを戻します。それ ぞれの時間帯には ID が割り当てられています。svctask settimezone コマンド で、この ID を使用できます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lstimezones

### 結果出力

id timezone O Africa/Abidjan 1 Africa/Accra

2 Africa/Addis Ababa

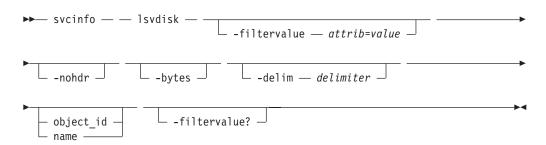
- 3 Africa/Algiers 4 Africa/Asmera 5 Africa/Bamako 6 Africa/Bangui

### **Isvdisk**

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

- 1. クラスターから認識できるすべての仮想ディスクについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の仮想ディスクに対応します。)
- 2. 単一の仮想ディスクに関する詳細情報。

## 構文



## パラメーター

### -filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

**注:** 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

#### -bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### object id I name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) -filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。

このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指 定した場合は)-filtervalue で指定した値は無視されます。

### -filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。svcinfo Isvdisk コマンド用の 有効なフィルターは、次のとおりです。

- vdisk\_name
- vdisk\_id
- IO\_group\_id
- IO\_group\_name
- status
- · mdisk\_grp\_name
- · mdisk\_grp\_id
- · capacity
- type
- FC\_id
- FC\_name
- RC\_id
- RC\_name
- name
- id

# 記述

このコマンドは、クラスターが認識できる VDisk の簡略リストもしくは詳細ビュー を戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示 してあります。

status	offline, online
capacity	1 GB 未満の場合は、GB (小数点第 2 位まで) または MB に丸める。
type	sequential, striped, image
formatted	no、 yes
mdisk id	striped には使用しない。
mdisk name	striped には使用しない。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

### 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lsvdisk -delim :

#### 簡略結果出力

id:name:IO\_group\_id:IO\_group\_name:status:mdisk\_grp\_id:mdisk\_grp\_name :capacity:type:FC\_id:FC\_name:RC\_id:RC\_name 0:vdisk0:0:io grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:seq:::: 1:vvdisktwo:0:io\_grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:seq::::

### 詳細な呼び出し例

svcinfo lsvdisk -delim : 1

### 詳細な結果出力

id:1 name:vvdisktwo I0\_group\_id:0 IO\_group\_name:io\_grp0 status:degraded mdisk\_grp\_id:0 mdisk\_grp\_name:mdiskgrp0 capacity:16.0MB type:seq formatted:no mdisk\_id:2 mdisk\_name:mdisk2 FC\_id:0 FC\_name:ffcmap1
RC\_id:
RC\_name: throttling:0 preferred node id:1

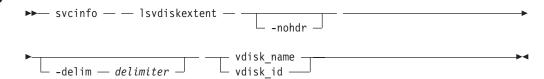
# 関連トピック

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

### **Isvdiskextent**

Isvdiskextent コマンドを使用して、VDisk を構成している MDisk ごとのエクステ ント数をリストすることができます。それぞれの MDisk から提供されているエクス テント数が表示されます。

### 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### vdisk name | vdisk id

1 つ以上の仮想ディスクの ID または名前を指定します。

### 記述

このコマンドが戻すリストのそれぞれの項目には、MDisk ID とエクステント数が 含まれています。これらの MDisk は、指定された VDisk 上のエクステントを使用 しています。それぞれの VDisk で使用されているエクステントの数も表示されま す。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。 これら 2 つのオ ブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次 の手順を使用します。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、 次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskmember <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成 する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または 各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行で きるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskextent <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表 が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステン トの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> につい て、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsmdiskmember <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステント の数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インター フェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを 実行します。

svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の 表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクス テント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用 されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情 報は戻されませんでした。
- CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または仮想 ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsvdiskextent -delim : vdisk0

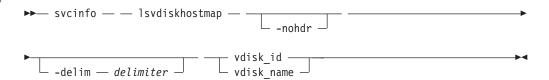
### 結果出力

id:extent offset 0:0

### Isvdiskhostmap

Isvdiskhostmap コマンドを使用して、VDisk からホストへのマッピングをリスト することができます。

### 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### vdisk id | vdisk name

仮想ディスクを ID または名前で指定します。SAN ボリューム・コントローラ ーは、この仮想ディスクがマップされたすべてのホストのリストと、この仮想デ ィスクのマップの際に使用された SCSI ID を戻します。

### 記述

このコマンドは、ホストの ID と名前のリストを戻します。これらのホストには、 指定された仮想ディスクがマップされています。つまり、これらのホストは指定さ れた仮想ディスクを認識しています。 SCSI LUN ID も表示されます。SCSI LUN ID は、ホストが仮想ディスクを識別する際に使用する ID です。

**VDisk のマップ先ホストを判別する:** 次のコマンドを実行すると、この VDisk のマ ップ先ホストをリストします。

svcinfo lsvdiskhostmap <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。リストが表示されま す。ホスト名または ID を見付けて、この VDisk がどのホストにマップされている かを確認します。データがなにも戻されない場合は、VDisk はどのホストにもマッ プされていません。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

### 例

### 簡略呼び出し例

svcinfo lsvdiskhostmap -delim : 3

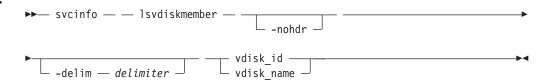
### 簡略結果出力

id:name:SCSI id:host id:host name:wwpn:vdisk UID 3:vdisk3:0:2:host2:0000000000100ABC:60050768018A0001500000000000003

### Isvdiskmember

**Isvdiskmember** コマンドを使用して、指定された VDisk のメンバーである MDisk のリストを戻すことができます。

### 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### **-delim** delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### vdisk id | vdisk name

メンバーである MDisk のリストが必要な、VDisk の名前または ID を指定しま す。

# 記述

このコマンドは、ID で指定された仮想ディスクを作成するエクステントを提供して いる管理対象ディスクのリストを戻します。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。 これら 2 つのオ ブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次 の手順を使用します。

使用したコマンドがsvcinfo Ismdiskmember コマンドの場合、簡略ビューに仮想 ディスクのリストが表示されます。これらは、ID で指定した管理対象ディスク上の エクステントを使用している仮想ディスクです。戻されるリストは、各オブジェク トのメンバーであり、個々のメンバーの状態は関係ありません。つまり、メンバー がオフライン状態であっても戻されます。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、 次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskmember <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成 する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または 各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行で きるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsvdiskextent <vdiskname/id>

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表 が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステン トの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> につい て、次のコマンドを実行します。

svcinfo lsmdiskmember <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別す る: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステント の数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インター フェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを 実行します。

svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の 表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

svcinfo lsvdiskmember 1

### 結果出力

id 2

### Isvdiskprogress

Isvdiskprogress コマンドを使用して、新規仮想ディスクのフォーマットの進行状 況を確認することができます。

### 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

### vdisk id | vdisk\_name

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

# 記述

このコマンドは、新規仮想ディスクのフォーマットについて、完了パーセントを使 用して進行状況を戻します。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。
- CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻され ませんでした。

# 例

### 呼び出し例

svcinfo lsvdiskprogress -delim : 0

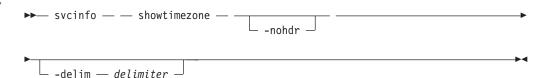
### 結果出力

id:progress 0:58

### showtimezone

showtimezone コマンドを使用して、クラスターの現行の時間帯設定を表示するこ とができます。

### 構文



### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

## 記述

このコマンドは、1 つの時間帯と関連 ID を戻します。これが、そのクラスターの 現在の時間帯設定です。 svcinfo Istimezones コマンドを実行すれば、使用可能な 時間帯のリストが表示されます。時間帯を変更するには、svctask settimezone コ マンドを実行します。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svcinfo showtimezone -delim :

#### 結果出力

id:timezone 522:UTC

# 第 18 章 エラー・ログ・コマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでエラー・ログを操作できます。

- 316ページの『finderr』
- 317 ページの『dumperrlog』
- 319ページの『clearerrlog』
- ・ 320 ページの 『cherrstate』
- 321 ページの『setevent』

### finderr

finderr コマンドを使用してエラー・ログを分析し、重大度がもっとも高い未修正エ ラーが無いか調べることができます。

### 構文

► svctask — — finderr —

## 記述

このコマンドはエラー・ログを走査して、未修正エラーが無いか調べます。コード で優先順位が定義されていると、もっとも優先順位の高い未修正エラーが STDOUT に戻されます。

ログに記録されたエラーの修正順序を判断するのに、このコマンドを利用できま す。

Web ベースの 指示保守手順 (DMP) でも、このコマンドを使用します。

## 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

### 例

### 呼び出し例

svctask finderr

### 結果出力

Highest priority unfixed error code is [1010]

### dumperrlog

dumperrlog コマンドを使用して、エラー・ログの内容をテキスト・ファイルにダ ンプすることができます。

### 構文

▶ svctask — — dumperrlog oxdot -prefix — filename prefix oxdot

### パラメーター

-prefix filename\_prefix

ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成されます。フォーマットは次 のとおりです。

cprefix>\_NNNNNN\_YYMMDD\_HHMMSS

NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名です。

注: -prefix パラメーターを指定しないと、ダンプは、システム定義により 「errlog」の接頭部が付いたファイルに送られます。

### 記述

引き数を指定しないで実行すると、このコマンドは、クラスターのエラー・ログ を、システムから与えられた「errlog」の接頭部が付いた名前 (ノード ID とタイ ム・スタンプが含まれる)のファイルにダンプします。ファイル名の接頭部を指定 した場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディレクトリー内の、 指定された接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。 11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされ ます。

エラー・ログ・ダンプ・ファイルは、/dumps/elogs に書き込まれます。このディレ クトリーの内容を確認するには、svcinfo Iserrlogdumps コマンドを使用してくだ さい。

# 起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・ システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそら くファイル・システムが満杯です。
- CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。
- svcservicemodetask dumperrlog コマンドに関連したエラー・コードはありま せん。

# 例

### 呼び出し例

svctask dumperrlog -prefix testerrorlog

### 結果出力

### clearerrlog

clearerrlog コマンドを使用して、状況イベントおよび未修正エラーを含む、エラ ー・ログのすべての項目を消去できます。

### 構文



### パラメーター

#### -force

このフラグは、あらゆる確認要求を停止させます。 -force フラグを指定しない と、ログを消去したいかを確認するプロンプトが出されます。

## 記述

このコマンドは、エラー・ログのすべての項目を消去します。ログに未修正エラー があっても、すべての項目が消去されます。また、このコマンドは、ログに記録さ れているあらゆる状況イベントも消去します。

重要: このコマンドは破壊性があるので、このコマンドは、クラスターを再構築し たときか、もしくはエラー・ログ内に手作業では修正したくない多数の項目が存在 し、それらの原因である主要な問題を修正したときにのみ使用してください。

### 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

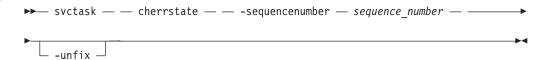
svctask clearerrlog -force

### 結果出力

### cherrstate

cherrstate コマンドを使用して、未修正エラーに修正済みのマークを付けることが できます。また、修正済みエラーに未修正のマークを付けることもできます。

### 構文



### パラメーター

-sequencenumber sequence\_number

修正する、エラー・ログのシーケンス番号 (複数も可)を指定します。

#### -unfix

指定したシーケンス番号 (複数も可) に未修正のマークを付けるように指定しま す (オプション)。 -unfix 引き数を使用すると、シーケンス番号には未修正のマ ークが付きます。これは、間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けて しまった場合にのみ使用することを意図しています。

### 記述

入力したシーケンス番号 (複数も可) のエラー・ログ項目に、修正済みのマークを付 けます。クラスター、ファブリック、またはサブシステムに対して行った保守の手 動確認として、このコマンドを使用してください。

このステップは、指示保守手順 (DMP) の一環として実行してください。

間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けた場合、オプションで -unfix フ ラグを指定して、項目に未修正のマークを付け直すことができます。

# 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目が マークされませんでした。

### 例

### 呼び出し例

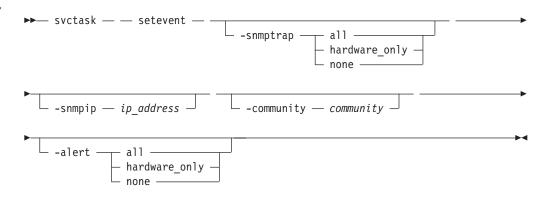
svctask cherrstate -sequencenumber 2019

#### 結果出力

### setevent

setevent コマンドを使用して、エラーまたはイベントがエラー・ログに記録される 際の処理を指定できます。

### 構文



### パラメーター

-snmptrap all | hardware\_only | none

SNMP トラップ設定、つまり、いつトラップを発信するかを指定します (オプ ション)。

-snmpip ip\_address

SNMP マネージャー・ソフトウェアが実行されているホスト・システムの IP アドレスを指定します (オプション)。

-community community

SNMP コミュニティー・ストリングを指定します (オプション)。

-alert all | hardware only | none

アラート設定を指定します (オプション)。この設定では、どのような場合にア ラート通知を発信するかを指定します。

注: これらの引き数は相互に排他的ではありません (組み合わせて指定できま す)。

### 記述

このコマンドは、エラー・ログに適用するさまざまな設定を変更します。これらの 設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行う かを定義します。 -snmptrap および -alert 引き数には、以下の値を設定できます。

ログに記録されたすべてのエラーと状態変更について、SNMP トラップを 送信します。

#### hardware only

すべてのエラーについて、SNMP トラップを送信します。ただし、オブジ エクトの状態変更の場合は送信しません。

none エラーがログに記録されても、SNMP トラップを送信しません。新規クラ スターの場合、これがデフォルトです。

このコマンドで、SNMP トラップをセットアップできます。SNMP 用に、以下の情 報を入力する必要があります。

- どのような場合にトラップを発信するか。
- SNMP マネージャーの IP アドレス
- SNMP コミュニティー

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

### 例

### 呼び出し例

svctask setevent -snmptrap all -snmpip 1.2.3.4 -community mysancommunity

### 結果出力

# 第 19 章 フィーチャー設定コマンド

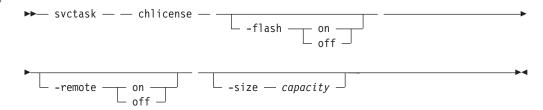
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでフィーチャー設定機能を操作できます。

- 324 ページの『chlicense』
- 326 ページの『dumpinternallog』

### chlicense

chlicense コマンドを使用して、クラスターのライセンス設定値を変更できます。

### 構文



### パラメーター

#### -flash $on \mid off$

このクラスターについて、フラッシュ・コピーがライセンス交付を受けれている かを指定します (オプション)。デフォルトは off (ライセンス交付を受けていな い)です。

#### -remote on ∣ off

このクラスターについて、リモート・コピーがライセンス交付を受けているかを 指定します (オプション)。デフォルトは off (ライセンス交付を受けていない) です。

#### -size capacity

このクラスターについて、ライセンス交付を受けたバーチャライゼーションの量 を指定します (オプション)。デフォルトは OGB です。

注: これらの 3 つの引き数は相互に排他的です。

### 記述

このコマンドは、クラスターのライセンス設定値を変更します。行われたすべての 変更は、イベントとしてフィーチャー設定ログに記録されます。

クラスターの現行フィーチャー設定値が「フィーチャー・ログの表示」パネルに表 示されます。これらの設定値は、FlashCopy または リモート・コピーの使用のライ センス交付を受けているかどうかを示しています。 また、バーチャライゼーション のライセンス交付を受けているストレージの量も表示されます。通常は、Web ベー スのクラスター作成プロセスの一部としてフィーチャー・オプションを設定しなけ ればならないために、フィーチャー・ログに項目が含まれます。

注: 空のフィーチャー・ログのダンプを行うと、ヘッダー、256 行のフォーマット 済みゼロ、および数行チェックサム情報を含むファイルが生成されます。

デフォルトを受け入れてコピー・サービスを使用不可にしておいても、コピー・サ ービスを作成したり使用することを停止しません。ただし、ライセンス交付を受け ていないフィーチャーを使用しているというエラーが、フィーチャー設定ログに記 録されます。コマンド行ツールの戻りコードも、ライセンス交付を受けていないフ ィーチャーを使用していることを示します。

このコマンドで、仮想化容量の総量も変更できます。これは、クラスターによって 構成できる仮想ディスク容量をギガバイト (GB) で表したものです。

容量の使用率が 90% に達した場合、仮想ディスクの作成または拡張の実行に対し て、コマンド行ツールからメッセージが出されます。この場合、仮想ディスクの作 成および拡張を停止することはありません。容量の使用率が 100% に達した (越え た)場合、フィーチャー設定ログにエラーが記録されます。この場合も、仮想ディ スクの作成および拡張を停止することはありません。

フィーチャー設定ログに何らかのエラーが記録されると、その結果、通常のクラス ター・エラー・ログに一般フィーチャー設定エラーが記録されます。これらは、ユ ーザーが使用条件に違反するコマンドを発行した場合に起こります。コマンドに対 する戻りコードも、ライセンス設定値に違反しているか、またはライセンス設定値 を超過していることを通知します。つまり、現行のライセンス設定値を 90% 以上 超過、または違反しているコマンドに対して、戻りコード 1 が返されます。フィー チャー設定イベントは、フィーチャー設定ログにのみ記録されます。

### 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

### 例

### 呼び出し例

svctask chlicense -flash on

#### 結果出力

### dumpinternallog

dumpinternallog コマンドを使用して、フィーチャー設定エラーおよびイベント・ ログの内容を、現行の構成ノード上のファイルにダンプすることができます。

### 構文

►►— svctask — — dumpinternallog —

### 記述

このコマンドは、内部フィーチャー設定エラーおよびイベント・ログの内容を、現 行の構成ノード上のファイルにダンプします。

このファイルは常に feature.txt というファイル名で、構成ノードの /dumps/feature ディレクトリーに作成されます (もしくは既存のファイルが上書きされます)。

項目を作成する前は、フィーチャー設定ログにはゼロが含まれています。このログ を svfeature —x dumplog を使用してダンプすると、ファイルは空になります。

IBM サービス技術員が、このファイルの提出をお願いする場合があります。

### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・ システムが満杯です。

### 例

### 呼び出し例

svctask dumpinternallog

#### 結果出力

# 第 20 章 セキュア・シェル (SSH) 鍵コマンド

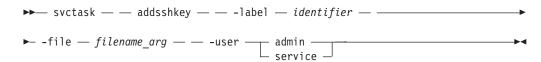
次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで SSH を操作できます。

- ・ 328 ページの 『addsshkey』
- 330ページの『rmallsshkeys』
- 331ページの『rmsshkey』

### addsshkey

addsshkey コマンドを使用して、新規の SSH 鍵をクラスターにインストールでき ます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーする必要があります。

### 構文



## パラメーター

-label identifier

この鍵に関連付ける新規 ID を指定します。最大長は 30 文字です。

**-file** *filename\_arg* 

SSH 鍵が入っているファイルの名前を指定します。

**-user** admin | service

SSH 鍵を適用するユーザー ID を指定します。

### 記述

最初に secure copy (scp) を使用して、/tmp ディレクトリー内のクラスターに鍵の ファイルをコピーする必要があります。

svctask addsshkey コマンドは、/tmp ディレクトリーから目的の場所に鍵のファ イルを移動して、特定のユーザー用にそのファイルをアクティブにします。鍵がア クティブになったら、鍵が生成されたホストで指定されたユーザー ID を使用し て、SSH を介してクラスターに対するコマンドを呼び出すことができます。別の方 法として、指定した ユーザー ID を使用して、指定のホストから対話式 SSH セッ ションを実行できます。

この ID は、以降、svcinfo lssshkeys コマンドを使用してすべての鍵をリストし たとき、もしくは svctask rmsshkey コマンドを使用して鍵を削除する場合に、 鍵の識別するのに利用できます。

**重要:** クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネル を閉じてください。

svcinfo Issshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリ ストを表示できます。svctask addsshkey コマンドを使用して、新規の SSH 鍵を クラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーす る必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付け られており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラス ターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アク セスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、 次のように入力します。

svctask addsshkey -user service -file /tmp/id rsa.pub -label testkey

ここで、/tmp/id\_rsa.pub は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前、testkey は、この 鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。 svctask rmallsshkeys コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が 削除されます。

## 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6008E この鍵はすでに存在します。

## 例

### 呼び出し例

svctask addsshkey -user service -file /tmp/id\_rsa.pub -label testkey

### 結果出力

### rmallsshkeys

rmallsshkeys コマンドを使用して、SSH 鍵を除去できます。

### 構文



### パラメーター

-user admin | service | all

-user 引き数を使用して、SSH 鍵が適用されるユーザー ID を指定します。all を指定すると、クラスター内のすべての SSH 鍵が除去されます。

### 記述

このコマンドは、指定された -user 引き数に適用可能なすべての SSH 鍵を除去し ます。

**重要:** クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネル を閉じてください。

svcinfo Issshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリ ストを表示できます。svctask addsshkey コマンドを使用して、新規の SSH 鍵を クラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーす る必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付け られており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラス ターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アク セスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、 次のように入力します。

svctask addsshkey -user service -file /tmp/id rsa.pub -label testkey

ここで、/tmp/id\_rsa.pub は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前、testkey は、この 鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。 svctask rmallsshkeys コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が 削除されます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

### 例

#### 呼び出し例

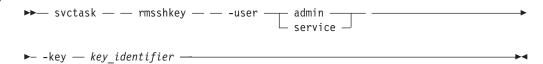
svctask rmallsshkeys -user service

#### 結果出力

### rmsshkey

rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵を除去できます。

### 構文



### パラメーター

**-user** admin | service -user 引き数は、SSH 鍵を削除するユーザー ID を指定します。

**-key** key\_identifier 削除する鍵のラベルです。

### 記述

このコマンドを実行すると、-key 引き数で指定された SSH 鍵が除去されます。

**重要:** クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネル を閉じてください。

svcinfo Issshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリ ストを表示できます。svctask addsshkey コマンドを使用して、新規の SSH 鍵を クラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーす る必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付け られており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラス ターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アク セスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、 次のように入力します。

svctask addsshkey -user service -file /tmp/id rsa.pub -label testkey

ここで、/tmp/id rsa.pub は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前、testkey は、この 鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。 svctask rmallsshkeys コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が 削除されます。

# 起こりうる障害

• CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

# 例

#### 呼び出し例

svctask rmsshkey -key testkey -user service

## 結果出力

# 第 21 章 保守モード・コマンド

これらのコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。作動中の構成ノードでこのコマンドを実行しようとすると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC5997E This command can only be run on a node that is in service mode.

保守モードのノードで、他の svctask および svcservicetask コマンドのいずれかを実行しようとすると、以下のメッセージが表示されます。

CMMVC5998E This command can not be run on a node that is in service mode.

- 334 ページの『applysoftware』
- 336ページの『cleardumps』
- 338ページの『dumperrlog』
- 339ページの『exit』

### applysoftware

applysoftware コマンドを使用して、保守モードのノードにインストールするソフ トウェアを指定できます。

### 構文

- ▶►— svcservicemodetask — applysoftware — -file filename arg —
- ► -ignore ignore flag —

### パラメーター

-file filename arg

新規ソフトウェア・パッケージのファイル名を指定します。

-ignore ignore flag

このパラメーターを使用すると、前提条件のシーケンス検査をバイパス中にパッ ケージをロードすることになります。この場合、ノード上のハード化されたデー 夕は削除され、このノードはもはやクラスターのメンバーであるとは考えませ ん。ノード・クォーラムが残りのノードから形成できない場合、このプロシージ ャーには、キャッシュ・データの紛失およびクラスター整合性の喪失というリス クがあります。

### 記述

このコマンドは、ソフトウェアのインストールを開始します。このコマンドは、ク ラスターの新規ソフトウェア・レベルへのアップグレード処理を開始します。

コマンドに渡されるファイル名で指定したソフトウェア・パッケージは、最初に /home/admin/upgrade ディレクトリー内の現行の構成ノードにコピーする必要があり ます。ファイルをコピーするには、secure shell (SSH) クライアントで使用可能な secure copy (scp) を使用します。

内部的には、新規パッケージは /home/admin/upgrade ディレクトリーから移されてチ ェックサムを受けます。パッケージがチェックサムで不合格となると、そのパッケ ージは削除され、インストールは失敗します。パッケージがチェックサムで合格す ると、そのパッケージが取り出されて、ソフトウェアのインストールが開始されま す。

注: ソフトウェアの適用により、ノードはクラスターから削除され、データは失わ れます。

# 起こりうる障害

エラー・コードはありません。

# 例

### 呼び出し例

svcservicemodetask applysoftware -file newsoftware

## 結果出力

### cleardumps

cleardumps コマンドを使用して、保守モードのノード上のさまざまなダンプ・デ ィレクトリーの内容をすべて消去することができます。

### 構文

- ►►— svcservicemodetask — cleardumps —
- ► -prefix directory\_or\_file\_filter —

### パラメーター

**-prefix** directory or file filter

消去するディレクトリーおよび/またはファイルを指定します。ファイル・フィ ルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレクトリー内のすべての関 連するダンプまたはログ・ファイルが消去されます。使用可能なディレクトリー 引き数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリー内の全ファイル、以下にリストしたもの が消去されます)
- · /dumps/configs
- /dumps/elogs
- · /dumps/feature
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえば /dumps/elogs/\*.txt にすると、/dumps/elogs ディレクトリー内の .txt で終わるす べてのファイルが消去されます。

# 記述

このコマンドは、ノード上の directory/file\_filter 引き数に一致するファイルをすべて 削除します。ノードは、保守モードでなくてはなりせん。

このコマンドで、ディレクトリー引き数として /dumps を指定することによって、 すべてダンプ・ディレクトリーの内容を消去できます。

また、上記にリストしたディレクトリー引き数のいずれか 1 つを指定することで、 単一ディレクトリー内のすべてのファイルを消去できます。

ディレクトリーとファイル名を指定することで、特定のディレクトリー内の特定の ファイルを消去することもできます。ファイル名の一部にワイルドカード(\*)を使 用できますが、ワイルドカードを使用する場合は、ファイル名を引用符で囲まなけ ればならない場合があります。

svcservicemodeinfo lsxxxdumps コマンドを使用して、特定のノード上のこれら のディレクトリーの内容をリストすることができます。

# 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

# 例

### 呼び出し例

svcservicemodetask cleardumps -prefix /dumps/configs

### 結果出力

### dumperrlog

dumperrlog コマンドを使用して、エラー・ログの内容を保守モードのノード上の テキスト・ファイルにダンプすることができます。

### 構文

▶►— svcservicemodetask — — dumperrlog — — -prefix — filename prefix — ▶◄

### パラメーター

-prefix filename\_prefix

-prefix を指定しないと、ダンプは、システム定義された名前のファイルに送ら れます。ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成され、形式は <prefix>\_NN\_YYMMDD\_HHMMSS (NN は現行の構成ノード ID) です。

### 記述

このコマンドは、クラスター・エラー・ログを、システムから与えられた名前 (ノ ード ID とタイム・スタンプが含まれる) のファイルにダンプします。ファイル名 の接頭部が使用された場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディ レクトリー内の、ユーザー定義の接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。 11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされ ます。

# 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

# 例

#### 呼び出し例

svcservicemodetask dumperrlog -prefix testerrorlog

### 結果出力

#### exit

exit コマンドを使用して、保守モードを終了し、ノードを再始動することができま す。

#### 構文

► svcservicemodetask — — exit —

#### 記述

このコマンドを発行すると、ノードが再始動します。ノードは標準の動作モードで 起動し、クラスターへの再結合を試みます。

このコマンドの実行中のある時点で、ユーザーがノードへのアクセスに使用してい た SSH および Web サーバーの接続が、ノードが再始動したことにより終了しま す。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodetask exit

#### 結果出力

[SSH / webserver connections terminate so an error message to the effect of 'connection lost' may be displayed, or 'CLIENT RECEIVED SERVER DOWN NOTIFICATION']

#### 第 22 章 保守モード情報コマンド

これらのコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。作動中の構成ノードでこのコマンドを実行しようとすると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC5997E This command can only be run on a node that is in service mode.

保守モードのノードで、他の svcinfo コマンドのいずれかを実行しようとすると、 以下のメッセージが表示されます。

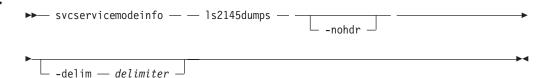
CMMVC5998E This command can not be run on a node that is in service mode.

- 342 ページの『Is2145dumps』
- 343 ページの『Isclustervpd』
- 345 ページの『Isconfigdumps』
- 346 ページの『Iserrlogdumps』
- 347ページの『Isfeaturedumps』
- 348ページの『Isiostatsdumps』
- ・ 349 ページの『Isiotracedumps』
- 350ページの『Isnodes』
- ・ 351 ページの『Isnodevpd』
- 354 ページの『Issoftwaredumps』

#### Is2145dumps

ls2145dumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイプ のファイルのリストを戻すことができます。保守モード以外では、Issvcdumps コ マンドを使用してください。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo ls2145dumps

#### 結果出力

id	filename
0	s1 lynn75 030405 092143
1	s2_1ynn75_030405_092145
2	s3 lynn75 030405 092146

#### **Isclustervpd**

**Isclustervpd** コマンドを使用して、ノードが属していたクラスターの vital product data (VPD) を戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、ノードが属していたクラスターの VPD を表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsclustervpd

#### 結果出力

id 000001002FF007E5 name kkk location local partnership bandwidth 0 cluster IP address 0.0.0.0 cluster\_service\_IP\_address 1.1.1.1
total\_mdisk\_capacity 0
space\_in\_mdisk\_grps 0
space\_allocated\_to\_vdisks 0
total\_free\_space 0
statistics\_status off
statistics\_frequency 15 required\_memory 2048 cluster\_locale en\_US SNMP\_setting all
SNMP\_community
SNMP\_server\_IP\_address 0.0.0.0
subnet\_mask 0.0.0 default\_gateway 0.0.0.0 time zone 522 UTC email\_setting all email\_id code\_Tevel 00000000 FC\_port\_speed 1Gb

#### **Isconfigdumps**

**Isconfigdumps** コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイプ のファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps/configs ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsconfigdumps

#### 結果出力

id config filename config\_lynn02\_030403\_101205

#### **Iserrlogdumps**

Iserrlogdumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイプ のファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps/elogs ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lserrlogdumps

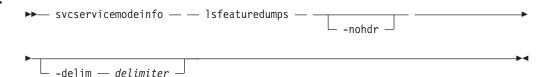
#### 結果出力

id	filename
0	errlog_lynn02_030327_154511
1	aaa.txt_lynn02_030327_154527
2	aaa.txt_lynn02_030327_154559
3	errlog_Tynn02_030403_110628

#### Isfeaturedumps

Isfeaturedumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイ プのファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps/feature ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsfeaturedumps

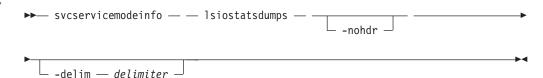
#### 結果出力

id feature filename feature.txt

#### Isiostatsdumps

Isiostatsdumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイ プのファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps/iostats ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsiostatsdumps

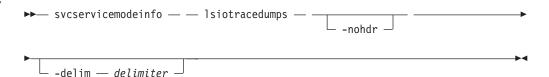
#### 結果出力

0	s1	mala75	030405	092149
1	s2		030405	092150
2	s3	 mala75	030405	092152

#### Isiotracedumps

Isiotracedumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイ プのファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/dumps/iotrace ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsiotracedumps

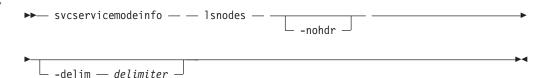
#### 結果出力

id	iotrace filename
0	c1 mala75 030405 092155
1	c2 mala75 030405 092156
2	c3_mala75_030405_092158
3	c4 mala75 030405 092159
4	c5 mala75 030405 092201

#### Isnodes

Isnodes コマンドを使用して、保守モードのクラスター内のノードの注釈付きリス トを表示することができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、クラスター内のノードの注釈付きリストを戻します。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lsnodes -delim :

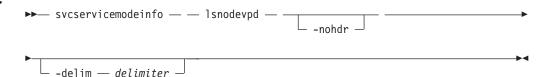
#### 結果出力

id:WWNN:front panel id:node name:cluster:fabric 1:50050768010007E5: Tynn02: node1: yes: yes

#### Isnodevpd

Isnodevpd コマンドを使用して、指定したノードの vital product data (VPD) を戻 すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、指定されたノードの VPD を戻します。新規の 1 行に 1 フィー ルドが表示されます。フィールドはすべてストリングです。

VPD は、幾つかのセクションに分かれています。セクションごとにセクションの見 出しがあります。見出しの後には、そのセクションのフィールド数が表示されま す。各セクションは、空の行で区切られています。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

 ${\tt svcservice} {\tt modeinfo~lsnodevpd~id~1}$ 

#### 結果出力

system board: 17 fields part\_number Unknown system serial number 550117N number\_of\_processors 2 number\_of\_memory\_slots 4 number\_of\_fans 0 number of FC cards 1 number of scsi/ide devices 2 BIOS manufacturer IBM BIOS\_version -[QAE115AUS-1.01]-BIOS\_release\_date 08/16/2001 system manufacturer IBM system product eserver xSeries 342 - [86691RX] planar manufacturer IBM power\_supply\_part\_number Unknown CMOS\_battery\_part\_number Unknown power cable assembly part number Unknown service processor firmware N/A processor: 6 fields processor\_location Processor 1
number\_of\_caches 2 manufacturer GenuineIntel version Pentium III speed 1000 status Enabled processor cache: 4 fields type of cache Internal L1 Cache size of cache (KB) 32 type of cache Internal L2 Cache size of cache (KB) 256 processor: 6 fields processor location Processor 2 number\_of\_caches 2 manufacturer GenuineIntel version Pentium III speed 1000 status Enabled processor cache: 4 fields type of cache Internal L1 Cache size of cache (KB) 32 type\_of\_cache Internal L2 Cache size\_of\_cache (KB) 256 memory module: 16 fields part number 33L5039 device location J1 bank location Slot1 in bank 1 size (MB) 1024 part number 33L5039 device location J4 bank\_location Slot2 in bank 1 size (MB) 1024 part number N/A device location J2 bank location Slot1 in bank 2 size (MB) 0

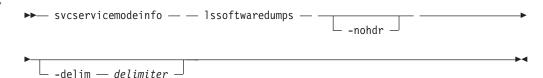
part\_number N/A device location J3 bank location Slot2 in bank 2 size (MB) 0 FC card: 5 fields part number 64P7783 port numbers 1 2 device\_serial\_number VSI 0000AD3F4 manufacturer Agilent device DX2 device: 15 fields part\_number Unknown bus ide0 device 0 model LG CD-ROM CRN-8245B revision 1.13 serial\_number approx\_capacity 0 part number Unknown bus scsi device 0 device vendor IBM-ESXS model ST318305LC revision 6C48 serial number 3JKQ93B903196C48 approx\_capacity 8 software: 5 fields code\_level 00000000 node name node1 ethernet status 1 WWNN 0x50050768010007e5 id 1 front panel assembly: 3 fields part number Unknown front\_panel\_id lynn02 front panel locale en US UPS: 10 fields electronics assembly part number FakElec battery\_part\_number FakBatt frame\_assembly\_part\_number FakFram input\_power\_cable\_part\_number FakCabl UPS\_serial\_number\_UPS\_Fake\_SN UPS\_type Fake UPS UPS\_internal\_part\_number UPS\_Fake\_PN UPS unique id 0x1000000000007e5 UPS main firmware 1.4

UPS\_comms\_firmware 0.0

#### **Issoftwaredumps**

Issoftwaredumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイ プのファイルのリストを戻すことができます。

#### 構文



#### パラメーター

#### -nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ の項目ごと(詳細形式のビュー)で表示されます。 -nohdr パラメーターを使用す ると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注:表示するデータがない場合(たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示さ れません。

#### -delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビ ューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、 データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 -delim パラメーターを 使用すると、この動作が指定変更されます。 -delim パラメーターでは、1 バイ トの文字を入力できます。たとえば、-delim: と入力すると、簡略ビューのす べてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしま せん)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

#### 記述

このコマンドは、/home/admin/upgrade ディレクトリー内のダンプのリストを表示し ます。

#### 起こりうる障害

• エラー・コードはありません。

#### 例

#### 呼び出し例

svcservicemodeinfo lssoftwaredumps

#### 結果出力

id	software filename
0	s1 mala75 030405 092143
1	s2 mala75 030405 092145
2	s3 mala75 030405 092146

## 第 23 章 コントローラー・コマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでコントローラーを操作できます。

• 356ページの『chcontroller』

#### chcontroller

chcontroller コマンドを使用して、コントローラーの名前を変更できます。

#### 構文

▶── svctask — — chcontroller — — -name — new name — - controller id -└ controller name ┘

#### パラメーター

-name new name

コントローラーに割り当てる新しい名前を指定します。

#### controller id | controller name

名前を変更するコントローラーを指定します。コントローラーの名前もしくは ID を使用してください。

#### 記述

このコマンドを使用すると、controller id または controller name で指定されたコン トローラーの名前を、-name で指定された名前に変更します。

新しいディスク・コントローラーを SAN にいつでも追加できます。スイッチ・ゾ ーニングのセクションにあるスイッチ・ゾーニングのガイドラインに従ってくださ い。さらに、コントローラーが SAN ボリューム・コントローラー用に正しくセッ トアップされているかを確認してください。

新しいコントローラー上に 1 つ以上のアレイを作成してください。冗長度と信頼性 を最大化するため、RAID-5、RAID-1、または RAID-0+1 (RAID-10 とも呼びます) を使用することを推奨します。一般的に、5+P アレイを推奨します。アレイの区分 化を提供するコントローラーの場合は、アレイ内の使用可能な全容量に対して 1 つ の区画を作成することを推奨します。後で必要になるので、各区画に割り当てる LUN 番号を覚えておいてください。さらに、SAN ボリューム・コントローラー・ ポートに区画やアレイをマップするときには、マッピングのガイドラインに従って ください (使用するディスク・コントローラーが LUN のマッピングを必要とする 場合)。

実行中の構成に新規ディスク・コントローラーを追加する: svctask detectmdisk コマンドを実行して、新しいストレージ (MDisk) をクラスターが検出したことを確 認します。コントローラー自体には、デフォルト名が自動的に割り当てられていま す。どのコントローラーが MDisk を提示しているのかがわからない場合は、 svcinfo Iscontroller コマンドを実行して、コントローラーをリストします。新し いコントローラーが表示されるはずです (最も大きな数字のデフォルト名)。 コント ローラーの名前を確認してから、ディスク・コントローラー・システム名の確認に 関するセクションに記載の手順に従ってください。

このコントローラーには、識別するときに簡単に使用できる名前を付けてくださ い。次のコマンドを入力します。

svctask chcontroller -name <newname> <oldname>

次のコマンドを実行して、非管理の MDisk をリストします。

svcinfo lsmdisk -filtervalue mode=unmanaged:controller name=<new name>

この MDisk は、作成した RAID アレイまたは区画に対応します。フィールドのコ ントローラーの LUN 番号を覚えておきます。この番号は、アレイまたは区画のそ れぞれに割り当てた LUN 番号に対応します。

新しい管理対象ディスク・グループを作成して、新しいコントローラーに属する RAID アレイだけをこの MDisk グループに追加することを推奨します。また、異な るタイプの RAID を混合することは避けてください。そこで、異なるタイプの RAID ごと (RAID-5、RAID-1 など) に新しい MDisk グループを作成してくださ い。この MDisk グループに適切な名前を付けます。たとえば、使用するコントロー ラーの名前が FAST650-fred で、MDisk グループに RAID-5 アレイがある場合は、 F600-fred-R5 のような名前にします。次のコマンドを入力します。

svctask mkmdiskgrp -ext 16 -name <mdisk\_grp\_name> -mdisk <colon separated list of RAID-x mdisks returned in step 4.

注: これで、エクステント・サイズが 16 MB の新規 MDisk グループが作成されま す。

#### 起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクシ ョンが失敗しました。

#### 例

#### 呼び出し例

svctask chcontroller -name newtwo 2

#### 結果出力

No feedback

#### 第 24 章 CLI メッセージ

コマンド行ツールは、完了時に戻り値を戻します。コマンドが正常にエラーなしで完了すると、戻りコードは 0 です。コマンドが失敗すると、戻りコードが 1 となり、警告のエラー・コードが stderr 上に出力されます。コマンドが成功した場合でも、クラスターがライセンス交付済みのバーチャライゼーションの限界近くで作動している場合は、戻りコードはやはり 1 となり、警告のエラー・コードが stderr 上に出力されます。

作成コマンドを発行すると、新規オブジェクトに割り当てられていたメッセージ ID が、STDOUT に送られる成功メッセージの一部として戻されます。 -quiet コマンドを使用すると、メッセージ ID のみが STDOUT に送られます。

#### CMMVC5700E パラメーター・リストが無効です。

説明: 指定したパラメーター・リストが無効です。

**アクション:** 正しいパラメーター・リストを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5701E オブジェクト ID が指定されていません。

説明: オブジェクト ID を指定しませんでした。

**アクション:** オブジェクト ID を指定し、コマンドを 再度実行してください。

#### CMMVC5702E [%1] が最小レベルに達していません。

説明: [%1] が最小レベルに達していません。

**アクション:** 正しいレベルを指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5703E [%1] が最大レベルを超えています。

説明: [%1] が最大レベルを超えています。

**アクション:** 正しいレベルを指定して、コマンドを再度 実行してください。

## **CMMVC5704E** [%1] は、許可されたステップ・レベル で割り切れません。

**説明:** [%1] は、許可されたステップ・レベルで割り切れません。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5705E 必要パラメーターが欠落しています。

説明: 必要パラメーターが欠落しています。

**アクション:** 必要パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### **CMMVC5706E** [%1] パラメーターに無効な引き数が 入力されました。

**説明:** [%1] は、指定したパラメーターに有効な引き数ではありません。

**アクション:** 正しい引き数を指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5707E 必要パラメーターが欠落しています。

説明: 欠落している必要パラメーターがあります。

**アクション:** 必要パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5708E %1 パラメーターに関連する引き数が 欠落しています。

**説明:** [%1] パラメーターに関連する引き数が欠落しています。

**アクション:** 関連する引き数を指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5709E** [%1] はサポートされたパラメーターで はありません。

**説明:** [%1] はサポートされたパラメーターではありません。

**アクション:** 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5710E ID パラメーター [%1] に対する自己記述型構造ではありません。

**説明:** ID パラメーター [ %1] に対する自己記述型構造がありません。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5711E [%1] は無効なデータです。

説明: [%1] は無効なデータです。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5712E 必要なデータが欠落しています。

説明: 欠落している必要データがあります。

**アクション:** 欠落しているデータを指定して、コマンドを再度実行してください。

## **CMMVC5713E** 一部のパラメーターが相互に排他的です。

説明: 一部のパラメーターが相互に排他的です。

アクション: 適用されません。

## CMMVC5714E パラメーター・リストに項目がありません。

説明: パラメーター・リストに項目がありません。

**アクション:** パラメーター・リストに項目を指定して、コマンドを再度実行してください。

## **CMMVC5715E** パラメーター・リストが存在しません。

説明: パラメーター・リストが存在しません。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5716E 数値フィールド ([%1]) に非数値のデータが入力されました。数値を入力してください。

**説明:** 数値フィールドに非数値のデータが指定されました。

**アクション:** 数値フィールドに数値を指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5717E 指定された単位に対する一致が見つかりません。

説明: 指定された単位に対する一致が見つかりません。 アクション: 正しい単位を指定して、コマンドを再度実 行してください。

# **CMMVC5718E** 予期しない戻りコードを受け取りました。

説明: 予期しない戻りコードを受け取りました。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5719E %2 の値には、パラメーター %1 を指 定する必要があります。

**説明:** %2 の値には、パラメーター %1 を指定する必要があります。

**アクション:** 必要パラメーターを指定して、コマンドを 再度実行してください。

## **CMMVC5720E** [%1] は、**-o** パラメーターに有効な引き数ではありません。

**説明:** [%1] は、-o パラメーターに有効な引き数ではありません。

**アクション:** 正しい引き数を指定して、コマンドを再度 実行してください。

# CMMVC5721E [%1] は有効なタイム・スタンプ・フォーマットではありません。有効なフォーマットは、MMDDHHmmYY です。

**説明:** [%1] は有効なタイム・スタンプ・フォーマット ではありません。有効なフォーマットは、

MMDDHHmmYY です。

**アクション:** 正しいタイム・スタンプ・フォーマットを順守して、コマンドを再度実行してください。

#### **CMMVC5722E** [%1] は有効な「月」ではありません。

説明: [%1] は有効な「月」ではありません。

**アクション:** 正しい月 (MM) を指定して、コマンドを 再度実行してください。

## CMMVC5723E [%1] は有効な「日」ではありません。

説明: [%1] は有効な「日」ではありません。

**アクション:** 正しい日 (DD) を指定して、コマンドを 再度実行してください。

#### CMMVC5724E [%1] は有効な「時」ではありません。

説明: [%1] は有効な「時」ではありません。

**アクション:** 正しい時 (HH) を指定して、コマンドを 再度実行してください。

#### **CMMVC5725E** [%1] は有効な「分」ではありません。

説明: [%1] は有効な「分」ではありません。

**アクション:** 正しい分 (mm) を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5726E [%1] は有効な「秒」ではありません。

説明: [%1] は有効な「秒」ではありません。

**アクション:** 正しい秒 (ss) を指定して、コマンドを再 度実行してください。

## **CMMVC5727E** [%1] は有効なフィルターではありません。

説明: [%1] は有効なフィルターではありません。

アクション: 適用されません。

#### 関連トピック:

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

#### **CMMVC5728E** [%1] のフォーマットは、「分:時:日: 月:曜日」でなければなりません。

**説明:** [%1] のフォーマットは、「分:時:日:月:曜日」でなければなりません。

**アクション:** 正しいフォーマットを順守して、コマンドを再度実行してください。

## **CMMVC5729E** リストにある 1 つ以上のコンポーネントが無効です。

**説明:** 無効なコンポーネントを 1 つ以上指定しました。

**アクション:** 正しいコンポーネントを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5730E %1 は、%2 が %3 の値を持っている 場合にのみ有効です。

**説明:** %1 は、%2 が %3 の値を持っている場合にのみ 有効です。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5731E %1 は、%2 が入力されている場合に のみ入力することができます。

**説明:** %1 は、%2 が入力されている場合にのみ入力することができます。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5732E** 共用メモリー・インターフェースを使用できません。

**説明:** 共用メモリー・インターフェース (SMI) を使用できません。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5733E 少なくともパラメーターを 1 つ入力してください。

**説明:** 少なくともパラメーターを 1 つ指定する必要があります。

**アクション:** 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5734E** 無効な値の組み合わせが入力されました。

説明: 無効な値の組み合わせを指定しました。

**アクション:** 正しい値の組み合わせを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5735E 入力された名前は無効です。先頭が数字でない、英数字ストリングを入力してください。

説明: 無効な名前を指定しました。

**アクション:** 先頭が数字でない、英数字ストリングを指定してください。

#### CMMVC5736E -c は有効な単位ではありません。

説明: 有効な単位でないパラメーターを指定しました。 アクション: 正しいパラメーターを指定して、コマンド を再度実行してください。

# CMMVC5737E パラメーター %1 が複数回入力されました。このパラメーターは 1 度だけ入力してください。

説明: 同じパラメーターを複数回入力しました。

**アクション:** 重複するパラメーターを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5738E 名前に含まれている文字数が多過ぎます。 $A \sim Z$ 、 $a \sim z$ 、 $0 \sim 9$ 、-、または $_{-}$  のいずれかの文字で構成される、 $1 \sim 15$  文字の英数字ストリングを入力してください。先頭の文字を数字にすることはできません。

説明: 指定した引き数に含まれている文字数が多過ぎます。

**アクション:** 正しい引き数を指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5739E 引き数 %1 に含まれている文字数が十 分ではありません。

**説明:** 指定した引き数に含まれている文字数が不十分です。

**アクション:** 正しい引き数を指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5740E フィルター・フラグ %1 は無効です。

説明: フィルター・フラグ %1 は無効です。

**アクション:** 正しいフラグを指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5741E フィルター値 %1 は無効です。

説明: フィルター値 %1 は無効です。

**アクション:** 正しい値を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### 関連トピック:

• 185 ページの『第 15 章 -filtervalue 引き数の属性』

# CMMVC5742E 指定されたパラメーターが有効範囲外です。

説明: 有効範囲外のパラメーターを指定しました。

**アクション:** 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5743E 指定されたパラメーターがステップの 値に準拠していません。

**説明:** ステップの値に準拠しないパラメーターを指定しました。

**アクション:** 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5744E コマンドに指定されたオブジェクトの 数が多過ぎます。

**説明:** コマンドに指定されたオブジェクトの数が多過ぎます。

**アクション:** 正しいオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5745E コマンドに指定されたオブジェクトの 数が不足しています。

**説明:** コマンドに指定されたオブジェクトの数が不足しています。

**アクション:** 正しいオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### **CMMVC5746E** 要求された操作は、このオブジェクト に対しては無効です。

**説明:** 要求された操作は、このオブジェクトに対しては無効です。

**アクション:** 有効な操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5747E 要求された操作は無効です。

説明: 要求された操作は無効です。

**アクション:** 正しい操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5748E 要求された操作は無効です。

説明: 要求された操作は無効です。

**アクション:** 正しい操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5749E** ダンプ・ファイル名はすでに存在します。

**説明:** 指定したダンプ・ファイル名はすでに存在します。

**アクション:** 別のダンプ・ファイル名を指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5750E** ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

**説明:** ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5751E ダンプ・ファイルをディスクに書き込 むことができませんでした。

説明: ダンプ・ファイルをディスクに書き込むことがで きませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5752E オブジェクトに子オブジェクトが含ま れていたため、操作は失敗しました。子才 ブジェクトを削除して、要求を再実行依頼 してください。

説明: 指定されたオブジェクトに子オブジェクトが含ま れていたため、操作は失敗しました。

アクション: 子オブジェクトを削除して、コマンドを再 度実行してください。

## CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しませ

説明: 指定されたオブジェクトは存在しません。

アクション: 正しいオブジェクトを指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5754E 指定されたオブジェクトは存在しない か、名前が命名規則に違反しています。

説明: 指定されたオブジェクトは存在しないか、オブジ エクトの名前が命名要件に違反しています。

アクション: 正しいオブジェクト名を指定して、コマン ドを再度実行してください。

#### CMMVC5755E 指定されたオブジェクトのサイズが一 致しません。

説明: 指定されたオブジェクトのサイズが一致しませ  $h_{\circ}$ 

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5756E オブジェクトはすでにマップされてい るため、操作は失敗しました。

説明: 指定されたオブジェクトはすでにマップされてい るため、操作は失敗しました。

アクション: 別のオブジェクトを指定して、コマンドを 再度実行してください。

#### CMMVC5757E 自己記述型構造のデフォルトが見付か りませんでした。

説明: 自己記述型構造のデフォルトが見付かりませんで した。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5758E オブジェクト・ファイル名はすでに存 在します。

説明: オブジェクト・ファイル名はすでに存在します。 **アクション:** 別のオブジェクト・ファイル名を指定し て、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5759E メモリーを割り振れませんでした。

説明: メモリーを割り振ることができません。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5760E クラスターにノードを追加できません でした。

説明: クラスターにノードを追加できませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5761E クラスターからノードを削除できませ んでした。

説明: クラスターからノードを削除できませんでした。 アクション: 適用されません。

#### CMMVC5762E タイムアウト期間が満了したため、操 作は失敗しました。

説明: タイムアウト期間が満了したため、操作は失敗し ました。

アクション: コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5763E ノードをオンラインにできませんでし た。

説明: ノードをオンラインにできませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5764E 指定されたモード変更は無効です。

説明: 指定されたモード変更は無効です。

アクション: 別のモードを指定して、コマンドを再度実 行してください。

#### CMMVC5765E 選択されたオブジェクトは最早候補オ ブジェクトではありません。要求中に変更 が発生しました。

**説明:** 指定されたオブジェクトは候補オブジェクトではありません。要求中に変更が発生しました。

**アクション:** 別のオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### **CMMVC5767E** 指定された 1 つ以上のパラメーターが 無効です。

**説明:** 指定された 1 つ以上のパラメーターが無効です。

**アクション:** 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5769E この操作では、すべてのノードがオン ライン状態であることが必要です。 1 つ 以上のノードがオンライン状態になってい ません。

説明: この操作では、すべてのノードがオンライン状態であることが必要です。 1 つ以上のノードがオンライン状態になっていません。

**アクション:** それぞれのノードがオンライン状態であることを確認して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5770E SSH 鍵のファイルが無効です。

説明: SSH 鍵のファイルが無効です。

**アクション:** 別のファイルを指定して、コマンドを再度 実行してください。

# **CMMVC5771E** 操作は失敗しました。おそらく、オブジェクトに子オブジェクトが含まれていることが原因です。操作を完了するには、**force** フラグを指定してください。

**説明:** 操作は失敗しました。おそらく、オブジェクトに 子オブジェクトが含まれていることが原因です。

**アクション:** -force フラグを指定して操作を完了し、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5772E** ソフトウェアのアップグレードが進行 中のため、操作は失敗しました。

**説明:** ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、 操作は失敗しました。

**アクション:** ソフトウェアのアップグレードが完了する まで待ってから、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5773E** 選択されたオブジェクトは誤ったモードにあるため、操作は失敗しました。

**説明:** 選択されたオブジェクトは誤ったモードにあるため、操作は失敗しました。

**アクション:** 正しいモードを指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC5774E ユーザー ID は無効です。

説明: ユーザー ID は無効です。

**アクション:** 別のユーザー ID を指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5775E ディレクトリー属性は無効です。

説明: ディレクトリー属性は無効です。

**アクション:** 別のディレクトリーを指定して、コマンドを再度実行してください。

## CMMVC5776E ディレクトリー・リストを検索できませんでした。

**説明:** ディレクトリー・リストを検索できませんでした。

**アクション:** 別のディレクトリー・リストを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。

**説明:** ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。

**アクション:** 別の I/O グループから別のノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5778E** クラスターがすでに存在するため、作成できませんでした。

**説明:** クラスターがすでに存在するため、作成できませんでした。

アクション: 適用されません。

I 説明: リモート・クラスターの固有 ID は、このコマⅠ ンドに必要です。

**アクション:** リモート・クラスターの固有 ID を指定して、このコマンドを再度発行してください。

# **CMMVC5781E** 指定されたクラスター **ID** は無効です。

説明: クラスター ID は無効です。

**アクション:** 別のクラスター ID を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5782E オブジェクトがオフラインです。

説明: オブジェクトがオフラインです。

**アクション:** オンラインのオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5784E クラスター名が固有ではありません。 クラスター ID を使用してクラスターを指 定してください。

説明: クラスター名が固有ではありません。

**アクション:** クラスター ID を使用してクラスターを 指定し、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5785E ファイル名に正しくない文字が含まれています。

**説明:** ファイル名に正しくない文字が含まれています。 **アクション:** 有効なファイル名を指定して、コマンドを 再度実行してください。

#### **CMMVC5786E** クラスターが安定状態でないため、ア クションは失敗しました。

**説明:** クラスターが安定状態でないため、アクションは 失敗しました。

アクション: 適用されません。

## **CMMVC5787E** クラスターがすでに存在するため、クラスターを作成できませんでした。

**説明:** クラスターがすでに存在するため、クラスターを 作成できませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5788E サービス IP アドレスが無効です。

説明: サービス IP アドレスが無効です。

**アクション:** 正しいサービス IP アドレスを指定して、 コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5789E IP アドレス、サブネット・マスク、サ ービス・アドレス、SNMP アドレス、ま たはゲートウェイ・アドレスが無効なた め、クラスターを変更できませんでした。

説明: IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスターを変更できませんでした。

**アクション:** すべて正しい属性を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### **CMMVC5790E** ノードの最大数に達したため、クラス ターにノードを追加できませんでした。

**説明:** ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できませんでした。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5791E** コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しました。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。

**説明:** I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5793E VO グループにはすでに一対のノード が含まれているため、ノードをクラスター に追加できませんでした。

**説明:** I/O グループにはすでに一対のノードが含まれているため、ノードをクラスターに追加できませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでない ため、アクションは失敗しました。

**説明:** ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

**アクション:** クラスターに含まれるノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5795E** ソフトウェアのアップグレードが進行 中のため、ノードを削除できませんでした。

**説明:** ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、 ノードを削除できませんでした。

**アクション:** ソフトウェアのアップグレードが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安 定な状態のため、アクションは失敗しました。

説明: ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できませんでした。

説明: 指定されたノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した VDisk があるため、このノードを削除できませんでした。

アクション: 適用されません。

## CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。

**説明:** ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。

**アクション:** オンラインのノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5799E VO グループに 1 つのオンライン・ノ ードしかないため、シャットダウンは失敗 しました。

**説明:** I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャットダウン操作は失敗しました。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5800E** コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しました。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5801E クラスター内のすべてのノードがオンライン状態でなければならないため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再実行依頼してください。

説明: クラスター内のすべてのノードがオンライン状態でなければならないため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。

**アクション:** オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再度実行してください。

# CMMVC5802E クラスター内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスターをアップグレードするには、force オプションが必要です。

説明: クラスター内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスターをアップグレードするには、force オプションが必要です。

**アクション:** -force オプションを使用してクラスターを アップグレードするか、別のノードを指定して、コマン ドを再度実行してください。 **CMMVC5803E** シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

**説明:** シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

アクション: 適用されません。

**CMMVC5804E** コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

説明: FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

アクション: 適用されません。

**CMMVC5806E** コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しました。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。

説明: 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモード に変更できなかったため、アクションが失敗しました。

アクション: 適用されません。

CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

説明: 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別の MDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。 **CMMVC5809E I/O** 操作のトレースはすでに進行中の ため、開始されませんでした。

説明: I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5810E MDisk がオフラインのため、管理対象 ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号 は設定されませんでした。

説明: MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

**アクション:** MDisk の状況をオンラインに変更するか、別の MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5811E クォーラム・ディスクが存在しないた め、管理対象ディスク (MDisk) のクォー ラム索引番号が設定されませんでした。

説明: クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

**アクション:** 別のクォーラム・ディスクを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5812E MDisk が誤ったモードであるため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。管理対象のモードを持つ MDisk を選択してください。

説明: MDisk が管理対象モードでないため、管理対象 ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されま せんでした。

#### アクション:

- MDisk のモードを変更して、コマンドを再発行して ください。
- 管理対象モードの MDisk を選択して、コマンドを再 発行してください。

CMMVC5813E MDisk のセクター・サイズが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

説明: 指定したパラメーター・リストが無効です。

**アクション:** MDisk に対して別のセクター・サイズを 指定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5814E 固有 ID (UID) タイプが無効なため、 管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム 索引番号が設定されませんでした。

説明: 固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象デ ィスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませ んでした。

**アクション:** 別の固有 ID (UID) を指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5815E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでし

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成さ れませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま した。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5817E 名前が無効だったため、管理対象ディ スク (MDisk) グループは名前変更されま せんでした。

説明: 名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名前変更されませんでした。

アクション: 別の MDisk グループ名を指定して、コマ ンドを再度実行してください。

#### CMMVC5818E グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されませんでした。

説明: グループに少なくとも 1 つの MDisk があるた め、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されま せんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5819E この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追加されませんでし た。

説明: この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追 加されませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5820E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加され ませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループ に追加されませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5821E リストに十分な MDisks が含まれてい ないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでし た。

説明: リストに十分な MDisks が含まれていないた め、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追 加されませんでした。

アクション: リストに MDisk を追加して、コマンドを 再度実行してください。

#### CMMVC5822E リストに含まれている MDisks の数が 多過ぎるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加され ませんでした。

説明: リストに含まれている MDisks の数が多過ぎる ため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに 追加されませんでした。

アクション: リストから余分の MDisk を削除して、コ マンドを再度実行してください。

#### CMMVC5823E この MDisk は別の MDisk グループ の一部であるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除さ れませんでした。

説明: この MDisk は別の MDisk グループの一部であ るため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループ から削除されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5824E この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、そ の MDisk グループから削除されませんで した。

説明: この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、その MDisk グループから削除されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5825E 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。強制削除が必要です。

説明: 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。

**アクション:** -force オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5826E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5827E 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。

**説明:** 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。

**アクション:** パラメーターを 1 つ指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5828E I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

**説明:** I/O グループにはノードが含まれていないため、 仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5829E 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード 仮想ディスク (VDisk) は作成されません でした。

説明: 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

**アクション:** 別の MDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5830E コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明: コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

**アクション:** MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5831E 入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明: 入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

**アクション:** 別のノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5832E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5833E I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。

説明: I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5834E このグループはリカバリー I/O グルー プのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。I/O グ ループを変更するには、force オプション を使用してください。

説明: このグループはリカバリー I/O グループのた め、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更され ませんでした。I/O グループを変更するには、force オ プションを使用してください。

アクション: -force オプションを指定して、コマンドを 再度実行してください。

CMMVC5835E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでし た。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC5836E 仮想ディスク (VDisk) はロックされて いるため、縮小されませんでした。

説明: 仮想ディスク (VDisk) はロックされているた め、縮小されませんでした。

アクション: VDisk をアンロックして、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクション は失敗しました。

説明: 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピング の一部であるため、アクションは失敗しました。

**アクション:** FlashCopy マッピングの一部でない別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

**CMMVC5838E** 仮想ディスク (VDisk) は リモート・ コピー・マッピングの一部であるため、ア クションは失敗しました。

説明: 仮想ディスク (VDisk) は リモート・コピー・マ ッピングの一部であるため、アクションは失敗しまし た。

アクション: リモート・コピー・マッピングの一部でな い別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してく ださい。

#### CMMVC5839E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでし

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC5840E 仮想ディスク (VDisk) はホストにマッ プされているか、または FlashCopy か リモート・コピー・マッピングの一部であ るため、削除されませんでした。

説明: 仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされて いるか、または FlashCopy か リモート・コピー・マッ ピングの一部であるため、削除されませんでした。

アクション: 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5841E 仮想ディスク (VDisk) は存在しないた め、削除されませんでした。

説明: 仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除 されませんでした。

アクション: 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC5843E VDisk がゼロ・バイトを超える容量を 持っていないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませ んでした。

説明: VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持ってい ないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピ ングは作成されませんでした。

アクション: 容量がゼロ・バイトより大きい VDisk を 指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5844E SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした

**説明:** SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション: 正しい SCSI 論理装置番号 (LUN) ID を 指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5845E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、エクステントはマイグ レーションされませんでした。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5846E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5847E この仮想ディスクに関連した管理対象 ディスク (MDisk) がすでに MDisk グル ープにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんで した。

説明: この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮 想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか 削除されているため、アクションは失敗し ました。

**説明:** 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。

**アクション:** 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。 CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。

**説明:** 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました

アクション: 適用されません。

CMMVC5850E ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

**説明:** ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5851E ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

**説明:** ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション: 適用されません。

**CMMVC5852E** 現在進行中のマイグレーションの数が 多過ぎるため、マイグレーションは失敗し ました。

**説明:** 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。

**アクション:** マイグレーション・プロセスが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5853E The action failed because there was a problem with the MDisk group.

説明: 以下の問題のいずれかを抱える MDisk グループ を使用している VDisk を処理しようとしました。

- ターゲットおよびソース MDisk グループは、異なる エクステント・サイズをもちます (グループ・マイグ レーション)。
- ターゲットおよびソース MDisk グループが同じである (グループ・マイグレーション)。
- ターゲットおよびソース MDisk グループが異なる (エクステント・マイグレーション)。
- ターゲットが無効なグループである (グループ・マイグレーション)。
- ソースが無効なグループである (グループ・マイグレーション)。

アクション: コマンドを再発行する前に、上記のすべて の条件を解消してください。

CMMVC5854E このエクステントは使用されていない か存在しないため、エクステント情報は戻 されませんでした。

説明: このエクステントは使用されていないか存在しな いため、エクステント情報は戻されませんでした。

アクション: 正しいエクステントを指定して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想 ディスク (VDisk) にも使用されていない ため、エクステント情報は戻されませんで した。

説明: 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報 は戻されませんでした。

アクション: 正しい MDisk を指定して、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管 理対象ディスク (MDisk) グループに属し ていないため、アクションは失敗しまし

説明: 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象デ ィスク (MDisk) グループに属していないため、アクシ ョンは失敗しました。

アクション: 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在し ないか、管理対象ディスク (MDisk) グル ープのメンバーでないため、アクションは 失敗しました。

説明: 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管 理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないた め、アクションは失敗しました。

アクション: 別の MDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモード にあるか、管理対象ディスク (MDisk) が 誤ったモードにあるか、または両方が誤っ たモードにあるため、アクションは失敗し ました。

説明: 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにある か、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにある か、または両方が誤ったモードにあるため、アクション は失敗しました。

アクション: VDisk と MDisk が正しいモードにあるこ とを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5859E イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステントをマイグ レーション中にエラーが発生したため、マ イグレーションは完了しませんでした。

説明: イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最 後のエクステントをマイグレーション中にエラーが発生 したため、マイグレーションは完了しませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに 十分なエクステントがないため、アクショ ンは失敗しました。

説明: このエラーは、MDisk のストライプ・セットが 指定され、その MDisk の 1 つ以上で VDisk を作成す るのに十分なフリー・エクステントがない場合にも戻さ れます。

アクション: この場合、VDisk を作成するのためのフ リー・スペースが十分あることを MDisk グループが報 告します。各 MDisk 上の空き容量を svcinfo Isfreeextents <mdiskname/ID> を実行して確認できま す。ほかの方法として、ストライプ・セットを指定せ ず、システムにフリー・エクステントを自動的に選択さ せることもできます。

CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な エクステントがないため、アクションは失 敗しました。

説明: 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステ ントがないため、アクションは失敗しました。

**アクション:** 別のエクステントを指定して、コマンドを 再度実行してください。

#### CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット 中のため、アクションは失敗しました。

説明: 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のた め、アクションは失敗しました。

アクション: VDisk が正常にフォーマットされるまで 待ってから、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステントが ないため、マイグレーションは失敗しまし

説明: ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十 分な空きエクステントがないため、マイグレーションは 失敗しました。

アクション: 別の空きエクステントを指定して、コマン ドを再度実行してください。

#### CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されてい ないため、エクステント情報は戻されませ んでした。

説明: ソース・エクステントが使用されていないため、 エクステント情報は戻されませんでした。

**アクション:** 別のソース・エクステントを指定して、コ マンドを再度実行してください。

#### CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象デ ィスク (MDisk) または仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情 報が戻されませんでした。

説明: エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、 エクステント情報が戻されませんでした。

アクション: MDisk または VDisk の範囲内にある別の エクステントを指定して、コマンドを再度実行してくだ さい。

#### CMMVC5866E エクステントに内部データが含まれて いるため、エクステントはマイグレーショ ンされませんでした。

説明: エクステントに内部データが含まれているため、 エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC5867E この worldwide port name はすで に割り当て済みであるか、または無効なた め、アクションは失敗しました。

説明: この worldwide port name はすでに割り当て済 みであるか、または無効なため、アクションは失敗しま

アクション: 別の worldwide port name (WWPN) を指 定して、コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま した。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC5869E ホスト ID または名前が無効なため、 ホスト・オブジェクトは名前変更されませ んでした。

説明: ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・ オブジェクトは名前変更されませんでした。

**アクション:** 別のホスト ID または名前を指定して、 コマンドを再度実行してください。

#### CMMVC5870E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、ホスト・オブジェクト は削除されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、ホスト・オブジェクトは削除されませんでし た。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

#### CMMVC5871E 1 つ以上の構成済み worldwide port name がマッピングにあるため、アクシ ョンは失敗しました。

説明: 1 つ以上の構成済み worldwide port name がマ ッピングにあるため、アクションは失敗しました。

アクション: マッピングに含まれていない worldwide port name (WWPN) を指定して、コマンドを再度実行し てください。

CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5873E 一致する worldwide port name がないため、アクションは失敗しました。

**説明:** 一致する worldwide port name がないため、アクションは失敗しました。

アクション: 適用されません。

CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクション は失敗しました。

**説明:** ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

**アクション:** 別のホストを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

**説明:** 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

**アクション:** 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5876E マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明: マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5877E SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

**説明:** SCSI LUN の最大数が割り振られているため、 仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成 されませんでした。 アクション: 適用されません。

CMMVC5878E この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明: この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5879E The virtual disk-to-host mapping was not created because this SCSI LUN is already assigned to another mapping.

説明: この SCSI LUN はすでに別のマッピングに割り 当てられているため、仮想ディスクからホストへのマッ ピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別の SCSI LUN を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5880E VDisk の容量がゼロ・バイトのため、 仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

**説明:** VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5881E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、FlashCopy マッピン グは作成されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5882E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明: ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のソースまたはターゲットの VDisk を 指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5883E リカバリー I/O グループはソースまた はターゲットの仮想ディスク (VDisk) と 関連付けられているため、FlashCopy マ ッピングは作成されませんでした。

説明: リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のリカバリー I/O グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5884E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は リモート・コピー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明: ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は リモート・コピー・マッピングのメンバーにはなれ ないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のソースまたはターゲットの VDisk を 指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5885E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明: このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のソースまたはターゲットの VDisk を 指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5886E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、
FlashCopy マッピングは作成されません

でした。

説明: このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション: 別のソースまたはターゲットの VDisk を

指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5887E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明: このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

**アクション:** 別のソースまたはターゲットの VDisk を 指定して、コマンドを再度実行してください。

**CMMVC5888E** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**説明:** コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5889E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

**アクション:** 別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明: 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されませんでした。

説明: 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは 作成されませんでした。

**アクション:** 別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5892E FlashCopy 整合性グループはすでに存 在するため、作成されませんでした。

説明: FlashCopy 整合性グループはすでに存在するた め、作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま した。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

アクション: 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

CMMVC5894E 整合性グループ 0 または無効な整合性 グループの名前を削除しようとしているた め、FlashCopy 整合性グループは削除さ れませんでした。

説明: 整合性グループ 0 または無効な整合性グループ の名前を削除しようとしているため、FlashCopy 整合性 グループは削除されませんでした。

アクション: 正しい整合性グループを指定して、コマン ドを再度実行してください。

CMMVC5895E FlashCopy 整合性グループにはマッピ ングが含まれているため、削除されません でした。この整合性グループを削除するに は、強制削除が必要です。

説明: FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含ま れているため、削除されませんでした。

アクション: -force オプションを指定して整合性グルー プを削除してください。

CMMVC5896E マッピングまたは整合性グループが準 備中状態のため、FlashCopy マッピング は削除されませんでした。まず、マッピン グまたは整合性グループを停止する必要が あります。

説明: マッピングまたは整合性グループが準備中状態の ため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。 まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要 があります。

アクション: 整合性グループを停止して、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5897E マッピングまたは整合性グループが準 備済み状態のため、FlashCopy マッピン グは削除されませんでした。まず、マッピ ングまたは整合性グループを停止する必要 があります。

説明: マッピングまたは整合性グループが準備済み状態 のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでし た。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する 必要があります。

アクション: 整合性グループを停止して、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5898E マッピングまたは整合性グループがコ ピー中状態のため、FlashCopy マッピン グは削除されませんでした。まず、マッピ ングまたは整合性グループを停止する必要 があります。

説明: マッピングまたは整合性グループがコピー中状態 のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでし た。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する 必要があります。

**アクション:** 整合性グループを停止して、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5899E マッピングまたは整合性グループが停 止状態のため、FlashCopy マッピングは 削除されませんでした。マッピングを削除 するには、強制削除が必要です。

説明: マッピングまたは整合性グループが停止状態のた め、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

**アクション:** -force オプションを指定してマッピングを 削除してください。

CMMVC5900E マッピングまたは整合性グループが延 期状態のため、FlashCopy マッピングは 削除されませんでした。まず、マッピング または整合性グループを停止する必要があ ります。

説明: マッピングまたは整合性グループが延期状態のた め、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。ま ず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要が あります。

アクション: 整合性グループを停止して、コマンドを再 度実行してください。

CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがすでに準備中 状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんで した

アクション: 適用されません。

CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。

説明: マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

**アクション:** マッピングまたは整合性グループを準備して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

**説明:** マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。

説明: マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

**アクション:** マッピングまたは整合性グループを準備して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

**説明:** マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準 備中状態のため、FlashCopy マッピング または整合性グループは停止されませんで した。

説明: マッピングまたは整合性グループが準備中状態の ため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停 止されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがす でに停止状態のため、FlashCopy マッピ ングまたは整合性グループは停止されませ

説明: マッピングまたは整合性グループがすでに停止状 態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループ は停止されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5913E マッピングまたは整合性グループが準 備中状態のため、FlashCopy マッピング のプロパティーは変更されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループが準備中状態の ため、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更され ませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5914E マッピングまたは整合性グループが準 備済み状態のため、FlashCopy マッピン グのプロパティーは変更されませんでし

説明: マッピングまたは整合性グループが準備済み状態 のため、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更さ れませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5915E マッピングまたは整合性グループがコ ピー中状態のため、FlashCopy マッピン グのプロパティーは変更されませんでし

説明: マッピングまたは整合性グループがコピー中状態 のため、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更さ れませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5916E マッピングまたは整合性グループが延 期状態のため、FlashCopy マッピングの プロパティーは変更されませんでした。

説明: マッピングまたは整合性グループが延期状態のた め、FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されま せんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5917E ビットマップを作成するメモリーがな いため、FlashCopy マッピングは作成さ れませんでした。

説明: ビットマップを作成するメモリーがないため、 FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、 FlashCopy マッピングは準備されません でした。

説明: I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マ ッピングは準備されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、 FlashCopy マッピングまたは整合性グル ープは開始されませんでした。

説明: I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マ ッピングまたは整合性グループは開始されませんでし た。

アクション: 適用されません。

CMMVC5920E 整合性グループがアイドルでないた め、FlashCopy マッピングは作成されま せんでした。

説明: 整合性グループがアイドルでないため、 FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5921E 整合性グループがアイドルでないた め、FlashCopy マッピングのプロパティ ーは変更されませんでした。

説明: 整合性グループがアイドルでないため、 FlashCopy マッピングのプロパティーは変更されません でした。

### CMMVC5922E 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さ過ぎ るため、FlashCopy マッピングは作成さ れませんでした。

説明: 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さ過ぎるため、 FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション: 別の VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

### CMMVC5923E I/O グループがオフラインのため、 FlashCopy マッピングは作成されません でした。

説明: I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マ ッピングは作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5924E ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるため、 FlashCopy マッピングは作成されません でした。

説明: ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) の サイズが異なるため、FlashCopy マッピングは作成され ませんでした。

**アクション:** 別のソースとターゲットの VDisk を指定 して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5925E リモート・クラスター協力関係はすで に存在するため、作成されませんでした。

説明: リモート・クラスター協力関係はすでに存在する ため、作成されませんでした。

アクション: 別のリモート・クラスター協力関係を指定 して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5926E リモート・クラスター協力関係は、協 力関係の数が多過ぎるため、作成されませ んでした。

説明: リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数 が多過ぎるため、作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクシ ョンは失敗しました。

説明: クラスター ID が無効なため、アクションは失 敗しました。

**アクション:** 正しいクラスター ID を指定して、コマ ンドを再度実行してください。

### CMMVC5928E クラスター名は別のクラスターと重複 しているため、アクションは失敗しまし

説明: クラスター名は別のクラスターと重複しているた め、アクションは失敗しました。

アクション: 別のクラスター名を指定して、コマンドを 再度実行してください。

### CMMVC5929E リモート・コピー協力関係はすでに削 除されているため、削除されませんでし

説明: リモート・コピー協力関係はすでに削除されてい るため、削除されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5930E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、リモート・コピー関係 は作成されませんでした。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、リモート・コピー関係は作成されませんでし

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

### CMMVC5931E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているため、リモー ト・コピー関係は作成されませんでした。

説明: マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が口 ックされているため、リモート・コピー関係は作成され ませんでした。

アクション: マスターまたは補助の VDisk をアンロッ クして、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5932E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメ ンバーであるため、リモート・コピー関係 は作成されませんでした。

説明: マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメンバーであるため、リモー ト・コピー関係は作成されませんでした。

CMMVC5933E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グループに入 っているため、リモート・コピー関係は作 成されませんでした。

説明: マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリ カバリー I/O グループに入っているため、リモート・コ ピー関係は作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5934E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がルーター・モードにあるため、 リモート・コピー関係は作成されませんで

説明: マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がル ーター・モードにあるため、リモート・コピー関係は作 成されませんでした。

アクション: 適用されません。

CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま した。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティー が存在しないため、アクションが失敗しま した。

説明: コマンドに指定されたエンティティーが存在しな いため、アクションが失敗しました。

**アクション:** 正しいエンティティーを指定して、コマン ドを再度実行してください。

CMMVC5938E 整合性グループに関係が含まれている ため、リモート・コピー整合性グループは 削除されませんでした。整合性グループを 削除するには、force オプションが必要で す。

説明: 整合性グループに関係が含まれているため、リモ ート・コピー整合性グループは削除されませんでした。

**アクション:** -force オプションを指定して整合性グルー プを削除してください。

CMMVC5939E クラスターが安定状態でないため、ア クションは失敗しました。

説明: クラスターが安定状態でないため、アクションは 失敗しました。

アクション: 適用されません。

CMMVC5940E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれて いるクラスターが不明です。

説明: 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラ スターが不明です。

アクション: 適用されません。

CMMVC5941E マスター仮想ディスク (VDisk) が含ま れているクラスターにある整合性グループ の数が多過ぎます。

説明: マスター仮想ディスク (VDisk) が含まれている クラスターにある整合性グループの数が多過ぎます。

アクション: 適用されません。

CMMVC5942E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれて いるクラスターにある整合性グループの数 が多過ぎます。

説明: 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラ スターにある整合性グループの数が多過ぎます。

アクション: 適用されません。

CMMVC5943E 指定された関係は無効です。

説明: 指定された関係は無効です。

アクション: 正しい関係を指定して、コマンドを再度実 行してください。

# **CMMVC5944E** 指定された整合性グループは無効です。

説明: 指定された整合性グループは無効です。

**アクション:** 正しい整合性グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5945E 指定されたマスター・クラスターは無効です。

説明: 指定されたマスター・クラスターは無効です。

**アクション:** 正しいマスター・クラスターを指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5946E** 指定された補助クラスターは無効です。

説明: 指定された補助クラスターは無効です。

**アクション:** 正しい補助クラスターを指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5947E 指定されたマスター仮想ディスク (VDisk) は無効です。

**説明:** 指定されたマスター仮想ディスク (VDisk) は無効です。

**アクション:** 正しいマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5948E 指定された補助仮想ディスク (VDisk) は無効です。

説明: 指定された補助仮想ディスク (VDisk) は無効です。

**アクション:** 補助 VDisk を指定して、コマンドを再度 実行してください。

### CMMVC5949E 指定された関係は不明です。

説明: 指定された関係は不明です。

**アクション:** 別の関係を指定して、コマンドを再度実行してください。

### **CMMVC5950E** 指定された整合性グループは不明で す。

説明: 指定された整合性グループは不明です。

**アクション:** 別の整合性グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5951E 関係が独立型でないため、この操作は 実行できません。

**説明:** 関係が独立型でないため、この操作は実行できません。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5952E この関係と整合性グループは、異なる マスター・クラスターを持っています。

**説明:** この関係と整合性グループは、異なるマスター・クラスターを持っています。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5953E** この関係とグループは、異なる補助クラスターを持っています。

**説明:** この関係とグループは、異なる補助クラスターを持っています。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5954E マスターと補助仮想ディスク (VDisk) は、異なるサイズを持っています。

**説明:** マスターと補助仮想ディスク (VDisk) は、異なるサイズを持っています。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5955E 最大関係数に到達しました。

説明: 最大関係数に到達しました。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5956E** 最大整合性グループ数に到達しました。

説明: 最大整合性グループ数に到達しました。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5957E** マスター仮想ディスク (**VDisk**) は、すでに関係に存在します。

**説明:** マスター仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係 に存在します。

**アクション:** 別のマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

### **CMMVC5958E** 補助仮想ディスク (**VDisk**) は、すでに 関係に存在します。

説明: 補助仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。

**アクション:** 別の補助 VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

# **CMMVC5959E** マスター・クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。

**説明:** マスター・クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。

**アクション:** 別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5960E 補助クラスターにこの名前を持つ関係 がすでに存在します。

**説明:** 補助クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。

**アクション:** 別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5961E マスター・クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。

**説明:** マスター・クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。

**アクション:** 別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

### **CMMVC5962E** 補助クラスターにこの名前を持つ整合 性グループがすでに存在します。

**説明:** 補助クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。

**アクション:** 別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5963E 方向が定義されていません。

説明: 方向が定義されていません。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5964E コピーの優先順位が無効です。

説明: コピーの優先順位が無効です。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5965E 仮想ディスク (VDisk) は、ローカル・ クラスター上の異なる I/O グループにあ ります。

**説明:** 仮想ディスク (VDisk) は、ローカル・クラスター上の異なる I/O グループにあります。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5966E** マスター仮想ディスク **(VDisk)** が不明です。

説明: マスター仮想ディスク (VDisk) が不明です。

**アクション:** 別のマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC5967E 補助仮想ディスク (VDisk) が不明で す。

説明: 補助仮想ディスク (VDisk) が不明です。

**アクション:** 別の補助 VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC5968E 関係の状態と整合性グループの状態が 一致しないため、関係を追加できません。

**説明:** 関係の状態と整合性グループの状態が一致しないため、関係を追加できません。

アクション: 適用されません。

### **CMMVC5969E I/O** グループがオフラインのため、リ モート・コピー関係は作成されませんでした。

**説明:** I/O グループがオフラインのため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5970E** メモリー不足のため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。

**説明:** メモリー不足のため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC5971E** 整合性グループに関係が含まれていないため、操作は実行されませんでした。

**説明:** 整合性グループに関係が含まれていないため、操作は実行されませんでした。

### CMMVC5972E 整合性グループに関係が含まれている ため、操作は実行されませんでした。

説明: 整合性グループに関係が含まれているため、操作 は実行されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5973E 整合性グループが同期化されていない ため、操作は実行されませんでした。

説明: 整合性グループが同期化されていないため、操作 は実行されませんでした。

**アクション:** 整合性グループを開始するときに、**強制**オ プションを指定してください。

### CMMVC5974E 整合性グループがオフラインのため、 操作は実行されませんでした。

説明: 整合性グループがオフラインのため、操作は実行 されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5975E クラスター協力関係が接続されていな いため、操作は実行されませんでした。

説明: クラスター協力関係が接続されていないため、操 作は実行されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5976E 整合性グループが凍結状態のため、操 作は実行されませんでした。

説明: 整合性グループが凍結状態のため、操作は実行さ れませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5977E 整合性グループの状態を考慮するとこ の操作は無効なため、実行されませんでし た。

説明: 整合性グループの状態を考慮するとこの操作は無 効なため、実行されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5978E 関係が同期化されていないため、操作 は実行されませんでした。

説明: 関係が同期化されていないため、操作は実行され ませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5979E 関係がオフラインのため、操作は実行 されませんでした。

説明: 関係がオフラインのため、操作は実行されません でした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5980E マスター・クラスターと補助クラスタ ーが接続されていないため、操作は実行さ れませんでした。

説明: マスター・クラスターと補助クラスターが接続さ れていないため、操作は実行されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5981E 関係が凍結状態のため、操作は実行さ れませんでした。

説明: 関係が凍結状態のため、操作は実行されませんで した。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5982E 現行関係の状態を考慮するとこの操作 は無効なため、実行されませんでした。

説明: 現行関係の状態を考慮するとこの操作は無効なた め、実行されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんで した。おそらくファイル・システムが満杯

説明: ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそ らくファイル・システムが満杯です。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込 まれませんでした。おそらくファイル・シ ステムが満杯です。

説明: ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれません でした。おそらくファイル・システムが満杯です。

CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいず れかのディレクトリーでないため、アクシ ョンは失敗しました: /dumps、 /dumps/iostats、 /dumps/iotrace、 /dumps/feature、 /dumps/configs、 /dumps/elogs、または /home/admin/upgrade

説明: 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディ レクトリーでないため、アクションは失敗しました。

- /dumps
- · /dumps/iostats
- · /dumps/iotrace
- · /dumps/feature
- · /dumps/configs
- · /dumps/elogs
- /home/admin/upgrade

アクション: 前記のいずれかのディレクトリーを指定し て、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5986E 仮想ディスク (VDisk) または管理対象 ディスク (MDisk) が統計を戻さなかった ため、入出力操作のトレースは開始されま せんでした。

説明: 仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を戻さなかったため、入出力操作のトレ ースは開始されませんでした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5987E アドレスが無効です。

説明: アドレスが無効です。

アクション: 別のアドレスを指定して、コマンドを再度 実行してください。

CMMVC5988E root ユーザー ID でログインしている 場合は、このコマンドを発行してはいけま せん。 admin ユーザー ID を使用してく ださい。

説明: root ユーザー ID でログインしている場合は、 このコマンドを発行してはいけません。 admin ユーザ ー ID を使用してください。

アクション: root ユーザー ID をログオフして、admin で再度ログインしてください。

### CMMVC5989E グループ内に FlashCopy マッピング がないため、FlashCopy 整合性グループ は開始されませんでした。

説明: グループ内に FlashCopy マッピングがないた め、FlashCopy 整合性グループは開始されませんでし た。

**アクション:** FlashCopy マッピングを整合性グループに 組み込むか、マッピングを含む FlashCopy 整合性グルー プを開始してください。

### CMMVC5990E グループ内に FlashCopy マッピング がないため、FlashCopy 整合性グループ は停止されませんでした。

説明: グループ内に FlashCopy マッピングがないた め、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでし た。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5991E グループ内に FlashCopy マッピング がないため、FlashCopy 整合性グループ は停止されませんでした。

説明: グループ内に FlashCopy マッピングがないた め、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでし た。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5992E グループ内に リモート・コピー関係が ないため、リモート・コピー整合性グルー プは停止されませんでした。

説明: グループ内に リモート・コピー関係がないた め、リモート・コピー整合性グループは停止されません でした。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5993E 特定のアップグレード・パッケージが 存在しません。

説明: 特定のアップグレード・パッケージが存在しませ  $h_{\circ}$ 

アクション: 適用されません。

### CMMVC5994E アップグレード・パッケージの識別記 号の検査でエラーがありました。

I 説明: 以下の理由で、システムはアップグレード・パッ トケージの識別記号を検査できませんでした。

- システム上にファイルをコピーするための十分なスペースがない。
- パッケージが不完全か、またはエラーが含まれている。

アクション: システム上のスペースが不足していること
 を示すエラーでコピーが失敗した場合、システム上の追
 加スペースを解放してください。または、識別記号のク
 ラスター時刻と日付スタンプが正しいことを確認してく
 ださい。 (たとえば、時刻と日付が将来のものであって
 はいけません。)

### □ CMMVC5995E アップグレード・パッケージのアンパ □ ックでエラーがありました。

説明: アップグレード・パッケージをアンパック中に、エラーが発生しました。このエラーの原因は、おそらくシステム・スペースの不足です。

**アクション:** ノードをリブートし、アップグレード・パーッケージを再度アンパックしてください。

# │ CMMVC5996E 現行バージョンの上に特定のアップグ│ レード・パッケージをインストールできま│ せん。

説明: このアップグレード・パッケージは、現行バージョンまたはご使用のシステムと互換性がありません。

 アクション: 使用可能なアップグレード・パッケージを チェックし、現行バージョンおよびご使用のシステム用 の正しいアップグレード・パッケージを見つけてください。アップグレード・パッケージがご使用のシステム用 の正しいものである場合、パッケージのバージョン要件 をチェックしてください。現行バージョンを最新バージョンにアップグレードする前に、中間バージョンにアップグレードする前に、中間バージョンにアップグレードしなければならない場合もあります。 (たとえば、現行バージョンが1で、バージョン3アップレードしようとしている場合、バージョン3アップレードを適用する前に、バージョン2へアップグレードする必要がある場合もあります。)

### CMMVC5997E MDisk の容量が MDisk グループのエ クステント・サイズよりも小さいため、ア クションが失敗しました。

**説明:** MDisk の容量が MDisk グループのエクステント・サイズよりも小さいため、アクションが失敗しました。

### アクション:

• MDisk グループのエクステント・サイズと等しいか、またはそれ以上の容量をもつ MDisk を選択します。

- より小さいエクステント・サイズを選択します。 ただし、この場合、少なくとも MDisk グループ内で最小の MDisk と同じサイズでなくてはなりません。
  - 注: MDisk グループを作成する場合のみ、より小さい エクステント・サイズを選択できます。MDisk を 作成後に、エクステント・サイズを変更すること はできません。

# CMMVC5998E This command can not be run on a node that is in service mode.

**説明:** このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

アクション: 適用されません。

# CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えています。 Nevertheless, the action you have requested has been completed.

説明: ライセンスで使用が許されている量より多くの仮想化ストレージ容量を作成しようとしました。

**アクション:** 現在使用中の仮想化ストレージの容量を削減するか、または追加記憶容量のライセンスを入手してください。

# **CMMVC5999W** この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

**説明:** この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

アクション: 適用されません。

### CMMVC5999E 未定義エラー・メッセージ。

説明: 未定義エラー・メッセージ。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6000W この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

**説明:** この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

### CMMVC6001E グループ内に FlashCopy マッピング がないため、FlashCopy 整合性グループ は開始されませんでした。

説明: グループ内に FlashCopy マッピングがないた め、FlashCopy 整合性グループは開始されませんでし

アクション: 該当するグループ内に FlashCopy マッピ ングを作成してください。

### CMMVC6002E This command can only be run on a node that is in service mode.

説明: このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行 できます。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6003E This command can not be run on a node that is in service mode.

説明: このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行 できます。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6004E 区切り値 %1 は無効です。

説明: 区切り値 %1 は無効です。

アクション: 違う区切り文字を指定してください。

### CMMVC6005E 指定されたオブジェクトが該当するグ ループのメンバーでないため、表示要求は 失敗しました。

説明: 誤って初期化されたオブジェクトに対して、ビュ ーを要求しました。

アクション: ビュー要求を再実行依頼する前に、オブジ ェクトが正しく初期化されたことを確認してください。

### CMMVC6006E リソースが使用中だったため、管理対 象ディスク (MDisk) は削除されませんで した。

説明: マイグレーション操作のマイグレーション元およ び宛先として使用されている MDisk グループから MDisk を削除しようとしました。

**アクション:** コマンドを再発行する前に、MDisk グル ープがマイグレーション操作に使用されていないことを 確認してください。

### CMMVC6007E 入力された 2 つのパスワードが一致し ません。

説明: パスワード変更の検証のために入力された 2 つ のパスワードが同一ではありませんでした。

**アクション:** パスワードを再入力してください。

### CMMVC6008E この鍵はすでに存在します。

説明: 重複 SSH 鍵をロードしようとしました。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6009E 戻されたデータのコピー先であるメモ リーのブロックを malloc できませんで した。

説明: コマンド行が、照会結果のコピー先であるメモリ 一のブロックを割り振ることができませんでした。

アクション: メモリーを一部解放し、コマンドを再発行 してください。

### CMMVC6010E フリー・エクステントが不十分なた め、コマンドを完了できませんでした。

説明: 要求を満たすのに十分なフリー・エクステントが ありません。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6011E 少なくとも 1 つのリモート・クラスタ 一協力関係が検出されました。このアップ グレード・パッケージは、すべてのリモー ト・クラスター協力関係が削除されるま で、現行コード・レベルには適用できませ $holdsymbol{\omega}_{\circ}$

説明: リモート・クラスターに対する リモート・コピ ー関係が存在するときに、ソフトウェアを適用しようと しました。

**アクション:** リモート・クラスターに対する リモー ト・コピー関係を削除して、コマンドを再発行してくだ さい。

# CMMVC6012W 仮想化された記憶容量が、使用ライセ ンスの交付を受けている量に達していま

説明: 要求したアクションは完了しました。ただし、購 入したライセンスの許容限界に近づいています。

アクション: これ以降のアクションを実施するには、ラ イセンス限界を増やす必要があります。

### **CMMVC6013E** 補助クラスター上で整合性グループの ミスマッチがあるため、コマンドは失敗し ました。

**説明:** リモート・コピー整合性グループのあいだに属性 の違いがあるため、アクションは失敗しました。

**アクション:** コマンドを再実行依頼する前に、2 つのリモート・コピー整合性グループの属性を一致させてください。

### **CMMVC6014E** 要求されたオブジェクトは使用不可か 存在しないため、コマンドは失敗しまし た。

**説明:** 要求されたオブジェクトは使用不可か存在しないため、コマンドは失敗しました。

**アクション:** すべてのパラメーターが正しく入力されていることを確認してください。正しく入力されている場合は、オブジェクトを使用できない原因を突き止めてからコマンドを再度実行してください。

### CMMVC6015E このオブジェクトの削除要求はすでに 進行中です。

**説明:** このオブジェクトの削除要求はすでに進行中です。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6016E MDisk グループにディスクがなくなる (またはすでにない) ため、アクションは 失敗しました。

**説明:** I/O グループにディスクがなくなる (またはすでにない) ため、アクションは失敗しました。

**アクション:** すべてのパラメーターが正しく入力されていることを確認してください。

### CMMVC6017E %1 に無効な文字が含まれています。 すべての文字が ASCII であることを確認 してください。

説明: CLI で使用できるのは、ASCII 入力だけです。

アクション: CLI の入力がすべて ASCII であることを確認してから、コマンドを再実行依頼してください。

### CMMVC6018E ソフトウェア・アップグレードのプリ インストール処理に失敗しました。

**説明:** 前処理中にエラーがあったため、ソフトウェア・アップグレードが失敗しました。パッケージが無効か、または破壊されています。

**アクション:** 有効な IBM のアップグレード・パッケージであることを確認します。ネットワーク転送中に破壊された可能性があるので、元の位置からパッケージをもう一度ダウンロードしてください。

### **CMMVC6019E** アップグレードの進行中にノードが保 留されたため、ソフトウェア・アップグレ ードは失敗しました。

**説明:** アップグレードの進行中にノードが保留されたため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

**アクション:** アップグレード処理を再開する前に、すべてのノードがオンラインで使用可能な状態になっていることを確認してください。

# **CMMVC6020E** システムがソフトウェア・パッケージをすべてのノードに配布できなかったため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

**説明:** システムがソフトウェア・パッケージをすべての ノードに配布できなかったため、ソフトウェア・アップ グレードは失敗しました。

**アクション:** すべてのノードが正しくゾーニングされ、オンラインになっていて、クラスター内の他のノードを認識できることを確認してください。エラー・ログも検査してください。

### CMMVC6021E システムは現在使用中で、別の要求を 実行しています。後で再試行してくださ

**説明:** システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

**アクション:** しばらく待ってから、要求を再実行依頼してください。

### CMMVC6022E システムは現在使用中で、別の要求を 実行しています。後で再試行してくださ

**説明:** システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

**アクション:** しばらく待ってから、要求を再実行依頼してください。

### CMMVC6023E システムは現在使用中で、別の要求を 実行しています。後で再試行してくださ い。

**説明:** システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

アクション: しばらく待ってから、要求を再実行依頼し てください。

CMMVC6024E 入力した補助 VDisk は無効です。

説明: パラメーターとして CLI に入力された補助 VDisk は、有効な補助 VDisk ではありません。

アクション: 有効な補助 VDisk を選択して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC6025E リモート・コピー整合性グループのマ スター・クラスターがローカル・クラスタ ーではありません。

説明: パラメーターとして CLI に入力された補助 VDisk は、有効な補助 VDisk ではありません。

アクション: ローカル・クラスターに属する整合性グル ープを使用して、コマンドを再実行依頼してください。

CMMVC6026E リモート・コピー整合性グループが停 止状態にありません。

説明: リモート・コピー整合性グループが停止状態でな いために、アクションは失敗しました。

アクション: リモート・コピー整合性グループが停止状 態になっていることを確認してから、コマンドを再実行 依頼してください。

CMMVC6027E リモート・コピー整合性グループが 1 次マスターでありません。

説明: コマンドで要求したリモート・コピー整合性グル ープは、リモート・コピー 1 次マスターではありませ

アクション: コマンド行に正しいパラメーターを入力し てください。

CMMVC6028E このアップグレード・パッケージには クラスターの状態の変更が含まれており、 リモート・クラスター協力関係が定義され ているため、アップグレード・パッケージ を現行ソフトウェア・レベルに適用できま せん。

説明: 接続されたリモート・クラスターがあるため、ア クションは失敗しました。アップグレードをすると、異 なるコード・レベルがリモート・クラスターに適用され るので、アップグレードは適用されません。

アクション: クラスター協力関係を構成解除してから、 コマンドを再実行依頼してください。リモート・クラス ターを構成解除し、コードをアップグレードしてからク

ラスター協力関係を再度構成してください。

CMMVC6029E 並行コード・アップグレードを実行す るには、すべてのノードのコード・レベル が同一でなければなりません。

説明: 複数のノードで異なるコード・レベルが使用され ているため、並行アップグレードは失敗しました。ソフ トウェア・アップグレードを実行するには、すべてのノ ードを同じコード・レベルにしてください。

アクション: 保守モードを使用してすべてのノードを同 じレベルにしてから、並行アップグレードを再実行依頼 してください。

CMMVC6030E FlashCopy マッピングが整合性グルー プのパーツであるために、操作は実行され ませんでした。 整合性グループ・レベル でアクションを実行してください。

説明: FlashCopy マッピングを停止しようとしました。 FlashCopy マッピングは、整合性グループのパーツであ るために、この操作は失敗しました。

アクション: FlashCopy 整合性グループに対して、停止 コマンドを実行してください。この操作により、グルー プ内で進行中のすべての FlashCopy が停止します。

**CMMVC6031E FlashCopy** 整合性グループが空なの で、操作は実行されませんでした。

説明: 空の FlashCopy 整合性グループを事前開始しよ うとしました。

アクション: 適用されません。

CMMVC6032E 入力したパラメーターのうち 1 つ以上 がこの操作には無効なので、操作は実行さ れませんでした。

説明: コマンドに無効なパラメーターが入力されまし た。

アクション: VDisk が属する I/O グループを変更する 場合は、その VDisk がすでにグループのパーツになっ ていないことを確認してください。

CMMVC6033E このアクションは、内部エラーのため 失敗しました。

I 説明: 内部エラーが原因で、このアクションは失敗しま 1 した。

# に到達したため失敗しました。

ため失敗しました。

アクション: 適用されません。

### I CMMVC6036E 無効なアクションが要求されました。

I 説明: このアクションは発行されたコマンドの有効なア 1 クションではないため、失敗しました。

I **アクション:** このコマンドの有効なアクションを発行し 1 てください。

### I CMMVC6037E オブジェクトが空でないため、このア クションは失敗しました。

説明: オブジェクトが指定されたため、このアクション 1 は失敗しました。

I **アクション:** コマンドを再度発行し、オブジェクトは指 Ⅰ 定しないでください。

#### I CMMVC6038E オブジェクトが空であるため、このア クションは失敗しました。

I 説明: オブジェクトが指定されなかったため、このアク I ションは失敗しました。

**| アクション:** オブジェクトを指定し、コマンドを再度実 Ⅰ 行してください。

### □ CMMVC6039E オブジェクトがグループのメンバーで ないため、このアクションは失敗しまし た。

1

| 説明: このオブジェクトがグループのメンバーでないた 1 め、このアクションは失敗しました。

Ⅰ アクション: グループの一部であるオブジェクトを指定 1 して、コマンドを再度実行してください。

### | CMMVC6040E オブジェクトが親でないため、このア クションは失敗しました。

説明: このオブジェクトが親オブジェクトでないため、 I このアクションは失敗しました。

I **アクション**: 親であるオブジェクトを指定して、コマン ドを再度実行してください。

### CMMVC6034E アクションは、オブジェクトの最大数 I CMMVC6041E クラスターがフルであるため、このア クションは失敗しました。

説明: アクションは、オブジェクトの最大数に到達した I 説明: このクラスターがフルであるため、このアクショ 1 ンは失敗しました。

> I **アクション:** データをクラスターから除去して、コマン ドを再度実行してください。

### □ CMMVC6042E オブジェクトがクラスター・メンバー でないため、このアクションは失敗しまし

1 説明: このオブジェクトがクラスターのメンバーでない 1 ため、このアクションは失敗しました。

■ アクション: クラスターのメンバーであるオブジェクト I を指定して、コマンドを再度実行してください。

### □ CMMVC6043E オブジェクトがグループのメンバーで あるため、このアクションは失敗しまし た。

| 説明: このオブジェクトがグループのメンバーであるた 1 め、このアクションは失敗しました。

**アクション:** グループのメンバーでないオブジェクトを I 指定して、コマンドを再度実行してください。

### I CMMVC6044E オブジェクトが親であるため、このア クションは失敗しました。

| 説明: このオブジェクトが親オブジェクトであるため、 1 このアクションは失敗しました。

I アクション: 親オブジェクトでないオブジェクトを指定 1 して、コマンドを再度実行してください。

### I CMMVC6045E force フラグが入力されなかったた め、このアクションは失敗しました。

| **説明:** -force オプションが入力されなかったため、この I アクションは失敗しました。

I **アクション:** コマンドに -force オプションを指定して I ください。

### I CMMVC6046E アクションは候補の選択が多過ぎるた めに失敗しました。

説明: このアクションは、候補の選択が多過ぎるために 1 失敗しました。

I **アクション:** もっと少ない候補をコマンドに指定してく ださい。

# └ CMMVC6048E アクションはオブジェクトが使用中の├ ために失敗しました。

I 説明: このアクションは、オブジェクトが使用中のためI に失敗しました。

I アクション: 適用されません。

# └ CMMVC6049E アクションはオブジェクトの準備がで★ きていないために失敗しました。

説明: このアクションは、オブジェクトの準備ができていないために失敗しました。

Ⅰ アクション: 適用されません。

# └ CMMVC6050E アクションはコマンドがビジーのため└ に失敗しました。

I 説明: このアクションは、コマンドがビジーのために失り財しました。

Ⅰ アクション: 適用されません。

# CMMVC6051E サポートされないアクションが選択されました。

説明: このアクションは、コマンドの有効なアクションではないため失敗しました。

Ⅰ アクション: このコマンドの有効なアクションを指定しⅠ てください。

### │ CMMVC6052E アクションはオブジェクトが Flash │ copy マッピングのメンバーのために失敗 │ しました。

Ⅰ 説明: このオブジェクトが FlashCopy マッピングのメ Ⅰ ンバーであるため、削除できません。

Ⅰ **アクション:** FlashCopy マッピングのメンバーでないオⅠ ブジェクトを指定するか、または FlashCopy マッピングⅠ からオブジェクトを除去してください。

### I CMMVC6053E 無効な WWPN が入力されました。

I 説明: 無効な World Wide Port Name (WWPN) が指定 されました。

I **アクション:** 有効な WWPN を指定してください。

### CMMVC6054E オンラインでないノードがあるため、 このアクションは失敗しました。

Ⅰ 説明: このアクションでは、すべてのノードがオンライⅠ ンである必要があります。 1 つ以上のノードがオンラⅠ イン状態になっていません。

**アクション:** 各ノードがオンラインであることを確認しⅠ て、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6055E アクションはアップグレードが進行中 のために失敗しました。

**説明:** ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、 このアクションは失敗しました。

Ⅰ アクション: ソフトウェアのアップグレードが完了するⅠ まで待ってから、コマンドを再度実行してください。

# └ CMMVC6056E アクションはオブジェクトが小さ過ぎ│ るために失敗しました。

Ⅰ 説明: このアクションは、オブジェクトが小さ過ぎるたⅠ めに失敗しました。

Ⅰ **アクション:** 別のオブジェクトを指定して、コマンドをⅠ 再度実行してください。

### CMMVC6057E アクションはオブジェクトが FlashCopy マッピングのターゲットであ るために失敗しました。

Ⅰ 説明: このオブジェクトが FlashCopy マッピングのタ Ⅰ ーゲットであるため、削除できません。

Ⅰ アクション: FlashCopy マッピングのターゲットでないⅠ オブジェクトを指定するか、または FlashCopy マッピンⅠ グからオブジェクトを除去してください。

# **CMMVC6059E** アクションはオブジェクトが無効なモードになっているために失敗しました。

説明: オブジェクトが誤ったモードであるため、このア トクションは失敗しました。

アクション: オブジェクトが正しいモードであることを確認して、コマンドを再度実行してください。

### 

説明: このアクションは、オブジェクトが削除中であるために失敗しました。

Ⅰ アクション: 適用されません。

# | CMMVC6061E アクションはオブジェクトがサイズ変 | 更中のために失敗しました。

説明: このアクションは、オブジェクトがサイズ変更中のために失敗しました。

アクション: オブジェクトが正しいモードであることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6071E 仮想ディスクは、すでにホストにマップされています。追加の仮想ディスクとホストとのマッピングを作成するには、コマンド行インターフェースを使用する必要があります。

**説明:** 仮想ディスクは、すでにホストにマップされています。

**アクション:** マッピングを追加作成するには、コマンド 行インターフェースを使用してください。

### CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。

説明: ファイルの最大数を超過しました。

アクション: 適用されません。

#### 関連トピック:

22 ページの『cleardumps』

### **CMMVC6074E** コマンドは、このエクステントが既に 割り当てられていたために失敗しました。

**説明:** コマンドは、このエクステントが既に割り当てられていたために失敗しました。

**アクション:** 別のエクステントを割り当てて、コマンドを再度実行してください。

### **CMMVC6075E** 拡張は、最後のエクステントが完全な エクステントではないために失敗しまし た。

**説明:** 拡張は、最後のエクステントが完全なエクステントではないために失敗しました。

**アクション:** 別のエクステントを割り当てて、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6076E コマンドは、VDisk をフラッシュして いる際のエラーのために失敗しました。

説明: コマンドは、VDisk をフラッシュしている際の エラーのために失敗しました。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6077E 警告 - 未修正エラーはソフトウェアをアップグレードする前に修正してください。 エラーの種類によっては、このアップグレード処理が失敗することもあります。 先に進む前にこれらのエラーの修正を強くお勧めします。 特定のエラーを修正できない場合は、IBM サービス担当者に連絡してください。

説明: 未修正エラーはソフトウェアをアップグレードする前に修正してください。 エラーの種類によっては、このアップグレード処理が失敗することもあります。 先に進む前にこれらのエラーの修正を強くお勧めします。

アクション: エラーを修正できない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6083E メタデータ・リカバリーは、操作の完了に必要なリソースを割り振ることができませんでした。

説明: メタデータ・リカバリーは、操作の完了に必要なリソースを割り振ることができませんでした。

Ⅰ アクション: 適用されません。

# CMMVC6085E メタデータ・リカバリーは、ダンプ・ファイルを作成/オープン/書き込みできませんでした。ディスクがフルである可能性があります。

説明: メタデータ・リカバリーは、ダンプ・ファイルを作成/オープン/書き込みできませんでした。ディスクがフルである可能性があります。

**アクション:** ターゲット・ディスクがフルかどうかをチⅠ ェックしてください。

# CMMVC6086E メタデータ・リカバリーは、進行ファイルを作成/オープン/書き込みできませんでした。ディスクがフルである可能性があります。

Ⅰ 説明: メタデータ・リカバリーは、進行ファイルを作Ⅰ 成/オープン/書き込みできませんでした。ディスクがフⅠ ルである可能性があります。

**アクション:** ターゲット・ディスクがフルかどうかをチⅠ ェックしてください。

**□ CMMVC6087E** メタデータ・リカバリーは、操作の完 □ CMMVC6095E メタデータ・リカバリーはディスクの 了に必要なバッファーをマップすることが | できませんでした。

Ⅰ 説明: メタデータ・リカバリーは、操作の完了に必要な Ⅰ 達しました。 I バッファーをマップすることができませんでした。

Ⅰ アクション: 適用されません。

□ CMMVC6088E メタデータ・リカバリーが要求された lba にメタデータが含まれていません。

| 説明: メタデータ・リカバリーが要求された lba にメ 1 タデータが含まれていません。

I アクション: 適用されません。

↓ CMMVC6089E 要求された Iba でのメタデータには、 無効のフラグが立てられています。

| 説明: 要求された lba でのメタデータには、無効のフ 1 ラグが立てられています。

Ⅰ アクション: 適用されません。

| CMMVC6090E メタデータ見出しのチェックサム検査 は失敗しました。

| 説明: メタデータ見出しのチェックサム検査は失敗しま | コピーは失敗しました。 1 した。

Ⅰ アクション: 適用されません。

□ CMMVC6091E メタデータ・リージョンのチェックサ ム検査は失敗しました。

I 説明: メタデータ・リージョンのチェックサム検査は失 | 敗しました。

Ⅰ アクション: 適用されません。

I CMMVC6092E メタデータ・リカバリー操作は打ち切 られました。

I 説明: メタデータ・リカバリー操作は打ち切られまし | た。

I アクション: 適用されません。

│ CMMVC6093E メタデータ・リカバリーの内部エラー - (読み取り専用)。

I 説明: メタデータ・リカバリーの内部エラーが発生しま 1 した。

Ⅰ アクション: 適用されません。

終端に到達しました。

I 説明: メタデータ・リカバリーは、ディスクの終端に到

Ⅰ アクション: 適用されません。

| CMMVC6096E メタデータ・リカバリーは下層でエラ ーになりました - (vl リソースなし)。

説明: メタデータ・リカバリーは下層でエラーになりま 1 した。

Ⅰ アクション: 適用されません。

| CMMVC6097E メタデータ・リカバリーは下層でエラ ーになりました - (vl 障害)。

1 説明: メタデータ・リカバリーは下層でエラーになりま I した。

Ⅰ アクション: 適用されません。

I CMMVC6098E 指定されたノードが構成ノードである ため、コピーは失敗しました。

I 説明: 指定されたノードが構成ノードであるため、この

Ⅰ アクション: 適用されません。

CMMVC6100E -option not consistent with action

説明: 指定されたオプションは、このアクションではサ ポートされていません。

アクション: オプションを削除して、コマンドを再度実 行してください。

CMMVC6101E -option not consistent with -option

説明: 指定された 2 つのオプションは、同時に使用す ることはできません。

**アクション:** オプションの 1 つを削除して、コマンド を再度実行してください。

CMMVC6102E -option and -option are alternatives

説明: 指定された 2 つのオプションは代替オプション なので、同時に使用することはできません。

**アクション:** オプションの 1 つを削除して、コマンド を再度実行してください。

#### CMMVC6103E Problem with file-name: details

説明: ファイルを開くときに問題が発生しました。問題の原因を突き止め、問題を訂正してから、再試行してください。

**アクション:** 問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6104E Action name not run

**説明:** 予期しないエラーが発生しました。IBM サービス技術員に連絡してください。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6105E Different names for source (name) and target (name) clusters

**説明:** ソース・クラスターとターゲット・クラスターの名前が異なるため、ターゲット・クラスターにバックアップ構成をできませんでした。

**アクション:** 次のいずれかのアクションを実行してください。 (1) 別のバックアップ構成を使用する。 (2) クラスターをいったん削除し、バックアップ構成ファイルに保管されているのと同じ名前を使用して再作成する。

# CMMVC6106W Target cluster has non-default id\_alias alias

説明: ターゲット・クラスターの id\_alias に、デフォルト以外のターゲットがあります。クラスターには、デフォルト値を使用してください。デフォルト以外の値は、クラスターがカスタマイズされていることを示すので、復元には不適当です。復元を行うと、id\_alias は変更されます。

**アクション:** id\_alias をデフォルト値に変更して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6107E x io\_grp objects in target cluster; y are required

説明: ターゲット・クラスター内の I/O グループ数が 不十分なため、バックアップ構成ファイルに定義された I/O グループ数に対応できません。 I/O グループの数が 不十分な原因を突き止めてください。

**アクション:** 問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6108I Disk controller system with a WWNN of wwnn found.

**説明:** 要求された WWNN のディスク・コントローラー・システムが見付かりました。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6109E Disk controller system with a WWNN of wwnn not available.

説明: 要求された WWNN のディスク・コントローラー・システムが見付かりました。要求されたディスク・コントローラー・システムがクラスターで使用できることを確認してください。

**アクション:** 要求されたディスク・コントローラー・システムがクラスターで使用できることを確認して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6110E Bad code level level

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に詳細を連絡してください。

# **CMMVC6111E** クラスターの **code\_level** を *level* から判別できません。

説明: クラスターのコード・レベルを判別できませんでした。コード・レベルは、x.y.z 形式にしてください。ここで、x.y. および z は整数です。

アクション: 問題の原因がわからない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6112W object-type object-name has a default name

説明: クラスター内のオブジェクトにデフォルト名が使用されています。復元を実行するとデフォルト名が変更されるので、クラスターを復元したときに問題が発生する可能性があります。復元時には、オブジェクト ID も変更されます。

**アクション:** クラスター内の各オブジェクトについて適切な名前を選択して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6113E サブコマンドが失敗し、details という 戻りコードが戻されました。

**説明**: セキュア通信を使用して、リモート側でコマンドを実行しようとしましたが失敗しました。

アクション: 問題の原因を突き止め、問題を訂正してか

ら、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6114E No help for action action

説明: このトピックについては、ヘルプはありません。 **アクション**: 適用されません。

# CMMVC6115W Feature property mismatch: value1 expected; value2 found

説明: バックアップ構成ファイル内の機能とターゲット・クラスターが一致しません。 2 つは完全に一致する必要があります。ただし、構成の復元は続行できます。

アクション: 適用されません。

# **CMMVC6116I** フィーチャーは *property* と一致しています。

説明: バックアップ構成ファイル内の機能とターゲット・クラスターは完全に一致しています。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6117E fix-or-feature is not available

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC61181 type with property value [and property value] found

**説明:** クラスター内に正しいプロパティーのオブジェクトが見付かりました。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6119E type with property value [and property value] not found

説明: クラスター内に正しいプロパティーのオブジェクトが見付かりません。オブジェクトなしに復元を続けることはできません。

**アクション:** オブジェクトが見付からない原因を突き止めてください。オブジェクトが使用可能であることを確認して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6120E Target is not the configuration node

説明: ターゲットは、構成ノードではありません。

**アクション:** 構成ノードに対するアクションをリダイレ

クトして、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6121E No cluster id or id\_alias in backup configuration

説明: クラスターの id\_alias と ID は、両方ともバックアップ構成ファイルから抽出できません。

アクション: 問題の原因がわからない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6122E No *type* with *property* value present in table

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください

### CMMVC6123E No property for type name

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

### CMMVC6124E No type with property value

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

### CMMVC6125E No unique ID for type name

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

### CMMVC6126E No type with unique ID value

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6127I SSH key *identifier* for *user* already defined; will not be restored

説明: このユーザーには、同一の SSH 鍵がすでにクラスター上に定義されています。このため、バックアップ・ファイル内の鍵は復元されません。

アクション: 別の SSH 鍵を指定して、コマンドを再度 実行してください。

#### CMMVC6128W details

説明: ディレクトリー内のファイルを表示できませんで した。

アクション: 表示できなかった原因を突き止め、問題を 訂正してから、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6129E vdisk-to-host map objects have vdisk\_UID values that are not consistent

説明: VDisk からホストへのマップ・オブジェクト は、VDisk LUN インスタンスについて番号が異なるも のがあります。このため、バックアップ構成ファイルが 壊れている可能性があります。LUN インスタンス番号 は、特定の VDisk に関連付けられている VDisk からホ ストへのすべてのマップ・オブジェクトについて、同一 である必要があります。LUN インスタンス番号は、 VDisk\_UID のプロパティーに一体化されています。

アクション: LUN インスタンス番号が同一でない原因 を突き止め、問題を訂正してから、コマンドを再度実行 してください。

### CMMVC6130W Inter-cluster property will not be restored

説明: クラスター間オブジェクトの復元はサポートされ ていません。

アクション: 適用されません。

#### CMMVC6131E No location cluster information

説明: 予期しないエラーが発生しました。

アクション: IBM サービス技術員に連絡してくださ

CMMVC6132E 特定のタイプのオブジェクトに無効な 値を持つプロパティーがあります。プロパ ティーが正しい値になるまで、操作を進め ることができません。管理者が値を変更す るアクションを取り、再試行してくださ 110

説明: 間違った値のプロパティーを持つオブジェクトが あります。プロパティーは、オブジェクトの状態を反映 していると考えられます。

アクション: 状態を必要な値に変更して、コマンドを再 度実行してください。

### CMMVC6133E Required type property property not found

説明: 予期しないエラーが発生しました。

アクション: IBM サービス技術員に連絡してくださ

### CMMVC6134E No argument for -option

説明: 引き数が必要なオプションについて、引き数が指 定されていません。

アクション: 引き数を指定して、コマンドを再度実行し てください。

### CMMVC6135E -option に対する引き数値 が無効で す。

説明: オプションに無効な引き数が指定されました。

アクション: 有効な引き数を指定して、再試行してくだ さい。

### CMMVC6136W No SSH key file file-name

説明: SSH 鍵を含むファイルがありません。バックア ップ操作は継続されます。バックアップ完了後に、鍵が 含まれているファイルを見付け、ファイルの名前を正し い名前に変更してください。復元中は、ファイルが存在 しないと、鍵は復元されません。

アクション: バックアップ完了後に、鍵が含まれている ファイルを見付け、ファイルの名前を正しい名前に変更 してから、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6137W No SSH key file file-name; key not restored

説明: SSH 鍵を含むファイルがないために、SSH 鍵を 復元できません。復元操作は継続されます。

アクション: 復元完了後に、鍵が含まれているファイル を見付け、次のいずれかのアクションを実行してくださ い。(1) ファイルの名前を正しい名前に変更してから、 コマンドを再度実行する。 (2) svctask addsshkey コ マンドを使用して、鍵を手動で復元する。

### CMMVC6138E -option is required

説明: オプションが欠落しています。オプションは、任 意のオプションとして表示されている場合があります が、状況によりこのオプションは必須オプションです。

**アクション:** オプションを指定して、コマンドを再度実 行してください。

### 

説明: 構成ファイルの内容に問題があります。 XMLレコードが整合していないため、このファイルの XML

構文解析に問題があります。このファイルは壊れている

1 (株人胜付に问起かのりより。このファイルは壊れてい

1 か、または切り捨てられている可能性があります。

**アクション:** このコピーを有効なものと取り替えて、再

Ⅰ 試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サ

I ービス技術員に連絡してください。

### CMMVC6140E No default name for type type

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション:** IBM サービス技術員に連絡してください。

# CMMVC6141E -option does not contain any argument

**説明:** 引き数が含まれていないオプションに対して、引き数が指定されました。

**アクション:** 引き数を削除して、コマンドを再度実行してください。

# CMMVC6142E Existing object-type object-name has a non-default name

I 説明: ターゲット・デフォルト・クラスター内のオブジ

Ⅰ エクトに、デフォルトでない名前があります。これは、

| クラスターがカスタマイズされたことを示します。その

1 ため、このクラスターは修復に適していません。

**アクション**: クラスター構成情報の復元方法の説明に従 → って、クラスターをリセットして再試行してください。

# CMMVC6143E Required configuration file file-name does not exist

**説明:** 正常な操作を実行するための重要なファイルが欠落しています。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6144W Object with default name name restored as substitute-name

説明: デフォルト名のオブジェクトが別の名前で復元されました。復元されたクラスターを使用する場合は、名前が変更されたことに注意してください。将来の問題を防止するため、クラスターの各オブジェクトについて、適切な名前を選択してください。

アクション: クラスター内の各オブジェクトについて適

切な名前を選択してください。

# CMMVC6145I Use the restore -prepare command first

説明: 中間ファイルが欠落しており、ファイルが作成されていない場合、CMMVC6103Eの前にこの通知が出されます。

アクション: 適用されません。

# CMMVC6146E Problem parsing object-type data: line

説明: 予期しないエラーが発生しました。

**アクション: IBM** サービス技術員に連絡してくださ

# CMMVC6147E type name has a name beginning with prefix

説明: 予約済みの接頭部が名前に付いているオブジェクトが見付かりました。オブジェクトにこのタイプの名前が付くのは、復元コマンドが正常終了しなかった場合が唯一妥当な理由です。

**アクション:** オブジェクトの名前に予約済みの接頭部が 使用されていないことを確認して、コマンドを再度実行 してください。

# CMMVC6148E Target cluster has *n-actual* objects of type *type* instead of *n-required*

説明: ターゲット・クラスターに特定のタイプのオブジェクトが必要な数だけありません。

**アクション:** 問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6149E An action is required

説明: コマンドを実行するアクションが必要です。

**アクション:** アクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6150E The action, action, is not valid

説明: 無効なアクションが指定されました。

**アクション:** 有効なアクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

### CMMVC6151E The -option option is not valid

説明: 無効なオプションが指定されました。

アクション: 有効なアクションを指定して、コマンドを 再度実行してください。

### CMMVC6152E vdisk name instance number instance is not valid

説明: インスタンス番号 (16 進数) が無効なため、 VDisk を復元できませんでした。

アクション: IBM サービス技術員に連絡してくださ

### CMMVC6153E object not consistent with action

説明: 指定されたオブジェクトは、このアクションでは サポートされていません。

アクション: オブジェクトを削除して、コマンドを再度 実行してください。

### CMMVC6154E Required object-type property property-name has a null value

説明: 予期しないエラーが発生しました。

アクション: IBM サービス技術員に連絡してくださ

### CMMVC6155I SVCCONFIG processing completed successfully

説明: 通知および警告メッセージだけが発行されまし た。

アクション: 適用されません。

### CMMVC6156W SVCCONFIG processing completed with errors

説明: 処理が失敗しました。 アクション: 適用されません。

### │ CMMVC6164E 毎日夜間に実行される SVCCONFIG CRON ジョブが失敗しました。

| 説明: 毎日夜間に実行される SVCCONFIG CRON ジョ I ブが失敗しました。

**| アクション: SAN** ボリューム・コントローラー・クラ I スターで発生しているハードウェアおよび構成上の問題

Ⅰ を解決してください。この問題が再発する場合は、IBM

1 ソフトウェア・サポートに連絡してください。

### CMMVC6165E ターゲットは WWNN の値を持つ元の 構成ノードではありません。

説明: バックアップ構成の復元先は、元の構成ノードの みが可能です。

アクション: 正しい構成ノードを使用してデフォルトの クラスターを再作成し、コマンドを再度実行してくださ .41

### I CMMVC6206E ソフトウェア・アップグレードは、指 定された MCP バージョンのソフトウェ アを含むファイルが見つからなかったた め、失敗しました。

説明: ソフトウェア・アップグレードを正常に完了する には、2 つのファイルが必要です。 1 つは基本オペレ ーティング・システムを構成するファイルを含むファイ ルで、もう 1 つは SVC ソフトウェアを含むファイル です。このメッセージは、OS のバージョンが SVC ソ フトウェアと互換性がない場合に表示されます。

アクション: 2 つの互換ファイルをアップロードして、 コマンドを再度実行してください。

### 第 25 章 強調

以下の書体で強調を表しています。

太文字のテキストは、メニュー項目およびコマンド名を表します。

イタリック体 イタリック体 は、ワードを強調する場合に使用されます。コマンド 構文で、デフォルトのディレクトリーやクラスター名など、実際の 値を指定する変数を表します。

**モノスペース** モノスペースのテキストは、ユーザーが入力するデータまたはコマンド、コマンド出力のサンプル、プログラム・コードまたはシステムからのメッセージの例、もしくは、コマンド・フラグ、パラメーター、引き数、および名前と値の対の名前を表します。

### 付録. アクセシビリティー

アクセシビリティー機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。

### 機能:

SAN ボリューム・コントローラーおよびマスター・コンソールに備わっている主なアクセシビリティー機能は、次のとおりです。

- スクリーン・リーダー・ソフトウェアとディジタル音声シンセサイザーを使用して、画面の表示内容を音声で聞くことができます。次のスクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) がテスト済みです: JAWS V4.5 および IBM ホームページ・リーダー V3.0
- マウスの代わりにキーボードを使用して、すべての機能を操作できます。

### キーボードによるナビゲート:

キーやキーの組み合わせを使用して、マウス・アクションを通して実行できる操作を行ったり、多数のメニュー・アクションを開始することができます。以下のキーの組み合わせを使用すると、キーボードから SAN ボリューム・コントローラー・コンソール・コンソールやヘルプ・システムをナビゲートすることができます。

- 次のリンク、ボタン、またはトピックにトラバースするには、フレーム (ページ) 内で Tab を押します。
- ・ ツリー・ノードを拡張または縮小するには、それぞれ → または ← を押します。
- 次のトピック・ノードに移動するには、V または Tab を押します。
- 前のトピック・ノードに移動するには、 ^ または Shift+Tab を押します。
- 一番上または一番下までスクロールするには、それぞれ Home または End を押します。
- 後退するには、Alt+← を押します。
- 前進するには、Alt+→ を押します。
- 次のフレームに進むには、Ctrl+Tab を押します。
- 前のフレームに移動するには、Shift+Ctrl+Tab を押します。
- 現行ページまたはアクティブ・フレームを印刷するには、Ctrl+P を押します。
- 選択するには、Enter を押します。

### 資料へのアクセス:

SAN ボリューム・コントローラーの資料は Adobe Acrobat Reader を使用して PDF フォーマットで表示できます。 PDF 形式の資料は、製品に同梱の CD で提供されています。次の Web サイトでも資料にアクセスできます。

http://www.ibm.com/storage/support/2145/

#### 関連トピック:

vii ページの『関連資料』

### 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31 IBM World Trade Asia Corporation Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があ ります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っ ておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要 求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの 製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能 になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ h.

### 関連トピック:

『商標』

### 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AIX
- ・ e-business ロゴ
- Enterprise Storage Server
- FlashCopy
- IBM
- Tivoli
- TotalStorage
- xSeries

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標で す。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国にお ける商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

### 用語集

この用語集には、IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラーに関する用語が含まれています。

この用語集には、「A Dictionary of Storage Networking Terminology

(http://www.snia.org/education/dictionary)」(著作権: 2001 年、Storage Networking Industry Association, 2570 West El Camino Real, Suite 304, Mountain View, California 94040-1313) から選択された用語と定義が含まれています。この資料から引用された定義には、定義の後ろに記号 (S) が付けてあります。

この用語集では、以下のような相互参照が使用されています。

### ~を参照

- 2 種類の関連情報のどちらかを読者に示します。
- 省略語または頭字語の拡張形。この拡張 形に、用語の完全な定義が入っていま す。
- 同義語または、より優先される用語。

### ~も参照

1 つ以上の関連参照用語を示します。

### ~と対比

意味が反対または実質的に意味が異なる参 照用語を示します。

### [ア行]

アイドリング (idling). 1 対の仮想ディスク (VDisk) に対してコピー関係が定義されていて、その関係を対象 としたコピー・アクティビティーがまだ開始されていない状態。

**アプリケーション・サーバー (application server).** ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に接続されて、アプリケーションを実行するホスト。

**イメージ VDisk (image VDisk).** 管理対象ディスク (MDisk) から仮想ディスク (VDisk) へのブロックごとの直接変換を行う仮想ディスク。

イメージ・モード (image mode). 仮想ディスク (VDisk) 内のエクステントに対して、管理対象ディスク (MDisk) 内のエクステントの 1 対 1 マッピングを確立 するアクセス・モード。管理対象スペース・モード (managed space mode)、および構成解除モード (unconfigured mode) も参照。

インターネット・プロトコル (IP) (Internet Protocol (IP)). インターネット・プロトコル・スイートの中で、1 つのネットワークまたは複数の相互接続ネットワークを経由してデータをルーティングし、上位のプロトコル層と物理ネットワークとの間で仲介の役割を果たすコネクションレス・プロトコル。

**エクステント (extent).** 管理対象ディスクと仮想ディスクの間でデータのマッピングを管理するデータ単位。

**エラー・コード (error code).** エラー条件をユーザー に示す値。

オフライン (offline). システムまたはホストの継続的な制御下にない機能単位または装置の操作を指す。

オンライン (online). システムまたはホストの継続的な制御下にある機能単位または装置の操作を指す。

### [力行]

**仮想ディスク (VDisk) (virtual disk (VDisk)).** SAN ボリューム・コントローラーにおいて、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に接続したホスト・システムが SCSI ディスクとして認識する装置。

関係 (relationship). リモート・コピーにおける、マスター仮想ディスク (VDisk) と補助仮想ディスクの間の関連。これらの VDisk には、1 次または 2 次の VDisk という属性もある。補助仮想ディスク (auxiliary virtual disk)、マスター仮想ディスク (master virtual disk)、 1 次仮想ディスク (primary virtual disk)、2 次仮想ディスク (secondary virtual disk) も参照。

管理対象ディスク (MDisk) (managed disk (MDisk)). 新磁気ディスク制御機構 (RAID) コントローラーが提供 し、クラスターが管理する SCSI 論理装置。MDisk は、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) 上のホ スト・システムからは見ることができない。 **管理対象ディスク・グループ (managed disk group).** 指定された仮想ディスク (VDisk) のセットのデータすべ てをグループ全体で格納している、管理対象ディスク (MDisk) の集合。

**起動 (trigger).** コピー関係にある 1 対の仮想ディスク (VDisk) 間で、コピーを開始または再開始すること。

休止 (paused). SAN ボリューム・コントローラーに おいて、キャッシュ層の下で進行中の I/O アクティビティーすべてをキャッシュ・コンポーネントが静止する処 理。

協力関係 (partnership). リモート・コピーにおける 2 つのクラスター間の関係。クラスター協力関係では、一方のクラスターがローカル・クラスターとして定義され、他方のクラスターがリモート・クラスターとして定義される。

**クォーラム・ディスク (quorum disk).** クォーラム・データを格納し、クラスターがタイを解決してクォーラムを成立させるために使用する管理対象ディスク (MDisk)。

**クラスター (cluster).** SAN ボリューム・コントローラーにおいて、単一の構成とサービス・インターフェースを備えた 1 対のノード。

**構成解除モード (unconfigured mode).** I/O 操作を実行できないモード。イメージ・モード (image mode) および管理対象スペース・モード (managed space mode) も参照。

構成ノード (configuration node). 構成コマンドのフォーカル・ポイントとして機能し、クラスターの構成を記述するデータを管理するノード。

コピー済み (copied). FlashCopy® 関係において、コピー関係の作成後にコピーが開始されたことを示す状態。コピー・プロセスは完了しており、ソース・ディスクに対するターゲット・ディスクの従属関係はすでに解消されている。

**コピー中 (copying).** コピー関係にある 1 対の仮想ディスク (VDisk) の状態を記述する状況条件。コピー・プロセスは開始されたが、2 つの仮想ディスクはまだ同期していない。

### [サ行]

指定保守手順 (directed maintenance procedures). クラスターに対して実行できる一連の保守手順。手順は、サービス・ガイドに記載されている。

従属書き込み操作 (dependent write operations). ボリューム間整合性を維持するために、正しい順序で適用する必要がある一連の書き込み操作。

順次 VDisk (sequential VDisk). 単一の管理対象ディスクからのエクステントを使用する仮想ディスク。

冗長 SAN (redundant SAN). ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) 構成の 1 つ。この構成では、いずれか 1 つのコンポーネントに障害が起こっても、 SAN内の装置間の接続は維持される (パフォーマンスは低下する可能性がある)。通常、この構成を使用するには、 SAN を 2 つの独立した同等 SAN に分割する。同等 SAN (counterpart SAN) も参照。

除外 (excluded). SAN ボリューム・コントローラーに おいて、アクセス・エラーが繰り返された後でクラスタ 一が使用から除外されたという、管理対象ディスクの状況。

除外 (exclude). エラー条件が発生したために管理対象 ディスク (MDisk) をクラスターから除去すること。

新磁気ディスク制御機構 (redundant array of independent disks). システムに対しては単一のディスク・ドライブのイメージを提示する、複数のディスク・ドライブの集合。単一の装置に障害が起こった場合は、アレイ内の他のディスク・ドライブからデータを読み取ったり、再生成したりすることができる。

スーパーユーザー権限 (Superuser authority). ユーザーを追加するために必要なアクセス・レベル。

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) (storage areanetwork (SAN)). コンピューター・システムとストレージ・エレメントの間、およびストレージ・エレメント相互間でのデータ転送を主な目的としたネットワーク。 SAN は、物理接続を提供する通信インフラストラクチャー、接続を整理する管理層、ストレージ・エレメント、およびコンピューター・システムで構成されるので、データ転送は安全かつ堅固である。 (S)

**整合コピー (consistent copy).** リモート・コピー関係 において、I/O アクティビティーの進行中に電源障害が 発生した場合に、ホスト・システムから見て、1 次仮想 ディスク (VDisk) として最適な状態にある 2 次 VDisk のコピー。

整合性 (integrity). システムが正しいデータのみを戻すか、そうでなければ正しいデータを戻すことができないと応答する能力。

整合性グループ (consistency group). 単一のエンティティーとして管理される仮想ディスク間のコピー関係のグループ。

**切断 (disconnected).** リモート・コピー関係において、2 つのクラスターが通信できないことを指す。

### [夕行]

### 対称バーチャライゼーション (symmetric

virtualization). 新磁気ディスク制御機構 (RAID) 形式の物理ストレージを、エクステントと呼ばれる小さなストレージのチャンクに分割するバーチャライゼーション技法。これらのエクステントは、さまざまなポリシーを使用して共に連結され、仮想ディスク (VDisk) を作成する。非対称バーチャライゼーションも参照。

正しくない構成 (illegal configuration). 作動せず、問題の原因を示すエラー・コードを生成する構成。

**中断 (suspended).** ある問題が原因で、1 対の仮想ディスク (VDisk) のコピー関係を一時的に分断した状況。

**データ・マイグレーション (data migration).** 入出力操作を中断せずに 2 つの物理ロケーション間でデータを移動すること。

**停止 (stop).** 整合性グループ内のコピー関係すべてに対するアクティビティーを停止するために使用される構成コマンド。

停止済み (stopped). ある問題が原因で、ユーザーが 1 対の仮想ディスク (VDisk) のコピー関係を一時的に分断した状況。

ディスク・コントローラー (disk controller). 1 つ以上のディスク・ドライブ操作を調整および制御し、ドライブ操作をシステム全体の操作と同期化する装置。ディスク・コントローラーは、クラスターが管理対象ディスク (MDisk) として検出するストレージを提供する。

ディスク・ゾーン (disk zone). ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ファブリック内で定義されるゾーン。このゾーン内で、SAN ボリューム・コントローラーはディスク・コントローラーが提示する論理装置を検出し、アドレッシングできる。

デステージ (destage). データをディスク装置に書き出すためにキャッシュが開始する書き込みコマンド。

同期 (synchronized). リモート・コピーにおいて、コピー関係にある 1 対の仮想ディスク (VDisk) が両方とも同じデータを格納しているときに生じる状況条件。

独立型関係 (stand-alone relationship). FlashCopy およびリモート・コピーの場合、整合性グループに属さず、整合性グループ属性がヌルになっている関係。

### [ナ行]

入出力 (I/O) (input/output (I/O)). 入力処理、出力処理、またはその両方 (並行または非並行) に関係する機能単位または通信パス、およびこれらの処理に関係するデータを指す。

**ノード (node).** 1 つの SAN ボリューム・コントローラー。それぞれのノードは、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に対して、バーチャライゼーション、キャッシュ、およびコピー・サービスを提供する。

ノード・レスキュー (node rescue). SAN ボリューム・コントローラーにおいて、有効なソフトウェアがノードのハード・ディスクにインストールされていない場合に、同じファイバー・チャネル・ファブリックに接続している別のノードからそのノードにソフトウェアをコピーできるようにする処理。

### [八行]

バーチャライゼーション (virtualization). ストレージ 業界における概念の 1 つ。バーチャライゼーションで は、複数のディスク・サブシステムを含むストレージ・ プールを作成する。これらのサブシステムはさまざまな ベンダー製のものを使用できる。プールは、仮想ディス クを使用するホスト・システムから認識される、複数の 仮想ディスクに分割できる。

**バーチャライゼーション・ストレージ (virtualized storage).** バーチャライゼーション・エンジンによるバーチャライゼーション技法が適用された物理ストレージ。

ファイバー・チャネル(fibre channel). 最高 4 Gbps のデータ速度で、コンピューター装置間でデータを伝送する技術。特に、コンピューター・サーバーを共用ストレージ・デバイスに接続する場合や、ストレージ・コントローラーとドライブを相互接続する場合に適している。

フェイルオーバー (failover). SAN ボリューム・コントローラーにおいて、システムの一方の冗長部分が、障害を起こしたシステムの他方の部分のワークロードを引き受けるときに実行される機能。

不整合 (inconsistent). リモート・コピー関係において、1 次仮想ディスク (VDisk) に対する同期が行われている 2 次仮想ディスク (VDisk) に関することを指す。

**ポート (port).** ファイバー・チャネルを介してデータ 通信 (送受信) を実行する、ホスト、SAN ボリューム・コントローラーまたはディスク・コントローラー・システム内の物理エンティティー。

**ホスト (host).** ファイバー・チャネル・インターフェ ースを介して SAN ボリューム・コントローラー に接 続されるオープン・システム・コンピューター。

ホスト ID (host ID). SAN ボリューム・コントローラ ーにおいて、論理装置番号 (LUN) マッピングの目的で ホスト・ファイバー・チャネル・ポートのグループに割 り当てられる数値 ID。それぞれのホスト ID ごとに、 仮想ディスクに対する SCSI ID の別個のマッピングが ある。

ホスト・ゾーン (host zone). ストレージ・エリア・ ネットワーク (SAN) ファブリック内で定義されるゾー ン。このゾーン内でホストが SAN ボリューム・コント ローラーをアドレス指定できる。

ホスト・バス・アダプター (HBA) (hostbus adapter (HBA)). SAN ボリューム・コントローラーにおいて、 PCI バスなどのホスト・バスをストレージ・エリア・ネ ットワークに接続するインターフェース・カード。

保留 (pend). イベントが発生するまで待機させるこ と。

### 「マ行]

マイグレーション (migration). データ・マイグレーシ ョン (data migration) を参照。

マスター仮想ディスク (master virtual disk). データ の実動コピーを格納し、アプリケーションがアクセスす る仮想ディスク (VDisk)。補助仮想ディスク (auxiliary virtual disk) も参照。

マッピング (mapping). FlashCopy マッピング (FlashCopy mapping) を参照。

無停電電源装置 (uninterruptible power supply). □ ンピューターと給電部の間に接続される装置で、停電、 電圧低下、および電源サージからコンピューターを保護 する。無停電電源装置は、電源を監視する電源センサー と、システムの正常シャットダウンを実行できるように なるまで電源を供給するバッテリーを備えている。

### 「ヤ行]

有効構成 (valid configuration). サポートされている 構成。

### 「ラ行]

リジェクト (rejected). クラスター内のノードの作業セ ットからクラスター・ソフトウェアが除去したノードを 示す状況条件。

リモート・コピー、 SAN ボリューム・コントローラー におけるコピー・サービスの 1 つ。このサービスを使 用すると、関係によって指定されたターゲット仮想ディ スク (VDisk) に、特定のソース仮想ディスク (VDisk) のホスト・データをコピーできる。

劣化 (degraded). 障害の影響を受けているが、許可さ れる構成として継続してサポートされる有効構成を指 す。通常は、劣化構成に対して修復処置を行うことによ り、有効構成に復元できる。

ローカル/リモート・ファブリック相互接続 (local/remote fabric interconnect). ローカル・ファ ブリックとリモート・ファブリックの接続に使用される

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) コンポーネ ント。

ローカル・ファブリック (local fabric). SAN ボリュ ーム・コントローラーにおいて、ローカル・クラスター のコンポーネント (ノード、ホスト、スイッチ) を接続 するストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) コンポ ーネント (スイッチやケーブルなど)。

**論理装置 (LU)(logical unit (LU)).** 仮想ディスク (VDisk)や管理対象ディスク (MDisk) など、SCSI コマン ドが対応するエンティティー。

論理装置番号 (LUN) (logical unit number (LUN)). ターゲット内での論理装置の SCSI ID。(S)

論理ブロック・アドレス (LBA) (logical block address (LBA)). ディスク上のブロック番号。

### 「数字]

- 1 次仮想ディスク (primary virtual disk). リモート・ コピー関係において、ホスト・アプリケーションによっ て実行される書き込み操作のターゲット。
- 2 次仮想ディスク (secondary virtual disk). リモー ト・コピーにおいて、ホスト・アプリケーションから1 次仮想ディスク (VDisk) に書き込まれるデータのコピー を格納するという関係にある仮想ディスク (VDisk)。

### Е

**ESS.** 「IBM® TotalStorage® エンタープライズ・スト レージ・サーバー®」を参照。

### F

**FC.** ファイバー・チャネル (fibre channel) を参照。

### FlashCopy 関係 (FlashCopy relationship).

FlashCopy マッピング (FlashCopy mapping) を参照。

FlashCopy サービス(FlashCopy service). SAN ボリューム・コントローラーにおいて、ソース仮想ディスク (VDisk) の内容をターゲット VDisk にコピーするコピー・サービス。この処理中に、ターゲット VDisk の元の内容は失われる。時刻指定コピー (point-in-time copy) も参照。

**FlashCopy マッピング(FlashCopy mapping).** 2 つの仮想ディスク間の関係。

### Н

**HBA.** ホスト・バス・アダプター (host bus adapter) を参照。

IBM TotalStorage エンタープライズ・ストレージ・サーバー (ESS)(IBM TotalStorage Enterprise Storage Server (ESS)). 企業全体にわたってインテリジェント・ディスク装置サブシステムを提供する、IBM 製品。

IBM サブシステム・デバイス・ドライバー(SDD)(IBM Subsystem Device Driver (SDD)). IBM 製品のマルチパス構成環境をサポートするために設計された IBM 疑似デバイス・ドライバー。

**IP.** インターネット・プロトコル (Internet Protocol) を参照。

I/O . 入出力 (input/output) を参照。

I/O グループ (I/O group). ホスト・システムに対する 共通インターフェースを表す、仮想ディスク (VDisk) と ノードの関係の集まり。

**I/O スロットル速度 (I/O throttling rate).** この仮想ディスク (VDisk) に対して受け入れられる I/O トランザクションの最大速度。

### L

**LBA.** 論理ブロック・アドレス (logical block address) を参照。

LU. 論理装置 (logical unit) を参照。

LUN. 論理装置番号 (logical unit number) を参照。

### M

MDisk. 管理対象ディスク (managed disk) を参照。

### R

RAID. 新磁気ディスク制御機構 (redundant array of independent disks) を参照。

RAID 1. SNIA 辞書の定義: 2 つ以上の同一のデータのコピーが別個のメディアに維持されるストレージ・アレイの形式。 IBM の定義: 2 つ以上の同一のデータのコピーが別個のメディアに維持されるストレージ・アレイの形式。ミラー・セットとしても知られている。 HPの定義: ミラー・セット (mirrorset) を参照。

**RAID 10.** RAID のタイプの 1 つ。複数のディスク・ドライブ間でストライプ・ボリューム・データを行い、ディスク・ドライブの最初のセットを同一セットにミラーリングすることによって、高パフォーマンスを最適化すると同時に、2 台までのディスク・ドライブの障害に対するフォールト・トレランスを維持する。

### RAID 5.

- SNIA の定義: パリティー RAID の形式の 1 つ。この形式では、ディスクが独立して作動し、データ・ストリップ・サイズはエクスポートされるブロック・サイズより小さくはなく、パリティー検査データはアレイのディスク間で分散される、パリティー RAID の形式の 1 つ。(S)
- IBM の定義: 上記参照。
- ・ HP の定義: ディスク・アレイの 3 つ以上のメンバーにわたってデータとパリティーをストライプする、特別に開発された RAID ストレージ・セット。
  RAIDset は、RAID レベル 3 と RAID レベル 5 の最良の特性を結合している。 RAIDset は、アプリケーションが書き込み集約でない限り、小規模から中規模の入出力要求のある大部分のアプリケーションにとって最適な選択である。 RAIDset は、パリティーRAID と呼ばれることがある。 RAID レベル 3/5 ストレージ・セットは RAIDset と呼ばれる。

### S

**SAN.** ストレージ・エリア・ネットワーク (storage area network) を参照。

SAN ボリューム・コントローラー・ファイバー・チャネル・ポート・ファンイン(SAN ボリューム・コントロ

ーラー fibre-channel port fan in). いずれか 1 つの SAN ボリューム・コントローラー・ポートを認識でき る多数のホスト。

SCSI. Small Computer Systems Interface を参照。

Simple Network Management Protocol (SNMP). < ンターネットのプロトコル群において、ルーターおよび 接続されたネットワークをモニターするために使用され るネットワーク管理プロトコル。 SNMP はアプリケー ション層プロトコルである。管理されている装置上の情 報は、アプリケーションの管理情報ベース (MIB) に定 義され、保管される。

Small Computer System Interface (SCSI). さまざ まな周辺装置の相互通信を可能にする標準ハードウェ ア・インターフェース。

SNMP. Simple Network Management Protocol を参照。

### V

**VDisk.** 仮想ディスク (virtual disk) を参照。

vital product data (VPD). 処理システムのシステム、 ハードウェア、ソフトウェア、およびマイクロコードの エレメントを一意的に定義する情報。

### W

worldwide node name(WWNN). 全世界で固有のオブ ジェクトの ID。 WWNN は、ファイバー・チャネルな どの標準によって使用されている。

worldwide port name (WWPN). ファイバー・チャネ ル・アダプター・ポートに関連付けられた固有の 64 ビ ット ID。WWPN は、インプリメンテーションやプロト コルには依存しない方法で割り当てられる。

WWNN. worldwide node name を参照。

WWPN. worldwide port name (WWPN) を参照。

### 索引

日本語,数字,英字,特殊文字の順に配列されています。なお,濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

アクセシビリティー 401 キーボード 401 ショートカット・キー 401 エラーを修正済みとしてマーキング 61, 320 エラー・ログの分析 65,316

### [力行]

開始

統計の収集 39 リモート・コピー 整合性グループ 156

概要

SSH (secure shell) 11 関係、リモート・コピー 開始 159 削除 155 作成 149 停止 164 変更 144, 168

管理対象ディスク (MDisk)

管理対象ディスク・グループからの除 去 109 表示 262

管理対象ディスク (MDisk) グループ 表示 271

関連情報 vii

キーボード 401

ショートカット・キー 401

協力関係、リモート・コピー

削除 152 作成 146 変更 142

クラスター

構成のダンプ 22, 28, 326 コマンド 13 シャットダウン 41

診断と保守援助機能コマンド 55 変更 17

クラスター構成のダンプ 207 言語 70 公開 SSH 鍵

保管 7

構成

エラー・ログ 62, 63, 317, 319

PuTTY 7

secure shell (SSH) 5

SSH (secure shell) 5

コマンド

ノード

リモート・コピー 141

SSH 鍵 297

コマンド行インターフェース (CLI) SSH クライアントの準備 2

コントローラー コマンド 209, 355

### 「サ行]

サービス

モード

コマンド 333

information コマンド 341

削除

管理対象ディスク・グループ 111

ノード 29,66 リモート・コピー

整合性グループ 153

FlashCopy

マッピング 132

作成

管理対象ディスク・グループ 107 リモート・コピー

整合性グループ 148

FlashCopy

整合性グループ 123 マッピング 124, 129

SSH 鍵 5

サポート

Web サイト ix

準備中

SSH クライアント・システム

概要 1

CLI コマンドの実行 2

ショートカット・キー 401

商標 404

情報

コマンド 193

センター vii

身体障害 401 スロットル 84

整合性グループ、FlashCopy 127

整合性グループ、FlashCopy (続き)

開始 134

削除 131

停止 138

セキュリティー

概要 3

ソフトウェア

アップグレード 59,334

### [夕行]

ダンプ・ファイル

リスト作成 199, 207, 232, 256, 258, 295, 342, 345, 346, 347, 348, 349, 354

追加

ノード 56

停止

リモート・コピー

整合性グループ 162

ディスク

マイグレーション 178

統計

停止 45

特記事項

法規 403

トラブルシューティング

エラー・ログの使用 68,321

トレース

コマンド 177, 315

# [ナ行]

ノード

シャットダウン 41

追加 14

名前変更 21

表示 277

### [ハ行]

パスワード

変更 36

表記規則

本文の強調 399

表示

クラスター 201

フィーチャーの設定 323

vital product data (VPD) 343

ノード 350

表示 (続き) V Н vital product data (VPD) 351 HBA (ホスト・バス・アダプター) VDisk (仮想ディスク) VPD (vital product data) 281 構成 247 仮想ディスクからホストへのマッピン ホスト グの削除 100 ポートの詳細 250 仮想ディスクからホストへのマッピン リモート・コピー グの作成 95 関係 288, 291, 293 コマンド 83 整合性グループ 285 I/O グループ 削除 98 I/O グループ 252 名前変更 20 作成 89 フィルター 縮小 101 FlashCopy 整合性グループ 234 M 表示 301, 304, 307, 309, 312 マイグレーション 174 マッピング 236, 239, 241 MDisk (管理対象ディスク) 変更 クォーラムの設定 116 リモート・コピー W 組み込み 115 整合性グループ 143, 166 コマンド 113 FlashCopy Web サイト ix 名前変更 114 整合性グループ 120 MDisk (管理対象ディスク) グループ マッピング 121 コマンド 103 保管 追加 公開 SSH 鍵 7 管理対象ディスク 104 ホスト 名前変更 106 コマンド 73 削除 79 作成 77 P 表示 248 PuTTY 7 ポートの削除 80 構成 7 ポートの追加 74 本文の強調 399 S [マ行] secure shell (SSH) 3 概要 11 マイグレーション 171,276 鍵 マッピング、FlashCopy 生成 5 開始 136 保管 7 停止 139 鍵の作成 5 メッセージ クライアント・システム CLI (コマンド行インターフェー 概要 1 ス) 359 CLI コマンドの実行の準備 2 構成 5 [ヤ行] key コマンド 327 SSH (secure shell) 3 用語集 405 概要 11 鍵 生成 5 C 保管 7 CLI (コマンド行インターフェース) クライアント・システム SSH クライアント・システムの準備 概要 1 2 CLI コマンドの実行の準備 2 構成 5 作成 5 F

FlashCopy

コマンド 119

# **IBM**

Printed in Japan

SD88-6303-02

